



Research Institute for Economics

# 研究活動報告

2019

神戸大学

経済経営研究所

& Business Administration



Research Institute for Economics

# 研究活動報告

2019

神戸大学

経済経営研究所

& Business Administration

# 目 次

## I 研究活動

1 概説	1
2 研究部門及び担当	3
3 研究部門・研究分野	4
4 研究部会	11
5 学外活動	18
6 非常勤講師	23
7 学術講演会・研究会・セミナー・国際シンポジウム等	25
8 学術交流協定	123
9 海外からの招聘者	124
10 科学研究費補助金による研究	145
11 科学研究費補助金申請・採択状況	154
12 科学研究費以外の外部資金の獲得	155
13 科学研究費以外の外部資金の獲得状況	157
14 研究所刊行物	158

## II 研究者の研究活動と成果

教授	上 東 貴 志 (Takashi KAMIHIGASHI)	169
	趙 来 勳 (Laixun ZHAO)	173
	浜 口 伸 明 (Nobuaki HAMAGUCHI)	176
	下 村 研 一 (Ken-Ichi SHIMOMURA)	181
	伊 藤 宗 彦 (Munehiko ITOH)	184
	佐 藤 隆 広 (Takahiro SATO)	187
	Ralf BEBENROTH	194
	北 野 重 人 (Shigeto KITANO)	198
	家 森 信 善 (Nobuyoshi YAMORI)	203
	瀋 俊 毅 (Junyi SHEN)	220
	西 谷 公 孝 (Kimitaka NISHITANI)	224
	神 谷 和 也 (Kazuya KAMIYA)	228
	榎 本 正 博 (Masahiro ENOMOTO)	231
	Charles Yuji HORIOKA	235
准教授	藤 村 聡 (Satoshi FUJIMURA)	242
	松 本 陽 一 (Yoichi MATSUMOTO)	245
	高 槻 泰 郎 (Yasuo TAKATSUKI)	248

	岩 佐 和 道 (Kazumichi IWASA) .....	254
	柴 本 昌 彦 (Masahiko SHIBAMOTO) .....	257
	松 尾 美 和 (Miwa MATSUO) .....	261
	江 夏 幾 多 郎 (Ikutaro ENATSU) .....	265
	後 藤 将 史 (Masashi GOTO) .....	269
講 師	藤 山 敬 史 (Keishi FUJIYAMA) .....	271
	加 藤 諒 (Ryo KATO) .....	274
	榎 本 大 悟 (Daigo UMEMOTO) .....	277
助 教	陳 金 輝 (Jinhui CHEN) .....	279
	村 上 善 道 (Yoshimichi MURAKAMI) .....	281
特命教授	小 島 健 司 (Kenji KOJIMA) .....	286
	西 村 和 雄 (Kazuo NISHIMURA) .....	289
特命講師	小 代 薫 (Kaoru KOSHIRO) .....	295
	幸 若 完 壮 (Sadamori KOJAKU) .....	299
非常勤研究員	熊 本 真 一 郎 (Shin-Ichiro KUMAMOTO) .....	301
学術研究員	上 池 あ つ 子 (Atsuko KAMIKE) .....	303
外国人研究員	Scott Arthur WILBUR .....	305
	MinHwan LEE .....	306
	Xiangdong QIN .....	307
	Kenkwan RYU .....	308
	Yongjin WANG .....	309

### III 付録

1	沿革 .....	311
2	組織・機構・職員及び予算等 .....	314
3	図書 .....	316
4	附属企業資料総合センター .....	319
5	機械計算室 .....	323
6	その他 .....	326

経済経営研究所諸規則

交通案内・学舎配置図

# I 研究活動

## 1 概説

経済経営研究所は大正8年（1919年）、神戸高等商業学校の商業研究所として創設され、昭和24年（1949年）に現在の「経済経営研究所」が発足した。わが国の国立大学における社会科学系の附置研究所としては最も古い歴史を有し、経済学・経営学の両分野を掲げる研究所としては日本で唯一である。当研究所の目的の第1は、経済学・経営学における学術研究のフロンティアを前進させ、新しい知の創出に貢献することである。世界レベルの先端研究を推進し、社会科学分野における国際研究拠点としての役割を担い、経済学・経営学の両分野にまたがる融合領域の研究にも力を入れている。目的の第2は、先端研究に基づいた教育・啓蒙活動そして産学官連携活動を実施し、社会貢献を行うことである。受託研究や産学官連携セミナー、および政策立案者や大学院生を対象とした高度な啓蒙・教育活動を通じて、先端知識の普及と政策・経営への活用を促進している。

これらの目的を効率的に達成するため、平成22年4月に大幅な改組を行い、「グローバル経済」、「企業競争力」、「企業情報」、「グローバル金融」の4部門からなる研究部、共同研究推進室、企業資料総合センター、研究所図書館、および機械計算室によって構成される新体制を発足させた。各教員の研究成果は国際ジャーナルを中心に投稿・掲載されているが、当研究所が発行する経済経営研究（年報）、研究叢書（和文叢書）、KOBE ECONOMIC & BUSINESS RESEARCH SERIES（欧文叢書）、現代経済経営シリーズ/MODERN ECONOMIC & BUSINESS SERIES、兼松資料叢書等においても発表されている。当研究所の刊行物は2003年度より原則全文PDF化され、インターネット上に無料で公開されている。さらに2011年度は、1953年の創刊より50年以上の歴史を持つKOBE ECONOMIC & BUSINESS REVIEWの後継誌として、英文査読付雑誌THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW (TJAR) を発刊した。世界中から会計学に関する論文の投稿を受け付け、会計学の国際的発展と国内における活性化に貢献している。また平成29年3月には、計算社会科学センターが部局内組織として新設された。令和元年に、当研究所は創立100周年を迎えた。これを記念して寄附金を募り、100周年記念事業、学術誌経費、歴史資料、資料のデジタル化、教員研究費などの事業に使用し、研究活動や研究成果の発信を支援している。

また、当研究所では、外部の諸研究者や当研究所教員を発表者とするセミナー・シンポジウム等を積極的に開催している。外国人研究者を招いた国際シンポジウムも数多く開催し、国際研究拠点としての役割を果たしている。刊行物の編集、セミナー・シンポジウム等の運営は、共同研究推進室が中心となって行っている。

昭和39年4月に設置された経営分析文献センターは、平成14年4月の政策研究リエゾンセンターへの改組を経て、平成22年4月に企業資料総合センターとして更なる改良・改善を果たした。企業に関する文献・資料・データを収集・整備し、これを公開利用に供するとともに経済経営研究への活用を図ることを目的としている。

企業以外の各種資料・統計に関しては、研究所図書館が収集整理している。収集対象は各部門研究資料であるが、なかでも国際経済統計及び海外諸地域研究資料の収集整備に重点を置いている。現在、特殊文庫としては中南米文庫、アメリカ文庫、オセアニア文庫、新聞記事文庫が設けられている。昭和43年6月に開設された国連寄託図書館では、国連専門機関の寄託資料を研究所内外の利用に供している。

平成29年3月に部局内組織として新設された計算社会科学センターは、計算社会科学に特化した国内初の研究組織である。計算社会科学は、ビッグデータやシミュレーション等の計量的手法を用いて社会現象を分析する新たな文理融合領域であり、同センターは、同領域における国内の共同研究を牽引していくことが期待されている。また、創設翌年の平成30年4月1日には全学基幹研究推進組織となった。

情報処理の側面では、機械計算室がLinuxを中心としたサーバシステムの運用をおこない、Windows PCとともに教員の利用に供している。全ての機器はキャンパスネットワークに接続されており、研究室からネットワーク及びデータベースを利用する環境が整備されている。インターネット上の情報公開も積極的に行っており、研究所教員の研究活動、セミナー・シンポジウム等の情報発信を通して、研究所の啓蒙活動にも貢献している。

昭和16年に神戸商業大学に経営計算研究室が設置されて以来、研究所で使われてきた貴重な機器の一部を現在も残している。現在、経済経営研究所兼松記念館1階に経営機械化展示室を設けており、経済経営研究所創立80周年を機に公開している。歴史的にも貴重な機械を公開しており、機械計算室の変遷を辿る事ができる。国産初の鐘淵実業製PCS用分類機など、戦中・戦後に導入された28点の歴史的機器が保存されているという理由から、平成26年に経営機械化展示室は情報処理学会・分散コンピュータ博物館に認定された。

教育に関しては、研究所教員は経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科に参画し、講義やゼミを担当している。

## 2 研究部門及び担当

研究部門名	職 名	氏 名	研究課題
グローバル経済	教授 教授 教授 教授 准教授 助教	趙 来勲 浜口 申明 佐藤 隆広 瀋 俊毅 岩佐 和道 村上 善道	経済グローバル化の動態とそれに伴う諸問題の理論的・実証的研究
企業競争力	教授 教授 教授 教授 特命教授 准教授 准教授 准教授 准教授 助教	下村 研一 伊藤 宗彦 Ralf BEBENROTH 西谷 公孝 小島 健司 松本 陽一 松尾 美和 江夏 幾多郎 後藤 将史 陳 金輝	企業の戦略、組織、および競争の理論的・実証的研究
企業情報	教授 准教授 講師 講師 特命講師	榎本 正博 藤村 聡 藤山 敬史 加藤 諒 小代 薫	会計制度の実証的・歴史的・実験的研究
グローバル金融	教授 教授 教授 教授 教授 特命教授 准教授 准教授 講師 特命講師	上東 貴志 北野 重人 家森 信善 神谷 和也 Charles Yuji HORIOKA 西村 和雄 高槻 泰郎 柴本 昌彦 榎本 大悟 幸若 完壮	金融グローバル化と金融政策に関する理論的・実証的研究
外国人研究員	外国人研究員 外国人研究員 外国人研究員 外国人研究員 外国人研究員	Scott Arthur WILBUR MinHwan LEE Xiandong QIN Keunkwan RYU Yongjin WANG	外国の研究機関との研究交流と客員研究者との共同研究

### 3 研究部門・研究分野

#### 「グローバル経済」研究部門 Global Economy

グローバリゼーションの下でいかに効率的で公平な経済・社会を構築するかは、全ての国々に共通する最重要の課題である。この課題に関し、本研究部門では、とくに国際経済学、開発経済学、空間経済学、ゲーム理論などの分野から、グローバリゼーションの動態とそれがもたらす諸問題の理論的・実証的研究を推進する。同時に、日本や先進諸国のみならず、新興経済諸国や発展途上国に関する地域研究に立脚した研究を企図する。

##### ・国際経済 International Economy

各国経済のマクロ的な関係をグローバルなシステムとして捉え、そのシステムの特徴と変動を理論的・実証的に明らかにすることを課題とする。各国間の貿易構造・投資構造とそれを規定する世界の貿易システム・投資システムについて、理論モデルを使った分析、計量モデルを使った分析を行う。その中心は国を単位とする国際的視点であるので国際的政策協調の問題も分析対象となる。日本とアジア諸国・アメリカ・EU の経済関係の研究を基礎に、21 世紀のグローバルシステムも探求される。

##### ・エマージングマーケット Emerging Market

エマージングマーケットが台頭し、国際経済においてプレゼンスを高めつつあるが、本研究分野においては、とくにインドに焦点を当てた研究を実施する。インドは、1990 年代より経済自由化を推進してきたが、マクロ経済、産業構造、企業行動などにどのような影響を与え、社会的にどのような成果をもたらしているかを、理論的・実証的に究明する。さらに、日本企業の国際化やグローバル化のひとつの事例として、インド進出日系企業を取り上げ、日系企業がインドの経済発展に果たしてきた、さらには今後果たすであろう役割を分析する。

##### ・経済統合 Regional Integration

東アジア地域における域内の生産統合がよりいっそう深化し、ASEAN の後進地域や中国の内陸地域に展開している状況について情報を収集し、分析する。インドとブラジルの世界経済との統合について研究し、新興経済国として注目される両国が世界経済に与える影響を考察する。WTO 交渉が遅れる一方で進展する EU、NAFTA、AFTA、メルコスール等々のリージョナリズムに関する理論的・実証的研究を行う。東アジアの地域経済統合が日本の地域経済に与える影響を分析する。経済統合の研究の対象には、国際商品貿易のみならずサービス貿易や直接投資や労働移動を含む国際生産要素移動、サプライチェーン、および研究開発等における知識の交流が含まれる。

##### ・経済開発戦略 Economic Development Strategy

この数十年の間に、多くの国は、グローバリゼーションの恩恵を受け、Third World の発展途上国から脱却し、新興経済と称される Middle Income Country へと飛躍した。しかし、より多くの諸国は、2000 年代に経済成長を加速させたが、Third World に取り残され、後進途上国として Middle Income Country への発展の糸口を模索している。

これらの後進途上国は、幾つかの新たな課題に直面している。第 1 に、気候変動への適応。例えば、ケニアでは、温暖化の影響が顕著で、2030 年までには、その効果は GDP の 2.0%（つまり、毎年 GDP が 2.0%減少する）まで拡大すると推定されている。第 2 に、所得格差の拡大。特に、国内の多様なグループ間の格差（Horizontal Inequality）の拡大が、政治の不安定化、あるいは紛争を導いている。第 3 に、大きく変化する世界経済構造への対応。

本分野では、これらの後進途上国の課題に焦点を当て、研究を進めていく。

## 「企業競争力」研究部門 Corporate Competitiveness

企業活動のグローバル化が進展し、国境を越えた企業間競争が一般的になった今日、企業の戦略や組織およびその競争環境や市場を、グローバルおよび地域や各国の特性を考慮して多面的・かつ多層的に分析・考察することが求められる。このような背景をもとに企業の国際競争力に関して、次の視点より理論的および実証的研究を行う。

- (1) 産業組織
- (2) 国家研究開発政策（イノベーション政策）
- (3) 企業技術戦略（イノベーション戦略）
- (4) 企業製品開発・生産戦略および組織
- (5) 国際経営
- (6) 環境経営、環境政策
- (7) 経営システム
- (8) 公共交通経営、公共交通政策

### ・イノベーションマネジメント Innovation Management

企業の競争力の源泉としてのマネジメント能力について研究する。研究分野は、企業の技術イノベーション分野だけではなく、特に製造業のサービス化による収益化の研究を行う。特に、企業内部組織の変革、サプライチェーン構築、ビジネス・モデルの創造といったサービス・イノベーションの研究を進める。

### ・コーポレートガバナンス Corporate Governance

企業統治についての法・規制および資本市場要因など企業環境と企業統治機構およびその機能との関連について理論的および実証的研究を行う。

### ・産業組織 Industrial Organization

さまざまな市場構造、市場行動、市場成果、それに伴う都市と交通の発展に関する理論分析と実証分析を行う。他のどの企業も作れない製品だが、他企業の製品で代替可能であるという製品差別の例は数多く存在する。従来の研究ではそのような製品の産業の競争形態は少数の企業による寡占か、多数の企業による独占的競争かのどちらかにあらかじめ分類されていた。これを同一産業において、多額の固定費用の支出により大量生産と超過利潤の機会が得られる寡占企業と、比較的少額の固定費用の支出により操業可能で生産は少量で収入と経費は相殺しあう独占的競争企業とが共存する状態として理論分析を行いたい。また、寡占企業と独占的競争企業の共存は都市における産業の集積、さらに都市と交通の発展をもたらす。これらの発展の説明と評価については、実証分析を行う。

### ・国際経営 International Management

<グリーン・サプライチェーン・マネジメントとその効果に関する研究>

現在、企業の環境経営は、一企業だけのものからグローバルに展開するサプライチェーン全体を考慮したものに焦点が移りつつある。これは、例えば、低炭素社会に向けてサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を測定、報告するカーボンフットプリントやスコープ3といった手法が一般化しつつあることから明らかである。そこで、本研究分野では、そうしたサプライチェーン単位での環境経営への取り組みが、各企業およびサプライチェーン全体の環境、経済の両面に与える影響について分析を行い、グリーン・サプライチェーン構築に向けた考察を行う。

## 「企業情報」研究部門 Corporate Information

公的に発行されたあるいは歴史的に残された企業（会計）資料・史料あるいはその電子化されたデータベースを用いて、企業の現代的・歴史的行動パターンを、（会計）情報をキーにして明らかにする。現代の企業行動分析としては研究所が保有する多様なデジタル会計データベースや企業会計資料を活用して、またファイナンス理論を援用しながら、企業の証券市場における行動について実証的・実験的・理論的分析を行う。歴史分析としては、企業資料総合センターの保有する資料の8割を占める企業会計史料を活用して、企業分けても日本企業の経営行動を幅広い時間的パースペクティブの中で分析する。

### ・会計情報分析 Accounting Information Analysis

財務会計情報の機能を、①株式市場と②企業が締結する契約という2つの観点から実証的に解明する。①では、財務会計情報と株価や出来高といった市場変数との関連性を分析することによって、財務報告に対する株価形成のプロセスや投資家行動のメカニズムを明らかにする。また②では、契約で利用される会計情報の役割を考察することによって、株式投資意思決定とは異なる、利害調整を目的とした会計情報の役割を解明する。

### ・企業史料分析 Corporate Records Analysis

所蔵経営原資料の目録整備と並行して、有価証券報告書・社史を中心とするセンター所蔵資料とのデータ連係をはかり、広く学界に研究素材として提供できる準備を進める。

兼松資料・鐘紡資料・内外綿資料を用いた戦前期企業に関する諸分野の分析のほか、資料の修復整理および複製を継続して進める。

### ・情報ディスクロージャー Disclosure

現代社会における巨大組織が、一般大衆を主体化する手段として形成・運用する情報公開制度の分析を行う。分析対象となる巨大組織としては企業と政府、分析対象となる情報には、会計・図像・文字情報が含まれる。分析手段としては言説分析・（脳）実験等が援用される。また、GPSを利用した位置情報の利用など、時代の先端を行くデバイスを用いることで、個々の消費者レベルでの行動を明らかにする、といった研究も行っている。

## 「グローバル金融」研究部門 Global Finance

金融のグローバル化および金融市場の統合が急速に進む中、わが国および世界経済において、バブルや金融危機に対してどのような政策をとるべきか、また教訓を活かして再発を防ぐことができるか等を理論的、実証的および制度的に先端的研究を行う。さらに、地域レベルでの金融の役割についても研究する。内外の研究者との共同研究を中心に、国際金融政策、国際通貨システム、ミクロ政策分析、およびマクロ政策分析の4研究分野で総合的に取り組む。

### ・国際金融政策 International Monetary Policy

グローバル経済下における金融政策の果たす役割を学術的に分析し、そして政策提言につながり得るような研究に結びつけることを目指す。理論的な研究としては、危機への対応として主に新興市場について、どのような政策が望ましいか金融政策を中心に分析を行う。実証的な研究としては、計量経済学及び時系列分析手法を応用することで、金融政策効果及び政策対応に関する分析を行う。

### ・国際通貨システム International Monetary System

国際通貨・金融システムに関する理論的・実証的・制度的研究を中長期的な研究課題とする。具体的には、グローバル・インバランス（世界的な経常収支の不均衡）問題、基軸通貨ドルに代わるSDR（特別引出権）を拡充した国際通貨システムの構築、および通貨危機やグローバル金融危

機の再発防止のための国際通貨基金（IMF）などを中心とする国際金融アーキテクチャー、ギリシヤを発端とする欧州通貨危機などについて考察する。

・ **マクロ政策分析 Macroeconomic Policy Analysis**

マクロ経済における資産バブルの発生・崩壊、バブル崩壊が引き起こす金融・経済・財政危機、および他国で発生した金融・経済危機がマクロ経済に与える影響を分析し、グローバルな視点から、バブル期・金融危機・財政危機時に有効な経済政策を考察・提言する。さらに、通貨のバブルとも言えるデフレーションや為替の高騰に関しても、バブルと同様の現象であるとの観点から理論化を図る。

・ **ミクロ政策分析 Microeconomic Policy Analysis**

日本の金融政策の内、金融市場を円滑に機能させるための政策に焦点を当て、定量的・定性的な分析を加える。具体的には、①地域金融システムと金融システム政策、②中小企業金融と信用保証制度、③公的金融の役割、④商品先物市場の役割などを検討する。その際、金融システム政策のあり方を、利用者サイドおよび供給者サイドの両方の視点から実証的に検証し、また、金融政策当局者や金融機関の経営者との意見交換を踏まえながら、エビデンスベースの政策提言を行うことを目指す。そのために、内外の研究者や実務家との研究交流の場として、金融システム研究部会を運営していく。また、上記の論点は、歴史的経緯を踏まえた検討がなされるべきであり、我が国に組織的な金融市場が誕生した江戸時代から現代までを、通史的に把握することを目標に掲げる。すなわち、江戸時代大坂の両替商と大名の間に成立した融資契約の実態把握（①に対応）、江戸幕府が財政難に苦しむ大名に提供した公的金融制度（②・③に対応）、そして世界初と言われる堂島米会所における先物取引の機能分析（④）などについて分析を進め、現代のミクロ政策分析との接続を図る。

【 歴代外国人研究員 】

(2009～2019 年度)

年度	氏名	所属	プロジェクト名	期間
2009	トーマス ムートス Thomas MOUTOS	アテネ商科大学国際・ヨーロッパ 経済研究学部 教授	Labour standards, outsourcing and the informal economy (趙)	2009.4.24 ～2009.5.26
	ウェイ ザオ Wei ZHAO	浙江大学国際経済研究所 所長／経済学院教授	中国民営企業の国際化に関する研究 (浜 口)	2009.7.10 ～2009.8.11
	ネアリア スー ブラニング Nealia Sue BRUNING	マニトバ大学経営学部 教授	Human Resource Management, Organizational Behavior (ベーンロート)	2010.2.17 ～2010.3.31
2010	ジョン アラン ドーソン John Alan DAWSON	エジンバラ大学ビジネス・スクー ル 教授 (マーケティング)	日英にまたがるGIS (Geographic Information System) の有用性に関する研究 (伊藤)	2010.4.26 ～2010.5.28
	ビーン-ロン チェン Been-Lon CHEN	中央研究院経済研究所 研究員	Globalization と経済成長 (趙)	2010.6.21 ～2010.7.31
	モリタ ホダカ 森田 穂高	ニューサウスウェールズ大学オース トラリアン・スクール・オブ・ ビジネス経済学部 准教授	企業経済に関する研究 (下村)	2010.8.30 ～ 2010.10.27
	アラダナ アガルワル Aradhna AGGARWAL	デリー大学大学院経済学研究科 准教授	インド製造業部門に対する経済自由化の インパクトに関する実証分析 (佐藤)	2010.11.1 ～2011.3.13
	ジャック-フランソワ Jacques-François ティッシュ THISSE	国立土木工学大学院 経済学教授／ルーバン・カトリッ ク大学センター・フォー・オペレ ーションズリサーチ・アンド・エコ ノメトリクス 名誉教授	産業内製品差別化市場の理論分析 (下村)	2011.2.25 ～2011.3.31
2011	ニール キシェトリ Nir KSHETRI	ノースカロライナ大学グリーンズ ボロ校ブライアン・スクール・オブ・ ビジネス・アンド・エコノミ クス 准教授	小売, 人的資源管理およびM&Aに関する 国際ビジネス研究 (ベーンロート)	2011.5. 17 ～ 2011.7.8
	ファビアン ジンテ フローゼ Fabian Jintae FROESE	高麗大学ビジネススクール 准教授	CEOの継承の研究と合併と買収の研究 (ベーンロート)	2011.12.1 ～ 2011.2.13
	クオン レ ヴァン Cuong LE VAN	フランス国立科学研究センター 名誉研究ディレクター (特例級)	経済成長と動的最適化 (上東)	2012.2.27 ～2012.3.28
2012	トレバー ボインズ Trevor BOYNS	カーディフ大学カーディフビジネ ススクール 教授	鉄道会社の予算管理: 日英比較史研究 (野 口)	2012.4.16 ～2012.5.18
	カマル バッタ Kamal VATTA	パンジャブ農業大学 准教授	労働市場とインドの農村貧困 (佐藤)	2012.10.1 ～ 2012.12.13
	ニール キシェトリ Nir KSHETRI	ノースカロライナ大学グリーンズ ボロ校ブライアン・スクール・オブ・ ビジネス・アンド・エコノミ クス 准教授	合併・買収 (ベーンロート)	2012.12.17 ～2013.1.17

年度	氏名	所属	プロジェクト名	期間
	マーティン ハムmert Martin HEMMERT	高麗大学ビジネススクール 教授	日本と韓国への中国対欧州の合併と買収 (ペーベンロート)	2013.1.21 ～2013.2.21
2013	ザイフ ヤン Zaifu YANG	ヨーク大学経済学部 教授	Search and Matching in the Global Market (趙)	2013.10.1 ～2013.11.4
2014	スラバニ ロイ Srabani ROY チョウドリ CHOUDHURY	ジャワハルラール・ネルー大学東 アジア研究センター 准教授	The Internationalization of Japanese Firms and Industrial Dynamics in India (佐藤)	2014.5.15 ～26.8.13
	ジョン スタハースキー John STACHURSKI	オーストラリア国立大学 教授	New Stability Theory for Markov Chains and Economics Applications (上東)	2014.9.16 ～ 2014.10.18
	ザイフ ヤン Zaifu YANG	ヨーク大学経済学部 教授	Revealed Preference Analysis of an International Trade Model (趙)	2014.11.26 ～ 2014.12.26
	ロナルド カーピオ Ronald CARPIO	対外経済貿易大学金融学院 助教授	New Algorithms for Dynamic Programming (上東)	2015.1.15 ～2015.2.16
2015	エリック ウィーズ Eric WEESE	イエール大学経済成長センター 准教授	Structural Models Where There Is an Outcome Space with Finite but Unnumberably Many Outcomes (浜口)	2015.5.7 ～2015.8.28
	アラン デーヴィッド Alan David ピアマン PEARMAN	英国リーズ大学ビジネススクール 教授	Behavioral Analysis of Decision Makings in Two-person Games (下村)	2015.9.24 ～ 2015.10.28
	ヤニス ヴァイラキス Yiannis VAILAKIS	グラスゴー大学アダム・スミスビ ジネススクール 教授	Fundamental Results of Stochastic Dynamic Programming for Economic Applications (上東)	2015.10.30 ～2015.12.1
	ジャンジュン サン Jianjun SUN	海南大学観光学院 教授	Bank Governance and Risk Taking in China (家森)	2015.12.16 ～2016.3.14
2016	スリ ニディ スリニワース Sri Nidhi SRINIVAS	ニュースクール・フォー・パブリ ックエンゲージメント 准教授	日本的な経営といわれてきたものと組織 および個人のアイデンティティ (遠藤)	2016.4.6 ～2016.6.2
	カーユウ ウォン Kar-yiu WONG	ワシントン大学経済学部 教授	グローバル経済における製品差別市場競 争に関する研究 (下村)	2016.6.7 ～2016.7.6
	ファークハンダ シャミム Farkhanda SHAMIM	パーレーン大学ビジネス・アドミ ニストレーション・カレッジ金融 経済学部 准教授	MSMEs in Muslim Developing Countries: Financial Constraints, Options, and Pricing (家森)	2016.7.12 ～2016.8.31
	ブラビール Prabir バッタチャルヤ BHATTACHARYA	ヘリオットワット大学 准教授	Research on Human Capital and Wage Inequality in India (佐藤)	2017.1.6 ～2017.3.30
2017	アシシュ マリク Ashish MALIK	ニューキャッスル大学商法学部 講師	日本企業がオーストラリアにて行う合 併・買収と人的資源管理(ペーベンロート)	2017.4.11 ～2017.5.12
	ミョウジェ ユ Miaojie YU	北京大学国家発展研究院 教授	中国の貿易繁栄と国内労働移動の関係 (趙)	2017.8.1 ～2017.8.31

年度	氏名	所属	プロジェクト名	期間
	パオ-リエン チェン Pao-Lien CHEN	国立精華大学科技管理学院 講師	日本における合併と買収と業績（バーベン ロート）	2018.2.2 ～2018.3.3
2018	ヒノ ヒロユキ 日野 博之	University of Cape Town, the Southern Africa Labour & Development Research Unit (SALDRU), Visiting Professor	南アフリカにおける空間的所得格差に関 する研究（浜口）	2018.5.7 ～2018.6.29
	ジャンタヌ ロイ Santanu ROY	Department of Economics, Southern Methodist University, Professor	産業構造の動学（上東）	2018.7.2 ～2018.8.1
	リジュン パン Lijun PAN	南京大学商学院 助教	グローバル経済における大企業と小企業 の競争（下村）	2018.8.3 ～ 2018.9.3
	ジャン フランソワ Jean Francois HENNART	Tilburg University, Emeritus Professor of International Management and Extramural Fellow of the Center for Research in Economics and Business / DIG, Politecnico di Milano, Visiting Professor	国際経営（バーベンロート）	2019.1.7 ～ 2019.2.8
2019	スコット アーサー ウィルバー Scott Arthur WILBUR	Japanese Politics, Yale University, Postdoctoral Associate	異常値の扱い方:経営インセンティブと技 術革新における企業の異質性（家森）	2019.5.14 ～2019.6.28
	ミンファン リー MinHwan LEE	School of Business, Inha University, Professor	地域発展における金融の役割—日韓の比 較研究(家森)	2019.6.24 ～2019.8.30
	シャンドン チン Xiandong QIN	上海交通大学安泰経済管理学院 教授	時間選好、意思決定、グループ（瀋）	2019.7.16 ～2019.8.16
	キョングワン リュウ Keunkwan RYU	Department of Economics, Seoul National University, Professor	異常値の扱い方:経営インセンティブと技 術革新における企業の異質性（ホリオカ）	2019.12.10 ～2020.1.10
	ヨンジン ワン Yongjin WANG	南開大学経済学院 教授	グローバリゼーションにおける品質検査 と不平等（趙）	2020.1.20 ～2020.3.16

#### 4 研究部会 (2019 年度)

当研究所においては、各教員の個人研究に加えて、研究課題に応じて研究所内及び学内外の研究者の参加を得て研究部会を組織し、積極的に共同研究を実施している。研究部会の存続期間は、原則 3 年とし、研究活動の経過及び成果を年 1 回教授会に報告することとしている。また、その成果は研究所刊行物により公表する。

##### ラテンアメリカ政治経済研究部会

ラテンアメリカは、1980 年代以降、民主化と新自由主義改革を経験し、経済成長などの成果とともに深刻な矛盾や社会的対立が生じたが、それらを克服する多様な試みを実践している「実験室」である。本研究は、同地域の対立と克服の試みを、政治経済学的観点のみならず、社会、国際関係、環境の分野を含めて学際的に研究する。学際研究においては、主体・アクターの行動様式の変化とそれに起因する対立構造の解明を、各分野に共通する分析枠組とする。さらに、他地域との比較研究や海外研究機関との連携も重視する。

主査・幹事	浜口 伸明	教授
	佐藤 隆広	教授
	村上 善道	助教
	桑山 幹夫	リサーチフェロー
	吉井 昌彦	経済学研究科 教授
	小池 洋一	立命館大学 特任教授
	村上 勇介	京都大学東南アジア地域研究研究所 教授
	高橋百合子	早稲田大学政治経済学術院 准教授
	福味 敦	兵庫県立大学 准教授
	河合 沙織	龍谷大学国際学部 講師
	内山 直子	東京外国語大学世界言語社会教育センター 特任講師

研究課題 ラテンアメリカにおける持続的経済成長に関する学際的研究

期間 2019 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

年月日	論 題	報 告 者
2020.3.11 科研若手研究 (B) 「ラテンアメリカ におけるバリュー チェーン統合と生 産性・分配に関する 実証研究」共催	Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile	神戸大学経済経営研究所 助教 村上 善道

## 金融システム研究部会

バブル崩壊後の金融システム危機時における「貸し渋り」問題や、リーマンショック後の世界経済の混乱、ユーロ通貨危機など、経済活動における金融システムの重要性を示す事例は多い。様々な「危機」を経験して、金融システムを強化するための努力が続いている。また、我が国では、地域経済の疲弊に対して金融システム面から支援するための取り組みが行われている。そこで、本研究部会では、こうした内外の金融システム政策や金融機関行動についての理論的な評価と、実体経済や政策効果の把握のための実証的な研究を行う。

主査・幹事	家森 信善	教授
	北野 重人	教授
	高槻 泰郎	准教授
	柴本 昌彦	准教授
	内田 浩史	経営学研究科 教授
	藤原 賢哉	経営学研究科 教授
	地主 敏樹	関西大学総合情報学部 教授
	近藤 万峰	愛知学院大学経済学部 教授
	根本 忠宣	中央大学商学部 教授
	播磨谷浩三	立命館大学経営学部 教授
	渡部 和孝	慶應義塾大学商学部 教授
	打田委千弘	愛知大学経済学部 教授
	栗原 裕	愛知大学経済学部 教授
	水野 伸昭	愛知学院大学経済学部 教授
	岡田 太志	関西学院大学商学部 教授
	小川 光	東京大学大学院経済学研究科 教授
	永田 邦和	長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
	柳原 光芳	名古屋大学大学院経済学研究科 教授
	小倉 義明	早稲田大学政治経済学部 教授
	筒井 義郎	甲南大学経済学部 特任教授
	尾崎 泰文	釧路公立大学経済学部 教授
	小塚 匡文	摂南大学経済学部 教授
	織田 薫	目白大学経営学部 教授
	奥田 真之	愛知産業大学経営学部 教授
	富村 圭	愛知大学経営学部 准教授
	北野 友士	桃山学院大学経済学部 准教授
	高久 賢也	広島市立大学国際学部 准教授
	浅井 義裕	明治大学商学部 専任准教授
	近廣 昌志	愛媛大学法文学部 准教授
	上山 仁恵	名古屋学院大学経済学部 准教授
	劉 亜静	広島修道大学経済科学部 准教授
	大熊 正哲	岡山大学大学院教育学研究科 講師
	海野 晋悟	香川大学経済学部 准教授
	相澤 朋子	日本大学商学部 専任講師
	米田 耕士	熊本学園大学経済学部 講師

研究課題 内外金融システムに関わる諸課題の総合的研究

期間 2017年4月1日～2020年3月31日

年月日	論 題	報 告 者
2019.6.3 基盤研究(A)「地方創生を支える創業ファイナンスに関する研究」／基盤研究(B)「地域の期待に応える地域金融モデルの構築－災害耐性、人口減少、フィンテック」共催	東北地方の経済の状況と日本政策金融公庫の取り組み	株式会社日本政策金融公庫 中小企業事業本部 東北地区統轄 本西 正人
2019.6.3 RIEB セミナー／神戸大学社会システムイノベーションセンター／六甲フォーラム／神戸大学金融研究会共催	関西金融経済動向	日本銀行 企画役／大阪支店 営業課調査グループ長 吉崎 康則
2019.6.24 RIEB セミナー共催	A Political Economy Explanation of Zombie Firms among Japanese SME	Japanese Politics, Yale University, Postdoctoral Associate／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員（客員准教授） Scott Arthur WILBUR
2019.7.10 兼松セミナー／基盤研究(B)「地域の期待に応える地域金融モデルの構築－災害耐性、人口減少、フィンテック」共催	中小企業のオフショアリング－東海地域の製造業中小企業とICT 基盤役務の国際展開に注目して－	浙江越秀外国语学院東方言語学院 特任教授 平川 均
2019.8.26 RIEB セミナー／神戸大学金融研究会共催	韓国の地域金融の現状	School of Business, Inha University, Professor／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員（客員教授） MinHwan LEE
2019.8.28-29	第13回 地域金融コンファランス（於：長野県立大学）◆	
2019.11.27 RIEB セミナー／科研挑戦的研究（萌芽）「高齢化社会にふさわしい金融リテラシーの新しい尺度構築の挑戦的な試み」共催	第2回 金融リテラシー調査について：概要と分析提案	金融広報中央委員会事務局長（日本銀行情報サービス局長） 中川 忍

◆ 第13回 地域金融コンファランス プログラム

日時	座長	報告者	報告論題	討論者
<b>&lt;1日目&gt; 8月28日(水)</b>				
<b>セッション I</b>				
11:00 - 11:20	開会挨拶(根本 忠宣 [中央大学])・参加者自己紹介			
11:20 - 12:00	永田 邦和 (長野県立大学)	松崎 英一 (信金中央金庫)	信用金庫による地域活性化への取組み	鹿野 嘉昭 (同志社大学)
休憩 (12:00 - 13:00)				
<b>セッション II</b>				
13:00 - 13:40	深沼 光 (日本政策 金融公庫 総合研究所)	郡司 大志 (大東文化大学)	日銀のETF買入が企業利益に及ぼす影響	茶野 努 (武蔵大学)
		三浦 一輝 (常葉大学)		
13:40 - 14:20		大鐘 雄太 (南山大学)	Effects of Bank Soundness on Lending Relationships Promotion Activities	小野 有人 (中央大学)
14:20 - 15:00		堀江 康熙 (関西外国語大学)	信用組合の収益力と将来	根本 忠宣 (中央大学)
	有岡 律子 (福岡大学)			
休憩 (15:00 - 15:10)				
<b>セッション III</b>				
15:10 - 15:50	森 祐司 (下関市立大学)	小塚 匡文 (摂南大学)	静岡県における地域金融機関の出店状況：県内市町別データによる実証分析	近藤 万峰 (愛知学院大学)
15:50 - 16:30		大熊 正哲 (岡山大学)	地域経済における企業間ネットワーク形成と金融機関の役割—岡山県の例(仮)	石橋 尚平 (大阪産業大学)
休憩 (16:30 - 16:40)				
<b>セッション IV (特別セッション)</b>				
16:40 - 18:30	山沖 義和 (信州大学)	栗田 照久 (金融庁監督局長)	地域金融機関の現状と課題について	
		湯本 昭一 (八十二銀行頭取)	八十二銀行の取り組みの御紹介	
懇親会 (19:30 - 21:30)				
<b>&lt;2日目&gt; 8月29日(木)</b>				
<b>セッション V</b>				
9:00 - 9:40	小野 有人 (中央大学)	尾島 雅夫 (神戸大学)	開業後の事業者に対する政府系と民間金融機関の役割	新田町 尚人 (九州産業大学)
9:40 - 10:20		丸山 智也 (一橋大学大学院)	日本の銀行産業における長期的競争変遷の実証的考察	大熊 正哲 (岡山大学)
休憩 (10:20 - 10:30)				
<b>セッション VI</b>				

10:30 - 11:10	浅井 義裕 (明治大学)	内木 栄莉子 (愛知学院大学)	Bank Soundness and Bank Lending to New Firms during the Global Financial Crisis	植杉 威一郎 (一橋大学)
		大鐘 雄太 (南山大学)		
11:10 - 11:50		山沖 義和 (信州大学)	金融規制の変遷:最近 20 年間の主な 100 の規制	家森 信善 (神戸大学)
休憩 (11:50 - 12:50)				
<b>セッション VII</b>				
12:50 - 13:30	安孫子 勇一 (近畿大学)	小倉 義明 (早稲田大学)	Network-motivated Lending Decisions	大鐘 雄太 (南山大学)
13:30 - 14:10		猪野 明生 (東京財団政策研究所)	Welfare Analysis of Bank Mergers Under Financial Fragility	小西 大 (一橋大学)
休憩 (14:10 - 14:20)				
<b>セッション VIII</b>				
14:20 - 15:00	永田 邦和 (長野県立大学)	青木 達彦 (信州大学)	経営不振企業とメイン寄せ：債権者間の協調メカニズムはいかに働くか	岩木 宏道 (大東文化大学)
15:00 - 15:40		吉原 清嗣 (京都大学)  日下 智晴 (金融庁)	地域金融機関の企業育成能力にかかる測定指標について	永田 邦和 (長野県立大学)
15:40 - 15:50	閉会挨拶 (家森 信善 [神戸大学])			

## 国際金融研究部会

サブプライム危機、リーマン危機、欧州金融危機という形で連鎖的に発生したグローバル金融危機の深層には、グローバルな資金フローの飛躍的な拡大が存在している。これまでの国際金融論の範疇では、国際金融市場の統合とそれに伴う国際資本移動の高まりは、経常収支や資本収支、ネット及びグロスでの資金フローやストックでの対外資産残高という形でとらえられてきた。しかし多発している世界規模での金融危機を包括的に理解し、新たな政策対応を構想する際には、グローバルレベルでの流動性を把握し、その実体を多面的なアングルから検証、考察していく必要がある。そこで本研究では「グローバル流動性：その制御と政策的課題」というテーマを設定し、理論、実証の両面から解明する。

主査・幹事	北野 重人	教授
	柴本 昌彦	准教授
	藤田 誠一	経済学研究科 教授
	松林 洋一	経済学研究科 教授
	ヴィエシボフスカ アガタ	経済学研究科 講師
	猪口 真大	立命館大学経営学部 教授
	福本 幸男	大阪経済大学経済学部 教授
	杉本 喜美子	甲南大学マネジメント創造学部 教授
	星河 武志	近畿大学経済学部 教授
	塩谷 雅弘	金沢大学経済学経営学系 准教授
	五百旗頭 真吾	同志社大学商学部 准教授

山本 周吾 山口大学経済学部 准教授  
 道和孝治郎 京都先端科学大学経済経営学部 准教授  
 高久 賢也 広島市立大学国際学部 准教授

研究課題 グローバル流動性：その制御と政策的課題

期間 2019年4月1日～2022年3月31日

年月日	論 題	報 告 者
2019.5.29 科研基盤研究 (C) 「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」 /RIEB セミナー 共催	Skill Premium and Preferential Policy: The Case of China	School of Economics and Management, Tsinghua University, Professor Qing LIU

### 交通政策研究部会

交通は人々の生活や地域経済に欠かせないものであり、交通弱者救済や地域の経済振興を目的として多くの交通事業が計画・実行されている。しかしながら、近年日本を始め各国では財政事情が厳しくなっており、限られた予算の中で効率的で有効な政策を選択することの重要性が増している。

このため本研究では工学・商学・経済学の融合的なアプローチによって効率的で有効な交通政策・交通事業の在り方を模索する。また、海外とも連携して各国での取組みや手法の発展を学び、知見を深める。

主査・幹事 松尾 美和 准教授  
 正司 健一 経営学研究科 教授  
 三古 展弘 経営学研究科 教授  
 喜多 秀行 工学研究科 教授  
 小池 淳司 工学研究科 教授  
 水谷 淳 海事科学研究科 准教授  
 秋田 直也 海事科学研究科附属国際海事研究センター 准教授  
 酒井 裕規 海事科学研究科 准教授  
 宋 娟貞 大阪大学大学院経済学研究科 助教

研究課題 交通政策及び交通事業の計画・管理に関する学際的な研究

期間 2019年5月1日～2021年1月31日

年月日	論 題	報 告 者
2019.6.11 神戸交通マネジメント ネットワークシヨップ 兼松セミナー/神戸 大学海事科学研究科 附属国際海事	デジタルデータを用いたトラックの運行挙動の分析	神戸大学海事科学研究科附属 国際海事研究センター 准教授 秋田 直也
	「交通」という言葉の意味について考える	香川大学名誉教授 井原 健雄

研究センター共催		
2019.7.16 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー／神戸大学海事科学研究科附属国際海事研究センター共催	The Congestion Relief Benefit of Public Transit: Evidence from Rome	School of Business and Economics, Vrije Universiteit Amsterdam, Professor Jos van OMMEREN
2019.8.9 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー／SESAMI プログラム共催	Assessing the Efficiency of Railway Maintenance with Heterogeneous Maintenance Units: The Case of France	Institute for Transport Studies, University of Leeds, Professor Andrew SMITH
2019.8.22 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー／神戸大学海事科学研究科附属国際海事研究センター共催	Perception towards Electric Vehicles and its Impact on Consumers' Preference	School of Engineering and Information Technology, The University of New South Wales, Lecturer Milad GHASRI
2019.11.12 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー共催	需要予測：交通と他分野の比較を通じた考察	神戸大学大学院経営学研究科教授 三古 展弘
2019.11.25 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー共催	「社会資本としての地域公共交通の計画方法論」構築に向けて	神戸大学大学院工学研究科教授 喜多 秀行
2019.12.4 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー共催	Organizational Coordination to Reduce Misalignment among Fragmented Business Units: A Case of Railway Industry	神戸大学大学院経営学研究科准教授 中村 絵理
2020.1.31 神戸交通マネジメントワークショップ RIEB セミナー共催	Returns to Density of Regional Railroad Companies in Japan: A Hedonic Cost Function Approach	神戸大学大学院経済学研究科講師 北村 友宏

## 5 学外活動（講師・非常勤講師は除く）（2017～2019年度）

※（財）財団法人（独）独立行政法人（社）社団法人（特非）特定非営利活動法人（公財）公益財団法人（一財）一般財団法人（一社）一般社団法人

2017年度

氏名	活動内容
上東 貴志	京都大学経済研究所共同利用・共同研究運営委員会 委員 日本学術会議 連携会員
浜口 伸明	日本学術会議 連携会員 （独）経済産業研究所 ファカルティフェロー （株）現代文化研究所 調査研究本部外部専門家 あしなが育英会 監事 （独）経済産業研究所 プログラムディレクター（PD） （公財）中部圏社会経済研究所 2017年度中部圏経済白書作成委員会委員
下村 研一	（公財）兼松貿易研究基金 常任理事
伊藤 宗彦	（公財）関西生産性本部 評議員 （一財）関西情報センター 有識者検討会議座長
佐藤 隆広	内閣府 経済社会総合研究所 客員主任研究官 （社）日本経済調査協議会 委員会委員 （独）日本貿易振興機構アジア経済研究所 研究会委員
家森 信善	国土交通省 国土交通省所管独立行政法人の評価等に関する外部有識者 国土交通省 住宅瑕疵担保制度のセーフティネットに関する検討会 外部有識者 東海財務局 金融行政アドバイザー 金融庁 参与 金融庁 金融機能強化審査会 委員 金融庁 金融審議会委員 金融庁 金融仲介の改善に向けた検討会議メンバー 中小企業庁 中小企業政策審議会臨時委員 中小企業庁 商工中金の在り方検討会委員 特許庁 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 知財金融委員会委員長 特許庁 平成30年度中小企業知財金融促進事業（知的財産評価書事業）に係る企画競争における事業者選定委員会委員 日本学術会議 連携会員 （独）経済産業研究所 ファカルティフェロー （独）経済産業研究所 プロジェクトメンバー （独）経済産業研究所 企業金融・企業行動ダイナミクス研究会委員 （公財）損害保険事業総合研究所 非常勤理事 （公財）損害保険事業総合研究所 損害保険研究費助成制度選考委員 （公財）二十一世紀文化学術財団 学術奨励選考委員 （公財）生命保険文化センター 理事 （公財）全国銀行学術研究振興財団 選考委員 （公財）あいちコミュニティ財団 評議員 日本郵政株式会社 東海支社 郵政事業有識者懇談会委員 （株）アイ・アールジャパンホールディングス 社外監査役（監査等委員） （株）名古屋証券取引所 アドバイザリー・コミティー委員 （特非）日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 理事 信金中央金庫地域・中小企業研究所 「信金中金月報掲載論文編集委員会」編集委員 愛知県信用保証協会 外部評価委員 兵庫県信用保証協会 ひょうご信用創生アワード選考委員 銀行業務検定協会 銀行業務検定試験事業性評価検定委員長 日本証券業協会 金融経済教育を推進する研究会 委員 「にしんハイスクール・ものづくりコンテスト2017」審査委員長 名古屋大学 客員教授 名古屋大学高等研究院 院友
神谷 和也	（社）日本経済学会 監事 日本学術会議 連携会員

	数理経済学会 会長
西谷 公孝	毎日新聞出版株式会社 執筆分担者
榎本 正博	(公財) 兼松貿易研究基金 監事
高槻 泰郎	日本学術会議 連携会員
	日本学術会議 若手アカデミー
岩佐 和道	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
松尾 美和	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
村上 善道	(独) 日本貿易振興機構アジア研究所 研究会委員
小島 健司	日本写真印刷株式会社 社外取締役
西村 和雄	大阪市教育委員会 顧問
	大阪市教育委員会 委員
	総合診断医療研究会 名誉顧問
	高等教育国際基準協会 名誉顧問
	法科大学院全国統一適性試験管理委員会 委員
	NPO これからの教育を考える会 理事
	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー

2018年度

氏名	活動内容
上東 貴志	京都大学経済研究所 共同利用・共同研究運営委員会 委員
	大阪大学社会経済研究所 運営諮問委員会 委員
	日本学術会議 連携会員
浜口 伸明	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー
	(独) 経済産業研究所 プログラムディレクター (PD)
	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
	(公財) 中部圏社会経済研究所 2017年度中部圏経済白書作成委員会
	(株) 現代文化研究所 調査研究本部外部専門家
	あしなが育英会 監事
	神戸市 働く場としての神戸のあり方検討会議 委員
日本学術会議 連携会員	
下村 研一	京都大学経済研究所 共同利用・共同研究運営委員会 委員
	京都大学経済研究所 外部評価委員会 委員
	(公財) 国際高等研究所 基幹プログラム参加研究者
	公認会計士監査審査会事務局 平成31年度公認会計士試験委員
伊藤 宗彦	(公財) 関西生産性本部 評議員
佐藤 隆広	内閣府 経済社会総合研究所 客員主任研究官
バーベンロート、ラルフ	京都大学大学院総合生存学館 特任教授
家森 信善	内閣府地方創生推進室 審査委員
	国土交通省 国土交通省所管独立行政法人の評価等に関する外部有識者
	国土交通省 住宅瑕疵担保履行制度のあり方に関する検討委員会 委員
	財務省東海財務局 金融行政アドバイザー
	金融庁 参与
	金融庁 金融審議会委員
	金融庁 金融機能強化審査会 委員
	中小企業庁 中小企業政策審議会臨時委員
	中小企業庁 商工中金の経営及び危機対応業務に関する評価委員会委員
	特許庁 平成30年度中小企業知財金融促進事業(知的財産評価書事業)に係る企画競争における事業者選定委員会委員
	日本学術会議 連携会員
	日本金融学会 常任理事
	日本保険学会 理事
	日本FP学会 理事
	生活経済学会 理事
(特非) 日本ファイナンシャルプランナーズ協会 理事	
(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー	
(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー	

	(一社) 全国信用金庫協会 信用金庫長期ビジョン検討委員会フォローアップ会合 オブザーバー
	(公財) 損害保険事業総合研究所 非常勤理事
	(公財) 二十一世紀文化学術財団 学術奨励選考委員
	(公財) 全国銀行学術研究振興財団 選考委員
	(公財) 生命保険文化センター 非常勤理事
	(株) アイ・アールジャパンホールディングス 社外取締役 (監査等委員)
	(株) 名古屋証券取引所 アドバイザリー・コミッティー委員
	(株) 地域経済活性化支援機構 社外取締役 地域経済活性化支援委員
	(株) 東京商品取引所 市場取引監視委員会 委員
	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 知財金融委員会委員長
	信金中央金庫地域・中小企業研究所 「信金中金月報掲載論文編集委員会」編集委員
	日本証券業協会 金融・証券教育支援委員会 委員
	愛知県信用保証協会 外部評価委員長
	兵庫県信用保証協会 ひょうご信用創生アワード選考委員長
	銀行業務検定協会 銀行業務検定試験事業性評価検定委員長
	名古屋大学 客員教授
	名古屋大学高等研究院 院友
神谷 和也	(一社) 日本経済学会 監事
	(一社) 国立大学協会 国立大学法人におけるコストの見える化検討会 委員
	日本学術会議 連携会員
	数理経済学会 会長
西谷 公孝	文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会審査意見書作成者
高槻 泰郎	日本学術会議 連携会員
	日本学術会議 若手アカデミー
岩佐 和道	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
松尾 美和	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
西村 和雄	大阪市教育委員会 顧問
	総合診断医療研究会 名誉顧問
	高等教育国際基準協会 名誉顧問
	法科大学院全国統一適性試験管理委員会 委員
	NPO これからの教育を考える会 理事
	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー
	日本学術会議 連携会員
小代 薫	小代幸人建築研究室・本町一級建築士事務所 デザイン・スーパーバイザー

2019年度

氏名	活動内容
上東 貴志	京都大学経済研究所 共同利用・共同研究運営委員会 委員
	大阪大学社会経済研究所 運営諮問委員会 委員
	日本学術会議 連携会員
浜口 伸明	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー
	(独) 経済産業研究所 プログラムディレクター (PD)
	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
	(公財) 中部圏社会経済研究所 2017年度中部圏経済白書作成委員会
	(株) 現代文化研究所 調査研究本部外部専門家
	あしなが育英会 監事
	神戸市 働く場としての神戸のあり方検討会議 委員
	日本学術会議 連携会員
	総務省 統計委員会人口・社会統計部会専門委員
下村 研一	京都大学経済研究所 共同利用・共同研究運営委員会 委員
	京都大学経済研究所 外部評価委員会 委員
	(公財) 国際高等研究所 基幹プログラム参加研究者
	公認会計士監査審査会事務局 平成31年度公認会計士試験委員
伊藤 宗彦	(公財) 関西生産性本部 評議員
佐藤 隆広	内閣府 経済社会総合研究所 客員主任研究官

ペーベンロー ト、ラルフ	京都大学大学院総合生存学館 特任教授
家森 信善	国土交通省 住宅瑕疵担保履行制度のあり方に関する検討委員会 委員
	国土交通省「独立行政法人住宅金融支援機構業務実績評価有識者会合」委員
	財務省東海財務局 金融行政アドバイザー
	財務省 日本政策投資銀行の特定投資業務のあり方に関する検討委員会委員
	財務省 財政制度等審議会専門委員（財政投融资分科会所属）
	環境省 地域における ESG 金融促進事業 意見交換会委員
	金融庁 参与
	金融庁 金融機能強化審査会 委員
	金融庁 金融審議会委員
	中小企業庁 中小企業政策審議会臨時委員
	中小企業庁 商工中金の経営及び危機対応業務に関する評価委員会委員
	特許庁事業「令和元年度中小企業知財経営支援金融機能活用促進事業」 知財金融委員会委員長
	日本学会議 連携会員
	日本金融学会 常任理事
	日本保険学会 理事
	日本FP学会 理事
	生活経済学会 理事
	(特非) 日本ファイナンシャルプランナーズ協会 理事
	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー
	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
	(一社) 全国信用金庫協会 信用金庫長期ビジョン検討委員会フォローアップ会合 オブザーバー
	(公財) 損害保険事業総合研究所 非常勤理事
	(公財) 損害保険事業総合研究所 損害保険研究費助成制度・選考委員
	(公財) 損害保険事業総合研究所 損害保険講座講師
	(公財) 全国銀行学術研究振興財団 選考委員
	(公財) 生命保険文化センター 非常勤理事
	(一財) アジア太平洋研究所 リサーチリーダー兼上席研究員
	(株) アイ・アールジャパンホールディングス 社外取締役（監査等委員）
	(株) 名古屋証券取引所 アドバイザー・コミッティー委員
	(株) 地域経済活性化支援機構 社外取締役 地域経済活性化支援委員
	(株) 東京商品取引所 市場取引監視委員会 委員
	信金中央金庫地域・中小企業研究所 「信金中金月報掲載論文編集委員会」編集委員
	日本証券業協会 金融・証券教育支援委員会 委員
	日本証券業協会 「金融経済教育を推進する研究会」委員
	全国信用金庫協会 支店長講座講師
	愛知県信用保証協会 外部評価委員長
	兵庫県信用保証協会 ひょうご信用創生アワード選考委員長
	京都市指定金融機関選定委員会委員
	銀行業務検定協会 銀行業務検定試験事業性評価検定委員長
	名古屋大学 客員教授
	名古屋大学高等研究院 院友
神谷 和也	(一社) 日本経済学会 監事
	(一社) 国立大学協会 国立大学法人におけるコストの見える化検討会 委員
	日本学会議 連携会員
西谷 公孝	数理経済学会 会長
	文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会審査意見書作成者
ホリオカ、チャ ールズ ユウジ	(公財) アジア成長研究所 理事 客員教授（特別教授）
	大阪大学社会経済研究所 招へい教授
	内閣府経済社会総合研究所 『経済分析』編集評議委員
高槻 泰郎	日本学会議 連携会員
	日本学会議 若手アカデミー
岩佐 和道	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー
松尾 美和	(独) 経済産業研究所 プロジェクトメンバー

江夏 幾多郎	経営行動科学学会 中部部会長
	日本労務学会 副会長 (兼, 組織委員会 委員)
	中小企業診断士試験委員
西村 和雄	大阪市教育委員会 顧問
	総合診断医療研究会 名誉顧問
	高等教育国際基準協会 名誉顧問
	NPO これからの教育を考える会 理事
	(独) 経済産業研究所 ファカルティフェロー
	日本学術会議 連携会員
	国際教育学会 会長
	東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター 顧問
明治大学政治経済学部 特別招聘教授	
小代 薫	小代幸人建築研究室・本町一級建築士事務所 デザイン・スーパーバイザー
	NPO 法人 UnknownKobe 副理事長
	アーバンデザインセンター神戸 理事

## 6 非常勤講師 (2017~2019 年度)

2017 年度

氏 名	本務先・職名	研 究 テ ー マ
相澤 朋子	日本大学商学部 専任講師	震災復興における地域金融機関と地域経済
阿部 顕三	大阪大学大学院経済学 研究科 教授	国内労働移動と国際貿易に関する理論的研 究
伊藤 秀史	早稲田大学大学院経営 管理研究科 教授	契約理論
井上 真由美	高崎経済大学経済学部 准教授	兼松史料を用いた経営問題の研究
上山 仁恵	名古屋学院大学経済学 部 准教授	家計行動の理論・実証分析
岡村 誠	学習院大学経済学部 特別客員教授	国際貿易理論、公共経済学
佐藤 朋彦	総務省統計局統計調査 部消費統計課 調査官	研究所データベース作成の指導助言と神戸 大学マイクロデータセンターの運営に係る業 務
高久 賢也	広島市立大学国際学部 准教授	ニューケインジアン・モデルによる開放経済 の分析
高橋 広雅	広島市立大学国際学部 准教授	手持ち現金が経済人の合理性に与える効果 の分析
Davis Colin Robert	同志社大学国際教育イ ンスティテュート 教授	Innovation for Sale:イノベーションの商品化 と経済成長の関係を分析する
土居 潤子	関西大学経済学部 教授	起業と商品品質の研究
米田 耕士	熊本学園大学経済学部 特任助教	金融機関の人事評価と事業性評価

2018 年度

氏 名	本務先・職名	研 究 テ ー マ
相澤 朋子	日本大学商学部 専任講師	震災復興における地域金融機関と地域経済
阿部 顕三	大阪大学大学院経済学 研究科 教授	労働移動と国際貿易・経済発展
伊藤 秀史	早稲田大学大学院経営 管理研究科 教授	契約理論
井上 真由美	高崎経済大学経済学部 准教授	兼松の従業員持株制度に関する調査・研究
上山 仁恵	名古屋学院大学経済学 部 准教授	家計行動の理論・実証分析
岡村 誠	学習院大学経済学部 特別客員教授	戦略的貿易政策
鎌田 伊佐生	新潟県立大学国際産業 経済研究センター 教授	南アジアの産業発展と日系企業のGVCに関す る新貿易理論からの理論・実証分析
佐藤 朋彦	総務省統計局 統計調 査部 消費統計課	研究所データベース作成の指導助言と神戸 大学マイクロデータセンターの運営に係る業

	物価統計室長	務
高久 賢也	広島市立大学国際学部 准教授	開放経済の DSGE モデルに基づくマクロ経済政策分析
高橋 広雅	広島市立大学国際学部 教授	不正行為が起こりやすくなる要因の分析
Davis Colin Robert	同志社大学国際教育イ ンスティテュート 教授	Innovation for Sale:イノベーションの商品化 と経済成長の関係の理論分析を行う
土居 潤子	関西大学経済学部 教授	移民と経済成長
播磨谷 浩三	立命館大学経営学部 教授	地域金融の競争環境と地域経済との関連に ついての実証的検証

2019 年度

氏 名	本務先・職名	研 究 テ ー マ
相澤 朋子	日本大学商学部 専任講師	震災復興における地域金融機関と地域経済
阿部 顕三	中央大学経済学部 教授	労働市場と貿易構造の関連に関する経済学的 考察
伊藤 秀史	早稲田大学大学院経営 管理研究科 教授	契約理論
上山 仁恵	名古屋学院大学経済学 部 准教授	家計行動の理論・実証分析
岡村 誠	学習院大学経済学部 特別客員教授	貿易理論、応用ミクロ経済学
鎌田 伊佐生	新潟県立大学国際産業 経済研究センター 教授	南アジアの産業発展と日系企業の GVC に関す る新貿易理論からの理論・実証分析
小塚 匡文	摂南大学経済学部 教授	事業継承における金融の役割に関する研究
佐藤 朋彦	独立行政法人統計セン ター情報技術センター 調査官	研究所データベース作成の指導助言と神戸 大学マイクロデータセンターの運営
高久 賢也	広島市立大学国際学部 准教授	新興国における国際資本フローと資本規制 の有効性に関する理論的研究
高橋 広雅	広島市立大学国際学部 教授	不正行為が起こりやすくなる要因の分析
Davis Colin Robert	同志社大学国際教育イ ンスティテュート 教授	Investigating how Economic Policy affects Innovation for Sale 経済政策がイノベーショ ンの商品化に与える影響を分析
土居 潤子	関西大学経済学部 教授	移民摩擦の動学研究
橋本 理博	名古屋経済大学経済学 部 准教授	銀行システムの国際比較研究
播磨谷 浩三	立命館大学経営学部 教授	地域金融の競争環境と地域経済との関連に ついての実証的検証
宮越 龍義	法政大学理工学部 教授	移民と人口成長の研究

## 7 学術講演会・研究会・セミナー・国際シンポジウム等（2018・2019年度）

### 神戸大学金融研究会

研究部会以外に経済経営研究所発足当時から神戸大学金融研究会の研究活動が続けられ、これまでに500回を超えて開催している。2018年度以降の状況は以下のとおりである。

年月日	論 題	報 告 者
第554回 2018.4.21 RIEB セミナー共催	Climate Finance をめぐって	公益財団法人国際金融情報センター 理事長 玉木 林太郎
第555回 2018.5.12 RIEB セミナー共催	金融システムレポート（2018年4月号）について	日本銀行金融機構局 審議役（金融システム調査担当） 木村 武
第556回 2018.6.11 RIEB セミナー／六甲 フォーラム／神戸大 学社会システムイ ノベーションセン ター共催	Does State-Dependent Wage Setting Generate Multiple Equilibria?  Changes in Wage Inequality Between- and Within-Firm: Evidence from Japan, 1993-2014	京都大学経済研究所 准教授 高橋 修平  School of Economics, The University of Queensland, Lecturer 田中 聡史
第557回 2018.6.16 RIEB セミナー共催	グローバル化・デジタル化が進展する中での金融機関を巡る競争政策上の課題と最近の進展について	公正取引委員会 近畿中国四国事務所長 諏訪園 貞明
第558回 2018.6.27 六甲フォーラム／神 戸大学社会システム イノベーションセン ター共催	Unconventional Fiscal Policy and Dynamics of Consumptions  An Alternative Solution Method for Continuous Time Heterogeneous Agent Models with Aggregate Shocks	オハイオ州立大学経済学 部 博士課程 日野 将志  オハイオ州立大学経済学 部 博士課程 岡畑 信秀
第559回 2018.8.20 兼松セミナー共催	Sovereign Default Triggered by Incapability to Repay Debt under a Nonlinear Fiscal Policy Rule	日本銀行金融研究所 エコノミスト 岡地 迪尚
第560回 2018.9.18 六甲フォーラム／神 戸大学社会システム イノベーションセン ター共催	Attenuating the Forward Guidance Puzzle: Implications for Optimal Monetary Policy	連邦準備理事会 仲田 泰祐
第561回 2018.9.22 科研基盤研究(S)「包 括的な金融・財政政策 のリスクマネジメン ト：理論・実証・シミ ュレーション」共催	Outside the Box: Unconventional Monetary Policy in the Great Recession and Beyond	Department of Economics, Williams College, Professor ／神戸大学経済経営研究 所 リサーチフェロー Kenneth Neil KUTTNER
第562回 2018.10.6 RIEB セミナー／神戸 大学社会システムイ ノベーションセン ター共催	Why Do Shoppers Use Cash? Evidence from Shopping Diary Data	東京大学大学院経済学 研究科 講師 若森 直樹

<p>第 563 回 2018.11.10 RIEB セミナー／神戸 大学社会システムイ ノベーションセンタ ー共催</p>	<p>中国の金融改革</p>	<p>日本銀行国際局 審議役 (アジア関係総括) 福本 智之</p>
<p>2018.12.5 RIEB セミナー／科研 基盤研究 (S)「包括的 な金融・財政政策のリ スクマネジメント: 理 論・実証・シミュレー ション」共催 第 15 回 Modern Monetary Economics Summer Institute (MME SI) in Kobe</p>	<p>The Great Disconnect: The Decoupling of Wage and Price Inflation in Japan</p>	<p>Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Stanford University, Professor 星 岳雄</p>
<p>2018.12.6 第 15 回 Modern Monetary Economics Summer Institute (MME SI) in Kobe ※国内向けシンポジウム 等欄掲載</p>	<p>神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム 「企業や地域の成長・活性化に貢献できる金融ビジネスに向けて」 神戸大学経済経営研究所主催、神戸大学社会システムイノベーションセンター／JSPS 科学 研究費補助金 (16H02027) 「地方創生を支える創業ファイナンスに関する研究」共催</p>	
<p>第 566 回 2018.12.7 科研基盤研究 (C)「先 進国の金融政策正常 化により新興国にお いて発生するリスク に対するマクロ経済 政策」／国際金融研究 部会／RIEB セミナー 共催 Workshop on International Macroeconomics ※国際向けシンポジウム 等欄掲載</p>	<p>Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Incompleteness of Financial Markets</p>	<p>神戸大学経済経営研究所 教授 北野 重人</p>
	<p>Intra-temporal Substitution between Tradable and Nontradable Goods: An Implication for the Backus-Smith Puzzle</p>	<p>東北大学大学院経済学 研究科 教授 永易 淳</p>
	<p>Does International Financial Integration Increase the Standard of Living in Africa : A Frontier Approach</p>	<p>Faculty of Economics and Management, Aix-Marseille University, Professor Gilles DUFRENOT</p>
<p>第 567 回 2018.12.22 RIEB セミナー／神戸 大学社会システムイ ノベーションセンタ ー共催</p>	<p>市場取引型地域通貨のインプリケーション</p>	<p>立正大学 非常勤講師 歌代 哲也</p>
		<p>立正大学経済学部 教授 林 康史</p>
	<p>フィンテックと経済・金融・マクロ政策</p>	<p>日本銀行金融研究所 シ ニアリサーチフェロー／ 前日本銀行決済機構局 長・元金融市場局長 山岡 浩巳</p>

第 568 回 2019.2.8 六甲フォーラム／神戸大学金融研究会／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催 第 2 回神戸 DSGE ワークショップ	Policy irreversibility as a commitment device at the zero-lower bound (joint with Teruyoshi Kobayashi and Tomohiro Sugo)	松山大学経済学部 准教授 蓮井 康平
	Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel (joint with Shigeto Kitano)	広島市立大学国際学部 准教授 高久 賢也
	Credible Forward Guidance (joint with Takeki Sunakawa)	連邦準備理事会 Principal Economist 仲田 泰祐
	Market Concentration and Sectoral Inflation under Imperfect Common Knowledge (joint with Tatsushi Okuda)	日本銀行金融研究所 企画役 加藤 涼
第 569 回 2019.3.23 兼松セミナー／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催 ※国内向けシンポジウム等欄掲載	現代のマクロ金融研究：課題と展望	東京大学大学院経済学研究科 教授 宮尾 龍蔵
	アメリカの金融政策運営に関する長期的な考察	神戸大学大学院経済学研究科 教授 地主 敏樹
第 570 回 2019.4.20 RIEB セミナー共催	生産性から見た日本経済	学習院大学経済学部 教授 宮川 努
第 571 回 2019.5.22 RIEB セミナー／六甲フォーラム共催	金融システムレポート（2019年4月号）について	日本銀行金融機構局 金融システム調査課長 川本 卓司
第 572 回 2019.6.3 RIEB セミナー／神戸大学社会システムイノベーションセンター／金融システム研究部会共催	関西金融経済動向	日本銀行 企画役／大阪支店営業課調査グループ長 吉崎 康則
第 573 回 2019.6.6 神戸大学社会システムイノベーションセンター／六甲フォーラム共催 ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Consumption Tax as a Source of Discrete Choice	Department of Economics, The Ohio State University, Ph.D. Student Masashi HINO
	Firm Size and Business Cycles with Credit Shocks	Department of Economics, National University of Singapore In Hwan JO

	Inflationary Redistribution vs. Trading Opportunities: A New-Monetarist Heterogeneous-agent Quantitative Theory	Research School of Economics, Australian National University Timothy KAM
第 574 回 2019.6.29 兼松セミナー共催	高齢化社会と家計の金融経済行動:マクロ的背景とミクロ的 インプリケーション	一橋大学経済研究所 教授 祝迫 得夫
第 575 回 2019.7.27 RIEB セミナー共催	Deposit Market Outcomes in a Dual Banking System: Exploring the Link Between City-Level Religiosity and Depositor Behaviour	Central Bank of the Republic of Turkey, Tokyo Office, Representative Huseyin OZTURK
第 576 回 2019.8.2 神戸大学社会システ ムイノベーションセ ンター共催	多面的プラットフォームと金融分野への応用について	神戸大学大学院経営学 研究科 准教授 善如 悠介
第 577 回 2019.8.26 RIEB セミナー／金融 システム研究部会共 催	韓国の地域金融の現状	School of Business, Inha University, Professor/ 神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員教授) MinHwan LEE
第 578 回 2019.9.28 科研基盤研究 (A)「地 方創生を支える創業 ファイナンスに関す る研究」/Monetary Economics Workshop 共催	Unconventional Monetary Policy and SME Expectations of Future Credit Availability	Kelley School of Business, Indiana University, Professor Gregory F. UDELL
第 579 回 2019.11.27 金融システム研究部 会/科研挑戦的研究 (萌芽)「高齢化社会 にふさわしい金融リ テラシーの新しい尺 度構築の挑戦的な試 み」/RIEB セミナー 共催	第 2 回 金融リテラシー調査について:概要と分析提案	金融広報中央委員会 事務局長 (日本銀行情報サ ービス局長) 中川 忍
第 580 回 2019.11.30 兼松セミナー共催	Stock Lending Market and the BOJ's ETF Purchasing Program: Micro-Evidence from ETF Balance Sheet Data and Equity Repo Trading Data (with Kou Maeda)	早稲田大学国際教養学部 講師 篠 潤之介
第 581 回 2019.12.17 RIEB セミナー／六甲 フォーラム共催	Price Elasticity of Demand for Reverse Mortgage in Korea (by Junseok Byun and Keunkwan Ryu)	Department of Economics, Seoul National University, Professor/神戸大学経済 経営研究所 外国人研究 員 (客員教授) Keunkwan RYU

第 582 回 2019.12.21 RIEB セミナー共催	金融史研究と地域公益―「戦後日本の地域金融 バンカーたちの挑戦」を編集して	麗澤大学経済学研究科 教授 佐藤 政則
	経済学：目的、現状、課題	阪南大学経済学部 准教授 今城 徹
第 583 回 2020.1.29 RIEB セミナー／社会システムイノベーションセンター共催	チャイナ・イノベーションの実像と今後の展望	甲南大学経済学部 特任教授 筒井 義郎
		野村総合研究所 金融 IT コンサルティング部／グ ローバル産業・経営研究室 上級コンサルタント 李 智慧

### 学術講演会：神戸商工会議所との共催フォーラム・ゼミナール

当研究所の研究分野に関連する諸問題をテーマに、毎年 1 回神戸商工会議所との共催で一般人を対象とした講演会を開催している。

#### ■第 23 回神戸経済経営フォーラム

「ワーク・ライフ・バランスをどう活用するか」

(2019 年 2 月 15 日 於：神戸商工会議所 3 階役員会議室)

開会挨拶 神戸大学経済経営研究所 所長 濱口 伸明

講演「ワーク・ライフ・バランスをどう活用するか」

神戸大学経済経営研究所 教授 西谷 公孝

事例発表「企業における部活のすすめ」

三菱日立パワーシステムズ株式会社 営業本部 副本部長 江島 俊也

◇コーディネーター：神戸大学経済経営研究所 教授 下村 研一

#### ■第 24 回神戸経済経営フォーラム

「実りあるイノベーションの実現にむけた経営戦略の重要性」

(2020 年 2 月 3 日 於：アリストンホテル神戸 5 階「カステリア」)

開会挨拶 神戸大学経済経営研究所 教授 下村 研一

講演「実りあるイノベーションの実現にむけた経営戦略の重要性」

神戸大学経済経営研究所 准教授 松本 陽一

◇コーディネーター：神戸大学経済経営研究所 教授 下村 研一

RIEB セミナー

年 月 日	論 題	報 告 者
2018.4.8 日本南アジア学会／科 研基盤研究 (A)「南ア ジアの産業発展と日系 企業のグローバル生産 ネットワーク」共催 日本南アジア学会 30 周 年記念シンポジウム「ナ レンドラ・モディ政権下 のインド」 ※国内向けシンポジウム 等欄掲載	モディ政権下のインド経済	神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
	モディ政治の 4 年間：新しいヒンドゥー至上主義	京都大学大学院アジア・ アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥
	現代インドのマールワリー企業家による家族祭礼：故郷への社 会貢献とコミュニティの実体化	日本学術振興会 海外特 別研究員 田中 鉄也
	モディ外交：大国指向と日印関係の展望	岐阜女子大学 特任教授 堀本 武功
2018.4.12 RIEB セミナー／神戸大 学大学院経営学研究科 主催、環境研究総合推進 費 (S-16) 共催 “Environmental Accounting Seminar” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	Legitimizing Effect of Environmental (Climate-Change) Disclosure: The Role of Chief Sustainability Officers (CSOs)	College of Business and Economics, Towson University, Associate Professor Jin Dong PARK
2018.4.21 神戸大学金融研究会 共催	Climate Finance をめぐって	公益財団法人国際金融情 報センター 理事長 玉木 林太郎
2018.5.4 “Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries	神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
	The Source of Competitive Advantage of Indian Motorcycle Industry	慶應義塾大学経済学部 准教授 三嶋 恒平
	The TRIPs Agreement and Pharmaceutical Industry in India	神戸大学経済経営研究所 学術研究員 上池 あつ子
	Gender Issues in the Bangladeshi Garment Industry	茨城大学人文社会科学部 准教授／London School of Economics and Political Science, Visiting Fellow 長田 華子
	Effects of Trade Liberalization on the Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector	愛知学院大学経済学部 講師 古田 学

	How Far Does India's Future Growth Depend on Further Trade Liberalisation?	Heriot-Watt University, Emeritus Professor Paul HARE
	Citizen's Income in India: Results from Pilot Studies	UK Citizen's Basic Income Trust, Chair Anne MILLER
	Smart and Sustainable Cities: The Indian Approach and Challenges	Faculty of Social Sciences, University of Bradford, Reader in Environmental Economics and Public Policy P.B. ANAND
	Effect of Women's Agency and Economic Development on Sex Ratios in India: A District Level Analysis	School of Economics and Finance, University of St. Andrews, Associate Lecturer Vibhor SAXENA
2018.5.12 神戸大学金融研究会 共催	金融システムレポート（2018年4月号）について	日本銀行金融機構局 審 議役（金融システム調査 担当） 木村 武
2018.5.22	The China Shock, Exports, and U.S. Employment: A Global Input-Output Analysis	College of Business and Economics, University of Idaho, Assistant Professor of Economics 笹原 彰
2018.6.11 六甲フォーラム／神戸 大学金融研究会／神戸 大学社会システムイノ ベーションセンター 共催	Does State-Dependent Wage Setting Generate Multiple Equilibria?	京都大学経済研究所 准 教授 高橋 修平
	Changes in Wage Inequality Between- and Within-Firm: Evidence from Japan, 1993-2014	School of Economics, The University of Queensland, Lecturer 田中 聡史
2018.6.16 神戸大学金融研究会 共催	グローバル化・デジタル化が進展する中での金融機関を巡る競争政策上の課題と最近の進展について	公正取引委員会 近畿中 国四国事務所長 諏訪園 貞明
2018.6.22	Between a Rock and a Hard Place: Global Mining, Financial Regulation and Corporate Social Responsibility	Department of Political Science, Indiana University Bloomington, Visiting Scholar Travis SELMIER
2018.6.25 ラテンアメリカ・セミナ ー／ラテンアメリカ政 治経済研究部会／神戸 開発経済・経済史セミナ ー／六甲フォーラム／ 科研基盤研究（B）「ラ テンアメリカ発展停滞 のパズル」共催	The Violent Consequences of Trade-Induced Worker Displacement in Mexico	Centro de Investigación Económica, Instituto Tecnológico Autónomo de México (ITAM), Assistant Professor 手島 健介
2018.6.27 六甲フォーラム／神戸 大学社会システムイノ ベーションセンター／ KUMiC セミナー共催	匿名データ加工用の Stata プログラムについて	神戸大学大学院経済学研 究科 研究員 森本 敦志

2018.7.5	インド社会における婚姻変化とジェンダー含意	鹿児島大学総合科学域総合教育学系総合教育機構グローバルセンター 教授 中谷 純江
2018.7.11 金融システム研究部会 共催	山口県信用保証協会の現状と最近の取組について	山口県信用保証協会 専務理事 今田 武男
		山口県信用保証協会総務部企画情報課 課長 本田 浩
2018.7.17	Knowledge Acquisition of Expatriates	Human Resources Management and Asian Business, Georg-August-University Göttingen, Professor Fabian FROESE
2018.7.20	Robust Likelihood-ratio Tests for Incomplete Economic Models	Department of Economics, Boston University, Associate Professor 海道 宏明
2018.7.25 基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」/基盤研究 (B)「人的資本と経済成長」共催 “RIEB Workshop on Economic Theory” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Regulating False Disclosure	Department of Economics, Southern Methodist University, Professor/神戸大学経済経営研究所 外国人研究員(客員教授) Santanu ROY
	Investment in Time Preference and Long-run Distribution	Adam Smith Business School, The University of Glasgow, Professor in Economics 林 貴志
2018.8.4 国際金融研究部会共催	Offshore Bond Issuance and Noncore Liability in BRICs Countries	山口大学経済学部 准教授 山本 周吾
	Destination of Global Liquidity and Role of Foreign Banks	同志社大学商学部 准教授 五百旗頭 真吾
	Global Liquidity and Reallocation of Domestic Credit	甲南大学マネジメント創造学部 教授 杉本 喜美子
	Sovereign Credit Default Swap, Global Factors, and the Change of U.S. Monetary Policy	立命館大学経営学部 教授 猪口 真大
	Bank Profitability in Europe Before and After the Global Financial Crisis: Leverage, Foreign Claims, and Monetary Policy	神戸大学大学院経済学研究科 講師 ヴィエシボフスカ アガタ 神戸大学大学院経済学研究科 教授 松林 洋一

	Global Liquidity and Forward Discount Bias	大阪経済大学経済学部 教授 福本 幸男
	Demand for the Dollar as an International Currency	近畿大学経済学部 教授 星河 武志
		名古屋市立大学経済学部 准教授 稲垣 一之
Recent Development in the Adoption of Capital Controls in Emerging Economies: Theory and Practice	広島市立大学国際学部 准教授 高久 賢也	
	神戸大学経済経営研究所 教授 北野 重人	
2018.8.17 六甲台セオリーセミナー 一共催	Merger Efficiencies: Benefit or Detriment? The Role of Product Choice in a Mixed Market Structure	南京大学商学院 助教/ 神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員准教授) Lijun PAN
2018.9.4-5 JSPS Bilateral Joint Research Projects, Seminars/基盤研究 (A) 南アジアの産業発展と 日系企業のグローバル 生産ネットワーク/基 盤研究 (B) 南アジアの コネクティビティとイン ド-越境インフラを巡 る政治と経済/基盤研 究 (B) 経済発展政策の 政治経済学的分析:理論 モデル分析とインドに おける実証研究/基盤 研究 (C) ミクロデータ からみたインドの人 口・労働・不平等の長期 動向共催 “The 10th Indo-Japanese Dialogue on the Indian Socio-Economic Issues with Special Reference to the Japanese Perspectives” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries	神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
	Business Activities of Japanese Companies in India	Indian Institute of Technology Patna, Associate Professor Nalin BHARTI
	Effects of Emission Standards: Evidence from Indian Manufacturing Sector	愛知学院大学経済学部 講師 古田 学
	Social Business and Food Chain in India: Organizational Management and Distribution Channels of AMUL	京都大学大学院経済学研 究科 博士後期課程 下門 直人
	The Current Situation of Rural Households in Indian Punjab: Some Insights from a Recent Survey	Centers for International Projects Trust (CIPT) / Punjab Agricultural University, Professor Kamal VATTA
	Politicization of Electricity in Delhi	高知県立大学文化学部 講師 溜 和敏
		兵庫県立大学経済学部 准教授 福味 敦
Electricity Consumption and Agricultural Development in Punjab	兵庫県立大学経済学部 准教授 福味 敦	

	Business-Friendly Policy by Indian State Governments: A Political Economy Analysis	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授 加藤 篤史
2018.9.19 基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催	Unpacking Changes in the Funds Rate Target	Department of Economics, Williams College, Professor/神戸大学経済経営研究所 リサーチフェロー Kenneth Neil KUTTNER
2018.10.2 ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Strategic Renewal in the Swedish Industry	School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg, Assistant Professor 中村 北斗リッカード
	Culture Related Entry Barriers - An Exploratory Study of Foreign SMEs Entering the Japanese Market	Department of Marketing, Linnaeus University, Senior Lecturer Soniya BILLORE
2018.10.4	Why Do Children Take Care of Their Elderly Parents? Are the Japanese Any Different?	公益財団法人アジア成長研究所 副所長・教授 チャールズ・ユウジ・ホリオカ
2018.10.6 神戸大学金融研究会/ 神戸大学社会システムイノベーションセンター共催	Why Do Shoppers Use Cash? Evidence from Shopping Diary Data	東京大学大学院経済学研究科 講師 若森 直樹
2018.10.9 KUMiC セミナー/六甲フォーラム/神戸大学社会システムイノベーションセンター共催	事業所・企業系のマイクロデータを用いたデータリンケージの可能性ー賃金構造基本統計調査を例にー	中央大学経済学部 教授 伊藤 伸介
2018.10.22 基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催	Recurrent Bubbles and Economic Growth	一橋大学経済研究所 准教授 陣内 了
2018.10.25 神戸大学計算社会科学研究センター主催 RIEB セミナー/六甲フォーラム/基盤研究 (C)「経済現象のネットワーク・モデリング」/基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催 “Network Science Workshop in Kobe 2018” ※国際向けシンポジウム	Multiple Core-Periphery Pairs in Networks: Algorithms and Applications	Department of Engineering Mathematics, University of Bristol, Research Associate 幸若 完壮
	The Global Liner Shipping Network Architecture Exhibits A Crucial Structural Core Which Supports World Trade	Dalian University of Technology, Postdoctoral Research, Fellow Mengqiao XU
	Time-Varying Network Approach to Open Innovation Using Patent Data	早稲田大学現代政治経済研究所 次席研究員(研究院講師) 翁長 朝功
	What Does Big Data Tell? Sampling the Social Network By Communication Channel	理化学研究所 研究員 村瀬 洋介

等欄掲載	Exact Computational Epidemiology	東京工業大学科学技術創成研究院 特任教授 Petter HOLME
	Cities and Roads As Pattern Formation of Their Co-Evolving Dynamics on Real-World Landscape	香川大学教育学部 准教授 青木 高明
	Votclustering: A Network Approach to Free-Response Surveys	産業技術総合研究所 研究員 川本 達郎
2018.10.26 神戸大学計算社会科学 研究センター主催 RIEB セミナー／基盤研究 (C)「経済現象のネットワーク・モデリング」／基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催 “Kick-off conference for the Center for Computational Social Science (CCSS)” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Mining Networks of Human Contacts: From Data to Applications	Aix Marseille University, Research Scientist Alain BARRAT
	Data Science for Social Good	ISI Foundation, Scientific Director Ciro CATTUTO
	Social Simulation and Human Mobility	東京工業大学科学技術創成研究院 特任教授 Petter HOLME
	Social Simulations and Supercomputers	東京大学大学院工学系研究科 准教授／理化学研究所 チームリーダー 伊藤 伸泰
	Network Analysis of Financial Markets	神戸大学大学院経済学研究科 准教授 小林 照義
	Circadian Rhythms of Urban People - Interplay Between Biological, Environmental and Social Factors?	Aalto University, Professor Kimmo KASKI
2018.11.10 神戸大学金融研究会／ 神戸大学社会システム イノベーションセンタ ー共催	中国の金融改革	日本銀行国際局 審議役 福本 智之
2018.11.12	人事評価の受容メカニズム	名古屋大学大学院経済学研究科 准教授 江夏 幾多郎
2018.11.19 六甲フォーラム／科研 基盤研究 (S)「グロー バル経済におけるリス クの経済分析～国際経 済学の視点から～」／科 研基盤研究 (A)「タイ ムゾーンとサービス・タ スク貿易理論の動学的 展開および経済成長へ の含意」共催 “One Belt One Road & U.S.- China Trade Disputes”	China’s Belt & Road Initiative: Geopolitics & Geoeconomics	School of Economics, Nankai University, Professor Bin SHENG
	GVC Embeddedness, Production Segmentation and Expansion of China’s Service Sector	School of Economics and Management, Southeast University, Professor Bin QIU
	Taxing Innovation for Sale?	同志社大学国際教育イン ステテュート 教授 Colin DAVIS
	Product Quality and Antidumping Filings	神戸大学経済経営研究所 教授 趙 来勳

※国際向けシンポジウム等欄掲載	“Belt & Road” Initiative and China’s Efficiency of Openness	Shanghai University of International Business & Economics, Professor Jianzhong HUANG
	A Network Analysis of the Asian Bond Market	法政大学理工学部 教授 宮越 龍義
	U.S.-China Trade Dispute & A Tripolar World Economic Order	Department of Economics, Tsinghua University, Professor Jiandong JU
2018.11.28 基盤研究 (S) 「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催	金融政策のトーン分析:日本銀行の政策説明とメディア報道	日本銀行金融研究所 企画役補佐 風戸 正行
2018.12.1 六甲フォーラム/神戸大学社会システムイノベーションセンター/KUMiC セミナー共催	マイクロデータ分析を始める前に	神戸大学経済経営研究所 客員教授/総務省統計研究研修所 次長 佐藤 朋彦
2018.12.5 神戸大学金融研究会/科研基盤研究 (S) 「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催 “第15回 Modern Monetary Economics Summer Institute (MME SI) in Kobe”	The Great Disconnect: The Decoupling of Wage and Price Inflation in Japan	Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Stanford University, Professor 星 岳雄
2018.12.7 科研基盤研究 (C) 「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」/神戸大学金融研究会/国際金融研究部会共催 “Workshop on International Macroeconomics” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Incompleteness of Financial Markets	神戸大学経済経営研究所 教授 北野 重人
	Intra-temporal Substitution between Tradable and Nontradable Goods: An Implication for the Backus-Smith Puzzle	東北大学大学院経済学研究科 教授 永易 淳
	Does International Financial Integration Increase the Standard of Living in Africa : A Frontier Approach	Faculty of Economics and Management, Aix-Marseille University Professor Gilles DUFRENOT
2018.12.22 神戸大学金融研究会/神戸大学社会システムイノベーションセンター共催	市場取引型地域通貨のインプリケーション	立正大学 非常勤講師 歌代 哲也
		立正大学経済学部 教授 林 康史

	フィンテックと経済・金融・マクロ政策	日本銀行金融研究所 シニアリサーチフェロー／前日本銀行決済機構局長・元金融市場局長 山岡 浩巳
2019.1.11 サーチ理論研究会／挑戦的萌芽研究「新しい貨幣モデルの構築」共催 「神戸大学経済経営研究所 100 周年記念コンファレンス」 ※国内向けシンポジウム等欄掲載	A Search and Bargaining Model of the Nondegenerate Money Holdings Distribution	一橋大学社会科学高等研究院 特任講師 久保田 荘
	Equilibrium Indeterminacy in a Random Matching Model with Money: A Conjecture	大阪府立大学経済学研究科 教授 佐橋 義直
	Productivity Growth, Industry Location Patterns, and Labor Market Frictions	神戸大学大学院経済学研究科 准教授 橋本 賢一
	Understanding the Role of the Public Employment Agency	Department of Economics, Vrije Universiteit Amsterdam / Tinbergen Institute, Associate Professor 渡辺 誠
2019.1.26 六甲フォーラム／KUMiC セミナー／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催 「平成 30 年度 KUMiC ミクロデータ利用促進ワークショップ ～公的統計のミクロデータを用いた研究と二次的利用の概要～」	異なる家族形態における消費税負担率	同志社大学大学院経済学研究科 博士前期課程修了 三ツ川 静海
	Intra-family Time Allocation to Housework and Childcare	神戸大学大学院経済学研究科 博士課程後期課程 李 慧慧
	母子世帯の就労貧困:就業構造基本調査の匿名データを用いた貧困率の推計	神戸学院大学経済学部 准教授 田宮 遊子
2019.1.30 六甲台セオリーセミナー共催	Job Matching under Constraints	南京審計大学社会与経済研究院 教授 孫 寧
2019.2.23 Centers for International Projects Trust (CIPT) / 基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/インド社会科学者研究協議会 (ICSSR) -日本学術振興会 (JSPS) 二国間交流事業 共同研究・セミナー/国際交流基金ニューデリー共催 “The 12th Indo-Japanese Dialogue at the Japan Foundation New Delhi” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Enhancing Farmers Income in Punjab: Challenges and Options	Punjab Agricultural University, Professor R.S. SIDHU
	Economic Diversification of the Agricultural Households in India	神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
	Current Situation of Rural Households in Punjab: Initial Findings from a Large Survey	Centers for International Projects Trust, Director Kamal VATTA
	FDI and the Automotive Sector in India	愛知学院大学経済学部 講師 古田 学

2019.2.27	Theorization of Institutional Change in the Emergence of Disruptive Technology: Big Four Accounting Firms and AI Audit	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任准教授 後藤 将史
2019.3.19 科研基盤研究 (C) 「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」/国際金融研究部会共催 “Workshop on International Macroeconomics” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel	神戸大学経済経営研究所教授 北野 重人
	Financial Openness, Bank Capital Flows, and the Effectiveness of Macroprudential Policies	Wang Yanan Institute for Studies in Economics & School of Economics, Xiamen University, Assistant Professor Hao JIN
2019.4.5 六甲フォーラム/科研基盤研究 (A) 「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」 共催 “Workshop on Trade, Finance and Growth” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Partners in Debt: An Endogenous Nonlinear Analysis of Interaction of Public and Private Debt on Growth	School of Economics, Xiamen University, Associate Professor Qingliang FAN
	Unemployment in a Balassa-Samuelson Model with Heterogeneous Job Separations	中央大学経済学部准教授 吉見 太洋
	Regional and Multilateral Trade Agreements Revisited: Harmonization of National and Regional Standards	南山大学経済学部教授 賽多 康弘
	Estimating Short-run Inflation Dynamics with Disaggregated Data and Selected Instruments	School of Economics, Xiamen University Assistant Professor Dan LI
2019.4.12	Remaining Suburban Pink Ghetto: Gender Disparity in Automobility Among Hispanic Immigrants in the U.S.	神戸大学経済経営研究所准教授 松尾 美和
2019.4.13 科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生	Determinants of Success in the Automobile Industry in India: An Analysis of Foreign and Local Enterprise Data for 2000-2008	愛知学院大学経済学部講師 古田 学

産ネットワーク」／「南アジア地域研究」東大拠点(TINDAS) 共催		神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
		神戸大学社会システムイノベーションセンター 特命教授 大塚 啓二郎
2019.4.17 TJAR Workshop／科研基盤研究 (C)「短期主義・過度な経営者報酬問題への脳実験アプローチ－割引実験を中心に－」／澤村正鹿学術奨励基金共催	Predictive Analytics and the Manufacturing Employment Relationship: Plant Level Evidence from Census Data	Kenan-Flagler Business School, University of North Carolina Thomas W. Hudson, Jr./Deloitte L.L.P Distinguished Professor Mark H. LANG
2019.4.20 神戸大学金融研究会共催	生産性から見た日本経済	学習院大学経済学部 教授 宮川 努
2019.4.23 挑戦的研究 (萌芽)「人口減少時代の地域再生と空間経済学」共催	Effects of Reconstruction Works on Private Employment after a Natural Disaster: A Case in the Stricken Area of the Great East Japan Earthquake	関西学院大学総合政策学部 副学長・教授 長峯 純一
		関西学院大学総合政策学部 教授 亀田 啓悟
2019.5.16 六甲フォーラム／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」共催 “Workshop on Trade & Finance in the East Asia Time Zone” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Did Italian Banks Trade off Lending with Government Bond Purchases?	Department of Economics, The University of Molise Professor Alberto Franco POZZOLO
	Network Embedding in Trade Expansion	School of International Business, Southwest University of Finance & Economics Professor Jian LU
	Transition of Bank Lending under Multipolar Regulation	Institute of World Economics and Politics, Chinese Academy of Social Sciences Assistant Researcher Wanting XIONG

	Local Government Response to Trade Liberalization	Business School, Beijing Normal University Associate Professor Mi DAI
2019.5.22	Digital Transformation of HR in Cloud-based Solutions	Department of Business Administration, Technical University of Valencia Researcher Robert-Christian ZIEBELL
2019.5.22 神戸大学金融研究会／六甲フォーラム共催	金融システムレポート（2019年4月号）について	日本銀行金融機構局 金融システム調査課長 川本 卓司
2019.5.29 科研基盤研究（C）「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」／国際金融研究部会共催	Skill Premium and Preferential Policy: The Case of China	School of Economics and Management, Tsinghua University Professor Qing LIU
2019.6.3 神戸大学金融研究会／神戸大学社会システムイノベーションセンター／六甲フォーラム／金融システム研究部会共催	関西金融経済動向	日本銀行大阪支店 企画役／大阪支店営業課 調査グループ長 吉崎 康則
2019.6.12 “International Business Workshop” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Keynote speech: Some Approaches to Reduce the Rigor-relevance Gap in Management Research	Institute of Business Administration, Christian Albrechts-University zu Kiel Professor Joachim WOLF
	Management Research while Interacting with Business People: Experiences of a Japanese Academic Management Scholar	大阪市立大学大学院経営学研究科 教授 石井 真一
	A Structured Approach to Understand Product Distribution in the Digital Age	Institute of Business and Accounting, Kwansai Gakuin University / Entrepreneur Lecturer Jaffer HUSSAINEE
	Media Choice among Austrian and Japanese Employees. Evidence from a Japanese-European International Joint Venture	Graduate School of Business Administration, Kobe University Postdoctoral Research Fellow Lara MAKOWSKI-KOMURA

<p>2019.6.14 六甲フォーラム／ REEPS 共催</p>	<p>Energy Efficiency and Directed Technical Change: Implications for Climate Change Mitigation</p>	<p>Department of Economics, William College Assistant Professor Gregory CASEY</p>
<p>2019.6.20-22 神戸大学計算社会科学 研究センター主催、 六甲フォーラム共催 “CCSS School on Computational Social Science” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載</p>	<p>Fundamentals of Random Walks on Networks: Random Walks in One Dimension, Discrete- and Continuous-time Random Walks on Networks, Random Walks on Temporal Networks etc.</p>	<p>Department of Engineering Mathematics, University of Bristol Senior Lecturer 増田 直紀</p>
	<p>Applications of Random Walks on Networks: Various Algorithms to Mine Information from Network Data (e.g. community detection, respondent-driven sampling), Opinion Formation Dynamics on Networks Associated with Random Walks etc</p>	
	<p>Social Physics I: Data-driven Discovery of Social Connectome of Humans</p>	<p>Department of Computer Science, Aalto University School of Science Professor Kimmo KASKI</p>
	<p>Social Physics II: Human Activity Patterns</p>	
	<p>Defining and Finding Important Nodes in Networks</p>	<p>東京工業大学国際ハブグ ループ(WRHI) 特任教授 Petter HOLME</p>
	<p>Analyzing Empirical Temporal Networks</p>	
	<p>Contagion Processes: From Epidemic Models to Contact Processes Applied to Social Contagions</p>	<p>Department of Condensed Matter Physics, University of Zaragoza Associate Professor Jesus GOMEZ GARDENES</p>
	<p>Metapopulation Dynamics: Analyzing the Interplay between Contagion Processes and Mobility Patterns Applied to the Analysis of Segregation of Socioeconomic Classes</p>	

2019.6.24 金融システム研究部会 共催	A Political Economy Explanation of Zombie Firms among Japanese SME	Japanese Politics, Yale University, Postdoctoral Associate／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員准教授) Scott Arthur WILBUR
2019.6.28 神戸開発経済・経済史セミナー／六甲フォーラム共催	A First Escape from Poverty in Late Medieval Japan: Evidence from Urban Real Wages (1400-1914) (joint with Kyoji Fukao and Masanori Takashima)	Department of Social Sciences, University of Lyon, Professor／一橋大学経済研究所 招へい研究員 Jean-Pascal BASSINO
2019.7.6 科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」／南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) 共催	Weak Nexus Between Organised and Unorganised Sectors within India's Manufacturing Industry	専修大学経済学部 教授 内川 秀二
	Trade Wars between ASEAN, China and India	金沢大学人間社会研究域 経済学経営学系 准教授 加藤 篤行
	Technology, TFPG and Employment: A Panel Data Analysis	Institute of Economic Growth Professor Arup MITRA
2019.7.10	Transitioning from a Bank Towards an Equity Financing System in Japan: The Impact on Income Smoothing Practices over 40 Years	神戸大学経済経営研究所 講師 藤山 敬史
2019.7.16 神戸大学海事科学研究科附属国際海事研究センター／交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメントワークショップ」	The Congestion Relief Benefit of Public Transit: Evidence from Rome	School of Business and Economics, Vrije Universiteit Amsterdam Professor Jos van OMMEREN
2019.7.19 六甲フォーラム共催 「神戸大学マイクロデータセンター (KUMiC) ミクロデータ利用促進ワークショップ」	就業構造基本調査の概要	総務省統計局労働力人口統計室 課長補佐 須藤 英明
	Regional Employment and Artificial Intelligence in Japan	経済産業研究所 研究員 近藤 恵介

2019.7.19 六甲フォーラム／科研 基盤研究（A）「タイム ゾーンとサービス・タス ク貿易理論の動学的展 開および経済成長への 含意」共催	Trade War, External Shocks and Internal Risks: Theory, History and the Realities Faced by China	School of Economics, Zhejiang University Professor Wei ZHAO
2019.7.23 SESAMI プログラム 共催	Corruption, Local Knowledge, and Firm Productivity: Evidence from an Emerging Economy	NUS Business School, National University of Singapore Professor Ishtiaq P. MAHMOOD
2019.7.24 六甲台セオリーセミナ ー共催	Two-Stage Moral Behaviors: Some New Evidence from Lab Experiments	上海交通大学安泰経済管 理学院 教授／神戸大学 経済経営研究所 外国人 研究員（客員教授） 秦 向東
2019.7.26 神戸開発経済・経済史セ ミナー／六甲フォーラ ム共催	Product Innovation, Product Diversification, and Firm Growth: Evidence from Japan's Early Industrialization (joint with Atsushi Ohyama, Tetsuji Okazaki, and Chad Syverson)	Department of Economics, University of Maryland Professor Serguey BRAGUINSKY
	Labor Market Evolution in an Emerging Industry: Japanese Cotton Spinning Industry before 1900	Department of Economics, University of Maryland Ph.D. Student 原 朋弘
2019.7.27 神戸大学金融研究会 共催	Deposit Market Outcomes in a Dual Banking System: Exploring the Link Between City-Level Religiosity and Depositor Behaviour	Tokyo Office, Central Bank of the Republic of Turkey Representative Huseyin OZTURK
2019.8.3 科研基盤研究（A）「南 アジアの産業発展と日 系企業のグローバル生 産ネットワーク」／南ア ジア地域研究東京大学 拠点（TINDAS）共催	ヒンドゥー教徒相続法改正とインド女性の教育	神戸大学大学院経済学研 究科 博士後期課程 山本 明日香
	インド西ベンガル州コルカタの縫製産業－2018年11月予備調査 からの考察	茨城大学人文社会学部 准教授 長田 華子
	インドの有業者統計（1881-2011）について	日本南アジア学会 宇佐美 好文

2019.8.9 SESAMI プログラム/ 交通政策研究部会 共催 「神戸交通マネジメン トワークショップ」	Assessing the Efficiency of Railway Maintenance with Heterogeneous Maintenance Units: The Case of France	Institute for Transport Studies, University of Leeds Professor Andrew SMITH
2019.8.22 神戸大学海事科学研究科附属国際海事研究センター/交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメン トワークショップ」	Perception towards Electric Vehicles and its Impact on Consumers' Preference	School of Engineering and Information Technology, The University of New South Wales Lecturer Milad GHASRI
2019.8.26 神戸大学金融研究会/ 金融システム研究部会 共催	韓国の地域金融の現状	School of Business, Inha University, Professor/神戸大学経済経営研究所 外国人研究員(客員教授) MinHwan LEE
2019.9.5	How Much Does KIBS Contributes to Innovative Performance of Manufacturing Firms in China?: An Empirical Study Based on Production-based Knowledge Flows	School of Economics, Zhejiang Gongshang University, Associate Professor/神戸大学経済経営研究所 招聘外国人研究者 Ting ZHAO
2019.9.11 一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター/六甲フォーラム共催 「神戸大学マイクロデータセンター (KUMiC) マイクロデータ利用促進ワークショップ」 ※国内向けシンポジウム等欄掲載	神戸大学マイクロデータセンターの取り組み	神戸大学大学院経済学研究科 准教授 勇上 和史
	ICPSR の活用 : ICPSR Summer Program 2019 の経験から	神戸大学法学研究科 博士前期課程 周 源
	サーバー型オンサイトを利用したデータヘルス研究について	神戸大学大学院経済学研究科 博士後期課程 野口 理子
	改正統計法とオンサイト利用の概要	(独) 統計センター統計データ利活用センター 課長代理 佐藤 昭紀
	一橋大学経済研究所の取り組み	一橋大学経済研究所 准教授 田中 雅行

<p>2019.9.28          科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」 / 南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) / 科研基盤研究 (B) 「経済発展政策の政治経済学的分析: 理論モデル分析とインドにおける実証研究」 / 科研基盤研究 (B) 「南アジアのコネクティビティとインド-越境インフラを巡る政治と経済」 共催          “Seminar on the Political Economic Issues in South Asia”          ※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>The China Pakistan Economic Corridor (CPEC): The Economic Impact on Pakistan</p>	<p>Oxford School of Global and Area Studies,          University of Oxford          Professor          Matthew McCARTNEY</p>
	<p>Elite Politics vs. Mass Politics: Electricity Tariffs in India</p>	<p>早稲田大学大学院アジア太平洋研究科          教授          加藤 篤史</p>
	<p>Electricity and Agricultural Development in Punjab</p>	<p>兵庫県立大学国際商経学部          准教授          福味 敦</p>
	<p>Social and Economic Changes in a Punjab Village: A Long-Term Perspective</p>	<p>神戸大学経済経営研究所          教授          佐藤 隆広</p>
<p>2019.10.7          神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念事業 / 六甲フォーラム / 科研基盤研究 (A) 「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」 / 科研基盤研究 (B) 「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」 / 科研基盤研究 (B) 「中国一帯一路政策とアジア債券市場構想の政策的親和性: 国際公共財・ネットワーク理論」 / 科研基盤研究 (C) 「金融ネットワークにおけるセンターの理論・実証・政策: 破綻連鎖とネットワーク管理」 共催          “Workshop on Migration, Employment &amp; Finance”          ※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>Robots and Industrial Employment: Evidence from Japan</p>	<p>Department of Economics,          University of Southern California          Professor          Robert DEKLE</p>
	<p>Supervision Intensity, Incentives and Policy Burden</p>	<p>Institute of New Structural Economics, Peking University          Associate Professor          Jianye YAN</p>
	<p>Who is the Center of Local Currency Asian Government Bond Markets?</p>	<p>東北大学経済学研究科          名誉教授          佃 良彦</p>
	<p>Climate Risk and Catastrophe Bond Prices</p>	<p>Providence University,          President / Institute of Finance, National Chiao Tung University          Professor          Min-Teh YU</p>
	<p>A Simple Model of the Hukou System and Chinese Exports</p>	<p>神戸大学経済経営研究所          教授          趙 来勳</p>

	Selective Migration and Agricultural Productivity Gap: Evidence from China	Department of Economics, University of Toronto Professor Xiaodong ZHU
2019.10.11 神戸大学経済経営研究所創立100周年記念事業／RIEBセミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究(A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」／科研基盤研究(B)「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」共催 “Workshop on Trade, Innovation & Global Value Chains” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Trade and Innovation: the Role of Scale and Competition Effects	北京大学国家発展研究院 教授 Miaojie YU
	Estimating the Spatial and Network Sample Selection Model for Panel Data	Department of Management, Technology and Economics, KOF Swiss Economic Institute Professor Peter EGGER
	Global Value Chains and Aggregate Income Volatility	東京大学大学院経済学研究科 教授 古澤 泰治
	Tax Havens and Cross-border Licensing	一橋大学大学院経済学研究科 教授 石川 城太
2019.10.14 科研基盤研究(S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」共催 経済経営研究所創立100周年記念事業 “International Conference on Economics and Finance: Celebrating Prof. Jean-Michel Grandmont's 80th Birthday” ※国際向けシンポジウム等欄掲載	Cryptocurrencies for the Poor: Technical Potential Versus Practical Reality	Bryan School of Business and Economics, The University of North Carolina at Greensboro Professor Nir KSHETRI
	International Outsourcing, Urban-rural Migration, Income Equality and Welfare	Chu Hai College of Higher Education Hong Kong Vice President (Research) / Chair Professor of Economics Eden Siu Hung YU
	Dynamics of Entry and Exit: Industry-wide Learning and Endogenous Heterogeneity	Department of Economics, Southern Methodist University Professor and Department Chair / University Distinguished Professor Santanu ROY

	Optimal Growth, Bequests and Competitive Equilibrium Cycles in Two-sector OLG Models	Groupement de Recherche en Economie Quantitative d'Aix Marseille (GREQAM), Research Director / Accounting, Law, Finance and Economics Department, EDHEC Business School, Professor Alain VENDITTI
	Flying or Trapped?	神戸大学経済経営研究所 特命教授 西村 和雄
	The Ragged Edges of Early-modern Japan	Department of History, University of Illinois Professor Emeritus Ronald P. TOBY
	Economic Foundations of Quantitative Easing	Department of Economics, Yale University, Tuntex Emeritus Professor of Economic / 内閣官房参与 / 東京大学 名誉教授 浜田 宏一
	Behavioral Heterogeneity: Pareto Distributions of Preference or Risk Perception Scales and Aggregate Financial Choices	CNRS and CREST-INSEE, Paris, Senior Research Director / University Cà Foscari Venice, Professor / Corps des Ponts et Chaussées École Nationale des Ponts et Chaussées, Ingénieur Général Jean-Michel GRANDMONT
2019.10.31 TJAR Workshop 共催	The Effect of International Takeover Laws on Corporate Resource Adjustments: Market Discipline and/or Managerial Myopia?	School of Business, Hong Kong Baptist University Associate Professor / 神戸大学経済経営研究所 招聘外国人研究者 Bingbing HU
2019.11.12 交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメント ワークショップ」	需要予測：交通と他分野の比較を通じた考察	神戸大学大学院経営学研究科 教授 三古 展弘
2019.11.15-17 科研基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策の リスクマネジメント: 理論・実証・シミュレーション」 / 科研基盤研究	Characterizing the Dynamics of Financial Networks	神戸大学大学院経済学研究科 准教授 小林 照義

<p>(A) 「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」／六甲フォーラム／神戸大学六甲台後援会共催  “International Conference on Trade, Financial Integration and Macroeconomic Dynamics &amp; IEFS Japan 2019 Annual Meeting”  ※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	Menu Costs and the Volatility of Inflation	<p>東京大学大学院経済学研究科  教授  楡井 誠</p>
	Innovation, Growth, and Dynamic Gains from Trade	<p>Washington University in St. Louis/FRB of St. Louis / NBER  Professor  Ping WANG</p>
	Trade Wars, Technology and Productivity	<p>Aarhus University / UC, Santa Barbara / University of Iowa  Visiting Professor  Raymond RIEZMAN</p>
	Risk Aversion, Longevity, and Fertility in an Overlapping Generations Model	<p>大阪大学大学院経済学研究科  教授  二神 孝一</p>
	Trade, Growth, and International Transmission of Financial Shocks	<p>東京工業大学工学院  准教授  大土井 涼二</p>
	Optimal Income Taxation over the Life Cycle in a Mirrlees Model with Human Capital Investment	<p>Institute of Economics, Academia Sinica  Research Fellow  Been-Lon CHEN</p>
	Public Debt and Economic Growth with Financial Frictions	<p>同志社大学経済学部  教授  三野 和雄</p>
	Financial Destabilization	<p>関西学院大学経済学部  准教授  國枝 卓真</p>
	Marketization, Balanced-Budget Taxation and Economic (In) Stability	<p>Department of Economics, Chinese University of Hong Kong  Professor  Chong Kee YIP</p>

	Econometric Analysis of Monetary Policy at the Zero Lower Bound	日本銀行金融研究所 経済ファイナンス研究課 企画役 池田 大輔
	Human Capital, Industrial Dynamics and Economic Growth	Institute of New Structural Economics, Peking University Associate Professor Yong WANG
	Flying or Trapped?	神戸大学経済経営研究所 特命教授 西村 和雄
2019.11.25 交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメン トワークショップ」	「社会資本としての地域公共交通の計画方法論」構築に向けて	神戸大学大学院工学研究 科 教授 喜多 秀行
2019.11.26 六甲フォーラム／科研 基盤研究 (A)「タイム ゾーンとサービス・タス ク貿易理論の動学的展 開および経済成長への 含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場 制度と貿易構造・貿易量 の関連に関する経済分 析」共催 “Workshop on Skills & Time Zones” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	Per Capita Income and the Demand for Skills	Department of Economics, University of Colorado at Boulder Professor James MARKUSEN
	State Capacity, Land Tax and Tax Evasion, London 1720 - 1725	Department of Economics, University of Colorado at Boulder Professor Ann CARLOS
2019.11.27 金融システム研究部会 ／科研挑戦的研究 (萌芽) 「高齢化社会にふさわ しい金融リテラシー の新しい尺度構築の挑 戦的な試み」／神戸大学 金融研究会共催	第二回 金融リテラシー調査について	金融広報中央委員会事務 局長 (日本銀行情報サー ビス局長) 中川 忍
2019.12.4 交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメン トワークショップ」	Organizational Coordination to Reduce Misalignment among Fragmented Business Units: A Case of Railway Industry	神戸大学大学院経営学研 究科 准教授 中村 絵理

<p>2019.12.11-12 六甲フォーラム／神戸大学先端融合研究環／神戸大学社会システムイノベーションセンター／科研基盤研究 (A) 「データサイエンスのアプローチによる金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究」共催 “Three Lectures on Useful Concepts and Tools in Econometrics” ※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>Statistical inference: Classical vs. Bayesian approaches (Hypothesis testing vs. Model selection, Objective oriented inferences, Lindley's paradox)</p>	<p>Department of Economics, Seoul National University, Professor／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員教授) Keunkwan RYU</p>
	<p>Conditional independence assumption (CIA), matching vs. multiple regression, propensity score matching (PSM), difference in differences (DinD)</p>	
	<p>Observables vs. unobservables, instrumental variables (IV), treatment heterogeneity and LATE, regression discontinuity (RD)</p>	
<p>2019.12.13 科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」／南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) ／科研基盤研究 (C) 「マイクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向」共催</p>	<p>Job Involvement, Organizational Commitment, Professional Commitment, and Team Commitment: A Study of Generational Diversity in India</p>	<p>Human Resource Management, Indian Institute of Management (IIM) Lucknow Professor Ajay SINGH</p>
	<p>The Linkage of Competitiveness: Competitive Advantage of Maruti Suzuki</p>	<p>南山大学経営学部 准教授 上野 正樹</p>
	<p>Workers in the Auto Industry in India: A Fresh look at India's Periodic Labour Force Survey</p>	<p>神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広</p>
<p>2019.12.17 神戸大学金融研究会／六甲フォーラム共催</p>	<p>Price Elasticity of Demand for Reverse Mortgage in Korea (by Junseok Byun and Keunkwan Ryu)</p>	<p>Department of Economics, Seoul National University, Professor／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員教授) Keunkwan RYU</p>
<p>2019.12.21 神戸大学金融研究会 共催</p>	<p>金融史研究と地域公益－「戦後日本の地域金融 バンカーたちの挑戦」を編集して</p>	<p>麗澤大学経済学研究科 教授 佐藤 政則</p>
		<p>阪南大学経済学部 准教授 今城 徹</p>

	経済学：目的、現状、課題	甲南大学経済学部 特任教授 筒井 義郎
2019.12.23 TJAR Workshop 主催 ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	Capital Market-Based Accounting Research: Past, Present and Future	Department of Accountancy, City University of Hong Kong Professor Jeong Bon KIM
	Earnings Management and Stock Market Listing	東京経済大学経営学部 教授 Hyonok KIM
	Intraday Price Discovery Process to Earnings Announcements: Evidence from Japan	北九州市立大学経済学部 准教授 森脇 敏雄
2019.12.23 六甲フォーラム共催	The Health Effect of Air Pollution: Evidence from Power Plant Closing in Taiwan	Institute of Economics, Academia Sinica Professor Kamhon KAN
2019.12.24 科研基盤研究 (S)「包 括的な金融・財政政策の リスクマネジメント:理論・実証・シミュレーシ ョン」共催	Secondary Employment, Inflation, and Aggregate Demand in an Agent-based Model of the Japanese Macroeconomy	UTS Business School, University of Technology Sydney Senior Lecturer Corrado DI GIULMI
2020.1.6 神戸大学計算社会科学 研究センター主催、六甲 フォーラム/科研基盤 研究 (S)「包括的な金 融・財政政策のリスクマ ネジメント:理論・実 証・シミュレーション」 共催 “CCSS Workshop on Computational Social Science” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	A Software Framework for Parameter-space Exploration and its Application to Social Network Modeling	理化学研究所計算科学研 究センター 研究員 村瀬 洋介
	Emergence of Online Echo Chambers	名古屋大学大学院情報学 研究科 講師 笹原 和俊
	Diurnal Dynamics of Financial Systemic Risk	神戸大学大学院経済学研 究科 博士後期課程 Shaunette FERGUSON

	Understanding Human Behavior with Wearable Sensors, Web Science, and Location Data	Machine Learning Engineer Prospective Ph.D. Student 山下 宙元
	Analysis of Conflicts in Society Using 2-component Opinion Dynamics of Official Stance and Real Opinion	鳥取大学大学院工学研究科 教授 石井 晃
	Human Behavior in Collaborative Work: The Case of Peer-reviewing and Forecasting	University of Southern California, Viterbi School of Engineering Ph.D. Student 松井 暉
	Networks of Mass Manipulation: Detecting and Measuring Social Media Abuse	Department of Computer Science, University of Southern California Assistant Research Professor Emilio FERRARA
2020.1.29 神戸大学金融研究会／社会システムイノベーションセンター共催	チャイナ・イノベーションの実像と今後の展望	野村総合研究所 金融IT コンサルティング部 兼グローバル産業・経営研究室 上級コンサルタント 李 智慧
2020.1.30 神戸大学計算社会科学研究センター主催、六甲フォーラム／科研基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」／科研基盤研究 (B)「ネットワーク解析による金融市場の動的不安定性の解明」共催 “CCSS Workshop”	Multilayer Network Resilience Through Recovery Processes	Center for Complex Network Research, Northeastern University Postdoctoral Researcher Michael DANZIGER
2020.1.31 六甲フォーラム／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」共催 ”Workshop on Trade, Finance & Innovation”	Naked Exclusion under Exclusive-offer Competition: Experiment	大阪大学社会経済研究所 教授 松島 法明
	Public Security and Public Goods Provision	法政大学理工学部 教授 宮越 龍義

※国際向けシンポジウム 等欄掲載	Innovation for Sale	同志社大学国際教育イン ステイテュート 教授 Colin DAVIS
	Escaping from Distortion via Exporting	南開大学経済学院 教授 ／神戸大学経済経営研究 所 外国人研究員（客員 教授） Yongjin WANG
	The Feldstein-Horioka Puzzle after Forty Years	神戸大学経済経営研究所 教授 ホリオカ、チャールズ ユウジ
2020.1.31 交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメン トワークショップ」	Returns to Density of Regional Railroad Companies in Japan: A Hedonic Cost Function Approach	神戸大学大学院経済学研 究科 講師 北村 友宏
2020.2.8 科研基盤研究（A）「南 アジアの産業発展と日 系企業のグローバル生 産ネットワーク」／南ア ジア地域研究東京大学 拠点（TINDAS）共催	ベトナム中小製造企業の技術効率性の変化：ラーニングと技術進 歩	神戸大学大学院国際協力 研究科 博士後期課程 原口 華奈
	小規模零細企業への 2016 年廃貨の影響：デリー東部の事例より	一橋大学経済研究所 教授 黒崎 卓
	インドの経済発展、企業および地域などについて：工業化論は意 義を失ったか？	福岡大学商学部 教授 石上 悦朗
2020.2.18 六甲台セオリーセミナ ー共催	Core Convergence Theorems for Economies with Bads	明治大学政治経済学部 専任講師 井上 朋紀
2020.2.26 六甲フォーラム／科研 基盤研究（A）「タイム ゾーンとサービス・タス ク貿易理論の動学的展 開および経済成長への	The Bystander Effect and Private Provision of Public Goods	法政大学理工学部 教授 宮越 龍義

含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場 制度と貿易構造・貿易量 の関連に関する経済分 析」共催 “Workshop on Public Policies and Time Zones” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	VAT Tax Reform and Firm Markups	南開大学経済学院 教授 Dan SHENG
	Famine and Wealth Inequality: Evidence from China	Asian Growth Research Institute Research Assistant Professor Pramod SUR
	Why Distance Matters for Online Trade	南開大学経済学院 教授 ／神戸大学経済経営研究 所 外国人研究員（客員 教授） Yongjin WANG
	Replicator Dynamics of Welfare Stigma	北海道大学大学院経済学 研究科 教授 板谷 淳一
2020.2.28-3.1 神戸大学計算社会科学 研究センター主催 “CCSS School on Computational Social Science” ※国際向けシンポジウム 等欄掲載	Predicting Disruptive and Unexpected Political Events Like the Brexit and Trump Victories: Sociophysics Opens a New Path, Part 1	Institut d'Etudes Politiques de Paris Director of Research at CNRS Serge GALAM
	Predicting Disruptive and Unexpected Political Events Like the Brexit and Trump Victories: Sociophysics Opens a New Path, Part 2	
	Toward Representative Social Sensing: Addressing Inclusion Bias in Social Media Datasets	Oxford Internet Institute, the University of Oxford Senior Research Fellow/Co-Director of the Social Data Science MSc Programme Scott HALE
	Monitoring Health Misinformation: An Early-detection Methodology Using Word Embeddings and Semantic Change Methods	
Agent-based Modelling in Macroeconomics	UTS Business School, University of Technology Sydney Senior Lecturer Corrado DI GUILMI	

	Statistical Mechanics Representation of Agent-based Models	
2020.3.7 科研基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) 共催	インド女性の健康状態とヒンドゥー教徒相続法改正	神戸大学大学院経済学研究科 博士後期課程 山本 明日香
	The Production Subcontracting System of Major Underwear Brands and the Home-Based Workers: The Case of West Bengal, India	茨城大学人文社会学部 准教授 長田 華子
	Labor Market Flexibility and Inward Foreign Direct Investment	新潟県立大学国際産業経済研究センター 教授 鎌田 伊佐生

兼松セミナー

年月日	論 題	報 告 者
2018.5.11 神戸開発経済・経済史 セミナー/六甲フォー ラム共催	前近代日本の経済成長：超長期 GDP 推計の試み, 730-1874 年	東京大学社会科学研究所 日本学術振興会特別研究 員 PD 高島 正憲
2018.6.8 兼松フェロウシップ セミナー	Generalized Potentials, Value, and Core	東京理科大学経営学部 助教 中田 里志
	An Axiomatic Foundation of the Multiplicative Human Development Index	慶應義塾大学大学院経済 学研究科 博士後期課程 中村 祐太
2018.6.29 神戸開発経済・経済史 セミナー/六甲フォー ラム共催	The Effects of Electrification on Production and Distribution in the Coal Mining Industry: Evidence from Japan in the 1900s	東京大学社会科学研究所 講師 森本 真世
2018.7.14-15 南アジア地域研究東 京大学拠点 (TINDAS) /科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発 展と日系企業のグロ ーバル生産ネットワ ーク」共催	Business-Friendly Policy by Indian State Governments: A Political Economy Analysis	早稲田大学大学院アジア 太平洋研究科 教授 加藤 篤史
	Do People Respond to Monetary Incentive or Non-Monetary Incentive: Field Experimental Evidence from Energy Demands	大阪経済大学経済学部 准教授 岡島 成治
	IMF and India	Board of Revenue for Rajasthan and Chairman, Rajasthan Tax Board,

		Government of Rajasthan, India, Chairman V.Srinivas, IAS
2018.8.20 神戸大学金融研究会 共催	Sovereign Default Triggered by Incapability to Repay Debt under a Nonlinear Fiscal Policy Rule	日本銀行金融研究所 エコノミスト 岡地 迪尚
2018.8.21 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォー ラム共催	Seeds of American Industrialization: A New View From Economic Geography	一橋大学社会科学高等研 究院 特任講師 Stephen SUN
2019.1.8 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォー ラム共催	Publication Bias under Aggregation Frictions: Theory, Evidence, and a New Correction Method	Massachusetts Institute of Technology, Ph.D. Candidate ／東京大学 特任研究員 古川 知志雄
2019.1.31 “International Business Workshop” ※国際シンポジウム等欄 掲載	基調講演：Springing from Where? How Emerging Market Firms Become Multinational Enterprises	Tilburg University, Emeritus Professor of International Management and Extramural Fellow of the Center for Research in Economics and Business / DIG, Politecnico di Milano, Visiting Professor ／神戸大学経済経営研究 所 客員教授 Jean-Francois HENNART
	Global Linking Beyond Lean: A Case of New Product Development at Toyota Technical Center in the US	大阪市立大学大学院経営 学研究科 教授 石井 真一
	Liability or Asset? Multifaceted Bridging Functions in MNCs: An Empirical Study of Japanese Foreign Subsidiaries	大阪大学大学院経済学研 究科 博士課程後期課程 Ting LIU
	How Inpatriates Internalize Corporate Values in a Multinational Company's Headquarters	京都大学経営管理大学院 教授 関口 倫紀
2019.2.1 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォー ラム共催	Economic Decision-making, Judgment, and Destructive Behavior Under Thermal Stress	大阪大学大学院国際公共 政策研究科 講師 北村 周平
2019.3.7 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォー ラム共催	Meritocracy and Its Discontents: Evidence from School Admissions in Imperial Japan	一橋大学経済研究所 教授 森口 千晶
2019.3.9 “The Indo-Japanese Dialogue on the Issues of the Indian Economic Growth” ※国際シンポジウム等欄 掲載	Informal Sector and Economic Development	School of Management and Languages, Heriot-Watt University, Associate Professor Prabir BHATTACHARYA
	Economic Diversification of the Agricultural Households in India	神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤 隆広
	Indo-Japan Trade and Investment: Direction and Dimension	Indian Institute of Technology Patna, Associate Professor Nalin BHARTI

	Industrialization in Colonial India : Comparative Perspective with Imperial Japan's Experience	大阪市立大学大学院文学研究科 准教授 野村 親義
2019.3.10 基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」／「南アジア地域研究」東大拠点 (TINDAS) 共催 「上池あつ子『模倣と革新のインド製菓産業史』を読む」	基調報告	神戸大学経済経営研究所 学術研究員 上池 あつ子
2019.3.23 神戸大学金融研究会／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催 ※国内シンポジウム等欄掲載	現代のマクロ金融研究：課題と展望	東京大学大学院経済学研究科 教授 宮尾 龍蔵
	アメリカの金融政策運営に関する長期的な考察	神戸大学大学院経済学研究科 教授 地主 敏樹
2019.6.6 兼松フェロウシップセミナー	Double Implementation in Dominant Strategy Equilibria and Ex Post Equilibria with Private Values	東京工業大学大学院工學院・経営工学系研究科 博士課程 萩原 誠
	Welfare-Improving Asymmetric Information in an Endogenous Timing Game of Tax Competition	東京大学大学院経済学研究科 博士課程 濱田 高彰
	不正会計開示によって引き起こされる経済的帰結の実証分析	大阪市立大学大学院経営学研究科 講師 尾関 規正
2019.6.11 神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター／交通政策研究部会共催 「神戸交通マネジメントワークショップ」	デジタルデータを用いたトラックの運行挙動の分析	神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター 准教授 秋田 直也
	「交通」という言葉の意味について考える	香川大学 名誉教授 井原 健雄
2019.6.25	「世界半導体企業の収益性に関する実証分析ーなぜ日本半導体産業は衰退したかー」1991年～2018年の世界主要半導体企業99社のパネルデータ分析より	大阪大学大学院経済学研究科 客員研究員 中屋 雅夫
2019.6.29 神戸大学金融研究会共催	高齢化社会と家計の金融経済行動:マクロ的背景とミクロ的インプリケーション	一橋大学経済研究所 教授 祝迫 得夫

2019.7.10 金融システム研究部 会／基盤研究(B)「地域 の期待に応える地域 金融モデルの構築－ 災害耐性、人口減少、 フィンテック」共催	中小企業のオフショアリングー東海地域の製造業中小企業と ICT 基盤役務の国際展開に注目してー	浙江越秀外国語学院東方 言語学院 特任教授 平川 均
2019.7.17 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォ ーラム共催	The Deep Roots of Inequality	一橋大学社会科学高等研 究院 研究員 公文 讓
2019.7.20 南アジア地域研究京 都大学拠点 (KINDAS) ／南アジア地域研究 広島大学拠点 (HINDAS)／南アジ ア地域研究東京大学 拠点 (TINDAS) 共催	国際貿易と途上国経済：国際繊維・アパレルサプライチェー ンにおけるバングラデシュ繊維・縫製産業の発展段階	東洋大学経済学部 助教 深澤 光樹
	インド・デリーにおける縫製工の移動型熟練形成	国際ファッション専門職 大学国際ファッション学 部 専任講師 川中 薫
	ミャンマー縫製業の成長と国際分業構造：南アジアとの比較 に向けて	九州大学経済学研究院 准教授 水野 敦子
2019.9.9	日本女子大学の創立をめぐってー大阪設置案から東京設置 案へー	日本女子大学 名誉教授 吉良 芳恵
2019.10.11 神戸開発経済・経済史 セミナー／六甲フォ ーラム共催	歴史人口ビッグデータの構築：課題と可能性	麗澤大学外国語学部 教授 黒須 里美
2019.11.30 神戸大学金融研究会 共催	Stock Lending Market and the BOJ's ETF Purchasing Program: Micro-Evidence from ETF Balance Sheet Data and Equity Repo Trading Data (with Kou Maeda)	早稲田大学国際教養学部 講師 篠 潤之介

### ラテンアメリカ・セミナー

年月日	論 題	報 告 者
2018.2.19 「ラテンアメリカ所 得格差論」 ラテンアメリカ政治 経済研究部会／科研 基盤研究 (B)「ラテン アメリカ発展停滞の パズル」研究会／科研 若手研究 (B)「ラテン アメリカにおけるバ	ラテンアメリカにおける所得分配と社会変動	神戸大学経済経営研究所 教授 浜口 伸明
	ラテンアメリカにおけるグローバル化と所得分配の関係	神戸大学経済経営研究所 助教 村上 善道
	ラテンアメリカにおける所得分配と社会政策	東京外国語大学世界言語 社会教育センター 特任 講師 内山 直子

<p>リチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」研究会共催 ※国内向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>格差社会ラテンアメリカにおける連帯経済</p>	<p>立命館大学経済学部 特任教授 小池 洋一</p>
	<p>メキシコの事例</p>	<p>二松学舎大学国際政治経済学部 准教授 映川 可央子</p>
	<p>ブラジルにおける経済発展と所得分配</p>	<p>龍谷大学国際学部 講師 河合 沙織</p>
<p>2018.3.19 「ラテンアメリカにおけるグローバリゼーションと民主化の課題と現状」ラテンアメリカ政治経済研究部会／科研基盤研究 (B)「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」／科研若手研究 (B)「ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」共催 ※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>Populism and Democratic Hybridization in Latin America: Comparing Venezuela and Argentina</p>	<p>トルクアト・ディ・テラ大学国際関係学部 教授 Enrique PERUZZOTTI</p>
	<p>De-consolidating Democracy in Latin America</p>	<p>早稲田大学政治経済学術院 准教授 高橋 百合子</p>
	<p>Trade and Structural Change in Mexico</p>	<p>ECLAC メキシコ副本部 貿易産業部 課長 Jorge Mario MARTINEZ PIVA</p>
	<p>Globalization and Inequality in Latin America: What We Know So Far and What We Should Study Further?</p>	<p>神戸大学経済経営研究所 助教 村上 善道</p>
<p>2018.6.25 RIEB セミナー／ラテンアメリカ政治経済研究部会／神戸開発経済・経済史セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (B)「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」共催</p>	<p>The Violent Consequences of Trade-Induced Worker Displacement in Mexico</p>	<p>Centro de Investigación Económica, Instituto Tecnológico Autónomo de México (ITAM), Assistant Professor 手島 健介</p>
<p>2018.11.22 ラテンアメリカ政治経済研究部会／科研基盤研究 (B)「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」共催</p>	<p>The Political Economy of Inequality: Development Challenges and Policy Options for Latin America</p>	<p>米州開発銀行 特別シニアアドバイザー／元アジア事務所 主席駐在員 Fausto MEDINA-LOPEZ</p>
<p>2019.3. 8 ラテンアメリカ政治経済研究部会／早稲田大学政治経済学術院／早稲田大学実証政治経済学拠点、現代政治経済研究所 主催 ラテンアメリカ・セミナー／科研基盤研究 (B)「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」共催</p>	<p>The 2016 Candle Light Protest and South Korean Democracy</p>	<p>Korea University, Professor Jai Kwan JUNG</p>
	<p>Liberalism and Democracy in Latin America: A Historical Perspective</p>	<p>Universidad Torcuato Di Tella, Professor Enrique Peruzzotti</p>
	<p>Democracy, Poverty, and Vote-Buying in Mexico</p>	<p>早稲田大学政治経済学術院 准教授 高橋 百合子</p>
	<p>Scapegoating in China: A Text-Mining Study on Diversionary Public Criticism during Public Health Incidents</p>	<p>Taiwan National University, Assistant Professor Chelsea Chia-Chen CHOU</p>

<p>“International Symposium on Political and Economic Factors Shaping Latin America in the Next Decade -Argentina, Brazil, Mexico and Comparison with East Asia-”</p> <p>※国際向けシンポジウム等欄掲載</p>	<p>The New Populism and Executive-Legislative Relations in Latin America: Empirical Evidence from the Case of Bolsonaro</p>	<p>Federal University of Pernambuco, Professor Marcus André MELO</p>
	<p>Voters of Bolsonaro: Some Evidences from Municipal Data</p>	<p>神戸大学経済経営研究所 教授 浜口 伸明</p>
	<p>Japan and Mexico Strategic Economic Partners. The Automotive Sector and CPTPP</p>	<p>龍谷大学国際学部 講師 河合 沙織</p>
	<p>TPP11(CPTPP): Its Implications for Japan-Latin America Trade Relations in Times of Uncertainty</p>	<p>University of Guadalajara, Professor Melba FALCK</p> <p>一般社団法人ラテンアメリカ協会 常務理事／神戸大学経済経営研究所 リサーチフェロー 桑山 幹夫</p>
<p>2020.3.11 ラテンアメリカ政治経済研究部会／科研若手研究 (B)「ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」共催</p>	<p>Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile</p>	<p>神戸大学経済経営研究所 助教 村上 善道</p>

## 国内向けシンポジウム等

日本南アジア学会 30 周年記念シンポジウム「ナレンドラ・モディ政権下のインド」  
(RIEBセミナー／基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催)

**開催日：** 2018 年 4 月 8 日

**会場：** 神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

### プログラム：

司会 小磯 学 (神戸山手大学 教授)・福味 敦 (兵庫県立大学 准教授)

タイムキーパー 小松 久恵 (追手門学院大学 講師)

- 13:00－13:10 開会の挨拶  
小磯 学 (神戸山手大学 教授)
- 13:10－14:00 「モディ政権下のインド経済」  
佐藤 隆広 (神戸大学 教授)
- 14:00－14:50 「モディ政治の4年間：新しいヒンドゥー至上主義」  
中溝 和弥 (京都大学 教授)
- 14:50－15:00 休憩
- 15:00－15:50 「現代インドのマルチワリー企業家による家族祭礼：故郷への社会貢献とコミュニティの実体化」  
田中 鉄也 (日本学術振興会 海外特別研究員)
- 15:50－16:40 「モディ外交：大国指向と日印関係の展望」  
堀本 武功 (岐阜女子大学 客員教授)
- 16:40－16:50 休憩
- 16:50－17:25 パネル討論
- 17:25－17:30 閉会の挨拶  
福味 敦 (兵庫県立大学 准教授)

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 20 回  
「企業価値を創造する「企業戦略変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2018 年 5 月 26 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:50-14:30 講演 1 小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

14:40-16:30 講演 2 八百 秀憲（株式会社ワンピース 専務取締役）

16:40-18:30 講演 3 矢倉 敏行（堺化学工業株式会社 経営企画部長）

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 21 回  
「企業価値を創造する「中小企業変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2018 年 7 月 21 日

**会場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

13:00-14:00 講演 1 堀口 悟史（堀口海運株式会社 代表取締役社長）

14:10-15:10 講演 2 南 常之（株式会社なんつね 代表取締役社長）

15:20-16:20 講演 3 吉田 直斗（吉田ピーナツ食品株式会社 代表取締役社長）

16:50-18:40 パネル・ディスカッション

公開シンポジウム「学びと創造性」  
（国際教育学会（ISE）／神戸大学社会システムイノベーションセンター／京都大学経済  
研究所／京都大学基礎物理学研究所／京都大学統合複雑系科学国際研究ユニット／同志  
社大学ライフリスク研究センター共催）

**開催日：** 2018 年 9 月 1 日

**会場：** 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールIII

**プログラム：**

第一部：「グローバル時代の教育」

12:30-12:45 倉田 紀子（公立諏訪東京理科大学）  
堀 眞由美（中央大学）

「多文化共生を背景とする国際教育に関する一考察：日本の自治体政策を例として」

12:45－13:00 村瀬 智子（日本赤十字豊田看護大学）  
「看護学における学びと創造性」

13:00－13:15 木全 ふみ子（星槎大学大学院）  
「多小脳回幼児の発達の可能性について」

第二部：「教育の意味を考える」

13:30－13:45 嵩倉 美帆（京都大学大学院）  
「これからの社会において必要な創造性とは－身体性に着目して」

13:45－14:00 花輪 由樹（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）  
「「遊びの都市」にみる「すまう」こと」

14:00－14:15 村瀬 雅俊（京都大学基礎物理学研究所、京都大学未来創成学国際研究  
ユニット、准教授）  
「大統一理論への挑戦－成功哲学、失敗科学、行動経済学、自己・非自己循環原理を踏まえて－」

第三部：「創造的問題解決とは何か」

14:30－15:00 森 悠子（長岡京室内アンサンブル音楽監督）  
「雑音に隠れた響きを見つける」

15:00－15:30 阿部 建一（総合地球環境学研究所）  
「感性の人間学・共感の環境学：問題の解決に向けて」

15:45－17:00 パネル・ディスカッション：「何が想像を生むのか－創造的問題解決」  
モデレーター：大野 照文（三重県立博物館館長）  
パネリスト：柴田 一成（京都大学理学研究科附属天文台長）  
八木 匡（同志社大学）  
村瀬 雅俊（京都大学基礎物理学研究所）  
阿部 建一（総合地球環境学研究所）  
森 悠子（長岡京室内アンサンブル音楽監督）  
富田 直秀（京都大学大学院工学研究科）

神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム  
「幸せの計り方」

（神戸大学計算社会科学センター／神戸大学社会システムイノベーションセンター  
主催、神戸大学経済経営研究所／神戸大学大学院保健学研究科／神戸大学先端融合研究  
環プロジェクト「文理融合による『こころの生涯健康学』研究の創成」共催）

**開催日：** 2018 年 9 月 12 日

**会 場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム：**

- 13:30-14:00 開会挨拶  
武田 廣 (神戸大学長)  
開会趣旨  
上東 貴志 (神戸大学計算社会科学研究センター長)  
挨拶  
山崎 幸治 (神戸大学社会システムイノベーションセンター長)
- 14:00-15:30 講演 1「幸福とは何か」  
西村 和雄 (神戸大学社会システムイノベーションセンター 特命教授)  
講演 2「精神医学における幸福度」  
橋本 健志 (神戸大学保健学研究科 教授 (リハビリテーション科学領域  
脳機能・精神障害学分野))  
講演 3「原子力発電所事故が幸福度に与えた影響」  
広田 茂 (内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事官 (地域担当))
- 15:30-15:45 休憩
- 15:45-17:00 フリーディスカッション：「どうやって「幸せ」を計るべきか？」  
司会：上東 貴志 (神戸大学計算社会科学研究センター長)  
パネリスト：西村 和雄 (神戸大学社会システムイノベーションセンター  
特命教授)  
橋本 健志 (神戸大学保健学研究科 教授 (リハビリテーション  
科学領域 脳機能・精神障害学分野))  
広田 茂 (内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) 付参事  
官 (地域担当))  
朝山 くみ (フリーアナウンサー)  
ロギー 恵理子 (神戸大学経済経営研究所 助手)
- 17:00-17:20 フロアーからの参加
- 17:20-17:30 閉会挨拶  
濱口 伸明 (神戸大学経済経営研究所長)

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 22 回  
「企業価値を創造する「組織・人事変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2018 年 9 月 15 日

**会 場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

- モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)  
12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

- 12:50-13:50 講演1 林 薫 (阪神電気鉄道株式会社人事部 阪急阪神ビジネスアソシエイト ヒューマンリソース事業部 安全衛生・健康増進担当)
- 14:10-15:10 講演2 増山 郁男 (NTN 株式会社 人事部 企画グループ)
- 15:30-16:30 講演3 三和 昌樹 (共和薬品工業株式会社 人事総務室 執行役員)
- 17:00-18:30 パネル・ディスカッション

神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第8回  
「企業価値を創造する「組織・人事変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2018年10月20日

**会場：** 神戸大学東京六甲クラブ

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50-13:50 講演1 飯島 勝 (サントリーホールディングス株式会社 グローバル人事部 課長)

14:10-15:10 講演2 佐々木 弘明 (田辺三菱製薬株式会社 営業研修部 専門部長)

15:30-16:30 講演3 三浦 亮 (吉本興業株式会社 人事室 室長)

17:00-18:00 パネル・ディスカッション

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第23回  
「顧客価値・社会価値を創造する「医療法人の組織・オペレーション変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2018年11月17日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50-13:50 講演1 岩田 泰彦 (医療法人社団せんだん会 経営企画室長)

- 14:10-15:10 講演2 齋藤 守重 (医師 医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院  
会長)
- 15:30-16:30 講演3 藤井 良幸 (医師 医療法人良秀会 理事長)
- 17:00-18:30 パネル・ディスカッション

神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム  
「企業や地域の成長・活性化に貢献できる金融ビジネスに向けて」  
(神戸大学経済経営研究所主催、神戸大学社会システムイノベーションセンター/  
日本学術振興会・科学研究費補助金(16H02027)  
「地方創生を支える創業ファイナンスに関する研究」/神戸大学金融研究会共催)

**開催日：** 2018年12月6日

**会場：** ANAクラウンプラザホテル神戸 9階ローズマリー

**プログラム：**

- 14:00-14:05 開会挨拶  
濱口 伸明 (神戸大学経済経営研究所長)
- 14:05-15:15 「生産性の向上や成長に金融機関はいかに貢献できるか」  
星 岳雄 (スタンフォード大学 教授)
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-16:55 パネル・ディスカッション「創業・成長を金融面から支援するために」  
司会：柴本 昌彦 (神戸大学経済経営研究所 准教授)  
パネリスト：内田 浩史 (神戸大学大学院経営学研究科 教授)  
鳥野 隆司 (尼崎信用金庫 専務理事)  
星 岳雄 (スタンフォード大学 教授)  
山口 省藏 (前・日本銀行金融機構局金融高度化センター  
副センター長)  
家森 信善 (神戸大学経済経営研究所 教授)
- 16:55-17:00 閉会挨拶  
下村 研一 (神戸大学社会システムイノベーションセンター  
副センター長)
- 総合司会  
上山 仁恵 (名古屋学院大学 准教授/神戸大学経済経営研究所  
非常勤講師)

神戸大学経済経営研究所100周年記念コンファレンス  
(サーチ理論研究会/RIEBセミナー/挑戦的萌芽研究「新しい貨幣モデルの構築」共催)

**開催日：** 2019年1月11日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム：**

- 13:00-14:00 “A Search and Bargaining Model of the Nondegenerate Money Holdings Distribution”  
久保田 荘（一橋大学社会科学高等研究院）
- 14:00-15:00 “Equilibrium Indeterminacy in a Random Matching Model with Money: A Conjecture”  
佐橋 義直（大阪府立大学経済学研究科）
- 15:00-15:20 休憩
- 15:20-16:20 “Productivity Growth, Industry Location Patterns, and Labor Market Frictions”  
橋本 賢一（神戸大学大学院経済学研究科）
- 16:20-17:20 “Understanding the Role of the Public Employment Agency”  
渡辺 誠（Department of Economics, Vrije Universiteit Amsterdam / Tinbergen Institute）

神戸MBA勉強会大阪シンポジウム第24回  
「事業価値を創造する「事業変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2019年1月26日

**会場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

- モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）
- 12:45-13:50 講演1 丸山 秀喜（シオノギデジタルサイエンス株式会社 代表取締役社長）
- 14:00-15:10 講演2 南 和明（塩野義製薬株式会社 事業開発部 事業企画グループ）
- 15:30-16:30 講演3 山田 泰貴（オリックス株式会社 大阪ヘルスケア事業部 事業部長）
- 16:50-18:30 パネル・ディスカッション

神戸MBA勉強会東京シンポジウム第9回  
「企業価値を創造する「企業変革」をどのように行うか」

**開催日：** 2019年2月2日

**会 場：** 神戸大学東京六甲クラブ

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-13:30 報告者：有田 喜一郎（群栄化学工業株式会社 代表取締役社長）

13:40-14:40 報告者：上野 泰生（株式会社図研プリサイト 代表取締役社長）

15:00-16:00 報告者：染谷 誓一（株式会社東京音協 代表取締役社長）

16:30-17:30 パネル・ディスカッション

経済経営研究所特別講義  
「組織の経済学のための契約理論」

**開催日：** 2019年2月6日・7日

**会 場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**講 師：** 伊藤 秀史（早稲田大学大学院経営管理研究科 教授）

**講義日程：**

2月6日（水）

13:20-14:50 第1回 エージェンシー理論

15:10-16:40 第2回 不完備契約と財産権理論

2月7日（木）

13:20-14:50 第3回 行動契約理論

15:10-16:40 第4回 残された課題

神戸MBA勉強会大阪シンポジウム第25回  
「事業価値を創造する「事業変革イノベーション」をどのように行うか

**開催日：** 2019年3月16日

**会 場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:50-13:50 講演1 三木 哲郎（株式会社JR西日本イノベーションズ リーダー）

- 14:00-15:00 講演2 湊 則男 (NS ウエスト株式会社 代表取締役社長)
- 15:20-16:20 講演3 宮尾 学 (神戸大学大学院経営学研究科 准教授)
- 16:40-18:00 パネル・ディスカッション

神戸大学金融研究会  
(兼松セミナー／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催)

**開催日：** 2019年3月23日

**会場：** ザ・マーカスクエア神戸 5階 ミッドタウン (イースト)

**プログラム：**

- 14:00-14:05 開会挨拶  
藤原 賢哉 (神戸大学大学院経営学研究科)
- 14:05-14:50 「現代のマクロ金融研究：課題と展望」  
宮尾 龍蔵 (東京大学大学院経済学研究科)
- 14:50-15:35 「アメリカの金融政策運営に関する長期的な考察」  
地主 敏樹 (神戸大学大学院経済学研究科)
- 15:35-15:50 休憩
- 15:50-16:55 パネル・ディスカッション  
司会： 藤原 賢哉 (神戸大学大学院経営学研究科)  
パネリスト： 石垣 健一 (神戸大学名誉教授)  
藤田 誠一 (神戸大学)  
地主 敏樹 (神戸大学)  
宮尾 龍蔵 (東京大学)
- 16:55-17:00 閉会挨拶  
家森 信善 (神戸大学経済経営研究所)

神戸MBA勉強会大阪シンポジウム第26回  
「企業価値を創造する「企業経営者リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019年5月11日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

- モデレーター： 小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

- 12:40-13:10 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 13:20-14:30 講演1 飯田 豊彦 (株式会社飯田 代表取締役社長)
- 14:40-15:40 講演2 伊澤 修 (株式会社ロック・フィールド 常務取締役)
- 16:10-17:20 講演3 静 俊二郎 (足立石灰工業株式会社 代表取締役社長)
- 17:30-18:30 パネル・ディスカッション

100周年記念特別セミナー サービスイノベーション人材育成ビデオ制作記念  
「新時代の6次産業化を考える」  
(神戸大学/先端融合研究環『歴史資料・企業資料のデータベース化、および画像テキストデータに基づく歴史・実証・分離融合研究』/未来世紀都市学研究ユニット/大学  
文書史料室/計算社会科学研究センター共催)

**開催日：** 2019年5月17日

**会場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム：**

- 14:00-14:10 開会挨拶  
伊藤 宗彦 (神戸大学経済経営研究 教授)
- 14:10-14:40 「地域ブランド形成についてー6次産業化の観点より」  
木村 純子 (法政大学経営学部市場経営学科 教授)
- 14:40-15:20 ハイビジョンビデオ上映「地域ブランド形成」
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:00 「日本のGI制度について」  
尾崎 道 (農林水産省食料産業局知的財産課 教授)
- 16:00-16:20 質疑応答
- 16:20-16:30 閉会挨拶  
濱口 伸明 (神戸大学経済経営研究所 所長)

100周年記念特別セミナー サービスイノベーション人材育成ビデオ制作記念  
「コーポレートガバナンスと企業経営：ファミリービジネスから見えてくるものは」  
(神戸大学/先端融合研究環『歴史資料・企業資料のデータベース化、および画像テキストデータに基づく歴史・実証・分離融合研究』/未来世紀都市学研究ユニット/大学  
文書史料室/計算社会科学研究センター共催)

**開催日：** 2019年5月21日

**会 場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム：**

- 14:00-14:10 開会挨拶  
伊藤 宗彦（神戸大学経済経営研究 教授）
- 14:10-14:40 「企業、市場、コーポレートガバナンス」  
西谷 公孝（神戸大学経済経営研究 教授）
- 14:40-15:20 ハイビジョンビデオ上映「企業と市場」
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:15 「優良企業の見極め方～取材から見えてくるもの」  
足立 真理（フリージャーナリスト／元テレビ東京「ワールドビジネスサテライト ディレクター・キャスター」）
- 16:15-16:35 質疑応答
- 16:35-16:40 閉会挨拶  
濱口 伸明（神戸大学経済経営研究所 所長）

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 27 回  
「企業価値を創造する「経営企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 6 月 8 日

**会 場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

- モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）
- 12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）
- 12:50-13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）
- 14:00-15:00 講演 1 辻 光英（IPCO 株式会社 代表取締役社長）
- 15:10-16:10 講演 2 渡邊 学（株式会社シグマクス 経営企画部長）
- 16:30-17:30 パネル・ディスカッション

神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第 10 回  
「企業価値を創造する「経営企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 6 月 22 日

**会 場：** 神戸大学東京六甲クラブ

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:40-14:10 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

14:20-15:50 ケース・ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

16:10-17:10 講演1 相澤 卓也（阪和興業株式会社 理事 秘書室兼経営企画担当  
経営企画部長）

17:20-18:00 パネル・ディスカッション

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 28 回  
「事業価値を創造する「事業企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 7 月 27 日

**会 場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:50-13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

14:00-15:00 講演1 福嶋 誠宣（京阪アセットマネジメント株式会社 代表取締役  
社長）

15:10-16:10 講演2 筆本 敏彰（田辺三菱製薬株式会社 製品戦略部）

出版記念シンポジウム「創発型責任経営 -新しいつながりの経営モデル-」  
（神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念事業／神戸大学社会システムイノベーション  
センター／法政大学イノベーション・マネジメント研究センター 共催）

**開催日：** 2019 年 7 月 26 日／2019 年 8 月 2 日

**会 場：** 法政大学市谷キャンパス／神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

**プログラム：**

司会： 北田 皓嗣（法政大学経営学部 准教授）  
西谷 公孝（神戸大学経済経営研究所 教授）

- 13:30-13:35 開会挨拶  
李 瑞雪（法政大学イノベーション・マネジメント研究センター 所長）  
國部 克彦（神戸大学 副学長／教授）
- 13:35-14:30 基調講演「責任が価値を生む経営」  
國部 克彦（神戸大学 副学長／教授）
- 14:30-15:15 招待講演：「オムロン株式会社の企業理念経営の実践」  
安藤 聡（オムロン株式会社 取締役）
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-17:30 企業事例報告とディスカッション  
(1) 「ブリヂストンの Our Way to Serve」  
北田 皓嗣（法政大学経営学部 准教授）  
(2) 丸井グループの手を挙げる組織づくり  
北田 皓嗣（法政大学経営学部 准教授）  
(3) ヤフーの課題解決エンジン  
安藤 光展（CSR コンサルタント）  
(4) 三菱重工業グループの「き・ず・な活動」  
西谷 公孝（神戸大学経済経営研究所 教授）

経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム  
「創業支援の"これから"を考える -信用保証制度改革と創業支援-」  
(神戸大学経済経営研究所／愛知県信用保証協会 主催)

**開催日：** 2019 年 8 月 21 日

**会場：** 愛知県信用保証協会本店

**プログラム：**

- 13:30-13:40 開会・主催者挨拶
- 13:40-13:50 研究成果『信用保証制度を活用した創業支援』の意義  
寺田 達史（日本信用情報機構 取締役常務執行役員  
元 東海財務局長）
- 13:50-14:50 基調講演「愛知県内の信用保証を利用した創業支援の現状と課題」  
家森 信善（神戸大学経済経営研究所 副所長／教授）
- 14:50-15:05 パネルディスカッション「金融機関の役割と女性が輝いて創業できる  
AICHI をめざして！」  
司会： 家森 信善（神戸大学経済経営研究所 副所長／教授）

パネリスト： 勝田 悦子 (K's kitchen 代表)  
水野 和郎 (瀬戸信用金庫 理事長)  
川村 美香 (からふる女性応援士隊 税理士)  
久保田 幸子 (愛知県信用保証協会 女性創業者支援  
チーム「アイリス」リーダー)  
岩田 佳樹 (愛知県信用保証協会ローカルベンチマーク  
策定支援チーム「アイビー」リーダー)  
山口 省蔵 (金融経営研究所 所長  
元 日本銀行金融機構局金融高度化センター  
副センター長)

16:55－ 閉会の挨拶

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 29 回  
「事業価値を創造する「事業開発職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 8 月 31 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30－12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50－13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

14:00－15:00 講演 1 今城 偉賀 (関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業戦略室  
事業開発第二グループ 担当部長)

15:10－16:10 講演 2 中塚 紋太 (パナソニック株式会社 アプライアンス社 スマート  
ライフネットワーク事業部イメージング BU 経営企  
画部事業戦略課 課長/事業開発室 室長)

経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム  
「神戸高商のグローバル人材育成とキャリア支援～水島鍊也校長の推薦書(1911-1918 年)  
から読み解く～」(神戸大学先端融合研究環「歴史資料・企業資料のデータベース化、及  
び画像・テキストデータに基づく歴史・実証・文理融合研究」プロジェクト/未来世紀  
都市学研究ユニット/大学文書史料室/計算社会科学センター共催)

**開催日：** 2019 年 9 月 6 日

**会場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム :**

- 13:30-13:40 開会挨拶  
武田 廣 (神戸大学長)
- 13:40-14:00 開会趣旨  
上東 貴志 (神戸大学計算社会科学研究所センター長)
- 14:00-14:30 講演1「水島鏡也校長推薦書：神戸高商卒業生の“志”と企業による人材確保との間で」  
石堂 詩乃 (神戸大学経済経営研究所 研究支援推進員)
- 14:30-15:00 講演2「神戸大学所蔵史料から見た神戸高商と鈴木商店」  
野邑 理栄子 (神戸大学大学文書史料室 室長補佐)
- 15:00-15:30 講演3「水島鏡也と渋沢栄一」  
井上 真由美 (高崎経済大学経済学部 准教授)
- 15:30-15:45 休憩
- 15:45-16:45 パネルディスカッション  
「グローバル人材育成とキャリア支援：神戸高商時代と今」  
司会： 上東 貴志 (神戸大学計算社会科学研究所センター長)  
パネリスト：石堂 詩乃 (神戸大学経済経営研究所 研究支援推進員)  
野邑 理栄子 (神戸大学大学文書史料室 室長補佐)  
井上 真由美 (高崎経済大学経済学部 准教授)  
飯塚 敦 (神戸大学都市安全研究センター 教授)
- 16:45-17:05 フロアからの参加
- 17:05-17:15 閉会挨拶  
濱口 伸明 (神戸大学経済経営研究所長)

神戸大学マイクロデータセンター (KUMiC) ミクロデータ利用促進ワークショップ  
(RIEB セミナー／一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター／六甲フォーラム 共催)

**開催日 :** 2019年9月11日

**会場 :** 神戸大学大学院経済学研究科 大会議室 (本館2階)

**プログラム :**

- 第一部：「神戸大学におけるマイクロデータ利用促進の取り組み」
- 講演1 「神戸大学マイクロデータセンターの取り組み」  
勇上 和史 (神戸大学経済額研究科 准教授)
- 講演2 「ICPSRの活用：ICPSR Summer Program 2019の経験から」  
周 源 (神戸大学法学研究科 博士課程前期課程)

講演3 「サーバー型オンサイトを利用したデータヘルス研究について」  
野口 理子（神戸大学大学院経済学研究科 博士課程後期課程）

第二部：「国および他大学における取り組み」

講演4 「改正統計法とオンサイト利用の概要」  
佐藤 昭紀（（独）統計センター統計データ利活用センター 課長代理）

講演5 「一橋大学経済研究所の取り組み」  
田中 雅行（一橋大学経済研究所 准教授）

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第30回  
「事業価値を創造する「営業職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019年9月28日

**会場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:50-13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

14:00-15:00 講演1 大瀬 宏治（資生堂ジャパン株式会社 コスメティックスブランド  
事業本部）

15:10-16:10 講演2 平井 努（麒麟ビール株式会社 東北統括本部東北流通支社  
支社長）

日本経済学会 2019年度秋季大会  
（神戸大学経済経営研究所共催）

**開催日：** 2019年10月13日  
（当初10月12日・13日の予定であったが、台風の影響により短縮）

**会場：** 神戸大学 六甲台第1キャンパス

**プログラム：**

**午前部 9:30-11:00**

◆企画セッション：「フィリップス・カーブは死んだのか？」（神戸大学経済経営研究所創立  
100周年記念事業共催）

会場：本館102

座長：本多 佑三（大阪学院大学）

“The Great Disconnect: The Decoupling of Wage and Price Inflation in Japan”

星 岳雄 (東京大学)  
討論者：黒田 祥子 (早稲田大学)  
塩路 悦朗 (一橋大学)  
白塚 重典 (慶応義塾大学)

◆企画セッション：「若手・女性支援特別セッション」

会場：本館 232

司会：中村 さやか (名古屋大学)

「いかにして英文雑誌に論文を掲載するか？」 大塚 啓二郎 (神戸大学)

「科研費：申請準備から採択まで」 竹内 幹 (一橋大学)

「国内のテック企業は若手経済学者の就職先になり得るか？」  
安井 翔太 (サイバーエージェント)

■English Session: Industrial Organization

Room: Main Building 208

Chair: Keizo Mizuno (Kwansei Gakuin University)

“On The Cash-Flow and Control Rights of Contingent Capital” Chris Mitchell (Osaka University)  
Discussant: Naoaki Minamihashi (Sophia University)

“China's export registration in the automobile industry: Effects on manufacturer-intermediary match efficiency”  
Xiaonan SUN (Asian Growth Research Institute)  
Discussant: Naoki Wakamori (University of Tokyo)

■ゲーム理論I

会場：本館 332

座長：渡辺 隆裕 (首都大学東京)

“Spatial Model Analysis and the Rational Choice Approach about Brinkmanship and Inadvertent War”  
山本 勝造 (関東学院大学)  
討論者：渡辺 隆裕 (首都大学東京)

“The Winner-Take-All Dilemma” 菊地 和也 (大阪大学) (J)  
郡山 幸雄 (CREST Ecole Polytechnique)  
討論者：三浦 慎太郎 (神奈川大学)

“Communication and Information Aggregation for a Trick Question Problem”  
永岡 成人 (神戸学院大学)  
多鹿 智哉 (北星学園大学)  
討論者：三浦 慎太郎 (神奈川大学)

■マクロ経済学III

会場：本館 230

座長：西山 慎一 (神戸大学)

“Forecasting Japanese inflation with a news-based leading indicator of economic activities”  
新谷 元嗣 (東京大学)・五島 圭一 (早稲田大学)  
石島 博 (中央大学)・山本 弘樹 (日本銀行)  
討論者：塩野 剛志 (クレディ・スイス証券)

“The Impacts of Strengthening Regulatory Surveillance on Bank Behavior in Microprudential Policy”  
小川 俊明 (日本銀行)・中島 清貴 (甲南大学)・井上 仁 (札幌学院大学)

討論者：中川 竜一（関西大学）

~~“A Bayesian Estimation of HANK models with Continuous Time Approach: Comparison between US and Japan”~~

~~飯星 博邦（首都大学東京）・蓮見 亮（武蔵大学）~~

~~討論者：西山 慎一（神戸大学）~~

■金融・マクロ

会場：本館 210

座長：敦賀 貴之（大阪大学）

“Negative Interest Rate Policy and the Influence of Macroeconomic News on Yields”

原 尚子（日本銀行）・Rasmus Fatum (University of Alberta)

Yohei Yamamoto (Hitotsubashi University)

討論者：小枝 淳子（財務省財務総合政策研究所）

“Elderly Care and Multiple Monies”

戸村 肇（早稲田大学）

討論者：神谷 和也（神戸大学）

~~“Menu Costs and Information Rigidity: Evidence from the Consumption Tax Hike in Japan”~~

~~庄司 俊章（成蹊大学）~~

~~討論者：敦賀 貴之（大阪大学）~~

■中国経済

会場：本館 212

座長：張 紅詠（経済産業研究所）

“Famine and Wealth Inequality: Evidence from China”

Pramod Kumar Sur（アジア成長研究所）・佐々木 勝（大阪大学）

討論者：張 紅詠（経済産業研究所）

「不完全な金融市場における賃金決定と固定資本投資について：中国経済のケース」

顧 濤（大東文化大学）

討論者：梶谷 懐（神戸大学）

“Depreciation Rate by Industrial Sector in China”

Junmin Wan（福岡大学） Qiqi Qiu（福岡大学）(J)

討論者：外本 好美（立正大学）

■教育・家計

会場：本館 310

座長：小塩 隆士（一橋大学）

“Do the learning opportunities provided by university experiences affect preference for redistribution?  
- The case of Japan”

浦川 邦夫（九州大学）

討論者：佐野 晋平（千葉大学）

「授業時間の効果」

二木 美苗（神戸大学）

討論者：田中 隆一（東京大学）

“Child Allowance Income Inequality and Human Capital Accumulation”

村田 慶（静岡大学）

討論者：中村 保（神戸大学）

■都市・交通

会場：第二学舎 163

座長：上山 仁恵（名古屋学院大学）

“The effect of deregulation of the ‘Act concerning the Industry Restriction’” 福井 紳也(神戸大学)  
討論者: 中嶋 亮(慶應義塾大学)

「東京一極集中と地方への移住促進」 近藤 恵介(経済産業研究所)  
討論者: 亀山 嘉大(佐賀大学)

“The Inheritance Tax and Household Mobility: An Exploration of Empty Nest Problem”  
瀬古 美喜(武蔵野大学)・隅田 和人(東洋大学)・吉田 二郎(ペンシルバニア州立大学)  
討論者: 上山 仁恵(名古屋学院大学)

■産業組織論・理論

会場: 第二学舎 161

座長: 佐々木 弾(東京大学)

“Output and Welfare Implications of Oligopolistic Third-Degree Price Discrimination”  
安達 貴教(名古屋大学)・ファビンガー ミハル(東京データサイエンス)  
討論者: 佐藤 進(東京大学)

“An impact of universal service obligation on privatization policy” 川崎 晃央(大分大学)  
討論者: 西森 晃(南山大学)

“Exclusive Contracts in Durable Goods Markets”  
北村 紘(京都産業大学)・松島 法明(大阪大学)・佐藤 美里(岡山大学)  
討論者: 紀國 洋(立命館大学)

◆ポスター報告 9:30-11:00

会場: フロンティア館 プレゼンテーションホール

※台風の影響で開催日時変更となった為、可能な方のみの報告となった

■ミクロ理論・数理経済

“On the Efficiency Concepts and Trade under Asymmetric Information”  
李 晨(京都大学)【梶井 厚志】

“A Core Limit Characterization for Allocations under General Equilibrium with Slack in Economies with Public Goods”  
村上 裕美(関西学院大学)(J)・浦井 憲(大阪大学)

“The Chip Strategies Approximate the Efficient Outcome with the Optimal Order”  
河原 健志(東京大学)【尾山 大輔】

■ゲーム理論

“A Nash folk theorem under an arbitrarily high observation cost”  
日野 喜文(Vietnam-Japan University)(J)

“Axiomatizations of coalition aggregation functions”  
阿部 貴晃(早稲田大学)(J)

「games with unawareness に於ける定常状態でない一般化ナッシュ均衡の意義に関する考察: 意思決定状況が変化した場合」

多田 由彦(中央大学)【瀧澤 弘和】・小林 憲正(東京工業大学)  
・佐々木 康朗(学習院大学)

“Multiple choice dynamics in games” 平 勇魚(京都大学)【梶井 厚志】

「複数キーワードオークションにおける均衡分析 — グルーピングが均衡にもたらす影響 —」  
中川 彩野(早稲田大学)【船木 由喜彦】

- “Ex ante stability in school choice under acceptant substitutable priorities”  
岩瀬 祐介 (東京大学) 【神取 道宏】
- 情報・契約の経済学  
“The Cost of Gaming in Quota Contract”  
難波 敏彦 (京都大学) (J)
- “Employee Referrals and Incentive Schemes” 石原 章史 (東京大学)・加藤 晋 (東京大学)
- 金融・ファイナンス  
“Cost of Soft Information and Lending Technology Choice” 神田 豊 (大阪大学) 【石黒 真吾】
- 産業組織  
“Two procurement auctions with capacity constraints” 野津 隆臣 (京都大学) 【関口 格】 (J)  
“Allocating Investments in Conglomerate Mergers: A Game Theory Approach”  
Herrera Velasquez Jose de Jesus (Kyoto University) 【Tadashi Sekiguchi】 (E)  
「ネットワーク効果下での広告効果の波及」 坂口 洋英 (慶應義塾大学) 【田中 辰雄】  
「外資企業の参入と日本の製造業の生産性 (都道府県別、事業所別、産業内スピルオーバーの分析)」  
渡邊 翔 (学習院大学) 【西村 淳一】  
“Quality Competition Location Choice and Privatization in Health Care Market”  
高原 豪 (関西学院大学)
- “Effective Leadership Selection in Complementary Teams”  
山田 麻以 (昭和女子大学) (J)・服部 圭介 (大阪経済大学)
- 公共経済・財政  
「財政競争への参加問題とトランスファー政策」 菊池 悠矢 (名古屋大学) 【玉井 寿樹】  
「寄付金控除 vs マッチング寄付：日本の寄付税制の行動経済学的実験研究」  
佐々木 周作 (京都大学) (J)・黒川 博文 (兵庫県立大学)・大竹 文雄 (大阪大学)
- 経済実験・行動経済学  
“Experimental Evidence: Leniency, Forgiveness, and Cognitive Ability in Infinitely Repeated Public Goods Game”  
Tse Tsz Kwan (Kyoto University) 【依田 高典】 (J) (E)  
Tetsuya Kawamura (Japan University of Economics)  
“An experimental study on two-sided matching under endogenous preference formation”  
島田 夏美 (筑波大学) 【栗野 盛光】 (J)  
“The Endowment Effect in the Future: How Time Shapes Buying and Selling Prices”  
Shohei Yamamoto (Universitat Pompeu Fabra) 【Daniel Navarro-Martinez】 (J)  
Daniel Navarro-Martinez (Universitat Pompeu Fabra)  
“An Experimental Study of Guilt Aversion in Group Decision Making”  
福富 雅夫 (京都大学)・三谷 羊平 (京都大学)  
“Unstructured Bargaining Experiment on Three-person Cooperative Games”  
篠田 太郎 (早稲田大学) 【船木 由喜彦】・船木 由喜彦 (早稲田大学)
- 医療経済  
“Does the Introduction of Oral Chemotherapy Drug Parity Laws Influence Health Outcomes Among Cancer Patients?”  
Yichen Shen (Waseda University) 【Noguchi Haruko】 (E)・Noguchi Haruko (Waseda University)

■教育・家計

“How Does the Natural Disaster Affect the Maternal Labor Force Participation and Children's Outcomes?”

金子 周平 (早稲田大学) 【野口 晴子】・野口 晴子 (早稲田大学)・富 蓉 (早稲田大学)

「専門職大学と従来の大学に関する基礎的考察」

石井 貴春 (ビジネス・ブレークスルー大学) (J)

■マクロ

“Developing New Dynamic Disequilibrium Models”

村舘 靖之(内閣府)

“On the Decline in the R&D Efficiency”

石川 貴幸 (一橋大学) 【塩路 悦朗】(J)・宮川 努 (学習院大学)

“Time-varying bank capital requirements with capital distribution constraints: A DSGE approach”

佐藤 嘉晃 (名古屋大学) 【清水 克俊】(J)

“The Formation of Inflation Expectations: Micro-data Evidence from Japan”

菊池 淳一 (横浜市立大学) 【中園 善行】(J)・中園 善行 (横浜市立大学)

“Dynamic Analysis of Trade Liberalization and Education Choice”

浅海 達也(神戸大学) 【胡 云芳】

“Pension, Retirement, and Growth in the Presence of Heterogeneous Eldery”

廣野 誠 (同志社大学) 【宮澤 和俊】(J)・三野 和雄 (同志社大学)

“Endogenizing wage profile: Estimating production function with imperfect aggregation of labor input”

井上 俊克(一橋大学) 【阿部 修人】

■財政金融政策

“Is there a role for house prices in the unconventional monetary policy transmission mechanism in Japan?”

仁智 諾布(東京大学) 【植田 健一】

「非伝統的金融政策が期間プレミアムに与える影響に関する実証分析」

工藤 健太(大阪大学) 【福田 祐一】

「中国の政府系金融機関に関する実証分析」

王 君 (青山学院大学) 【宮原 勝一】(J)

■国際金融

“Currency Swap Agreements and Financial Crises in Small Open Economies”

池田 晃彦 (京都先端科学大学)

■経済成長・発展

“Stepping Stone to Better Life? Internal Migration in Ethiopia: The Case of Production Workers in Cut Flower Industry”

Eun Jin Ryu (The University of Tokyo)(E)・Aya Suzuki (The University of Tokyo)

“The impact of religion and traditional practice on infectious disease: A case of Ebola in West Africa”

王 冬琴 (Osaka University) 【Hirokazu Ishise】(E)

■労働

「働く人々のメンタルヘルスに関する実証分析」

中野 あい(神戸大学)

“Could the Child Benefit Enhance Female Employment?: Evidence from the Re-Arrangement of Child Benefit Policy in Japan” 浅川 慎介 (大阪大学) 【佐々木 勝】・佐々木 勝 (大阪大学)

「日本における高齢者雇用促進策の評価—2013 年高年齢者雇用安定法改正の雇用促進効果の検証—」  
姜 茗予 (神戸大学) 【勇上 和史】

「障害者雇用促進法と企業における障害者雇用の決定」  
伊藤 翼 (東洋大学) 【川瀬 晃弘】・川瀬 晃弘 (東洋大学)・久米 功一 (東洋大学)

「最低賃金が全要素生産性に与える影響—日本の製造業を対象とした実証分析—」  
岩崎 雄也 (青山学院大学) 【宮原 勝一】

“The Effects of Academic Background on Wage and Productivity: Firm-level analysis”  
山口 晃 (一橋大学) 【深尾 京司】 (J)

“Moneyball Revisited: An Economic Evaluation of Performance and Wage in the Japanese Case”  
家舗 弘志 (横浜市立大学) 【中園 善行】 (J)・中園 善行 (横浜市立大学)

“Impact of agglomeration on job search: Evidence from Japanese microdata”  
東 雄大 (神戸大学) 【勇上 和史】 (J)

#### ■環境

“Pollution havens and agglomeration: The effect of globalisation on an international emissions permit price”  
濱口 喜広 (大阪成蹊大学) (J)

#### ■都市・地域・交通

“Congested Market and Economic Geography”  
相場 郁人 (東京大学) 【佐藤 泰裕】

「地域における社会資本の機能と役割—日本の公共図書館を対象とした実証分析—」  
岡安 麗奈 (青山学院大学) 【宮原 勝一】

#### ■社会保障・所得分配

“Quantitative Analysis of Industrial Structural Changes and Inequality: A Study on the Transition of Income Inequality in OECD Countries since 1970s”  
豊澤 圭 (神戸大学) 【衣笠 智子】・衣笠 智子 (神戸大学)

#### ★会長講演 11:10-12:10

会場：出光佐三記念講堂

座長：大竹 文雄 (大阪大学)

「パネル化した国勢調査から見えるもの」  
市村 英彦 (アリゾナ大学・東京大学)

#### 午後の部 13:00-14:30

◆企画セッション：パネル討論 (神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念事業共催)

会場：本館 102

座長：上東 貴志 (神戸大学)

「AI 時代の教育改革」

パネリスト：浜田 宏一 (イェール大学)・西村 和雄 (神戸大学)

川口 大司 (東京大学)・グレーヴァ 香子 (慶應義塾大学)

◆企画セッション：「米中貿易摩擦とその背景・影響」(内閣府)

会場：本館 232

座長：木村 福成 (慶應義塾大学)

「中国の輸出高度化と米中貿易摩擦」  
爲藤 里英子 (内閣府)

討論者：伊藤 恵子（中央大学）

「米中貿易摩擦の経済的帰結」

堤 雅彦（内閣府）

討論者：板倉 健（名古屋市立大学）

■English Session: “Asian Economy”

Room: Main Building 208

Chair: Takuji Kinkyo (Kobe University)

“Impact of the Proximity to the Delhi Metro on Work Participation of Female and Male”

Mai Seki (Ristumeikan University) • Eiji Yamada (JICA Research Institute)

Discussant: Mizuki Kawabata (Keio University)

“Do enterprise zones promote local business development? Evidence from Vietnam”

Tien Manh Vu (Asian Growth Research Institute) • Hiroyuki Yamada (Keio University)

Discussant: Lianming Zhu (Osaka University)

“Heterogeneous preferences for Micro Health Insurance in Cambodia: Discrete Choice Experiment”

Hiroki Wakamatsu (Japan Fisheries Research and Education Agency)

Seiichi Fukui (Osaka Sangyo University) • Nina Takashino (Tohoku University)

Kana Miwa (Kushiro Public University of Economics)

Discussant: Kenjiro Yagura (Hannan University)

■ゲーム理論II 会場：本館 332

座長：宮川 栄一（神戸大学）

“Non-altruistic equilibria”

大西 一弘（大阪大学）

討論者：宮川 栄一（神戸大学）

“Extension of the Equilibrium Payoff Set in 2-person OLG Games with Block Strategy Profiles”

（2人重複世代ゲームにおける均衡利得空間の拡大：期間ブロック戦略を用いた方法）

諸岡 千裕（東京大学）【松井 彰彦】(J)

討論者：関口 格（京都大学）

“The revelation principle in multistage games”

菅谷 拓生（スタンフォード大学）• Alexander Wolitzky (MIT)

討論者：末廣 英生（神戸大学）

■マクロ経済学IV 会場：本館 230

座長：後閑 洋一（立命館大学）

“Non Stationary Dynamics and Unequal Distribution in Kiyotaki-Moore Model: Theoretical Analysis”

加藤 寛之（嘉悦大学）

討論者：三野 和雄（同志社大学）

“Storage Costs and Birth of Rational Bubbles”

湯淺 史朗（一橋大学）（塩路悦朗）(J)

討論者：松岡 多利思（首都大学東京）

“Asset Bubbles, Financial Market Frictions, and Endogenous Cycles”

任 龍壠（日本学術振興会特別研究員（京都大学））• 橋本 賢一（神戸大学）

• 國枝 卓真（関西学院大学）• 柴田 章久（京都大学）

討論者：後閑 洋一（立命館大学）

■統計・計量II

会場：本館 210

座長：難波 明生（神戸大学）

「花き生産における全要素生産性ラチェット効果分析」

水野 勝之（明治大学）・井草 剛（松山大学）・土居 拓務（明治大学）  
討論者：新里 泰孝（富山大学）

~~「POSデータを用いた一般化合成財定理の検証——乳製品を対象とした計量経済分析——」~~

~~佐藤 秀保（一橋大学）（J）  
討論者：原 千秋（京都大学）~~

「機械学習手法を用いた不正会計の検知と予測」

宮川 大介（一橋大学）・宇宿 哲平（あずさ監査法人）・近藤 聡（あずさ監査法人）  
白木 研吾（あずさ監査法人）・菅 美希（KPMGLLP）  
討論者：渡邊 安虎（東京大学）

#### ■金融政策 会場：本館 212

座長：郡司 大志（大東文化大学）

“Real Effects of Negative Interest Rates: Micro-Evidence from Japan”

井上 仁（札幌学院大学）・中島 清貴（甲南大学）・高橋 耕史（日本銀行）  
討論者：郡司 大志（大東文化大学）

“Return of the Bond-Price Support Regime: Bank of Japan's Dual Bond-Purchase Program”

服部 孝洋（財務省）・吉田 二郎（ペンシルバニア州立大学）  
討論者：福田 祐一（大阪大学）

~~“Quantitative Easing's Spillover to EMEs and their response and outcome: using a New Dataset”~~

~~才木 あや子（日本大学）  
討論者：松林 洋一（神戸大学）~~

#### ■社会保障・医療経済

会場：本館 310

座長：両角 良子（富山大学）

「Motivated Agents の検証：日本の介護従事者のケース」

加藤 善昌（姫路獨協大学）  
討論者：野口 晴子（早稲田大学）

“Induced Physician-Induced Demand”

池上 慧（東京大学）・大西 健（Federal Reserve Board）・若森 直樹（東京大学）  
討論者：井深 陽子（慶應義塾大学）

「健康診断・レセプトデータを用いた血圧と医療費の関連に関する分析」

縄田 和満（東京大学）・松本 章邦（東京大学）・木村 もりよ（パブリックヘルス協議会）  
討論者：両角 良子（富山大学）

#### ■実験 II

会場：第二学舎 163

座長：小川 一仁（関西大学）

“Is Financial Literacy a Dangerous Thing?: Financial Literacy, Behavioral Factors, and Financial Choices of Households”

本西 泰三（関西大学）・小川 一仁（関西大学）  
川村 哲也（日本経済大学）・森 知晴（立命館大学）  
討論者：木成 勇介（甲南大学）

“Ambiguity aversion and framing effects in the insurance demand of ambiguous risks”

森 知晴 (立命館大学)・中元 康裕 (関西大学)・奥山 尚子 (大阪学院大学)  
討論者:尾崎 祐介 (早稲田大学)

「コンジョイント分析による再生可能エネルギー普及条件の計測」 木下 信 (龍谷大学)  
討論者:諏訪 竜夫 (山口大学)

#### ■労働II

会場:第二学舎 161

座長:宮本 大 (同志社大学)

“Abe's Womanomics Policy: Did it have Effect on the Closing of Gender Gap of Managers”

永瀬 伸子 (お茶の水女子大学)

討論者:大竹 文雄 (大阪大学)

“Mental Health Effects of Long Work Hours Night and Weekend Work and Quick Return”

佐藤 香織 (国士舘大学)・黒田 祥子 (早稲田大学)・大湾 秀雄 (早稲田大学)

討論者:山本 勲 (慶應義塾大学)

“Researchers' knowledge acquisition through personal networks and websites”

村上 由紀子 (早稲田大学)

討論者:宮本 大 (同志社大学)

#### ★特別報告 14:40-15:40

会場:本館 102

座長:小川 一夫 (関西外国語大学)

「日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？」

チャールズ・ユウジ・ホリオカ (神戸大学)

会場:本館 332

座長:千葉 早織 (京都大学)

「組織の構造と情報伝達」

堀 一三 (立命館大学)

会場:第二学舎 163

座長:佐野 晋平 (千葉大学)

「働き方改革の経済分析」

山本 勲 (慶應義塾大学)

#### ★パネル討論 14:40-16:10

「インフラと災害—上下水道サービスが止まらないために—」

会場:本館 102

座長:宇野 二郎 (横浜市立大学)

パネリスト:眞柄 泰基 (公益財団法人 給水工事技術振興財団)・跡田 直澄 (京都先端科学大学)・宮内 潔 (公益社団法人 日本水道協会)・奥野 聡文 (河内長野市)

「企業の中の経済学」

会場:本館 232

座長:大竹 文雄 (大阪大学)

パネリスト:松谷 恵 (ZOZO)・渡辺 安虎 (東京大学)・成田 悠輔 (イェール大学)・内藤貴仁 (サイバーエージェント)

★★日本経済学会 2019 年度秋季大会関連ポストイベント 16:20-17:25

神戸大学経済経営研究所主催創立 100 周年記念講演会

会場：出光佐三記念講堂

「社会シミュレーションとスーパーコンピューター」

伊藤 伸泰

(国立研究開発法人理化学研究所 R-CCS 離散事象シミュレーション研究チーム  
チームリーダー)

「量的緩和のマクロ経済学的基礎」

浜田 宏一

(イェール大学名誉教授・内閣官房参与)

\* 取り消し線のある報告は、台風の影響で実施されなかったものを示す。

\* 氏名の後の(J)は、ジョブセミナー報告であることを、氏名の後の括弧内【】は推薦者氏名を示す。

\* 氏名の後の(E)は、英語での発表を示す。

神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第 11 回  
「事業価値を創造する「事業企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 10 月 19 日

**会場：** 神戸大学東京六甲クラブ

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶

小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:40-14:10 レクチャー&ディスカッション 小島 健司

(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

14:20-15:50 ケース・ディスカッション 小島 健司

(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

16:10-17:10 講演 藤原 佳紀（三菱重工サーマルシステムズ株式会社 営業部  
主幹部員）

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 31 回  
「事業価値を創造する「B2B マーケティング職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 10 月 26 日

**会場：** 神戸大学梅田教室（インテリジェント・ラボラトリ）

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

12:50-13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
（神戸大学経済経営研究所 特命教授）

14:00-15:00 講演1 赤木 康介（アルマーク株式会社 執行役員／マーケティング部  
部長）

15:20-16:20 講演2 渡辺 亨（サンドビック株式会社 コロマントカンパニー）

経済経営研究所創立 100 周年記念連続シンポジウム  
「高齢社会の金融のあり方を考える～人生 100 年時代のファイナンシャル・プランニング～」  
（神戸大学経済経営研究所／日本ファイナンシャル・プランナーズ協会兵庫支部 主催  
神戸大学社会システムイノベーションセンター／JSPS 科学研究費補助金／二十一世紀  
文化学術財団 共催）

**開催日：** 2019 年 10 月 30 日

**会場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム：**

13:30-13:40 主催者挨拶

13:40-13:55 講演1「人生 100 年時代において解決を迫られる金融問題」  
家森 信善（神戸大学経済経営研究所 教授）

13:55-14:20 講演2「高齢社会における金融サービスの充実に向けた金融行政の取り  
組み」  
太田原 和房（金融庁企画市場局市場課長）

14:20-14:45 講演3「人生 100 年時代のファイナンシャルプランニング」  
有田 敬三（生活経済研究所・代表取締役／CFP®（ファイナンシャル・  
プランナー））

14:45-15:10 講演4「人生 100 年時代の資産管理のあり方」  
野村 亜紀子（野村資本市場研究所 研究部長）

15:10-15:30 休憩

15:30-16:50 パネルディスカッション

「人生 100 年時代に求められる信頼できる金融機関と助言者」

司会： 家森 信善（神戸大学経済経営研究所 教授）

パネリスト：阿南 雅哉（京都銀行 専務取締役）

有田 敬三（生活経済研究所・代表取締役／CFP®（ファイ  
ナンシャル・プランナー））

上山 仁恵 (名古屋学院大学 准教授/AFP 認定者 (ファイナンシャル・プランナー))

太田原 和房 (金融庁企画市場局市場課長)

野村 亜紀子 (野村資本市場研究所 研究部長)

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 32 回  
「事業価値を創造する「研究開発職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 11 月 30 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50-13:50 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

14:00-15:00 講演 1 廣地 克典 (ノバルティスファーマ株式会社 オンコロジーメ  
ディカル統括部 メディカルサイエンスリエゾン部  
グループマネージャー)

15:10-16:20 講演 2 山田 克樹 (カイゲンファーマ株式会社 常務取締役 製造部・  
商品企画部担当)

16:50-17:40 パネル・ディスカッション

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 33 回  
「事業価値を創造する「オペレーション職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2019 年 12 月 7 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50-13:50 講演 1 芦谷 武彦 (関西電力株式会社 送配電カンパニー 企画部  
担当部長 (新規事業))

14:10-15:10 講演 2 五十嵐 久人 (日本新薬株式会社 機能食品カンパニー営業  
企画部 管理業務課)

15:30-16:30 講演3 藤岡 昌則 (三菱日立パワーシステム株式会社 サービス本部  
高砂サービス部 主席技師)

「計算社会科学研究センター西村和雄教授《瑞宝重光章》受章記念講演会」  
(神戸大学計算社会科学センター主催、神戸大学経済経営研究所/社会システムイノベーションセンター共催)

**開催日：** 2020年1月9日

**会場：** 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂

**プログラム：**

司会： 朝山くみ (フリーアナウンサー)

16:00-16:05 開会の挨拶  
武田 廣 (神戸大学長)

16:05-16:10 挨拶  
山崎 幸治 (神戸大学社会システムイノベーションセンター長)

16:10-16:20 祝辞  
高橋 青天 (明治学院大学 名誉教授)

16:20-16:30 西村教授功績紹介  
上東 貴志 (神戸大学計算社会科学研究センター長)

16:30-17:15 記念講演  
「複雑系経済学：神戸大学とロチェスター大学から私が学んだこと」  
西村 和雄 (神戸大学計算社会科学センター 特命教授)

17:15-17:20 閉会の挨拶  
濱口 伸明 (神戸大学経済経営研究所長)

神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第12回  
「事業価値を創造する「営業職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2020年1月18日

**会場：** 神戸大学東京六甲クラブ

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:40 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:40-14:10 レクチャー&ディスカッション 小島 健司

(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

- 14:20-15:50 ケース・ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 16:10-17:10 講演 佐藤 安昭 (日本電気株式会社 第三金融ソリューション事業部  
事業部長代理)

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 34 回  
「企業価値を創造する「企業変革リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2020 年 1 月 30 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:30-12:50 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

12:50-15:00 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

ケース・ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)

15:20-17:50 パネル・ディスカッション  
パネリスト：吉川 将之 (パナソニック株式会社 モビリティ事業戦略室  
主幹)  
園田 晴彦 (株式会社パナソニックマーケティングスクール  
経営管理担当取締役)  
鳥山 幸一 (パナソニック株式会社 知的財産センター  
AIS 知財企画グループ 主事)  
林 保 (パナソニックセミコンダクターソリューションズ株  
式会社 半導体ビジネスユニット 品質保証センタ  
ー 品質保証部)

神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 35 回  
「企業価値を創造する「財務職リーダーシップ」はどうあるべきか」

**開催日：** 2020 年 2 月 15 日

**会場：** 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

**プログラム：**

モデレーター：小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)

- 12:30-12:50 挨拶  
小島 健司 (神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 12:50-14:20 レクチャー&ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 14:30-16:00 ケース・ディスカッション 小島 健司  
(神戸大学経済経営研究所 特命教授)
- 16:20-18:20 講演 荒木 陽子 (NTN 株式会社 財務本部 経営管理部 主事)

### 国際シンポジウム等

Environmental Accounting Seminar  
(RIEB セミナー／神戸大学大学院経営学研究科主催、環境研究総合推進費 (S-16) 共催)

**開催日：** 2018年4月12日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム：**

15:00-17:00 Jin Dong PARK (College of Business and Economics, Towson University)  
“Legitimizing Effect of Environmental (Climate-Change) Disclosure: The Role of Chief Sustainability Officers (CSOs)”

Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia  
(RIEB セミナー共催)

**開催日：** 2018年5月4日

**会場：** Heriot-Watt University

**プログラム：**

10:00-10:10 Opening Remarks: Prabir Bhattacharya (Heriot-Watt University)

10:10-10:55 Keynote Speech: Lord Meghnad Desai (Emeritus Professor, London School of Economics)

10:55-11:10 Speech on Behalf of the Japanese Scholars: Hideki Esho (Emeritus Professor, Hosei University)

Moderator: David Cobham (Heriot-Watt University)

11:10-11:40 Takahiro Sato (Kobe University)  
“FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries”

11:40-12:10 Kohei Mishima (Keio University)

- “The Source of Competitive Advantage of Indian Motorcycle Industry”
- 12:10–12:40 Atsuko Kamiike (Kobe University)  
“The TRIPs Agreement and Pharmaceutical Industry in India”
- 12:40–13:10 Hanako Nagata (Ibaraki University and London School of Economics)  
“Gender Issues in the Bangladeshi Garment Industry”
- 13:10–14:10 Free Discussion with Lunch
- Moderator: Tetsuya Tanaka (Japan Society for the Promotion of Science and University of London)
- 14:10–14:40 Manabu Furuta (Aichi Gakuin University)  
“Effects of Trade Liberalization on the Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector”
- 14:40–15:10 Paul Hare (Emeritus Professor, Heriot-Watt University)  
“How Far Does India's Future Growth Depend on Further Trade Liberalisation?”
- 15:10–15:40 Anne Miller (UK Citizen's Income Trust)  
“Citizen's Income in India: Results from Pilot Studies”
- 15:40–15:50 Break
- 15:50–16:20 P. B. Anand (University of Bradford)  
“Smart and Sustainable Cities: The Indian Approach and Challenges”
- 16:20–16:50 V. Saxena (University of St. Andrews)  
“Effect of Women's Agency and Economic Development on Sex Ratios in India: A District Level Analysis”
- 16:50–17:00 Closing Remarks and Vote for Thanks: Prabir Bhattacharya and Takahiro Sato

Organized by: Heriot-Watt University and RIEB, Kobe University

Sponsored by: Grant-in-Scientific Research (A) “Industrial Development in South Asia and Global Production Networks of the Japanese MNCs” (Grant No. 17H01652)

Supported by: The Center for South Asian Studies (TINDAS) at the University of Tokyo

Organizers: Prabir Bhattacharya and Takahiro Sato

RIEB Workshop on Economic Theory

(RIEB セミナー／基盤研究 (S) 「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」／基盤研究 (B) 「人的資本と経済成長」共催)

**開催日：** 2018年7月25日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム：**

15:30–16:45 “Regulating False Disclosure”

Santanu ROY (Department of Economics, Southern Methodist University, Professor／神戸大学経済経営研究所 外国人研究員 (客員教授))

17:00—18:15 “Investment in Time Preference and Long-run Distribution”  
林 貴志 (Adam Smith Business School, The University of Glasgow, Professor  
in Economics)

The 10th Indo-Japanese Dialogue on the Indian Socio-Economic Issues with Special Reference to  
the Japanese Perspectives

(JSPS Bilateral Joint Research Projects, Seminars／基盤研究 (A) 南アジアの産業発展と日  
系企業のグローバル生産ネットワーク／基盤研究 (B) 南アジアのコネクティビティとイ  
ンド-越境インフラを巡る政治と経済／基盤研究 (B) 経済発展政策の政治経済学的分析：  
理論モデル分析とインドにおける実証研究／基盤研究 (C) ミクロデータからみたインド  
の人口・労働・不平等の長期動向／RIEB セミナー共催)

**開催日：** 2018年9月4日・5日

**会場：** The Japan Foundation, New Delhi

**プログラム：**

4th September 2018

- 14:00—14:05 Welcome Speech  
Prof. Kamal Vatta (Centers for International Projects Trust (CIPT) and Punjab  
Agricultural University)
- 14:05—14:35 Keynote Speech  
Prof. Aditya Mukherjee (Jawaharlal Nehru University)

The First Day Session

Moderator: Dr. Shamshad Khan (University of Delhi)

- 14:35—15:15 Prof. Takahiro Sato (CIPT and Kobe University)  
“FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries”
- 15:15—15:55 Dr. Nalin Bharti (Indian Institute of Technology Patna)  
“Business Activities of Japanese Companies in India”
- 15:55—16:10: Break
- 16:10—16:50 Dr. Manabu Furuta (Aichi-Gakuin University)  
“Effects of Emission Standards: Evidence from Indian Manufacturing Sector”
- 16:50—17:30 Mr. Naoto Shimokado (PhD Student, Kyoto University)  
“Social Business and Food Chain in India: Organizational Management and  
Distribution Channels of AMUL”

5th September 2018

The Second Day Session:

Moderator: Dr. Jagannath Mallick (The Indira Gandhi National Open University)

- 10:30—11:10 Prof. Kamal Vatta  
“The Current Situation of Rural Households in Indian Punjab: Some Insights from a Recent Survey”
- 11:10—11:50 Dr. Kazutoshi Tamari (University of Kochi), Dr. Atsushi Fukumi (University of Hyogo)  
“Politicization of Electricity in Delhi”
- 11:50—12:05: Break
- 12:05—12:45 Dr. Atsushi Fukumi (University of Hyogo)  
“Electricity Consumption and Agricultural Development in Punjab”
- 12:45—13:25 Prof. Atsushi Kato (Waseda University)  
“Business-Friendly Policy by Indian State Governments: A Political Economy Analysis”
- 13:25—13:30 Closing Speech with Vote for Thanks  
Prof. Takahiro Sato

Organized by: Japan Foundation New Delhi, Centers for International Projects Trust (CIPT), and Research Institute for Economics & Business Administration (RIEB), Kobe University

Sponsored by: JSPS Bilateral Joint Research Projects/Seminars (JSPS-ICSSR Joint Research Project), Grants-in-Aid for Scientific Research (A) No. 17H01652, Grants-in-Aid for Scientific Research (B) No. 18H03448, Grants-in-Aid for Scientific Research (B) No. 18H00855, and Grants-in-Aid for Scientific Research (C) No. 17K03658

Supported by: The Center for South Asian Studies (TINDAS) at the University of Tokyo

漢陽大学校経済金融大学・経済研究所  
神戸大学経済経営研究所・大学院経済学研究科  
南洋理工大学経済学部 第6回 共同研究発表会

**開催日：** 2018年9月21日

**会場：** HSS Conference Room (HSS-05-57), Level 5, School of Social Sciences, Nanyang Technological University

**プログラム：**

- 9:00—9:10 Opening Remarks  
Wai-Mun Chia (Associate Professor, Acting Head of Economics, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)  
Tamotsu Nakamura (Professor, Dean, Graduate School of Economics, Kobe University)
- 9:10—10:00 Presentation 1  
“What Can Experiments Tell Us about Strategic Behavior in Two-Person Non-Zero-Sum Games?”  
Speaker: Ken-Ichi Shimomura (Professor, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University)  
Discussant: Yunfeng Lu (Research Fellow, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)

10:00—10:20	Coffee Break
10:20—11:10	<p>Presentation 2</p> <p>“Social Norm and Giving with Indivisibility of Money: An Experiment of Selfishness, Equality and Generosity”</p> <p>Speaker: Te Bao (Assistant Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p> <p>Discussant: Ken-Ichi Shimomura (Professor, Research Institute for Economics &amp; Business Administration, Kobe University)</p>
11:10—12:00	<p>Presentation 3</p> <p>“Did Secure Communities Lead to Safer Communities? The Effect of Strict Immigration Enforcement on Crime”</p> <p>Speaker: Songman Kang (Assistant Professor, College of Economics and Finance, Hanyang University)</p> <p>Discussant: Youngho Chang (Head, Business and Management Minors, School of Business, Singapore University of Social Sciences)</p>
12:00—13:30	Lunch
13:30—14:20	<p>Presentation 4</p> <p>“The Patent-issuing Rules and Economic Growth: Are We in a “Wrong” Patent Regime?”</p> <p>Speaker: Tetsugen Haruyama (Professor, Graduate School of Economics, Kobe University)</p> <p>Discussant: Minwook Kang (Assistant Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p>
14:20—15:10	<p>Presentation 5</p> <p>“Present Bias and Corporate Tax Policies”</p> <p>Speaker: Minwook Kang (Assistant Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p> <p>Discussant: Yang Tang (Assistant Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p>
15:10—15:30	Coffee Break
15:30—16:20	<p>Presentation 6</p> <p>“The Time-Varying Volatility of Financial Shocks in Macroeconomic Fluctuations”</p> <p>Speaker: Shin-ichi Nishiyama (Professor, Graduate School of Economics, Kobe University)</p> <p>Discussant: Joseph D. Alba (Associate Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p>
16:20—17:10	<p>Presentation 7</p> <p>“Migration Restrictions: Implications on Human Capital, Output, and Welfare”</p> <p>Speaker: Hye Mi You (Associate Professor, College of Economics and Finance, Hanyang University)</p> <p>Discussant: Xiaoping Chen (Assistant Professor, School of Social Sciences, Nanyang Technological University)</p>

- 17:10–17:20 Closing Remarks  
 Nobuaki Hamaguchi (Professor, Director, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University)  
 Cheol-Sung PARK (Professor, Chair, College of Economics and Finance, Hanyang University)
- 18:00–20:00 Dinner at PutienJurong Point

RIEB セミナー

**開催日：** 2018年10月2日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 調査室（兼松記念館1階）

**プログラム：**

- 14:00–15:00 “Strategic Renewal in the Swedish Industry”  
 中村 北斗リックカード  
 (School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg, Assistant Professor)
- 15:00–16:00 “Culture Related Entry Barriers - An Exploratory Study of Foreign SMEs Entering the Japanese Market”  
 Soniya BILLORE  
 (Department of Marketing, Linnaeus University, Senior Lecturer)

Network Science Workshop in Kobe 2018

（計算社会科学センター主催、RIEB セミナー／六甲フォーラム／基盤研究（C）「経済現象のネットワーク・モデリング」／基盤研究（S）「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」共催）

**開催日：** 2018年10月25日

**会場：** 神戸大学フロンティア館3F 社会科学系プレゼンテーションホール

**プログラム：**

- 13:10– Opening
- 13:15–13:45 Sadamori KOJAKU (University of Bristol)  
 “Multiple Core-Periphery Pairs in Networks: Algorithms and Applications”
- 13:45–14:15 Mengqiao XU (Dalian University of Technology)  
 “The Global Liner Shipping Network Architecture Exhibits a Crucial Structural Core Which Supports World Trade”
- 14:15–14:45 Tomokatsu ONAGA (Waseda University)  
 “Time-Varying Network Approach to Open Innovation Using Patent Data”

14:45 – 15:10	Break
15:10 – 15:40	Yohsuke MURASE (RIKEN) “What Does Big Data Tell? Sampling the Social Network by Communication Channel”
15:40 – 16:10	Petter HOLME (Tokyo Institute of Technology) “Exact Computational Epidemiology”
16:10 – 16:35	Break
16:35 – 17:05	Takaaki AOKI (Kagawa University) “Cities and Roads as Pattern Formation of Their Co-Evolving Dynamics on Real-World Landscape”
17:05 – 17:35	Tatsuro KAWAMOTO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) “Voteclustering: A Network Approach to Free-Response Surveys”
18:30 –	Dinner

Kick-Off Conference for the Center for Computational Social Science (CCSS)  
 (計算社会科学センター主催、RIEB セミナー／基盤研究 (C) 「経済現象のネットワーク・モデリング」／基盤研究 (S) 「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」共催)

**開催日：** 2018年10月26日

**会場：** 神戸大学先端融合研究環統合研究拠点コンベンションホール

**プログラム：**

13:00 – 13:10	Opening Takashi KAMIHIGASHI (Kobe University)
13:10 – 13:50	Alain BARRAT (Aix Marseille University) “Mining Networks of Human Contacts: From Data to Applications”
13:50 – 14:30	Ciro CATTUTO (ISI Foundation) “Data Science for Social Good”
14:30 – 14:50	Break
14:50 – 15:30	Petter HOLME (Tokyo Institute of Technology) “Social Simulation and Human Mobility”
15:30 – 15:55	Nobuyasu ITO (The University of Tokyo) “Social Simulations and Supercomputers”
15:55 – 16:45	A quick tour of the K computer

- 16:45－17:10 Teruyoshi KOBAYASHI (Kobe University)  
“Network Analysis of Financial Markets”
- 17:10－17:35 Kimmo KASKI (Aalto University)  
“Circadian Rhythms of Urban People - Interplay Between Biological,  
Environmental and Social Factors?”
- 17:35－17:40 Closing
- 17:40－ Dinner at the venue

One Belt One Road & U.S. - China Trade Disputes  
 (RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (S)「グローバル経済におけるリスク  
 の経済分析～国際経済学の視点から～」／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・  
 タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」共催)

**開催日：** 2018年11月19日

**会場：** Meeting Room at RIEB, Kobe University (Annex, 2nd Floor)

**プログラム：**

- 10:00－10:10 Opening Speech  
Nobuaki HAMAGUCHI (Director, RIEB, Kobe University)
- 10:10－10:50 Bin SHENG (Nankai University)  
“China’s Belt & Road Initiative: Geopolitics & Geoeconomics”
- 11:00－11:40 Bin QIU (SouthEast University)  
“GVC Embeddedness, Production Segmentation and Expansion of China’s Service Sector”
- 11:50－12:30 Colin DAVIS (Doshisha University)  
“Taxing Innovation for Sale?”
- Intermission
- 14:00－14:40 Jianzhong HUANG (Shanghai University of International Business & Economics)  
““Belt & Road” Initiative and China’s Efficiency of Openness”
- 14:50－15:30 Tatsuyoshi MIYAKOSHI (Hosei University)  
“A Network Analysis of the Asian Bond Market”
- 15:40－16:20 Lex ZHAO (Kobe University)  
“Product Quality and Antidumping Filings”
- 16:30－17:10 Jiandong JU (Tsinghua University)  
“U.S.-China Trade Dispute & A Tripolar World Economic Order”
- 17:10－17:20 Closing Remarks

Noritsugu NAKANISHI (Dean, Graduate School of Economics, Kobe University)

Workshop on International Macroeconomics

(基盤研究 (C) 「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」 / 神戸大学金融研究会 / 国際金融研究部会 / RIEB セミナー共催)

**開催日 :** 2018 年 12 月 7 日

**会場 :** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館 2 階)

**プログラム :**

- 14:30-15:10 “Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Incompleteness of Financial Markets”  
北野 重人 (神戸大学経済経営研究所 教授)
- 15:20 - 16:00 “Intra-temporal Substitution between Tradable and Nontradable Goods: An Implication for the Backus-Smith Puzzle”  
永易 淳 (東北大学大学院経済学研究科 教授)
- 16:10-17:00 “Does International Financial Integration Increase the Standard of Living in Africa : A Frontier Approach”  
Gilles DUFRENOT  
(Faculty of Economics and Management, Aix-Marseille University, Professor)

The 9th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW

**開催日 :** 2019 年 1 月 5 日

**会場 :** Presentation Hall / Room 303 & 304 (Frontier Hall, 3rd Floor), Kobe University

**プログラム :**

- 13:30-13:40 Opening Ceremony  
Laixun Zhao, Kobe University, TJAR Managing Editor  
Nobuaki Hamaguchi, Director of Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University
- 13:40-14:20 Plenary Session  
Moderator: Masahiro Enomoto, Kobe University  
Speaker: Zili Zhuang, The Chinese University of Hong Kong  
(Co-authors: Ting-Kai Chou and Jeffrey Pittman)  
“The Importance of Partner Narcissism to Audit Quality”
- 14:20-14:30 Photo Session (Group Photo)
- 14:30-14:50 Coffee Break

- 14:50 – 15:55      Concurrent Session A  
Moderator: Wan Wongsunwai, The Chinese University of Hong Kong
- 14:50 – 15:20      Speaker: Hitoshi Takehara, Waseda University (Co-author: Megumi Suto)  
“Management Forecast Bias and Corporate Social Responsibility Awareness: Evidence from Japan”
- 15:25 – 15:55      Speaker: Wan Wongsunwai, The Chinese University of Hong Kong  
“Shareholder Activism and CEO Quality”
- 14:50 – 15:55      Concurrent Session B  
Moderator: Xu Zhang, University of Macau
- 14:50 – 15:20      Speaker: Yi Wu, Kobe University  
“Influence of Ownership Structure on Accounting Conservatism - Evidence from Japanese Listed Companies -”
- 15:25 – 15:55      Speaker: Xu Zhang, University of Macau (Co-authors: Jiahang Zhang)  
“Public Governance and Tax Avoidance: Evidence from the Anti-Corruption Campaign in China”
- 15:55 – 16:15      Coffee Break
- 16:15 – 17:20      Concurrent Session C  
Moderator: Angie Wang, The Chinese University of Hong Kong
- 16:15 – 16:45      Speaker: Daniel Saavedra, University of California, Los Angeles  
“Debt Maturity, Investments, and the Choice of Covenants”
- 16:50 – 17:20      Speaker: Angie Wang, The Chinese University of Hong Kong  
“Board of Directors’ Cultural Proximity and Investment Efficiency of Multinational Corporations”
- 17:50 – 19:30      Restaurant Sakura, 3rd Floor After Session

International Business Workshop  
(兼松セミナー共催)

**開催日：** 2019年1月31日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 調査室（兼松記念館1階）

**プログラム：**

- 10:00 – 10:10      開会挨拶  
浜口 伸明（神戸大学経済経営研究所 教授）
- 10:10 – 11:00      基調講演：Springing from Where? How Emerging Market Firms Become  
Multinational Enterprises  
Jean-Francois HENNART

(Tilburg University, Emeritus Professor of International Management and Extramural Fellow of the Center for Research in Economics and Business/DIG, Politecnico di Milano, Visiting Professor/神戸大学経済経営研究所 客員教授)

- 11:00－11:50 “Global Linking Beyond Lean: A Case of New Product Development at Toyota Technical Center in the US”  
石井 真一（大阪市立大学大学院経営学研究科 教授）
- 11:50－13:30 休憩
- 13:30－14:10 “Liability or Asset? Multifaceted Bridging Functions in MNCs: An Empirical Study of Japanese Foreign Subsidiaries”  
Ting LIU（大阪大学大学院経済学研究科 博士課程後期課程）
- 14:10－14:30 休憩
- 14:30－15:10 “How Inpatriates Internalize Corporate Values in a Multinational Company's Headquarters”  
関口 倫紀（京都大学経営管理大学院 教授）
- 15:10－15:20 閉会挨拶  
Ralf BEBENROTH（神戸大学経済経営研究所 教授）

The 12th Indo-Japanese Dialogue at the Japan Foundation New Delhi  
(Centers for International Projects Trust (CIPT)/基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/インド社会科学研究協議会 (ICSSR) -日本学術振興会 (JSPS) 二国間交流事業 共同研究・セミナー/国際交流基金ニューデリー/RIEBセミナー共催)

**開催日：** 2019年2月23日

**会場：** The Japan Foundation, New Delhi

**プログラム：**

Chair : Jagannath MALLICK (Indira Gandhi National Open University, Consultant)

- 13:00－13:10 Opening Remark  
Suresh KUMAR (Chief Principal Secretary to Chief Minister Punjab)
- 13:10－14:00 “Enhancing Farmers Income in Punjab: Challenges and Options”  
Speaker: R.S. SIDHU (Punjab Agricultural University, Professor)
- 14:00－14:50 “Economic Diversification of the Agricultural Households in India”  
Speaker: Takahiro SATO (RIEB, Kobe University, Professor)
- 14:50－15:00 Coffee Break

- 15:00—15:50 “Current Situation of Rural Households in Punjab: Initial Findings from a Large Survey”  
Speaker: Kamal VATTA (Centers for International Projects Trust, Director)
- 15:50—16:40 “FDI and the Automotive Sector in India”  
Speaker: Manabu FURUTA (Faculty of Economics, Aichi Gakuin University, Lecturer)
- 16:40—17:00 Q & A  
Discussants: Nalin BHARTI (Associate Professor, IIT Patna)  
Pratap BIRTHAL (National Institute of Agricultural Economics and Policy Research, National Professor)

International Symposium  
Political and Economic Factors Shaping Latin America in the Next Decade  
— Argentina, Brazil, Mexico and Comparison with East Asia —  
(ラテンアメリカ政治経済研究部会／早稲田大学政治経済学術院／早稲田大学実証政治  
経済学拠点／現代政治経済研究所 主催  
ラテンアメリカ・セミナー／科研基盤研究 (B) 「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」  
共催)

**開催日：** 2019年3月8日

**会場：** Waseda University, Tokyo

**プログラム：**

Moderator: Yuriko Takahashi (Waseda University)

9:00—9:10 Opening Remark:  
Nobuaki Hamaguchi (Kobe University, Japan)

Section 1: Challenges to Democratic Accountability in Asia and Latin America

9:10—9:55 Jai Kwan Jung (Korea University, South Korea)  
“The 2016 Candle Light Protest and South Korean Democracy”

9:55—10:40 Enrique Peruzzotti (Universidad Torcuato Di Tella, Argentina)  
“Liberalism and Democracy in Latin America: A Historical Perspective”

10:40—11:25 Yuriko Takahashi (Waseda University, Japan)  
“Democracy, Poverty, and Vote-Buying in Mexico”

11:25—12:00 Comments and Discussion: Yusuke Murakami (Kyoto University, Japan)

12:00—13:00 Lunch Break

Section 2: Challenges to Regime Stability in Asia and Latin America

13:00—13:45 Chelsea Chia-Chen Chou (Taiwan National University, Taiwan)  
“Scapegoating in China: A Text-Mining Study on Diversionary Public Criticism during Public Health Incidents”

- 13:45 – 14:30 Marcus André Melo (Federal University of Pernambuco, Brazil)  
“The Unexpected Rise of Right Wing Populism in Brazil and its Consequences”
- 14:30 – 15:15 Nobuaki Hamaguchi (Kobe University, Japan), Saori Kawai (Ryukoku University)  
“Voters of Bolsonaro: Some Evidences from Municipal Data”
- 15:15 – 15:45 Comments and Discussion: Marisa Kellam (Waseda University, Japan)
- 15:45 – 16:00 Coffee Break
- Section 3: Economic Integration in the Asia-Pacific Regions
- 16:00 – 16:45 Melba Falck (University of Guadalajara, Mexico)  
“Japan and Mexico Strategic Economic Partners. The Automotive Sector and CPTPP”
- 16:45 – 17:30 Mikio Kuwayama (Kobe University, Japan)  
“TPP11(CPTPP): Its Implications for Japan-Latin America Trade Relations in Times of Uncertainty”
- 17:30 – 18:00 Comments and Discussion: Yoshiaki Hisamatsu (Toyo University, Japan)
- 18:00 – 18:10 Closing Remark: Nobuaki Hamaguchi (Kobe University, Japan)

The Indo-Japanese Dialogue on the Issues of the Indian Economic Growth  
 (インド社会科学協議会 (ICSSR) – 日本学術振興会 (JSPS) 二国間交流事業 共同  
 研究・セミナー／基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネッ  
 トワーク」／「南アジア地域研究」東大拠点 (TINDAS) ／兼松セミナー／神戸大学社会  
 システムイノベーションセンター共催)

**開催日：** 2019年3月9日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム：**

- 13:00 – 13:10 開会挨拶
- 13:10 – 14:00 Prabir BHATTACHARYA (School of Management and Languages, Heriot-Watt  
University)  
“Informal Sector and Economic Development”
- 14:00 – 14:50 佐藤 隆広 (神戸大学経済経営研究所)  
“Economic Diversification of the Agricultural Households in India”
- 14:50 – 15:10 休憩
- 15:10 – 16:00 Nalin BHARTI (Indian Institute of Technology Patna)  
“Indo-Japan Trade and Investment: Direction and Dimension”
- 16:00 – 16:50 野村 親義 (大阪市立大学大学院文学研究科)  
“Industrialization in Colonial India : Comparative Perspective with Imperial

Japan's Experience”

16:50-17:00 閉会挨拶

Workshop on International Macroeconomics

(科研基盤研究 (C) 「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」 / 国際金融研究部会 / RIEBセミナー共催)

**開催日：** 2019年3月19日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム：**

14:30-15:30 北野 重人 (神戸大学経済経営研究所)  
“Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel”

15:45-16:45 Hao JIN (Wang Yanan Institute for Studies in Economics & School of Economics, Xiamen University)  
“Financial Openness, Bank Capital Flows, and the Effectiveness of Macroprudential Policies”

Workshop on Trade, Finance and Growth

(RIEBセミナー / 六甲フォーラム / 科研基盤研究 (A) 「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」共催)

**開催日：** 2019年4月5日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム：**

13:30-14:20 Qingliang FAN (School of Economics, Xiamen University)  
“Partners in Debt: An Endogenous Nonlinear Analysis of Interaction of Public and Private Debt on Growth”

14:30-15:20 吉見 太洋 (中央大学経済学部)  
“Unemployment in a Balassa-Samuelson Model with Heterogeneous Job Separations”

15:30-16:20 賽多 康弘 (南山大学経済学部)  
“Regional and Multilateral Trade Agreements Revisited: Harmonization of National and Regional Standards”

16:30-17:20 Dan LI (School of Economics, Xiamen University)  
“Estimating Short-run Inflation Dynamics with Disaggregated Data and Selected Instruments”

Workshop on Trade & Finance in the East Asia Time Zone  
(RIEBセミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (A) 「タイムゾーンとサービス・タ  
スク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」共催)

**開催日：** 2019年5月16日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム：**

- 13:30－14:20 Alberto Franco POZZOLO (Department of Economics, The University of Molise)  
“Did Italian Banks Trade off Lending with Government Bond Purchases?”  
Chair: Laixun ZHAO (RIEB, Kobe University)  
Discussant: Shuyu CHANG (Chinese Academy of Social Sciences)
- 14:30－15:20 Jian LU (School of International Business, Southwest University of Finance &  
Economics)  
“Network Embedding in Trade Expansion”  
Chair: Jie SUN (Chinese Academy of Social Sciences)  
Discussant: Panpan YANG (Chinese Academy of Social Sciences)
- 15:30－16:20 Wanting XIONG (Institute of World Economics and Politics, Chinese Academy  
of Social Sciences)  
“Transition of Bank Lending under Multipolar Regulation”  
Chair: Jie SUN (Chinese Academy of Social Sciences)  
Discussant: Zhuo ZHOU (Shanghai Academy of Social Sciences)
- 16:30－17:20 Mi DAI (Business School, Beijing Normal University)  
“Local Government Response to Trade Liberalization”  
Chair: Laixun ZHAO (RIEB, Kobe University)  
Discussant: Bin ZHANG (Chinese Academy of Social Sciences)

神戸大学金融研究会  
(六甲フォーラム／神戸大学社会システムイノベーションセンター共催)

**開催日：** 2019年6月6日

**会場：** 神戸大学大学院経済学研究科 大会議室 (本館2階)

**プログラム：**

- 15:00－16:00 Masashi HINO (Department of Economics, The Ohio State University)  
“Consumption Tax as a Source of Discrete Choice”
- 16:15－17:15 In Hwan JO (Department of Economics, National University of Singapore)  
“Firm Size and Business Cycles with Credit Shocks”
- 17:30－18:30 Timothy KAM (Research School of Economics, Australian National University)  
“Inflationary Redistribution vs. Trading Opportunities: A New-Monetarist  
Heterogeneous-agent Quantitative Theory”

International Business Workshop  
(RIEBセミナー共催)

**開催日：** 2019年6月12日

**会場：** 経済経営研究所 調査室（兼松記念館1階）

**プログラム：**

- 10:00－10:10      Opening Remarks  
Ralf BEBENROTH (RIEB, Kobe University)
- 10:10－11:00      Joachim WOLF (Institute of Business Administration, Christian  
Albrechts-University zu Kiel)  
Keynote speech: “Some Approaches to Reduce the Rigor-relevance Gap in  
Management Research”
- 11:00－11:40      Shinichi ISHII (Graduate School of Business, Osaka City University)  
“Management Research while Interacting with Business People: Experiences of a  
Japanese Academic Management Scholar”
- 11:40－13:30      Lunch Break
- 13:30－14:10      Jaffer HUSSAINEE (Institute of Business and Accounting, Kwansai Gakuin  
University and Entrepreneur)  
“A Structured Approach to Understand Product Distribution in the Digital Age”
- 14:10－14:30      Break
- 14:30－15:10      Lara MAKOWSKI-KOMURA (Graduate School of Business Administration,  
Kobe University)  
“Media Choice among Austrian and Japanese Employees. Evidence from a  
Japanese-European International Joint Venture”
- 15:10－15:20      Closing Remarks  
Ralf BEBENROTH (RIEB, Kobe University)

漢陽大学校経済金融大学・経済研究所  
神戸大学経済経営研究所・大学院経済学研究科  
南洋理工大学経済学部 第7回 共同研究発表会

**開催日：** 2019年6月14日

**会場：** Room 402, College of Economics and Finance Building, Hanyang University

**プログラム：**

- 10:00－10:20      Opening Remarks  
Young-Jun CHUN (HERi, Hanyang University)



**会 場：** 神戸大学社会科学系フロンティア館 プレゼンテーションホール  
(フロンティア館 3 階)

**プログラム：**

20th of June 2019

- 13:30–13:40      Opening
- 13:40–15:10      Naoki MASUDA (Department of Engineering Mathematics, University of Bristol)  
“Fundamentals of random walks on networks: random walks in one dimension, discrete- and continuous-time random walks on networks, random walks on temporal networks etc.”
- 15:10–15:50      Coffee Break
- 15:50–17:20      Kimmo KASKI (Department of Computer Science, Aalto University School of Science)  
“Social Physics I: Data-driven discovery of social connectome of humans”
- 18:00–              Banquet at a Restaurant on Campus

21<sup>st</sup> of June 2019

- 9:00–10:30      Naoki MASUDA (Department of Engineering Mathematics, University of Bristol)  
“Applications of random walks on networks: various algorithms to mine information from network data (e.g. community detection, respondent-driven sampling), opinion formation dynamics on networks associated with random walks etc.”
- 10:30–11:00      Coffee Break
- 11:00–12:30      Kimmo KASKI (Department of Computer Science, Aalto University School of Science)  
“Social Physics II: Human activity patterns”
- 12:30–14:00      Lunch Break
- 14:00–15:30      Petter HOLME (Tokyo Tech World Research Hub Initiative (WRHI) , Tokyo Institute of Technology)  
“Defining and finding important nodes in networks”
- 15:30–16:00      Coffee Break
- 16:00–17:30      Jesús GOMEZ-GARDENES (Department of Condensed Matter Physics, University of Zaragoza)  
“Contagion processes: from epidemic models to contact processes applied to social contagions”
- 21<sup>st</sup> of June 2019
- 9:00–10:30      Petter HOLME (Tokyo Tech World Research Hub Initiative (WRHI) , Tokyo Institute of Technology)  
“Analyzing empirical temporal networks”
- 10:30–11:00      Coffee Break

- 11:00－12:30      Jesús GOMEZ-GARDENES (Department of Condensed Matter Physics,  
University of Zaragoza)  
“Metapopulation dynamics: Analyzing the interplay between contagion processes  
and mobility patterns applied to the analysis of segregation of socioeconomic  
classes”
- 12:30－              Closing

**Seminar on the Political Economic Issues in South Asia**  
 (RIEB セミナー／科研基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産  
 ネットワーク」／南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS)／ 科研基盤研究 (B)「経  
 済発展政策の政治経済学的分析：理論モデル分析とインドにおける実証研究」／ 科研基  
 盤研究 (B)「南アジアのコネクティビティとインド-越境インフラを巡る政治と経済」  
 共催)

**開催日：** 2019年9月28日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 調査室（兼松記念館1階）

**プログラム：**

- 13:30－14:30      Matthew McCARTNEY (Oxford School of Global and Area Studies, University of  
Oxford)  
“The China Pakistan Economic Corridor (CPEC): The Economic Impact on  
Pakistan”
- 14:30－15:30      Atsushi KATO (Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University)  
“Electricity and Agricultural Development in Punjab”
- 15:30－15:40      Coffee Break
- 15:40－16:40      Atsushi FUKUMI (School of Economics and Management, University of Hyogo)  
“Electricity and Agricultural Development in Punjab”
- 16:40－17:40      Takahiro SATO (RIEB, Kobe University)  
“Social and Economic Changes in a Punjab Village: A Long-Term Perspective”

**Workshop on Migration, Employment & Finance**  
 (神戸大学経済経営研究所創立100周年記念事業／RIEB セミナー／六甲フォーラム／科  
 研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成  
 長への含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関  
 する経済分析」／科研基盤研究 (B)「中国一帯一路政策とアジア債券市場構想の政策的  
 親和性：国際公共財・ネットワーク理論」／科研基盤研究 (C)「金融ネットワークにお  
 けるセンターの理論・実証・政策：破綻連鎖とネットワーク管理」共催)

**開催日：** 2019年10月7日

**会 場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館 2 階）

**プログラム：**

- 10:00－10:10 Welcome Speech  
Nobuaki HAMAGUCHI (RIEB, Kobe University)
- 10:10－10:55 Robert DEKLE (Department of Economics, University of Southern California)  
“Robots and Industrial Employment: Evidence from Japan”
- 11:00－14:45 Jianye YAN (Institute of New Structural Economics, Peking University)  
“Supervision Intensity, Incentives and Policy Burden”
- 11:45－13:30 Lunch Break
- 13:30－14:15 Yoshihiko TSUKUDA (Graduate School of Economics and Management  
Tohoku University)  
“Who is the Center of Local Currency Asian Government Bond Markets?”
- 14:20－15:05 Min-The YU (Providence University / Institute of Finance, National Chiao Tung  
University)  
“Climate Risk and Catastrophe Bond Prices”
- 15:10－15:55 Laixun ZHAO (RIEB, Kobe University)  
“A Simple Model of the Hukou System and Chinese Exports”
- 16:00－16:45 Xiaodong ZHU (Department of Economics, University of Toronto)  
“Selective Migration and Agricultural Productivity Gap: Evidence from China”
- 16:45－17:00 Closing Speech  
Noritsugu NAKANISHI (Graduate School of Economics, Kobe University)

Workshop on Trade, Innovation & Global Value Chains

（神戸大学経済経営研究所創立 100 周年記念事業／RIEB セミナー／六甲フォーラム／科  
研基盤研究（A）「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成  
長への含意」／科研基盤研究（B）「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に  
関する経済分析」共催）

**開催日：** 2019 年 10 月 11 日

**会 場：** 神戸大学経済経営研究所 調査室（兼松記念館 1 階）

**プログラム：**

- Chair / Discussant: Kenzo ABE (Economic Department, Chuo University)
- 13:30－13:40 Welcome Speech  
Nobuaki HAMAGUCHI (RIEB, Kobe University)
- 13:40－14:25 Miaojie YU (National School of Development, Peking University)  
“Trade and Innovation: the Role of Scale and Competition Effects”

- 14:30 – 15:15 Peter EGGER (Department of Management, Technology and Economics, KOF Swiss Economic Institute)  
“Estimating the Spatial and Network Sample Selection Model for Panel Data”
- 15:25 – 16:10 Taiji FURUSAWA (Graduate School of Economics, The University of Tokyo)  
“Global Value Chains and Aggregate Income Volatility”
- 16:15 – 17:00 Jota ISHIKAWA (Graduate School of Economics, Hitotsubashi University)  
“Tax Havens and Cross-border Licensing”
- 17:00 – 17:10 Closing Speech  
Noritsugu NAKANISHI (Graduate School of Economics, Kobe University)

International Conference on Economics and Finance:  
Celebrating Prof. Jean-Michel Grandmont's 80th Birthday  
(RIEB セミナー / 科研基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント :  
理論・実証・シミュレーション」共催)

**開催日 :** 2019年10月14日

**会場 :** 神戸大学社会学系フロンティア館プレゼンテーションホール  
(フロンティア館3階)

**プログラム :**

- 13:00 – 13:05 Opening Remarks (RIEB, Kobe University)
- 13:05 – 13:35 Nir KSHETRI (Bryan School of Business and Economics, The University of North Carolina at Greensboro)  
“Cryptocurrencies for the Poor: Technical Potential Versus Practical Reality”
- 13:35 – 14:05 Eden Siu Hung YU (Chu Hai College of Higher Education Hong Kong)  
“International Outsourcing, Urban-rural Migration, Income Equality and Welfare”
- 14:05 – 14:15 Break
- 14:15 – 14:45 Santanu ROY (Department of Economics, Southern Methodist University)  
“Dynamics of Entry and Exit: Industry-wide Learning and Endogenous Heterogeneity”
- 14:45 – 15:15 Alain VENDITTI (Groupement de Recherche en Economie Quantitative d'Aix Marseille (GREQAM)/Accounting, Law, Finance and Economics Department, EDHEC Business School)  
“Optimal Growth, Bequests and Competitive Equilibrium Cycles in Two-sector OLG Models”
- 15:15 – 15:45 Kazuo NISHIMURA (RIEB, Kobe University)  
“Flying or Trapped?”
- 15:45 – 15:45 Break

- 15:55 – 16:25 Ronald P. TOBY (Department of History, University of Illinois)  
“The Ragged Edges of Early-modern Japan”
- 16:25 – 16:55 Koichi HAMADA (Department of Economics, Yale University)  
“Economic Foundations of Quantitative Easing”
- 16:55 – 17:40 Jean-Michel GRANDMONT (CNRS and CREST-INSEE/University Cà Foscari  
Venice/Corps des Ponts et Chaussées École  
Nationale des Ponts et Chaussées)  
“Behavioral Heterogeneity: Pareto Distributions of Preference or Risk Perception  
Scales and Aggregate Financial Choices”
- 17:40 – 17:45 Closing Remarks  
Takashi KAMIHIGASHI (RIEB, Kobe University)
- 18:00- Reception at Sakura

書籍ローンチセミナー「紛争から協調へ—アフリカ多民族社会の課題：  
TICAD7 後のアフリカ開発を展望する」  
(JICA 研究所／神戸大学経済経営研究所 共催)

**開催日：** 2019 年 11 月 12 日

**会場：** JICA 研究所 600 会議室

**プログラム：**

- 15:00 – 15:05 開会あいさつ  
萱島 信子 (国際協力機構 (JICA))
- 15:05 – 15:45 日野 博之 (Center for International Global Studies, Duke University/  
元ケニア首相アドバイザー (JICA 専門家) / 元IMFアジア太平  
洋地域事務所長)  
基調講演 ”From Divided Pasts to Cohesive Futures: Reflections on Africa”
- 15:45 – 16:45 パネル・ディスカッション  
パネリスト：石川 薫 (川村学園女子大学／学校法人川村学園 理事/  
国際教養大学／元カナダ大使・エジプト大使・  
外務省経済局長)  
テショメ イマナ (アディスアベバ大学社会科学学部)  
高橋 基樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科/  
神戸大学)  
玉木 林太郎 (国際金融情報センター理事長／元財務官/  
元OECD事務次長)  
日野 博之 (Center for International Global Studies,  
Duke University)
- モデレーター：大野 泉 (JICA 研究所長)

16:45-17:10 質疑応答

17:10-17:15 まとめと閉会の辞  
浜口 伸明 (神戸大学経済経営研究所長)

International Conference on Trade, Financial Integration and Macroeconomic Dynamics &  
IEFS Japan 2019 Annual Meeting

(科研基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動的展開および経済成長への含意」／RIEB セミナー／六甲フォーラム／神戸大学六甲台後援会 共催)

**開催日：** 2019年11月15日～17日

**会場：** 神戸大学社会科学系フロンティア館 プレゼンテーションホール  
(フロンティア館 3階)

**プログラム：**

**15<sup>th</sup> of November 2019**

14:00-14:10 Opening Speech 1  
Takashi KAMIHIGASHI (IEFS Japan President / RIEB, Kobe University)

**14:10-16:00 Afternoon Session**

Chair: Kazuo MINO (Graduate School of Economics, Doshisha University)

14:10-15:00 Teruyoshi KOBAYASHI (Graduate School of Economics, Kobe University)  
“Characterizing the Dynamics of Financial Networks”

15:10-16:00 Makoto NIREI (Graduate School of Economics, The University of Tokyo)  
“Menu Costs and the Volatility of Inflation”

16:00-16:20 Coffee Break

**16:20-17:20 Poster Session**

Boming CHEN (Kobe University)  
“The Complementarity Between Skills and Communication Technologies:  
Implications on the Structure of Teleworking”

Haitao CHENG (Hitotsubashi University)  
“Firm Locations, Consumption Pollution and Tax”

Masakazu EMOTO (Kobe University)  
“Economic Growth and Wealth Distribution with Tax Evasion and Social Norm”

Makoto HIRONO (Doshisha University)  
“Pension, retirement, and Growth in the Presence Heterogeneous Elderly”

Kenichi KURITA (Kyushu University)  
“The Effect of Ability Grouping on Student Achievement in Knowledge Sharing”

Hai VU LE (Kyoto University)  
“Credit Standards and Business Cycle in a Small Open Economy”

Shohei MOMODA (Kyoto University)  
“Does Automation Technology Reduce Wage?”

Kunihiko SATO (Hitotsubashi University)  
“Two Types of Export-platform FDI with Heterogeneous Firms  
Including Communication Costs”

Ryosuke SHIMIZU (Kyoto University)  
“Monetary Policy and Asset Bubbles in a Small Open Economy”

Mizuki TSUBOI (University of Hyogo)  
“An Analytical Inquiry into the Growth-Uncertainty Nexus”

Trang TRAN (Hitotsubashi University)  
“Multinational Firm’s Location Decision: Distance vs. Connectivity”

Kohei OKADA (Osaka University)  
“Intergenerational Mobility, Automation, and Development”

17:40 – Reception at Sakura

**16<sup>th</sup> of November 2019**

9:50 – 10:00 Opening Speech 2  
Noritsugu NAKANISHI (Graduate School of Economics, Kobe University)

**10:00 – 12:00 Morning Session**  
Chair: Fumio DEI (Kobe University)

10:00 – 10:50 Ping WANG (Washington University in St. Louis / FRB of St. Louis / NBER)  
“Innovation, Growth, and Dynamic Gains from Trade”

10:50 – 11:10 Coffee Break

11:10 – 12:00 Raymond RIEZMAN (Aarhus University / UC, Santa Barbara / University of  
Iowa)  
“Trade Wars, Technology and Productivity”

12:00 – 13:20 Lunch

**13:30 – 16:30 Afternoon Session**  
Chair: Tomotsu NAKAMURA (Graduate School of Economics, Kobe University)

13:30 – 14:20 Koichi FUTAGAMI (Graduate School of Economics, Osaka University)  
“Risk Aversion, Longevity, and Fertility in an Overlapping Generations Model”

14:20 – 14:40 Coffee Break

14:40 – 15:30 Ryoji OHDOI (School of Engineering, Tokyo Institute of Technology)  
“Trade, Growth, and International Transmission of Financial Shocks”

15:40 – 16:30 Been-Lon CHEN (Institute of Economics, Academia Sinica)  
“Optimal Income Taxation over the Life Cycle in a Mirrlees Model with Human Capital Investment”

17:30 – Conference Dinner (Academia Building, Rm.502)

**17<sup>th</sup> of November 2019**

**9:30 – 12:30 Morning Session**

Chair: Lijun ZHU (Institute of New Structural Economics, Peking University)

9:30 – 10:20 Kazuo MINO (Graduate School of Economics, Doshisha University)  
“Public Debt and Economic Growth with Financial Frictions”

10:20 – 10:40 Coffee Break

10:40 – 11:30 Takuma KUNIEDA (School & Graduate School of Economics, Kwansei Gakuin University)  
“Financial Destabilization”

11:40 – 12:30 Chong Kee YIP (Department of Economics, Chinese University of Hong Kong)  
“Marketization, Balanced-Budget Taxation and Economic (In) Stability”

12:30 – 13:30 Lunch

**13:30 – 16:30 Afternoon Session**

Chair: Lijun ZHU (Institute of New Structural Economics, Peking University)

13:30 – 14:20 Daisuke IKEDA (Bank of Japan)  
“Econometric Analysis of Monetary Policy at the Zero Lower Bound”

14:20 – 14:40 Coffee Break

14:40 – 15:30 Yong WANG (Institute of New Structural Economics, Peking University)  
“Human Capital, Industrial Dynamics and Economic Growth”

15:40 – 16:30 Kazuo NISHIMURA (RIEB, Kobe University / Kyoto University / RIETI)  
“Flying or Trapped?”

16:30 – 16:40 Concluding Remarks  
Junko DOI (Graduate School of Economics, Kansai University)  
Yungfang HU (Graduate School of Economics, Kobe University)

**Workshop on Skills & Time Zones**

(RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (A) 「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動的展開および経済成長への含意」／科研基盤研究 (B) 「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」共催)

**開催日：** 2019年11月26日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム :**

14:30－15:40 James MARKUSEN (Department of Economics, University of Colorado)  
“Per Capita Income and the Demand for Skills”

15:50－17:00 Ann CARLOS (Department of Economics, University of Colorado)  
“State Capacity, Land Tax and Tax Evasion, London 1720 – 1725”

Three Lectures on Useful Concepts and Tools in Econometrics  
(RIEB セミナー／六甲フォーラム／神戸大学先端融合研究環／神戸大学社会システム  
イノベーションセンター／科研基盤研究 (A) 「データサイエンスのアプローチによる  
金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究」 共催)

**開催日 :** 2019年12月11日・12日

**会場 :** 神戸大学経済経営研究所 会議室 (新館2階)

**プログラム :**

**Lecturer: Keunkwan RYU (Department of Economics, Seoul National University)**

11<sup>th</sup> of December 2020

15:10－16:40 Keunkwan RYU (Department of Economics, Seoul National University)

**Lecture 1: Overview of Econometrics**

“Statistical inference: Classical vs. Bayesian approaches (Hypothesis testing vs. Model selection, Objective oriented inferences, Lindley's paradox)  
Classification: Direct vs. Indirect, Simple vs. Detailed”

12<sup>th</sup> of December 2020

13:30－15:00 **Lecture 2: Direct Classification**

“Conditional independence assumption (CIA), matching vs. multiple regression, propensity score matching (PSM), difference in differences (DiD)”

15:10－16:40 **Lecture 3: Indirect Classification**

“Observables vs. unobservables, instrumental variables (IV), treatment heterogeneity and LATE, regression discontinuity (RD)”

Other Issues: Complementarity in size between data and model (small vs. big data, small vs. big model, XOR problem and deep neural network model, classification and regression trees (CART))

The 10th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW

**開催日 :** 2019年12月22日

**会場 :** 神戸大学アカデミア館5階 501・502・504教室

**プログラム :**

- 12:40－12:50      Opening Ceremony  
Laixun ZHAO (RIEB, Kobe University / TJAR Managing Editor)  
Nobuaki HAMAGUCHI (RIEB, Kobe University)
- 12:50－14:05      Keynote Speech  
Moderator: Keishi FUJIYAMA (RIEB, Kobe University)  
Jeong-Bon KIM (College of Business, City University of Hong Kong)  
“Accounting Research: Current State and Future Direction”
- 14:05－14:15      Photo Session (Group Photo)
- 14:15－14:30      Coffee Break
- 14:30－16:05      **Concurrent Session A**  
Moderator: Zilong ZHANG (Department of Accountancy, City University of  
Hong Kong)
- 14:30－15:00      Kai Cheung CHU (School of Accounting and Finance ,The Hong Kong  
Polytechnic University)  
“Distress Risk Puzzle and Analyst Forecast Optimism”
- 15:00－15:30      Yuki HORIE (Graduate School of Business Administration, Hitotsubashi  
University)  
“The Impact of Fair Disclosure Regulation on Analyst Forecasts: Evidence from  
Japan”
- 15:30－16:00      Zilong ZHANG (Department of Accountancy, City University of Hong Kong)  
“Learning through Difficult Times: Evidence from Financial Analysts”
- 14:30－16:05      **Concurrent Session B**  
Moderator: Wan Wongsunwai (School of Accountancy, The Chinese University of  
Hong Kong)
- 14:30－15:00      Henock LOUIS (Smeal College of Business, The Pennsylvania State University)  
“Perceived Audit Quality and Firm Value: Evidence from Investors' Reaction to  
the Revelation of Limiting Liability Agreements in Audit Engagement Letters”
- 15:00－15:30      Philip Keejae HONG (School of Accounting, Central Michigan University)  
“Temporal Disaggregation and Post-Earnings Announcement Drift: Evidence  
from Monthly Comparable Store Sales Disclosures”
- 15:30－16:00      Wan Wongsunwai (School of Accountancy, The Chinese University of  
Hong Kong)  
“The Information Content of Cost Behavior Components”
- 14:30－16:05      **Concurrent Session C**  
Moderator: Chia-Ling CHAO (Department of Accounting and Information  
Technology)

- 14:30—15:00 Rui GE (Shenzhen Audencia Business School, Shenzhen University)  
“Obscured by Clouds: The Impact of Weather-induced Managerial Mood on Corporate Tax Avoidance”
- 15:00—15:30 Hong XIAO (Department of Accounting, Xiamen University)  
“The Effect of Network Public Opinion Attention on Bank's Risk Text Information Disclosure Strategy”
- 15:30—16:00 Chia-Ling CHAO (Department of Accounting and Information Technology)  
“CEO Succession, Audit Pricing, and Firm Value: The Role of Supply Chain Knowledge”
- 16:05—16:25 Coffee Break
- 16:25—18:00 **Concurrent Session D**  
Moderator: Jeffrey NG (School of Accounting and Finance ,The Hong Kong Polytechnic University)
- 16:20—16:55 Zili ZHUANG (School of Accountancy, The Chinese University of Hong Kong)  
“Operating Leverage and Bond Yield Spreads: Differentiating Between Cash and Accrual Operating Leverage”
- 16:55—17:25 Wentao WU (Reh School of Business, Clarkson University)  
“Short-selling Before Data Breach”
- 17:25—17:55 Jeffrey NG (School of Accounting and Finance ,The Hong Kong Polytechnic University)  
“Cross-market Information Transfer and Voluntary Corporate Disclosure: Evidence from Stock Options Trading”
- 16:25—18:00 **Concurrent Session E**  
Moderator: Rajesh VIJAYARAGHAVAN (UBC Sauder School of Business)
- 16:20—16:55 Hao-Chang SUNG (Department of Finance, College of Economics, Jinan University)  
“Product Market Competition and Real Activities Manipulation: Theory and Implications”
- 16:55—17:25 Jerry CHEN (Faculty of Business and Economics, The University of Auckland)  
“Aggressive R&D Investments in Pre-IPO Years: the Signalling Explanation”
- 17:25—17:55 Rajesh VIJAYARAGHAVAN (UBC Sauder School of Business)  
“Natural Disasters, Loan Loss Accounting and Subsequent Lending”
- 16:25—18:00 **Concurrent Session F**  
Moderator: Chang LI (School of Business, University of Kansas)
- 16:20—16:55 Qingmei Xue (Departmnet of Accounting, Nanjing University)  
“Industry Norms, Regulator Concerns and Audit Judgement”

- 16:55－17:25 Muhammad Shahin Miah (Department of International Business, Faculty of Business Studies University of Dhaka)  
 “Accounting Standard Complexity, Analyst Forecast Properties, and Auditor Industry Specialization”
- ”
- 17:25－17:55 Chang LI (School of Business, University of Kansas)  
 “Audit Firms' Corporate Social Responsibility Activities and Auditor Reputation”
- 18:30－19:30 After Session at Restaurant Sakura

RIEB セミナー (TJAR Workshop 主催)

**開催日：** 2019年12月23日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム：**

- 10:00－11:15 Jeong Bon KIM (Department of Accountancy, City University of Hong Kong)  
 “Capital Market-Based Accounting Research: Past, Present and Future”
- 11:30－12:30 Hyonok KIM (Faculty of Business Administration, Tokyo Keizai University)  
 “Earnings Management and Stock Market Listing”
- 14:00－15:00 Toshio MORIWAKI (Faculty of Economics and Business Administration,  
 The University of Kitakyushu)  
 “Intraday Price Discovery Process to Earnings Announcements: Evidence from Japan”

CCSS Workshop on Computational Social Science

(神戸大学計算社会科学センター主催、RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」共催)

**開催日：** 2020年1月6日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム：**

- 10:30－11:00 Yohsuke MURASE (Center for Computational Science, RIKEN)  
 “A Software Framework for Parameter-space Exploration and its Application to Social Network Modeling”
- 11:00－11:30 Kazutoshi SASAHARA (Graduate School of Informatics, Nagoya University)  
 “Emergence of Online Echo Chambers”

**Workshop on Trade, Finance & Innovation**  
(RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」共催)

**開催日：** 2020年1月31日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 調査室（兼松記念館1階）

**プログラム：**

- 10:00－10:50 Noriaki MATSUSHIMA (Institute of Social and Economic Research, Osaka University)  
“Naked Exclusion under Exclusive-offer Competition: Experiment”
- 11:00－11:50 Tatsuyoshi MIYAKOSHI (Faculty of Science and Engineering, Hosei University)  
“Public Security and Public Goods Provision”
- 11:50－14:00 Lunch Break
- 14:00－14:50 Colin DAVIS (The Institute for the Liberal Arts, Doshisha University)  
“Innovation for Sale”
- 15:00－15:50 Yongjin WANG (School of Economics, Nankai University)  
“Escaping from Distortion via Exporting”
- 16:00－16:50 Charles Yuji HORIOKA (RIEB, Kobe University)  
“The Feldstein-Horioka Puzzle after Forty Years”

**Workshop on Public Policies and Time Zones**  
(RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」／科研基盤研究 (B)「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」共催)

**開催日：** 2020年2月26日

**会場：** 神戸大学経済経営研究所 会議室（新館2階）

**プログラム：**

- 13:20－14:10 Tatsuyoshi MIYAKOSHI (Faculty of Science and Engineering, Hosei University)  
“The Bystander Effect and Private Provision of Public Goods”
- 14:20－15:10 Dan SHENG (School of Economics, Nankai University)  
“VAT Tax Reform and Firm Markups”
- 15:20－16:10 Pramod SUR (Asian Growth Research Institute)  
“Famine and Wealth Inequality: Evidence from China”
- 16:20－17:10 Yongjin WANG (School of Economics, Nankai University)  
“Why Distance Matters for Online Trade”

17:20—18:10 Junichi ITAYA (Graduate School of Economics)  
“Replicator Dynamics of Welfare Stigma”

CCSS School on Computational Social Science  
(神戸大学計算社会科学センター主催、RIEB セミナー共催)

**開催日：** 2020年2月28日～3月1日

**会場：** 神戸大学社会科学系フロンティア館 プレゼンテーションホール  
(フロンティア館 3階)

**プログラム：**

**28<sup>th</sup> of February**

9:00—9:10 Opening  
Takashi KAMIHIGASHI (Director of Computational Social Science,  
Kobe University)

9:10—10:40 Serge GALAM (Institut d'Etudes Politiques de Paris)  
“Predicting Disruptive and Unexpected Political Events Like the Brexit and  
Trump Victories: Sociophysics Opens a New Path, Part 1”

10:40—11:00 Coffee Break

11:00—12:30 Scott HALE (Oxford Internet Institute, Oxford University)  
“Toward Representative Social Sensing: Addressing Inclusion Bias in Social  
Media Datasets”

**29<sup>th</sup> of February**

9:00—10:30 Corrado DI GIULMI (Department of Economics, University of Technology  
Sydney)  
“Agent-based Modelling in Macroeconomics”

10:30—11:00 Coffee Break

11:00—12:30 Corrado DI GIULMI (Department of Economics, University of Technology  
Sydney)  
“Statistical Mechanics Representation of Agent-based Models”

**1<sup>st</sup> of March**

9:00—10:30 Scott HALE (Oxford Internet Institute, Oxford University)  
“Monitoring Health Misinformation: An Early-detection Methodology Using  
Word Embeddings and Semantic Change Methods”

10:30—11:00 Coffee Break

11:00—12:30 Serge GALAM (Institut d'Etudes Politiques de Paris)  
“Predicting Disruptive and Unexpected Political Events Like the Brexit and  
Trump Victories: Sociophysics Opens a New Path, Part 2”

12:30—12:45

Closing

Takashi KAMIHIGASHI (Director of Computational Social Science,  
Kobe University)

## 8 学術交流協定

本研究所は、かねてから海外の研究機関と研究資料・情報の交換、研究者の相互交流、共同研究、セミナー等を通じ学問上の国際交流を進めてきたが、最近はさらにこれらの機関と学術交流協定を締結し、国際交流の一層の充実をはかろうとしている。

なお、下記の大学等と協定を締結し、研究者の交流を行っている。

- 平成 12 年 6 月 中央研究院経済研究所（中華民国）
- 平成 16 年 10 月 リオデジャネイロ連邦大学経済研究所（ブラジル連邦共和国）
- 平成 19 年 9 月 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会
- 平成 25 年 6 月 漢陽大学経済研究所（大韓民国）
- 平成 26 年 11 月 吉林大学経済学院（中華人民共和国）
- 平成 28 年 3 月 北京大学経済学院（中華人民共和国）
- 平成 28 年 6 月 南洋理工大学人文社会科学院経済学科（シンガポール）
- 平成 28 年 7 月 忠南大学校経営経済研究所（大韓民国）

## 9 海外からの招聘者（2017年～2019年度）

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
2017	Ashish MALIK	ニューキャッスル大学商法学部 講師	外国人研究員 セミナー講師	2017.4.11 ～2017.5.12
	今井 克	マンチェスター大学経済学部 准教授	セミナー講師	2017.4.18
	S. Ghon RHEE	ハワイ大学マノア校シャイドラー・カレッジ・オブ・ビジネス 特別教授	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.5.9 ～2017.5.11
	Jerry L. JORDAN	ケイター研究所 客員研究員	セミナー講師	2017.5.16
	Qingyin MA	オーストラリア国立大学経済学研究学院 博士課程	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.6.5 ～2017.6.9
	Minchul YUM	マンハイム大学経済学部 助教	セミナー講師	2017.6.7
	仲田 泰祐	連邦準備理事会	セミナー講師	2017.6.19
	柴山 克行	ケント大学ケインズカレッジ 講師	セミナー講師	2017.6.19

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	手島 健介	メキシコ自治工科大学経済研究所 准教授	セミナー講師	2017.6.30 ～2017.7.1
	Miaojie YU	北京大学国家発展研究院 教授	外国人研究員 国際シンポジウム講師	2017.8.1 ～2017.8.31
	Wei TIAN	対外経済貿易大学国際経済貿易学院 准教授	招へい外国人研究者 国際シンポジウム講師	2017.8.1 ～2017.8.31
	T. Armstrong CHANGSAN	インド総領事館 総領事	シンポジウム講師	2017.8.7
	Weimin HU	国立政治大学財政学系 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.8.28 ～2017.9.3
	Bing LI	中央財経大学国際経済貿易学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.8.28 ～2017.8.31
	Zhiyuan LI	復旦大学経済学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.8.28 ～2017.8.31
	Alan David PEARMAN	リーズ大学ビジネススクール 教授	招へい外国人研究者	2017.9.20 ～ 2017.10.19
	Roberto SERRANO	ブラウン大学経済学部 教授	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.9.27 ～2017.9.29

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Scott ROZELLE	スタンフォード大学フリーマン・スボグ リ国際研究所 シニア・フェロー	セミナー講師	2017.10.4
	Travis SELMIER	インディアナ大学政治学部 客員研究員	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.11.1 ～2017.11.2
	Junior MAIH	ノルウェー中央銀行 シニアアドバイザー	セミナー講師	2017.11.2
	Manuel NICKLICH	ベルリン自由大学経営経済学部 助教	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.11.8 ～2017.11.9
	Joerg SYDOW	ベルリン自由大学経営経済学部 教授	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2017.11.8 ～2017.11.9
	Gregory JACKSON	ベルリン自由大学経営経済学部 教授	セミナー講師	2017.11.21 ～ 2017.11.22
	Xiaosong WANG	中国人民大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～ 2017.12.017
	Guanghua WAN	復旦大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～ 2017.12.10
	Guobing SHEN	復旦大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～ 2017.12.10

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Haichao FAN	復旦大学経済学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～ 2017.12.10
	Dazhong CHENG	復旦大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～ 2017.12.10
	Changyuan LUO	復旦大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2017.12.7 ～2017.12.9
	Charles CY WANG	ハーバードビジネススクール 准教授	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Hojun SEO	シンガポール国立大学ビジネススクール 助教	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Keejae Philip HONG	ノースカロライナ大学ベルクビジネスカ レッジ 助教	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Lili DAI	ニューサウスウェールズ大学オーストラ リアビジネススクール 講師	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Haihong HE	カリフォルニア州立大学ビジネス経済カ レッジ 教授	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Guang MA	シンガポール国立大学ビジネススクール 助教	国際カンファレンス講師	2018.1.6

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Yangyang CHEN	香港理工大学会計金融学院 准教授	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Yiqing TAN	香港城市大学ビジネスカレッジ 博士課程	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	Yuan HUANG	香港理工大学会計金融学院 准教授	国際カンファレンス講師	2018.1.6
	David LAU	オークランド大学会計ファイナンス学部 講師	セミナー講師	2018.1.15
	Pao-Lien CHEN	国立清華大学科技管理研究所 准教授	外国人研究員	2018.2.2 ～2018.3.3
	Yongseung JUNG	慶熙大学校経済学部 教授／大阪大学社 会経済研究所 外国人研究員	セミナー講師	2018.2.13
	Tomasz OLEJNICZAK	コズミンスキー大学経営学部 助教／東 京大学 特任研究員	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.2.17 ～2018.2.18
	Chuan-Kai LEE	国立清華大学 准教授	招へい外国人研究者	2018.2.26 ～2018.5.31
	Jorge Mario MARTINEZ PIVA	ECLACメキシコ副本部貿易産業部 課 長	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.16 ～2018.3.30

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Enrique PERUZZOTTI	トルクェット・ディ・テラ大学国際関係学部 教授	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.14 ～2018.3.26
	Faqin LIN	中央財經大学国際經濟与貿易学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Cui HU	中央財經大学国際經濟貿易学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Mohan ZHOU	中央財經大学国際經濟貿易学院 助教	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Xiaopeng YIN	對外經濟貿易大学国際經濟貿易学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Yuwan DUAN	中央財經大学国際經濟貿易学院 助教	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Bing LI	中央財經大学国際經濟貿易学院 准教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.18 ～2018.3.20
	Kar-yiu WONG	ワシントン大学経済学部 教授	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.3.16 ～2018.3.22
2018	Jin Dong PARK	College of Business and Economics, Towson University, Associate Professor	国際シンポジウム講師	2018.4.12

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	日野 博之	University of Cape Town, the Southern Africa Labour & Development Research Unit (SALDRU), Visiting Professor	外国人研究員（客員教授）	2018.5.7 ～2018.6.29
	笹原 彰	College of Business and Economics, University of Idaho, Assistant Professor of Economics	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.5.22 ～2018.5.23
	田中 聡史	School of Economics, The University of Queensland, Lecturer	セミナー講師	2018.6.11
	Travis SELMIER	Department of Political Science, Indiana University Bloomington, Visiting Scholar	セミナー講師	2018.6.22
	手島 健介	Centro de Investigación Económica, Instituto Tecnológico Autónomo de México (ITAM), Assistant Professor	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.6.25 ～2018.6.26
	日野 将志	Department of Economics, The Ohio State University, Ph.D. student	セミナー講師	2018.6.27
	岡畑 信秀	Department of Economics, The Ohio State University, Ph.D. student	セミナー講師	2018.6.27
	Santanu ROY	Department of Economics, Southern Methodist University, Professor	外国人研究員（客員教授） 国際シンポジウム講師	2018.7.2 ～2018.8.1
	V.Srinivas, IAS	Board of Revenue for Rajasthan and Chairman, Rajasthan Tax Board, Government of Rajasthan, India, Chairman	セミナー講師	2018.7.15

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Fabian FROESE	Human Resources Management and Asian Business, Georg-August-University Göttingen, Professor	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.7.17 ～2018.7.18
	海道 宏明	Department of Economics, Boston University, Associate Professor	セミナー講師	2018.7.20
	林 貴志	Adam Smith Business School, The University of Glasgow, Professor	国際シンポジウム講師	2018.7.25
	Lijun PAN	南京大学商学院 助教	外国人研究員（客員准教授） セミナー講師	2018.8.3 ～2018.9.3
	Kenneth Neil KUTTNER	Department of Economics, Williams College, Professor／神戸大学経済経営研究所 リサーチフェロー	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2018.9.16 ～2018.9.28
	仲田 泰祐	The Federal Reserve Board, Principal Economist	セミナー講師	2018.9.18
	中村 北斗リッカード	School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg, Assistant Professor	国際シンポジウム講師	2018.10.2
	Soniya BILLORE	Department of Marketing, Linnaeus University, Senior Lecturer	国際シンポジウム講師	2018.10.2
	幸若 完壮	Department of Engineering Mathematics, University of Bristol, Research Associate	国際シンポジウム講師	2018.10.25 ～ 2018.10.26

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Mengqiao XU	Dalian University of Technology, Postdoctoral Research Fellow	国際シンポジウム講師	2018.10.25 ～ 2018.10.26
	Alain BARRAT	Aix Marseille University, Research Scientist	国際シンポジウム講師	2018.10.25 ～ 2018.10.26
	Ciro CATTUTO	ISI Foundation, Scientific Director	国際シンポジウム講師	2018.10.25 ～ 2018.10.26
	Kimmo KASKI	Aalto University, Professor	国際シンポジウム講師	2018.10.25 ～ 2018.10.26
	Bin SHENG	School of Economics, Nankai University, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.11.19 ～ 2018.11.20
	Bin QIU	School of Economics and Management, Southeast University, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.11.19 ～ 2018.11.20
	Jianzhong HUANG	Shanghai University of International Business & Economics, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.11.19 ～ 2018.11.20
	Jiandong JU	Department of Economics, Tsinghua University, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2018.11.19 ～ 2018.11.20
	Fausto MEDINA-LOPEZ	米州開発銀行 特別シニアアドバイザー ／元アジア事務所 主席駐在員	セミナー講師	2018.11.22

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Ke MAI	シンガポール国立大学 助教授	神戸大学外国人共同研究者	2018.11.28 ～ 2018.12.28
	星 岳雄	Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Stanford University, Professor	セミナー講師 国内シンポジウム講師	2018.12.5 ～2018.12.6
	Gilles DUFRENOT	Faculty of Economics and Management, Aix-Marseille University, Professor	国際シンポジウム講師	2018.12.7
	Zili ZHUANG	The Chinese University of Hong Kong, Professor	国際カンファレンス講師	2019.1.5
	Wan WONGSUNWAI	The Chinese University of Hong Kong, Professor	国際カンファレンス講師	2019.1.5
	Xu ZHANG	University of Macau, Ph.D.	国際カンファレンス講師	2019.1.5
	Daniel SAAVEDRA	University of California, Los Angeles, Professor	国際カンファレンス講師	2019.1.5
	Angie WANG	The Chinese University of Hong Kong, Professor	国際カンファレンス講師	2019.1.5
	古川 知志雄	Massachusetts Institute of Technology, Ph.D. Candidate／東京大学 特任研究員	セミナー講師 及び研究打ち合わせ	2019.1.8 ～2019.1.9

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	渡辺 誠	Department of Economics, Vrije Universiteit Amsterdam / Tinbergen Institute, Associate Professor	国内シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.1.11 ～2019.1.12
	孫 寧	南京審計大学社会与経済研究院 教授	セミナー講師	2019.1.30
	Jean-Francois HENNART	Tilburg University, Emeritus Professor of International Management and Extramural Fellow of the Center for Research in Economics and Business / DIG, Politecnico di Milano, Visiting Professor	外国人研究員（客員教授） 国際シンポジウム講師	2019.1.7 ～2019.2.8
	仲田 泰祐	The Federal Reserve Board, Principal Economist	セミナー講師	2019.2.8
	Ting ZHAO	浙江工商大学経済学院 副教授	神戸大学招聘外国人研究者 国際シンポジウム講師	2019.3.1 ～2019.9.20
	Prabir BHATTACHARYA	School of Management, Heriot-Watt University, Associate Professor of Economics	国際シンポジウム講師	2019.3.9
	Nalin BHARTI	Indian Institute of Technology Patna, Associate Professor	国際シンポジウム講師	2019.3.9
	Hao JIN	Wang Yanan Institute for Studies in Economics & School of Economics, Xiamen University, Assistant Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.3.19 ～2019.3.20

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
2019	Qingliang FAN	School of Economics, Xiamen University, Associate Professor	セミナー講師	2019.4.5
	Dan LI	School of Economics, Xiamen University, Assistant Professor	セミナー講師	2019.4.5
	Mark H. LANG	Kenan-Flagler Business School, University of North Carolina, Thomas W. Hudson, Jr./Deloitte L.L.P. Distinguished Professor	セミナー講師	2019.4.17
	Scott Arthur WILBUR	Japanese Politics, Yale University, Postdoctoral Associate	外国人研究員（客員准教授） セミナー講師	2019.5.14 ～2019.6.28
	Alberto Franco POZZOLO	Department of Economics, The University of Molise, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.5.16 ～2019.5.17
	Jian LU	School of International Business, Southwest University of Finance & Economics, Professor	国際シンポジウム講師	2019.5.16
	Wanting XIONG	Institute of World Economics and Politics, Chinese Academy of Social Sciences, Assistant Researcher	国際シンポジウム講師	2019.5.16
	Mi DAI	Business School, Beijing Normal University, Associate Professor	国際シンポジウム講師	2019.5.16
	Robert-Christian ZIEBELL	Department of Business Administration, Technical University of Valencia, Researcher	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.5.22 ～2019.5.23

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Qing LIU	School of Economics and Management, Tsinghua University, Professor	セミナー講師	2019.5.29
	日野 将志	Department of Economics, The Ohio State University, Ph.D. Student	国際シンポジウム講師	2019.6.6
	In Hwan JO	Department of Economics, National University of Singapore, Assistant Professor	国際シンポジウム講師	2019.6.6
	Timothy KAM	Research School of Economics, Australian National University, Associate Professor	国際シンポジウム講師	2019.6.6
	Joachim WOLF	Institute of Business Administration, Christian Albrechts-University zu Kiel, Professor	国際シンポジウム講師	2019.6.12
	Gregory CASEY	Department of Economics, Williams College, Assistant Professor	セミナー講師	2019.6.14
	Kimmo KASKI	Department of Computer Science, Aalto University School of Science, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.6.17 ～2019.6.23
	増田 直樹	Department of Engineering Mathematics, University of Bristol, Senior Lecturer	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.6.18 ～2019.6.23
	Jesus Gomez GARDENES	Department of Condensed Matter Physics, University of Zaragoza, Associate Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.6.19 ～2019.6.22

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	MinHwan LEE	School of Business, Inha University, Professor	外国人研究員（客員教授） セミナー講師	2019.6.24 ～2019.8.30
	Jean-Pascal BASSINO	Department of Social Sciences, University of Lyon, Professor／一橋大学経済研究所 招へい研究員	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.6.28 ～2019.6.29
	Arup MITRA	Institute of Economic Growth, Professor	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.7.6
	Jos van OMMEREN	School of Business and Economics, Vrije Universiteit Amsterdam, Professor	セミナー講師	2019.7.16
	秦 向東	上海交通大学安泰経済管理学院 教授	外国人研究員（客員教授） セミナー講師	2019.7.16 ～2019.8.16
	Wei ZHAO	School of Economics, Zhejiang University, Professor	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.7.19 ～2019.7.20
	Ishtiaq P. MAHMOOD	NUS Business School, National University of Singapore, Professor	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.7.22 ～2019.7.23
	Serguey BRAGUINSKY	Department of Economics, University of Maryland, Professor	セミナー講師	2019.7.26
	原 朋弘	Department of Economics, University of Maryland, Ph.D. Student	セミナー講師	2019.7.26

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Huseyin OZTURK	Central Bank of the Republic of Turkey, Tokyo Office, Representative	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.7.27 ～2019.7.28
	Andrew SMITH	Institute for Transport Studies, University of Leeds, Professor	セミナー講師	2019.8.9
	Milad GHASRI	School of Engineering and Information Technology, The University of New South Wales, Lecturer	セミナー講師	2019.8.22
	蒋 含明	江西财经大学 国際経貿学院 准教授	神戸大学招聘外国人研究者	2019.8.24 ～ (2020.4.23)
	Matthew McCARTNEY	Oxford School of Global and Area Studies, University of Oxford, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.9.28 ～2020.9.29
	Gregory F. UDELL	Kelley School of Business, Indiana University, Professor	セミナー講師	2019.9.28
	Jianye YAN	Institute of New Structural Economics, Peking University, Associate Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.5 ～2020.10.8
	Xiaodong ZHU	Department of Economics, University of Toronto, Professor	国際シンポジウム講師	2019.10.6 ～2020.10.8
	Robert DEKLE	Department of Economics, University of Southern California, Professor	国際シンポジウム講師	2019.10.7

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Min-Teh YU	Providence University & National Chiao Tung University, President / Professor	国際シンポジウム講師	2019.10.7
	Peter EGGER	Department of Management, Technology and Economics, KOF Swiss Economic Institute, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.9 ～ 2020.10.13
	Miaojie YU	Natioial School of Develoment, Peking University, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.10 ～ 2020.10.12
	Nir KSHETRI	Bryan School of Business and Economics, The University of North Carolina at Greensboro, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.10 ～ 2020.10.15
	Jean-Michel GRANDMONT	CNRS and CREST-INSEE, Paris, Senior Research Director/ University Cà Foscari Venice, Professor/Corps des Ponts et ChausséesÉcole Nationale des Ponts et Chaussées, Ingénieur Général	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.11 ～ 2020.10.16
	Eden Siu Hung YU	Chu Hai College of Higher Education Hong Kong, Vice President (Research) / Chair Professor of Economics	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.12 ～ 2020.10.15
	Santanu ROY	Department of Economics, Southern Methodist University, Professor and Department Chair/University Distinguished Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.12 ～ 2020.10.15
	Ronald P. TOBY	Department of History, University of Illinois, Professor Emeritus	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.12 ～ 2020.10.15

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Alain VENDITTI	Groupement de Recherche en Economie Quantitative d'Aix Marseille (GREQAM), Research Director/ Accounting, Law, Finance and Economics Department, EDHEC Business School, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.13 ～ 2020.10.15
	浜田 宏一	Department of Economics, Yale University, Tuntex Emeritus Professor of Economic / 内閣官房参与 / 東京大学 名誉教授 s	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.10.13 ～ 2020.10.15
	Bingbing HU	School of Business, Hong Kong Baptist University, Associate Professor	セミナー講師 神戸大学招聘外国人研究者	2019.10.31 2019.11.3 ～ 2020.11.18
	Ping WANG	Department of Economics, Washington University in St. Louis, Professor / FRB of St. Louis / NBER	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.15 ～ 2020.11.17
	Raymond RIEZMAN	Department of Economics and Business Economics, Aarhus University / UC / University of Iowa, Visiting Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.15 ～ 2020.11.17
	Been-Lon CHEN	Institute of Economics, Academia Sinica, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.15 ～ 2020.11.17
	Chong Kee YIP	Department of Economics, Chinese University of Hong Kong, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.15 ～ 2020.11.17
	Yong WANG	Institute of New Structural Economics, Peking University, Associate Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.15 ～ 2020.11.17

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	James MARKUSEN	Department of Economics, University of Colorado, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.25 ～ 2020.11.26
	Ann CARLOS	Department of Economics, University of Colorado, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.11.25 ～ 2020.11.26
	Keunkwan RYU	Department of Economics, Seoul National University, Professor	外国人研究員（客員教授） 国際シンポジウム講師	2019.12.10 ～2020.1.10
	Ajay SINGH	Human Resource Management, Indian Institute of Management (IIM) Lucknow Professor	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.12.13 ～ 2019.12.14
	Jeong-Bon KIM	Department of Accountancy, City University of Hong Kong, Professor	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2019.12.20 ～ 2019.12.24
	Kai Cheung CHU	Hong Kong Polytechnic University, Ph.D.	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Henock LOUIS	The Pennsylvania State University, Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Rui GE	Shenzhen University, Assistant Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Philip Keejae HONG	Central Michigan University, Associate Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Hong XIAO	Xiamen University, Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Zilong ZHANG	City University of Hong Kong, Assistant Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Wan WONGSUNWAI	The Chinese University of Hong Kong, Associate Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Chia-Ling CHAO	National Chung Cheng University, Associate Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Zili ZHUANG	The Chinese University of Hong Kong, Associate Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Hao-Chang SUNG	Jinan University, Ph.D.	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Qingmei XUE	Nanjing University, Associate Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Wentao WU	Clarkson University, Assistant Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Jerry CHEN	The University of Auckland, Lecturer	国際カンファレンス講師	2019.12.22

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Muhammad Shahin MIAH	University of Dhaka, Assistant Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Jeffrey NG	The Hong Kong Polytechnic University, Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Rajesh VIJAYARAGHAVAN	UBC Sauder School of Business, Assistant Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Chan LI	University of Kansas, Professor	国際カンファレンス講師	2019.12.22
	Kamhon KAN	Institute of Economics, Academia Sinica, Professor	セミナー講師及び研究打ち合わせ	2019.12.23 ～ 2019.12.24
	Corrado DI GUILMI	UTS Business School, University of Technology Sydney, Senior Lecturer	セミナー講師	2019.12.24
	松井 暉	University of Southern California, Viterbi School of Engineering, Ph.D. Student	国際シンポジウム講師	2020.1.6
	Emilio FERRARA	Department of Computer Science, University of Southern California, Assistant Research Professor	国際シンポジウム講師	2020.1.6
	Yongjin WANG	南開大学経済学院 教授	外国人研究員（客員教授） 国際シンポジウム講師 神戸大学招聘外国人研究者	2020.1.20 ～ (2020.4.17)

年度	氏名	所属	研究目的・用務	期間
	Michael DANZIGER	Center for Complex Network Research, Northeastern University, Postdoctoral Researcher	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2020.1.30 ～2020.2.3
	Rodrigo Pires de CAMPOS	Institute of International Relations, University of Brasilia, Associate Professor	神戸大学招聘外国人研究者	2020.2.1 ～ (2020.4.30)
	Corrado DI GUILMI	Department of Economics, University of Technology Sydney, Senior Lecturer	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2020.2.25 ～2020.3.1
	Dan SHNEG	南開大学経済学院 教授	国際シンポジウム講師	2020.2.26
	Scott HALE	Oxford Internet Institute, the University of Oxford, Senior Research Fellow/Co-Director of the Social Data Science MSc Programme	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2020.2.27 ～2020.3.5
	Serge GALAM	Institut d'Etudes Politiques de Paris, Director of Research at CNRS	国際シンポジウム講師 及び研究打ち合わせ	2020.2.27 ～2020.3.14

## 10 科学研究費補助金による研究（2018・2019年度）

### 基盤研究（S）

研究課題	包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション（2015～2019年度）
研究組織	上東 貴志（研究代表者）、西村 和雄、高橋 亘、貝原 俊也、北野 重人、敦賀 貴之、堀井 亮、小林 照義、柴本 昌彦、岩佐 和道、小柳 義夫、齋藤 政彦、佐野 英樹、地主 敏樹、立花 実
研究目的	日本の政府債務は膨張の一途を辿っているが、財政破綻の可能性は10年以上前から叫ばれており、近い将来に財政破綻が起こるか否かは意見の分かれるところである。その大きな一因は、財政破綻リスクは直接観測できないことであると考えられる。しかし、東日本大震災で経験したように、深刻なリスクは事後的に初めて認識されることが多い。本研究の目的は、これまでの研究代表者の共同研究の成果に基づき、最新のスパコン・シミュレーション技術を駆使して、バブル崩壊・金融危機・財政破綻のリスクを事前に推定し、これらのリスクに適切に反応する包括的かつ最適な金融・財政政策を導出する手法を確立することである。さらに、多層的金融ネットワーク・モデルを構築し、同様の技術により、危機発生後の危機管理の手法の確立も目指す。

### 基盤研究（A）

研究課題	日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究（2016～2019年度）
研究組織	伊藤 宗彦（研究代表者）、西谷 公孝、遠藤 貴宏、松本 陽一、榎本 正博、濱口 伸明、高槻 泰郎、上東 貴志、喜田 昌樹
研究目的	東京証券取引所と金融庁が策定したコーポレートガバナンス・コードが本年度から開始された。従来、我が国のコーポレート・ガバナンスは企業の永続的成長を目指し、経営者と株主との関係よりもむしろ、企業と従業員、金融機関、顧客、取引先との長期的信頼関係を基に構築され、日本型経営と呼ばれてきた。しかし、優れた経営を担保するための制度や慣行は少しずつ変容し、不祥事が表面化したり、経営破たんする企業が増えてきた。神戸大学が所蔵する企業原資料、中でも、鐘紡資料には100年以上に及ぶ稟議書や帳簿などがほぼ完全な形で残されており、日本型経営の発生プロセスとその本質を明確化できる第1級の資料と考えられる。本研究では、鐘紡資料を基に、企業の発生から成長、成熟段階の経営者の意思決定プロセスを分析し、日本型経営システムの本質を再定義することにより、企業のコーポレート・ガバナンスの在り方を提言したい。

### 基盤研究（A）（海外）

研究課題	南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク（2017～2022年度）
研究組織	佐藤 隆広（研究代表者）、石上 悦朗、西山 博幸、絵所 秀紀、加藤 篤行、西尾 圭一郎、長田 華子、上池 あつ子、宇根 義己、鎌田 伊佐生、内川 秀二、安保 哲夫、上野 正樹
研究目的	本研究の課題は、目覚ましい経済成長で日本企業から最も注目されているインド・南アジア経済を、経済学・地域研究・経営学・地理学という多様なディシプリンからなる混成研究チームによって、その産業発展の特殊性と普遍性のみならず南アジア進出日系企業がその産業発展に果たす独自の役割にも焦点を当てて実証的に分析することである。本研究は、日系企業のグローバル生産ネットワークによる南アジア産業発展の再編をハイブリットモデルと新貿易理論をベースにして産業のみならず企業単位も含めて実証的に分析する。また、新しい政治経済学の立場から、南アジア産業発展の政治経済学も分析する。本研究によって、政治経済学的制約のもと、日系企業が南アジア産業発展に果たす役割が明らかに

	され、南アジアの経済成長の長期展望が得られることが期待できる。
--	---------------------------------

#### 基盤研究 (B)

研究課題	ラテンアメリカ発展停滞のパズル (2016～2018 年度)
研究組織	濱口 伸明 (研究代表者)、高橋 百合子、村上 勇介、桑山 幹夫、村上 善道
研究目的	目まぐるしく変化するラテンアメリカ・カリブ諸国 (LACs) の政治経済変動を理解するための分析枠組として、この地域の固有性が取り入れられた構造主義的アプローチによる、政治学と経済学の融合的研究を行う。本研究により、(1) 新自由主義改革がなぜ LACs の繁栄につながらなかったのか、(2) 「黄金の 10 年」の社会的成果がすでに脆弱さを見せているのはなぜか、(3) これまで行われた諸改革が持続的な制度構築と高質なガバナンスに反映されたと評価できるか、(4) 国民の経済的厚生水準の上昇と安定につながらない企画を決定したことで代表制民主主義への信頼が揺らぎ、ともすると汚職や非正規の取引がもの求められるのはなぜか、等の重層的な問題から成る「LACs 発展停滞のパズル」の全体像が明らかになる。

研究課題	貨幣のサーチ・モデルにおける価格の決定要因：理論と実験 (2016～2020 年度)
研究組織	神谷 和也 (研究代表者)、小林 創、七條 達弘、清水 崇
研究目的	貨幣のサーチ・モデルには、一般に広く価格及び社会的余剰が異なる均衡が無数に存在することが知られている。この無数に存在する定常均衡を使い、外生的ショックにより (定常均衡内で) ダイナミックに変動する現実的な状況を表現することができ、金融政策の効果の理解に飛躍的な進歩をもたらす可能性がある。そこで、当該研究は、カギとなる価格決定の要因に理論・実験両面から接近し、金融政策をはじめとする政策立案に貢献する知見を得るための実験を行い、実際の経済主体がどのような均衡・価格を選択するかを明らかにする。さらに実験結果から新たな均衡選択理論を構築する。

研究課題	人的資本と経済成長 (2016～2020 年度)
研究組織	西村 和雄 (研究代表者)、上東 貴志、岩佐 和道、関根 仁博
研究目的	我が国の経済成長は四半世紀に渡り低い水準にとどまり、2014年の一人あたりの名目GDPでは、日本は27位と9位のシンガポールや10位のアメリカに水をあけられた。経済成長と教育の効果が、国の競争力・豊かさ・大学の位置づけに関係しているのは明らかといえる。本研究は、人的資本の経済成長における役割について、理論、実証の立場から分析を行う。経済成長モデルで、人的資本の蓄積や世代間の公平性について理論的に分析を出し、教育投資の生産性への寄与について、幼児教育についての実証研究を行い、生産性や幸福感への効果を分析する。

研究課題	両替商金融から近代金融へ：新資料に基づく加島屋久右衛門と鴻池屋善右衛門の比較研究 (2016～2018 年度)
研究組織	高槻 泰郎 (研究代表者)、宮本 又郎、結城 武延、小林 延人
研究目的	本研究は、近世大坂両替商による資本蓄積過程と近代的金融機関への移行過程を分析することにより、我が国の経済が明治以降に急速な成長を遂げた背景を考察するものである。近世大坂の大両替商は、幕末に向けて収益を低下させ、明治初頭の銀目廃止によって打撃を受けたと一般的に理解されており、近世の金融市場と近代のそれとは断絶するかのよう描かれてきた。近年の研究によって、商人が利用する手形決済ネットワークが移行期においても機能していたことが明らかにされているが、大両替商の動向については、依然として不明な部分が多く

	残る。そこで本研究は、近世・近代大坂の金融界を牽引した商家・廣岡家の新発見資料を第一の検討素材として、両替金融がいかにして近代金融へと移行していったのかを具体的に描き出すことを目指す。
--	--

研究課題	企業の構造改革における参入・撤退・資源の再配分：半導体産業の実証研究（2017～2020年度）
研究組織	松本 陽一（研究代表者）、中川 功一、渡辺 周
研究目的	企業が永続的に存在しつづけるためには、変化し続ける環境に合わせて自らも変化しなければならない。そのために事業の見直しは重要な課題である。これは新規事業への進出と既存事業からの撤退によって行われるけれども、それには資源の再配分がともなう。社会制度上も法制度の面からも人員削減を避けたい日本企業としては、既存事業の人員を再配分できなければ、たとえ低収益事業であっても簡単には撤退できない。資源の再配分は事業の構造改革を実現するための、ひとつの重要な鍵である。本研究では半導体産業を対象とする独自のデータベースを構築し、撤退と参入および資源の再配分の類型化を行い、事業構造の変革の成功要因を明らかにする。個別製品の販売動向まで補足可能なデータベースを構築し、従来の研究が実現できなかった程度の精細度で分析を行うのが本研究の特色である。

研究課題	世代間移転と社会経済的地位・格差の継承に関する実証分析（2018～2022年度）
研究組織	Charles Yuji Horioka（研究代表者）、新見 陽子
研究目的	これまでの研究では、世代間における社会経済的地位の相関が強く、社会経済的地位が代々継承される傾向にあることが示されている。しかし、親から子への世代間移転（親から子への教育投資や遺産、生前贈与など）が、世代間の社会経済的地位および格差の継承にどの程度貢献しているのかは明確にされていない。そのため、本研究の目的は、親から子への様々な形の世代間移転が、世代間の社会経済的地位の継承、またそれに伴う格差の継承にどの程度貢献しているのかを、日本などからの個票データを分析することによって明らかにし、格差を軽減するための政策提言を行うことである。本研究の貢献は、(1) 世代間の社会経済的地位および格差の継承における世代間移転の役割について検証している点、(2) 親から子への移転を網羅的に捉え、様々な形の世代間移転を考慮している点、(3) 国際比較を行っている点、(4) 経済学的な観点から分析を行っている点である。

研究課題	中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析（2019～2023年度）
研究組織	趙 来勳（研究代表者）、阿部 顕三
研究目的	We examine China's labor market structure, focusing on how the labor-market reforms affect Chinese trade and FDI. We aim to build a framework that can incorporate the hukou system, the partial loosening of hukou control, and its impacts on rural-urban migration, their interplay with the surge of Chinese manufacturing, inward FDI and exports.

研究課題	地域の期待に応える地域金融モデルの構築－災害耐性、人口減少、フィンテック（2019～2021年度）
研究組織	家森 信善（研究代表者）、小川 光、永田 邦和、播磨谷 浩三、藤原 賢哉、濱口 伸明、栗原 裕、奥田 真之、近藤 万峰、北野 重人、柳原 光芳
研究目的	リレーションシップバンキング研究をベースに、①頻発する自然災害への対応、②人口減少への対応、③フィンテックの活用、といった3つの論点を切り口にして、地域金融機関に対するアンケート調査を実施し、新しい銀行モデルのあるべ

	き姿、それを実現するための経営・組織上の課題、および、そうした新しい銀行モデルにおける銀行行政の課題について分析し、政策当局や金融機関経営者に対して有効な政策提言を行う。
--	---

研究課題	社会・環境・経済問題の同時解決を目指すサステナビリティ会計の体系的研究 (2019～2021年度)
研究組織	西谷 公孝 (研究代表者)、國部 克彦、遠藤 貴宏、Mohammad HAIDER
研究目的	本研究では、①社会・環境と株主・投資家を繋ぐ情報開示内容・情報の質の分析、②社会・環境と企業を繋ぐマテリアルフローコスト会計の分析の2つの側面から、③先進国偏重であった従来までの知見を標準化するために国際比較分析を行い、それらを学術的、実務的に一体化した社会・環境と企業の持続可能性を地球全体で同時に解決するための新しいサステナビリティ会計の開発やその利用に関する政策的課題を明らかにする。

### 基盤研究 (C)

研究課題	動学的貿易モデルを用いた経済発展と所得格差に関する理論分析 (2016～2018年度)
研究組織	岩佐 和道 (研究代表者)、趙 来勲
研究目的	国際貿易が経済発展や各国の所得分配に及ぼす影響に関して、これまで多くの研究がなされてきた。しかし貿易モデルをもちいた理論分析では、通常、家計の選好として相似拡大的選好が仮定され、さらに動学的貿易モデルにおいては、一定の時間選好率が仮定されてきた。これらの仮定は分析を大幅に簡便化する一方で、現実のデータとは整合的ではないことが実証研究から明らかにされている。本研究の目的は、非相似拡大的選好および内生的時間選好を導入することで、より現実に即した動学的貿易モデルを提示し、それらのモデルの基本的な性質を明らかにするとともに、長期的な貿易利益や貿易と各国間の所得格差等に関する理論分析および政策の提言を行うことである。具体的には、(1) 生産の外部性、(2) 内生的時間選好と所得格差、(3) 内生的時間選好と不決定性、及び (4) 多数財に対する非相似拡大的選好に関してモデルを構築し理論分析を行う。

研究課題	先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策 (2016～2020年度)
研究組織	北野 重人
研究目的	本研究は政界経済の大きなリスク要因として近年関心の高まっている、先進国の金融正常化後に生じる可能性がある新興国からの資本流出や危機に関して、それに対応する主要な3つのマクロ政策 (金融政策、資本規制政策、為替相場制度の選択) について分析を行う。主な研究の目的は、マクロ経済学において近年活発に研究が進んでいる金融市場の不完全性、不完備性等を考慮した金融フリクションに関するモデルをより明示的に導入することで、金融部門が未発達である新興国のマクロ政策に関して、これまでの研究よりも現実妥当性の高い政策評価を行うことである。

研究課題	Outbound Japanese M&A and Target Employee (2016～2018年度)
研究組織	Ralf Bebenroth
研究目的	This kaken proposal is to research about outbound Japanese cross-border M&A. Already in the late 80s, several unsuccessful acquisitions by Japanese firms were reported. In recent years, it becomes again popular for Japanese firms to overtake foreign firms. This research investigates about human resources at Japanese target firms abroad and tries to find answer of how post-merger integrations of targets can be accomplished successfully.

研究課題	マイクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向 (2017～2019 年度)
研究組織	佐藤 隆広
研究目的	本研究「マイクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向」は、近年、若年層が豊富に存在し経済成長も著しいインドを分析対象に設定し、全国家族健康調査(NFHS)、全国標本調査(NSS)と年次工業調査(ASI)のマイクロデータを用いて、1980年代から最近までの人口・労働・不平等の長期的な動向を分析することを目的とする。本研究は、第一に、マイクロデータを用いて、1983年から現在までの30年間にわたる人口・雇用・賃金を地域別・男女別・教育別・産業別・従業上の地位別・カースト別・宗教別に推定し直して首尾一貫したインド人口・労働統計を再構築することを試みる。第二に、出生率・労働需給・賃金・不平等の決定要因に関する定量的な実証分析を行うことを通じて、インド労働市場の長期動向を規定するメカニズムを明らかにする。

研究課題	実証分析による金融市場・実体経済における金融政策の役割の再検討 (2017～2020 年度)
研究組織	柴本 昌彦
研究目的	金融市場・実体経済における金融政策の役割を理解するには経済理論モデルを用いることが必要不可欠であるが、その現実妥当性は現状では限定的である。特に、標準的な経済理論が想定している金融政策は現実の金融政策運営と整合的ではなく、現実のデータは理論モデルの含意を必ずしも統計的に支持しない。本研究の目的は、マクロ計量経済学手法を現実のデータに応用することで総需要・総供給・金融政策の相互依存関係を再検討し、金融政策の役割の全体像を明らかにすることである。金融政策の役割に関する考え方を現実のデータと照らし合わせて再構築することは学術的にも重要な課題であるとともに、近年の中央銀行が直面している困難な経済状況を鑑みても今後の現実社会に対する中央銀行のあり方を考える上で重要な課題である。

研究課題	財務報告の質と投資の効率性の関連に関する実証研究 (2017～2019 年度)
研究組織	榎本 正博
研究目的	本研究の目的は、財務報告の質(financial reporting quality)と企業投資の効率性(investment efficiency)との関係を明らかにすることにある。両者に正の関係があれば、外部への財務報告の質の改善が企業内部の投資行動を効率化することを意味する。さらに財務報告の質と投資の効率性の両者に影響を及ぼすとされるコーポレート・ガバナンスがこの関係にどう寄与するかを示す。財務報告の質としては、会計発生高を始めとする利益の特性、会計基準の新設・改訂、財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備の報告を利用する。本研究によりいかなる財政報告の質の向上が投資の効率性の改善につながるのかを特定すれば、例えばどのような財務報告を改善させる施策が、企業の投資活動のような実体的行動を効率化するかを示すことができよう。

研究課題	市場均衡の動学的安定性と効率性に初期条件が及ぼす影響の研究 (2019～2023 年度)
研究組織	下村 研一 (研究代表者)、瀧 俊毅
研究目的	経済の初期条件である消費者の選好・資産分布と企業の競争形態が均衡の動学的安定性と効率性に与える影響を考察する。本研究では、まずなるべく単純な理論モデルを用いて一意性・複数性も含めた市場均衡の動学的安定性・不安定性の特徴づけを資産の初期分配と個人の効用関数の両面から行い、その結果を市場実験により検証したい。また、複数の寡占市場・独占的競争市場の理論モデルを用いて、動学的安定性・不安定性と総余剰の大小の特徴づけを、モデルを構成するパ

	ラメターから行い、他のすべての条件が不変な状態で、市場の競争形態あるいは企業数が変化したとき、価格、生産量、総余剰がどのように変化するかを理論分析により検証したい。
--	--

研究課題	非相似拡大的選好を用いた所得格差と経済成長に関する理論分析（2019～2021年度）
研究組織	岩佐 和道
研究目的	本研究では、二種類の消費財が存在する二部門成長モデルに、非相似拡大的選好を導入することで、所得格差の存在や拡大が経済の成長経路や長期的均衡に及ぼす影響に関して、定性的な分析を行うとともに、課税や所得移転などの経済政策の効果を定量的に評価することを目的とする。本研究には、異時点間の消費の代替弾力性が一定で非相似拡大的な効用関数の特定と、消費財と消費可能な資本財という分割を行った際における各財の所得弾力性を現実のデータから導き出すこと、および大域的な均衡経路が示し得る複雑な挙動の解析も含まれる。

研究課題	戦前期商社の内部不祥事と経営組織（2019～2022年度）
研究組織	藤村 聡
研究目的	これまで戦前期商社の人事システムを分析し、従業員の過半を学卒者（高等教育修了者）が占める人員構成や、処遇における学歴格差の稀薄さという特徴を発見した。その原因として従業員による内部不祥事に注目し、明治36年～第2次大戦期の三井物産の社報を検討した結果、不祥事には学歴による偏りが存在し、学卒者の規律意識の強さが明らかになった。今回の課題では三井物産の明治創業期～大正初年の重役会議事録を分析すると共に、件数は少ないものの長文の報告書が残る兼松や、従業員の不祥事によって突然に経営破綻した古河商事のケースも加えて、不祥事が経営組織に及ぼした負のインパクトの実態などを解明したい。

研究課題	日本の人事管理研究についての計量的学説史レビュー（2019～2021年度）
研究組織	江夏 幾多郎（研究代表者）、田中 秀樹、余合 淳
研究目的	本研究では、近年の社会科学領域において普及しつつある「システムティック・レビュー」と呼ばれる計量的な分析手法を用いて人事管理研究のレビューを行うことを通じて、当該研究領域の「これまで（状況把握）」と「これから（方針提案）」について、具体的な提言を行いたい。しかも、人事管理研究についての従来のシステムティック・レビューでは検討対象とされてこなかった「日本の人事管理研究」を検討材料とすることで、この手法の有用性の確認、手法の彫琢に加え、日本の社会的・学術的な文脈に固有の「これまで」と「これから」の提案を目指したい。

研究課題	TRIPS 協定後の製薬産業のグローバル・バリューチェーン戦略—インドを事例として（2019～2021年度）
研究組織	上池 あつ子
研究目的	本研究は、TRIPS 協定発効後の製薬産業の GVC の再編のなか、その存在感を高めるインド製薬産業の成長を GVC という概念で捉えなおし、GVC において企業が成長するための要因を明らかにすることある。聞き取り調査、年次報告書等の一時資料などに基づく文献研究、統計資料の分析から、WTO の制度改革に反応し、積極的に GVC へ参入する企業の戦略的行動を明らかにし、インド製薬企業の実像を浮き彫りにすることで、企業の戦略的行動が長期発展の要因であることを明らかにする。本研究によって、世界の知的所有権体制の改編による GVC の再編に対応する新興企業の戦略的行動を分析し、産業発展における企業の役割を再評価する。

### 挑戦的萌芽研究

研究課題	新しい貨幣モデルの構築（2016～2018年度）
研究組織	神谷 和也（研究代表者）、清水 崇
研究目的	本研究の目的は、政策効果を議論できる新しい貨幣モデルを構築することにある。貨幣サーチ・モデルなどのミクロ経済学的基礎付けを持つ貨幣モデルにおいては、連続無限個の定常均衡が存在する（つまり非決定である）ことが知られており、したがって政策効果も特定できない。一方、現実の経済においては一つの均衡のみが実現し、当然のことながら政策効果も決定する。したがって、現実経済には貨幣サーチ・モデルには内包されていない何らかの要因が存在すると考えられる。本研究では、均衡貨幣保有分布がある特性を持つか、あるいは市場制度がある条件を満たす限りにおいて均衡が決定化され、さらに政策効果も決定化されると予想し、これらの条件を満たす新しい貨幣モデルを構築する。

### 挑戦的研究（萌芽）

研究課題	高齢化社会にふさわしい金融リテラシーの新しい尺度構築の挑戦的な試み（2017～2019年度）
研究組織	家森 信善（研究代表者）、柳原 光芳
研究目的	家計金融論においては、金融リテラシーを正しく計測することが議論の前提であり、金融リテラシーの尺度については、すでに国際的に確立した尺度として、Lusardi and Mitchell (American Economic Review 2008)の3つの質問（金利計算、インフレの影響、分散投資に関する質問）が知られている。しかし、申請者はこれは国際比較としては有益であるが、日本の家計の直面する金融問題に対処する上ではもっと適切な尺度があり得るのではないかとの問題意識を持ってきた。そこで、本プロジェクトでは、新しい尺度を提案し、その尺度を使って家計金融分野の行動の歪みを予想できるかを検討し、その結果に基づいて尺度を作り直し、さらにその改定尺度を使って検証をやり直すというプロセスを繰り返すことで、高齢化社会にふさわしい金融リテラシーの標準的な尺度を構築していく。

研究課題	人口減少時代の地域再生と空間経済学（2018～2020年度）
研究組織	濱口 伸明（研究代表者）、藤田 昌久
研究目的	本研究は、検討する課題は次のようなものである。(1)人口減少局面では、集積力の減少により周辺の小都市が消滅し、東京一極集中のような単一中心空間構造に帰着する傾向があること。(2)単一中心型に対して多極分散型を促進することにより社会的厚生を高める場合があり、地方創生や、災害により人口が流出した地方都市を復旧させることが正当化されること、(3)都市から最も遠い地域において水産林業を含む農業財の差別化（ブランド化）によって、通常の農業財を生産する場合よりも高い社会的厚生が実現できること。(4)経済全体に及ぶマクロ経済ショックと災害を想定した局所的ショックに対して、農業差別化が周辺地域の人口流出の耐性を強め、地方中核都市が存在する分散的空間構造の安定性を高めること。人口減少が経済空間構造に与える影響を理論的、実証的に分析し、空間経済学の新たな地平を切り開くことを目的とする。

### 若手研究（B）

研究課題	日米地方バス事業の効率性・有効性と、それに対する土地利用形態の影響（2015～2019年度）
研究組織	松尾 美和
研究目的	路線バスをはじめとする公共交通に公的支援をするにあたっては、適切な経営努力をしたうえで補助金額の決定をしなければならない。しかし、様々な外的要因が公共交通の運営に影響するために全国一律な判断基準を経営効率の判定に

	適用するのは適切とは言えず、特におかれている条件が様々に異なる過疎地においては特に難しい。これまでの公共交通の効率性分析では、地理的条件および土地利用形態の影響については既往研究では十分な検討が行われてこなかった。本研究では地理的条件および土地利用形態が公共交通運営の効率性に与える影響を、日米の過疎地バス交通を例に評価する。手法としてはデータ包絡分析法を用いる。本研究によって経営努力によって改善不可能な地理的要因を区別することが可能となれば、公共交通のより適正な効率性評価の指標を構築することが可能となる。
--	---

研究課題	利益平準化に対する従業員および取引先の影響の研究：国際比較および日本企業の分析（2017～2019年度）
研究組織	藤山 敬史
研究目的	数多くの会計研究が利益平準化に取り組んでいるが、先行研究では資金提供者（株主や債権者）の与える影響が主な分析対象であった。近年、会計や周辺分野において従業員や取引先が企業行動に与える影響に関する研究が増えつつある。日本では従業員や取引先がコーポレート・ガバナンスの重要な主体であるが、当該両主体に関する日本企業の利益平準化の分析や労働法制が利益平準化に与える影響に関する国際比較はない。本研究の目的は、利益平準化の程度が従業員や取引先との関係性によって日本企業間で異なるのかを明らかにすること、および、国際比較により日本の相対的な位置を確認することである。本研究は先行研究への貢献に加えて、国際財務報告基準やコーポレート・ガバナンス・コードを含む日本企業のあり方に関する実務的議論に資する。

研究課題	ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究（2017～2019年度）
研究組織	村上 善道
研究目的	本研究は、ラテンアメリカ諸国における地域貿易協定（RTA）などの地域経済統合やグローバル・バリューチェーン（GVC）への統合が企業レベルの生産性や労働者の賃金格差に与えた影響を実証的に分析する。 この目的を達成するため、ラテンアメリカ諸国全体を対象としたパネルデータ分析から、GVCへの統合が国内の所得格差に与えた影響を明らかにする。さらにラテンアメリカ諸国の中でも最も早くRTAを促進してきたチリを事例に、RTAによる関税率の引き下げやGVCへの統合が生産性や賃金格差に与えた影響を事業所レベルデータや家計調査データを用いて明らかにする。

#### 研究活動スタート支援

研究課題	位置情報を用いた消費者の商圏内買い回り行動の理解（2018～2019年度）
研究組織	加藤 諒
研究目的	本研究の目的は、近年利用が可能となっている位置情報データを用いて、消費者の商圏内の買い回り行動を理解することと、それに付随する小売店舗の価格戦略との関連性を探ることである。近年国内でも価格戦略として、EDLP戦略を取る店舗が増加している。消費者はこのようなEDLP店舗と、HiLo戦略を行う店舗とから、購買先を選択する行動を取っている。本研究は、個人レベルの位置情報データとEDLP/HiLo店舗を含む複数小売店舗のPOSデータ、さらに商圏内店舗のチラシデータを取得し、消費者がHiLo店舗の値引きに対してEDLP店舗との選択の中でどのように反応しているのか、を明らかにすることを目的とする。更に産業組織論等で用いられる構造モデルや行動経済学的な参照価格の理論を用い、上記の解析で得られた示唆から価格を変更した場合、消費者の買い回りがどのように変化するのか、という反実仮想的なシミュレーションを行う。

国際共同研究加速基金

研究課題	非相似拡大的選好と内生的時間選好による動学的貿易理論の再構築（国際共同研究強化）（2016～2018年度）
研究組織	岩佐 和道
研究目的	貿易モデルをもちいた理論分析では、家計の選好に関して強い二つの仮定（相対拡大的選好と外生的に与えられた一定の主観的割引率）がおかれていた。しかし、これらの仮定は分析を大幅に簡便化する一方で、現実のデータとは全く整合的でないことがあきらかになっている。基課題の研究では、これらの仮定をおくことなく、現実のデータに整合的な動学的貿易モデルを構築し、それらのモデルの基本的な性質を明らかにしてきた。非相対拡大的選好および内生的時間選好のモデルへの導入方法、および動学的ヘクシャー・オリーモデルの定常均衡の分析に関するこれまでの研究成果をもとにして、本研究では、モデルの中で内生的に生じる家計の異質性（所得の多寡により異なる消費パターンや割引率）を明示的に取り扱ったモデルを用いて、国際貿易との国内外の所得格差の関係等に関する理論分析を行い、有効な政策提言を行うことを目的とする。

研究課題	前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究（2018～2021年度）
研究組織	高槻 泰郎
研究目的	18世紀末までは、東アジア、インド、ヨーロッパの経済発展の水準はほぼ横並びであり、アジアとヨーロッパが「大分岐」を起こしたのは19世紀以降であるということは定説となっている。一方、18世紀における中国の発展が直ちには工業化に結びつかなかったのに対して、18世紀のアジアの中では比較的遅れていた日本が19世紀後半から急速な工業化を遂げたのはなぜかという問題（「小分岐」）については、今まさに国際的な議論が活発に行われている研究課題である。 そこで、本研究課題では、清朝中国と徳川日本における公共財投資の実態を比較する。公共財の存在は工業化の前提条件となるため、19世紀以降の両国の差を生んだ要因を解明する上で有効である。具体的には、公共財投資が民間の地域リーダーの資本によって担われた清朝中国と、幕府によって指名を受けた大名が豪商から調達した資本によって大規模公共財投資を実施した徳川日本の比較を行う。

研究成果公開促進費

研究課題	企業資料デジタルデータベース（2018年度）
研究組織	伊藤 宗彦（作成代表者）
研究目的	本研究は、社会科学、特に、経済系、経営系の企業資料のデータベース化に関するものである。神戸大学の企業資料の保有数は国内で最大である。その中でも一般に公開されていない、また既存のデータベースでは検索できない資料の閲覧、複写、データ化、分析を行うためのデータベースの構築を目的とする。データベース化を計画しているのは、明治期以降の新聞記事、特に経済記事（約4万点）、会社営業報告書（諸会社：約8,100社（明治期～1953年）、鉄道関係会社、996社（明治期～昭和前期）、鉱業関係会社報告（占領初期実態調査）2,272社（1935年～10年間））企業原資料（兼松株式会社、鐘紡、廣海汽船株式会社、内外綿株式会社の企業内部資料）企業統計データ（財務データ、工業生産データ、人事・労務データ）についてデータベース化する。全て、史上初めての公開データであり、企業研究を行う上で重要な資料である。近年、PC等の性能向上は目覚ましく、テキストマイニングなど高度な分析もできるようになっている。そのためのデジタルデータベースの構築を目的とする。

11 科学研究費補助金申請・採択状況 (2017年～2019年度)

	研究 種目	基盤 研究 (S)	基盤 研究 (A)	基盤 研究 (B)	基盤 研究 (C)	挑 戰 的 萌 芽 研 究	挑 戰 的 研 究 (萌 芽)	若 手 研 究 (B)	若 手 研 究	研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援	研 究 成 果 公 開 促 進 費	国 際 共 同 研 究 加 速 基 金	新 学 術 領 域 研 究	採 択 状 況	
2017年度 教員数 29名 (2016.11.1現在)	新規申請 件数	0	1	2	4	—	3	4	—	0	2	0	2	18	
	採 択 件 数	新規	0	1	1	4	—	1	2	—	0	0	0	0	9
		継続	1	1	5	5	1	0	3	—	0	2	1	0	19
		合計	1	2	6	9	1	1	5	—	0	2	1	0	28
	新規 採択率	—	100%	50%	100%	—	33%	50%	—	—	0%	—	0%	50%	
2018年度 教員数 28名 (2017.11.1現在)	新規申請 件数	0	1	2	3	—	2	—	3	1	3	1	0	16	
	採 択 件 数	新規	0	0	0	1	—	1	—	1	1	1	1	0	6
		継続	1	2	5	8	1	1	5	—	1	0	1	0	25
		合計	1	2	5	9	1	2	5	1	2	1	2	0	31
	新規 採択率	—	0%	0%	33%	—	50%	—	33%	100%	33%	100%	—	38%	
2019年度 教員数 28名 (2018.11.1現在)	新規申請 件数	1	1	3	7	—	0	—	4	0	1	0	0	17	
	採 択 件 数	新規	0	0	3	5	—	0	—	1	0	0	0	0	9
		継続	1	2	4	5	0	2	2	1	1	0	1	0	19
		合計	1	2	7	10	0	2	2	2	1	0	1	0	28
	新規 採択率	0%	0%	100%	71%	—	—	—	25%	—	0%	—	—	53%	

## 12 科学研究費以外の外部資金の獲得（2017～2019 年度）

2017 年度

区 分	受託研究(2014 年度～2017 年度)
代 表 者	上東 貴志
プロジェクト名	『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』(領域開拓プログラム)

区 分	受託研究(2016 年度～2018 年度)
代 表 者	上東 貴志
プロジェクト名	「複数の社会経済現象の相互作用のモデル構築とその応用研究(多層マルチ時空間スケール社会・経済シミュレーション技術の研究・開発)」(⑤サブ課題 E 社会・経済シミュレーションモデルの評価手法の開発、⑤-1 近似ベイズ計算によるモデル評価技術の開発)

区 分	奨学寄附金(2017 年度～)
代 表 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	公益財団法人神戸大学六甲台後援会奨学寄附金(3 件)

区 分	奨学寄附金(2017 年度～)
代 表 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	経営戦略研究推進寄附金

区 分	奨学寄附金(2017 年度～)
代 表 者	家森 信善
プロジェクト名	公益財団法人野村財団 2018 年度社会科学研究助成

区 分	学術相談料(2017 年度)
代 表 者	家森 信善
プロジェクト名	株式会社エフアンドエム 学術相談

2018 年度

区 分	受託研究(2016 年度～2018 年度)
代 表 者	上東 貴志
プロジェクト名	「複数の社会経済現象の相互作用のモデル構築とその応用研究(多層マルチ時空間スケール社会・経済シミュレーション技術の研究・開発)」(⑤サブ課題 E 社会・経済シミュレーションモデルの評価手法の開発、⑤-1 近似ベイズ計算によるモデル評価技術の開発)

区 分	受託事業費(2018 年度～)
分 担 者	佐藤 隆広
プロジェクト名	平成 30 年度二国間交流事業協同研究・セミナー

区 分	学術相談料(2018 年度)
代 表 者	家森 信善
プロジェクト名	株式会社エフアンドエム 学術相談

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
分 担 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	公益財団法人二十一世紀文化学術財団シンポジウム等開催助成

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
代 表 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	公益財団法人神戸大学六甲台後援会奨学寄附金(3件)

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
分 担 者	西谷 公孝
プロジェクト名	メルコ学術振興財団研究助成金

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
分 担 者	上池 あつ子
プロジェクト名	医療科学研究所研究助成金

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
分 担 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	実践的経営戦略理論研究開発推進寄附金

#### 2019年度

区 分	受託研究(2016年度～2019年度)
代 表 者	上東 貴志
プロジェクト名	「複数の社会経済現象の相互作用のモデル構築とその応用研究(多層マルチ時空間スケール社会・経済シミュレーション技術の研究・開発)」(⑤サブ課題 E 社会・経済シミュレーションモデルの評価手法の開発、⑤-1 近似ベイズ計算によるモデル評価技術の開発)

区 分	受託事業費(2019年度～)
分 担 者	濱口 伸明
プロジェクト名	平成31年度二国間交流事業協同研究・セミナー

区 分	受託事業費(2018年度～)
分 担 者	佐藤 隆広
プロジェクト名	平成31年度二国間交流事業協同研究・セミナー

区 分	共同研究(2019年度～)
代 表 者	後藤 将史
プロジェクト名	AIが経営に及ぼす影響に関する理論的検討と示唆抽出

区 分	奨学寄附金(2018年度～)
代 表 者	神戸大学経済経営研究所
プロジェクト名	公益財団法人神戸大学六甲台後援会奨学寄附金(2件)

区 分	奨学寄附金(2019年度～)
分 担 者	佐藤 愛
プロジェクト名	2019年度 TCER=TIFO フェロースhip助成金

区 分	奨学寄附金(2019年度～)
分 担 者	伊藤 宗彦
プロジェクト名	現代経営学研究助成金

区 分	学術相談料(2019年度)
代 表 者	家森 信善
プロジェクト名	株式会社エフアンドエム 学術相談

### 13 科学研究費以外の外部資金の獲得状況 (2017～2019年度)

		2017年度 教員数4名	2018年度 教員数4名	2019年度 教員数7名
区 分	受託研究	2	1	1
	受託事業	0	1	2
	文科省補助金事業	0	0	0
	NEDO	0	0	0
	奨学寄附金	5	7	4
	共同研究	0	0	1
	学術相談	1	1	1
合計採択件数		8	10	9
合計金額(円)		18,592,223	22,008,224	15,556,610

## 14 研究所刊行物（2017年4月～2020年3月 不定期刊行物は最新刊）

### 経済経営研究（年報）（年1回刊・A5版）

#### ◆第67号〔2018年3月刊行〕

日本の国際化戦略とラテンアメリカ 浜口 伸明

地方創生に関する地域金融の現状と課題－2017年・金融機関本部向け調査の概要報告－ 家森 信善  
富村 圭  
尾島 雅夫  
朱 彤

BRICS 経済の発展経路－成長回帰分析を用いて－ 水野 寛之  
村上 善道  
佐藤 隆広

#### ◆第68号〔2019年3月刊行〕

NAFTA 再交渉の経緯と日本企業の直接投資への影響 浜口 伸明

中小企業から見た中小企業に対する各種支援の取り組みの現状と課題－「中小企業に対する金融経営支援に関する調査」の概要報告－ 家森 信善  
海野 晋悟

インドのバイオ医薬品企業の経営戦略－Biocon の事例研究を中心に－ 上池 あつ子

#### ◆第69号〔2020年3月刊行〕

人文社会科学の研究評価について 浜口 伸明

インド自動車産業における就業者とその特徴： 佐藤 隆広  
インド政府の「定期労働力調査」(Periodic Labour Force Survey: PLFS)  
を利用して

わが国の高等学校における金融・証券教育の現状と課題 家森 信善  
－高等学校教員に対する調査結果に基づく考察－ 上山 仁恵  
柳原 光芳

インド製薬企業のオープンイノベーション 上池 あつ子

書評：上池あつ子『模倣と革新のインド製薬産業史 後発国のグローバル・バリューチェーン戦略』（ミネルヴァ書房、2019年刊） 絵所 秀紀

ラテンアメリカの国際経済への参入の質を考える： 桑山 幹夫  
新構造主義学派の見地から

### 研究叢書（和文叢書・不定期刊・A5版）

#### ◆78号〔2019年3月刊行〕

『鐘紡資料叢書 株主総会編 第1巻』 伊藤 宗彦（編）

◆79号 [2019年3月刊行]  
『鐘紡資料叢書 株主総会編 第2巻』 伊藤 宗彦 (編)

◆80号 [2020年3月刊行]  
『鐘紡資料叢書 株主総会編 第3巻』 伊藤 宗彦・國本 光正・加島 美和 (編)

◆81号 [2020年3月刊行]  
『鐘紡資料叢書 株主総会編 第4巻』 伊藤 宗彦・國本 光正・加島 美和 (編)

**KOBE ECONOMIC & BUSINESS RESEARCH SERIES** (欧文叢書・不定期刊)

◆No.19 [2014年3月刊行]  
How Can Africa Flourish with Ethnic Diversity? Synopsis of the Fifth Kobe University / JICA Conference on Ethnic Diversity and Economic Instability in Africa  
Hiroyuki HINO  
John LONSDALE  
Taylor St. JOHN

**現代経済経営シリーズ／MODERN ECONOMIC & BUSINESS SERIES** (和英混在叢書・不定期刊)

◆3号／No.3 [2008年3月刊行]  
Globalization and Economic Development in East Asia: Lecture Notes of Professor Henry Y. Wan Jr.  
Henry Y. WAN Jr.  
Koji SHIMOMURA

**兼松資料叢書** (和文叢書・不定期刊・A5版)

**日豪間通信**

◆ 別巻 「兼松は語る～『兼松史料』で読み解く戦前期の歩み～」 藤村 聡  
[2011年3月刊行]

◆ 大正期シドニー来状 第VII巻 [2013年3月刊行] 神戸大学経済経営研究所

**商店史料**

◆ 兼松商店史料 第II巻 [2007年3月刊行] 神戸大学経済経営研究所

**経済経営研究叢書 (金融研究シリーズ)** (和文叢書・不定期刊・A5版)

◆No.8 [2020年3月刊行]  
「人生100年時代の金融リテラシーと金融サービス」 家森 信善 (編著)

**THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW**

◆Vol.7 [2017年12月刊行]  
・MAIN ARTICLES  
How do Normative and Compliant CSR Affect the Earnings Quality of Japanese Firms?  
Zhaoyan GU  
Keiichi KUBOTA  
Hitoshi TAKEHARA

◆Vol.8 [2018年12月刊行]  
・MAIN ARTICLES  
Evaluation of Managerial Ability in the Japanese Setting  
Hsihui CHANG

Souhei ISHIDA  
Takuma KOCHIYAMA

◆Vol.9〔2019年12月刊行〕

・MAIN ARTICLES

The Effect of Bank Loan Dependence on Management and Analyst  
Forecasts

Saori NARA  
Mikiharu NOMA

Discussion Paper Series (不定期刊・A4版)

◆ 欧文

- |                           |  |  |
|---------------------------|--|--|
| DP2017-14<br>〔2017年5月〕    | Great East Japan Earthquake and Risk Management for Small and Medium-Sized Enterprises —How Do Japanese SMEs Prepare against Natural Disasters?— | Nobuyoshi YAMORI<br>Yoshihiro ASAI   |
| DP2017-15<br>〔2017年5月〕    | Mind Your Language!: Role of Target Firm Language in Post-Merger Integration   | Ashish MALIK<br>Ralf BEBENROTH   |
| DP2017-16<br>〔2017年7月改訂〕  | Measuring Social Change Using Text Data: A Simple Distributional Approach  | Takashi KAMIHIGASHI<br>Kazuhiro SEKI<br>Masahiko SHIBAMOTO   |
| DP2017-17<br>〔2017年6月〕    | Do Agricultural Marketing Laws Matter for Rural Growth? Evidence from the Indian States  | Purnima PUROHIT<br>Katsushi S. IMAI<br>Kunal SEN   |
| DP2017-18<br>〔2019年10月改訂〕 | Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel   | Shigeto KITANO<br>Kenya TAKAKU   |
| DP2017-19<br>〔2019年8月改訂〕  | A Review of the Literature on Productivity Impacts of Global Value Chains and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach          | Yoshimichi MURAKAMI<br>Keijiro OTSUKA  |
| DP2017-20<br>〔2017年8月〕    | A Pragmatic Method for Model-Selection Based on the Widely Applicable Bayesian Information Criterion   | Hiroyuki WATANABE  |
| DP2017-21<br>〔2017年9月〕    | Examining Shanghai Consumer Preferences for Electric Vehicles and Their Attributes   | Yongyou NIE<br>Enci WANG<br>Qinxin GUO<br>Junyi SHEN   |
| DP2017-22<br>〔2018年3月改訂〕  | Effects of Trade Liberalization on the Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector                             | Manabu FURUTA<br>Prabir BHATTACHARYA<br>Takahiro SATO  |
| DP2017-23<br>〔2017年9月〕    | Examining Japanese Women's Preferences for a New Style of Postnatal Care Facility and Its Attributes   | Junyi SHEN<br>Takako NAKASHIMA<br>Izumi KARASAWA<br>Tatsuro FURUI<br>Kenichiro MORISHIGE<br>Tatsuyoshi SAIJO |
| DP2017-24<br>〔2019年4月改訂〕  | Risk-Taking Channel of Unconventional Monetary Policies in Bank Lending  | Kiyotaka NAKASHIMA<br>Masahiko SHIBAMOTO<br>Koji TAKAHASHI   |

DP2017-25 〔2017年10月〕	Organizational Refinements of Nash Equilibrium	Takashi KAMIHIGASHI Kerim KESKIN Çağrı SAĞLAM
DP2017-26 〔2017年10月〕	Roles of Agricultural Transformation in Achieving Sustainable Development Goals on Poverty, Hunger, Productivity, and Inequality	Katsushi S. IMAI
DP2017-27 〔2017年10月〕	Binary Collective Choice with Multiple Premises	Masaki MIYASHITA
DP2017-28 〔2017年10月〕	How Do Accounting and Legal Experts View the Role of Regional Financial Institutions in Supporting SMEs? —Based on a 2016 Questionnaire Study of Accounting and Legal Experts—	Nobuyoshi YAMORI Koji YONEDA
DP2017-29 〔2017年10月〕	New Hires' Job Satisfaction Time Trajectory	Ralf BEBENROTH Jose O.L. BERENQUERES
DP2017-30 〔2017年11月〕	Profit or Environment? A System Dynamic Model Analysis of Waste Electrical and Electronic Equipment Management System in China	Qinxin GUO Enci WANG Yongyou NIE Junyi SHEN
DP2017-31 〔2017年11月〕	Behavioral Heterogeneity: Pareto Distributions of Homothetic Preference Scales and Aggregate Expenditures Income Elasticities	Jean-Michel GRANDMONT
DP2017-32 〔2017年11月〕	Countercyclical Endogenous Uncertainty Shocks, Efficiency Wages and Procyclical Precautionary Labor Productivity	Jean-Michel GRANDMONT
DP2017-33 〔2017年11月〕	Current Situation and Challenges of Human Resources Management of Financial Institutions: Based on the 2017 Attitude Survey of Young and Mid-Level Staff of Japanese Financial Institutions	Nobuyoshi YAMORI Koji YONEDA
DP2017-34 〔2017年12月〕	Robust Comparative Statics for Non-monotone Shocks in Large Aggregative Games	Carmen CAMACHO Takashi KAMIHIGASHI Çağrı SAĞLAM
DP2018-01 〔2018年1月〕	Factors Affecting Participation in Health Checkups: Evidence from Japanese Survey Data	Riko NOGUCHI Junyi SHEN
DP2018-02 〔2018年1月〕	Spatial Poverty and Inequality in South Africa: A Municipality Level Analysis	Anda DAVID Nathalie GUILBERT Nobuaki HAMAGUCHI Yudai HIGASHI Hiroyuki HINO Murray LEIBBRANDT Muna SHIFA
DP2018-03 〔2018年2月〕	Japan's Credit Guarantee System Reform of 2017 and New Functions of Credit Guarantee Associations	Nobuyoshi YAMORI

DP2018-04 〔2018年2月〕	The Effect of Anchoring on Dishonest Behavior	Hiromasa TAKAHASHI Junyi SHEN
DP2018-05 〔2018年3月〕	Combinations of Different Length Contracts in a Multiperiod Model: Short, Medium and Long-term Contracts	Meg ADACHI-SATO Kazuya KAMIYA
DP2018-06 〔2018年3月〕	Cross-Country Research on Earnings Quality: A Literature Review and Future Opportunities	Masahiro ENOMOTO
DP2018-07 〔2018年3月〕	Do Environmental Disclosures and Their Credibility Play a Role in Linking Corporate Environmental Performance and Shareholder Value?	Kimitaka NISHITANI M. B. HAIDER Katsuhiko KOKUBU
DP2018-08 〔2018年3月〕	Dynamics of Standard Setter's Translation: 'Goodwill' in Japanese GAAP	Saori MATSUBARA Takahiro ENDO Keishi FUJIYAMA
DP2018-09 〔2018年3月〕	Contract Rigidity and Timeliness of Accounting Information	Kazunori MIWA Yutaro MURAKAMI Atsushi SHIIBA Satoshi TAGUCHI
DP2018-10 〔2018年3月〕	Periodic Solutions of the One-sector Growth Model: The Role of Income Effects	Kazumichi IWASA Gerhard SORGER
DP2018-11 〔2018年3月〕	Carpooling and Drivers without Household Vehicles: Gender Disparity in Automobility among Hispanics in the U.S.	Miwa MATSUO
DP2018-12 〔2020年2月改訂〕	The Effect of Corporate Governance on the Relationship between Accounting Quality and Trade Credit: Evidence from Japan	Masahiro ENOMOTO
DP2018-13 〔2018年5月〕	Cherry Picking versus Lemon Grabbing: Target Selection of Cross-Border and Domestic Acquisitions in Japan	Ralf BEBENROTH Pao-Lien CHEN
DP2018-14 〔2018年5月〕	Semiparametric Bayes Instrumental Variable Estimation with Many Weak Instruments	Ryo KATO Takahiro HOSHINO
DP2018-15 〔2018年5月〕	Semiparametric Bayes Multiple Imputation for Regression Models with Missing Mixed Continuous-Discrete Covariates	Ryo KATO Takahiro HOSHINO
DP2018-16 〔2018年8月改訂〕	Globalization and Income Inequality in Latin America: A Review of Theoretical Developments and Recent Evidence	Yoshimichi MURAKAMI
DP2018-17 〔2018年7月〕	How Can Regional Financial Institutions Promote Regional Revitalization in Japan?: Results of the 2017 Survey on Regional Finance	Nobuyoshi YAMORI Kei TOMIMURA
DP2018-18 〔2018年8月〕	An Axiomatic Foundation of the Multiplicative Human Development Index	Yoko KAWADA Yuta NAKAMURA Shuhei OTANI
DP2018-19 〔2018年8月〕	Generalized Potentials, Value, and Core	Takaaki ABE Satoshi NAKADA

DP2018-20 〔2018年10月〕	Does the Old Age Pension Scheme Improve Household Welfare? Evidence from India	Vidhya UNNIKRISHNAN Katsushi S. IMAI
DP2018-21 〔2018年11月〕	The Effect of Voluntary IFRS Adoption on Information Asymmetry: Evidence from Japan	Jong-Hoon KIM Keishi FUJIYAMA Yuya KOGA
DP2018-22 〔2018年11月〕	Revisiting the Impact of Impure Public Goods on Consumers' Prosocial Behavior: A Lab Experiment in Shanghai	Qinxin GUO Enci WANG Yongyou NIE Junyi SHEN
DP2018-23 〔2018年11月〕	The Pivotal Mechanism Versus the Voluntary Contribution Mechanism: An Experimental Comparison	Tatsuki HOMMA Junyi SHEN Takuma WAKAYAMA Hirofumi YAMAMURA Takehiko YAMATO
DP2018-24 〔2018年11月〕	The Expansion of Higher Education and Wage Inequality in Chile	Yoshimichi MURAKAMI Tomokazu NOMURA
DP2019-01 〔2019年1月〕	Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Financial Market Incompleteness	Shigeto KITANO Kenya TAKAKU
DP2019-02 〔2019年3月〕	Pacific Alliance: A Latin American Version of "Open Regionalism" in Practice	Mikio KUWAYAMA
DP2019-03 〔2019年3月〕	On the Real Determinacy and Indeterminacy of Stationary Equilibria in Monetary Models	Kazuya KAMIYA
DP2019-04 〔2019年3月〕	Roles of Agricultural Transformation in Achieving Sustainable Development Goals on Poverty, Hunger, Productivity, and Inequality	Katsushi S. IMAI
DP2019-05 〔2019年3月〕	TPP11 (CPTPP): Its Implications for Japan-Latin America Trade Relations in Times of Uncertainty	Mikio KUWAYAMA
DP2019-06 〔2019年3月〕	Firm Heterogeneity and the Activity of Japanese Manufacturing Multinationals in India	Hiroyuki NISHIYAMA Azusa FUJIMORI Takahiro SATO
DP2019-07 〔2019年3月〕	Patterns of Influence of Environmental Performance on Economic Performance: An Empirical Study of Japanese Manufacturing Firms	Kimitaka NISHITANI Katsuhiko KOKUBU
DP2019-08 〔2019年3月〕	The Escalation of Lies: An Experimental Study of the Repeated Deception Game	Kazunori MIWA Satoshi TAGUCHI Tatsushi YAMAMOTO
DP2019-09 〔2019年3月〕	Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks	Kiyotaka NAKASHIMA Masahiko SHIBAMOTO Koji TAKAHASHI

DP2019-10 〔2019年4月〕	Through Trade Wars, East Asians Finally Learning to Cooperate with Each Other?	Laixun ZHAO
DP2019-11 〔2019年4月〕	Children Without Soccer Mom or Dad: Impacts of Parents' Auto-Immobility to Children's Travel	Miwa MATSUO
DP2019-12 〔2019年6月〕	The Nucleolus, the Kernel, and the Bargaining Set: An Update	Elena IÑARRA Roberto SERRANO Ken-Ichi SHIMOMURA
DP2019-13 〔2019年8月改訂〕	Double Implementation in Dominant Strategy Equilibria and Ex Post Equilibria with Private Values	Makoto HAGIWARA
DP2019-14 〔2019年7月〕	An Empirical Comparison Between Discrete Choice Experiment and Best-worst Scaling: A Case Study of Mobile Payment Choice	Qinxin GUO Junyi SHEN
DP2019-15 〔2019年7月〕	Cultural Factors and Study Destinations of International Students	Hao WEI Ran YUAN Laixun ZHAO
DP2019-16 〔2019年9月〕	The Current State of Financial Education in Japanese Senior High Schools -A Summary of the Results from a 2019 Survey Conducted Among Senior High School Teachers-	Nobuyoshi YAMORI Hitoe UEYAMA Mitsuyoshi YANAGIHARA
DP2019-17 〔2019年9月〕	International Talent Inflow and R&D Investment: Firm-level Evidence from China	Hao WEI Ran YUAN Laixun ZHAO
DP2019-18 〔2019年10月〕	Reappraisal of Japan-LAC Trade and Investment Relations Amid China's Ascendance	Mikio KUWAYAMA
DP2019-19 〔2019年10月改訂〕	Infrastructure Bottlenecks and Dual-Channel Exporters	Xiao FENG Yongjin WANG Laixun ZHAO
DP2019-20 〔2019年10月〕	Consumer's Financial Literacy and Financial Troubles: Based on the 2016 Survey on Financial Literacy and Financial Troubles	Nobuyoshi YAMORI Hitoe UEYAMA
DP2019-21 〔2019年10月〕	Efficiency of Monetary Exchange with Divisible Fiat Money: An Experimental Approach	Kazuya KAMIYA Hajime KOBAYASHI Tatsuhiko SHICHIJO Takashi SHIMIZU
DP2019-22 〔2019年11月〕	The Impact of a Failed Coup d'État on Happiness, Life Satisfaction, and Trust: The Case of the Plot in Turkey on July 15, 2016	K. Ali AKKEMIK Gerçek ÇIÇEK Charles Yuji HORIOKA Yoko NIIMI
DP2019-23 〔2019年11月〕	Household Debt and Aging in Japan	Charles Yuji HORIOKA Yoko NIIMI
DP2019-24 〔2019年12月〕	Fast Value Iteration: An Application of Legendre-Fenchel Duality to a Class of Deterministic Dynamic Programming Problems in Discrete Time	Ronaldo CARPIO Takashi KAMIHIGASHI

DP2019-25 〔2019年12月〕	Fair Trade and Wellbeing Improvements: Evidence from Sri Lanka	Hannah HOLMES Katsushi S. IMAI
DP2019-26 〔2019年12月〕	The Impact of Bequest Motives on Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis	Charles Yuji HORIOKA Emin GAHRAMANOV Aziz HAYAT Xueli TANG
DP2019-27 〔2019年12月〕	A Review of Data Used in Education Research: Focus on Empirical Studies in Developing Countries	Phal CHEA
DP2020-01 〔2020年1月〕	Valuing Rural Residents' Attitude Regarding agri-environmental Policy in China: A Best-worst Scaling Analysis	Qinxin GUO Junyi SHEN
DP2020-02 〔2020年1月〕	Was the Expansion of Housing Credit in Japan Good or Bad?	Charles Yuji HORIOKA Yoko NIIMI
DP2020-03 〔2020年1月〕	Formal Institutional Uncertainty and Equity Sought on Foreign Market Entry: Does Industry Matter?	Kashif AHMED Ralf BEBENROTH Jean-François HENNART
DP2020-04 〔2020年1月〕	Can Material Flow Cost Accounting as a Mediating Instrument Contribute to the Sustainable Development Goals?	Katsuhiko KOKUBU Hirotsugu KITADA Kimitaka NISHITANI Aki SHINOHARA
DP2020-05 〔2020年1月〕	Financial Market Incompleteness and International Cooperation on Capital Controls	Shigeto KITANO Kenya TAKAKU
DP2020-06 〔2020年2月〕	Semiparametric Bayesian Instrumental Variables Estimation for Nonignorable Missing Instruments	Ryo KATO Takahiro HOSHINO
DP2020-07 〔2020年2月〕	Giving up Job Search Because I Don't Have a Car: Labor Market Participation and Employment Status Among Single Mothers With and Without Cars	Miwa MATSUO Hiroyuki ISEKI
DP2020-08 〔2020年2月〕	Financial Literacy and Securities Investments: Based on the Results of "Survey on Wealth Building, Securities Investment and Financial Literacy"	Nobuyoshi YAMORI Hitoe UEYAMA
DP2020-09 〔2020年2月〕	Necessity to Integrate Operational Business During M&A: The Effect of Employees' Vision and Cultural Openness	Ralf BEBENROTH Robert A. GOEHLICH
DP2020-10 〔2020年2月〕	Time Preference and International Trade	Kazumichi IWASA Kazuo NISHIMURA
DP2020-11 〔2020年3月〕	Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile	Yoshimichi MURAKAMI
DP2020-12 〔2020年3月〕	Theorization of Institutional Change in the Rise of Artificial Intelligence	Masashi GOTO

DP2020-13 〔2020年3月〕	Technological Diffusion through Foreign Direct Investment: A Firm-level Analysis of Indian Manufacturing Industries	Azusa FUJIMORI Manabu FURUTA Takahiro SATO
DP2020-14 〔2020年3月〕	Does the Selfish Life-Cycle Model Apply in the Case of Japan?	Charles Yuji HORIOKA
DP2020-15 〔2020年3月〕	Japan's Monetary Policy: A Literature Review and Empirical Assessment	Masahiko SHIBAMOTO Wataru TAKAHASHI Takashi KAMIHIGASHI

◆ 和文

DP2017-J07 〔2017年4月〕	政府系金融機関と民間金融機関の連携による企業支援—連携商品と再生支援の現状—	家森 信善
DP2017-J08 〔2017年4月〕	金融機関職員から見た金融機関の人材マネジメントの現状と課題—2017年「若年および中堅の金融機関職員の意識調査」の結果の概要—	家森 信善 米田 耕士
DP2017-J09 〔2017年7月〕	中小企業から見た中小企業に対する各種支援の取り組みの現状と課題—「中小企業に対する金融経営支援に関する調査」の概要報告—	家森 信善 海野 晋悟
DP2017-J10 〔2017年7月〕	地方創生に関する地域金融の現状と課題—2017年・金融機関本部向け調査の概要報告—	家森 信善 富村 圭 尾島 雅夫 朱 彤
DP2017-J11 〔2019年4月改訂〕	ラテンアメリカの国際経済への参入の「質」を考える：新構造主義派の見地から	桑山 幹夫
DP2017-J12 〔2017年9月〕	広く使えるベイズ情報量規準(WBIC)の応用について：線形回帰モデルを例に	渡辺 寛之
DP2017-J13 〔2017年11月〕	利益の質に関する国際比較研究の進展と展望	榎本 正博
DP2017-J14 〔2017年12月〕	日本企業による利益平準化	藤山 敬史 古賀 裕也
DP2017-J15 〔2017年12月〕	FX投資における個人投資家の保護の論点	家森 信善
DP2018-J01 〔2018年1月〕	最近の人民元の動向について	井澤 秀記
DP2018-J02 〔2019年5月改訂〕	ラテンアメリカ経済は何故長期にわたり停滞するのか？：新構造主義学派の見解を軸として	桑山 幹夫
DP2018-J03 〔2018年3月〕	大坂米市場の形成と気象変動	高槻 泰郎

DP2018-J04 〔2018年3月〕	インドのバイオ医薬品企業の経営戦略－Bioconの事例研究を中心に	上池 あつ子
DP2018-J05 〔2018年5月〕	リレーションシップ・競争環境と地域銀行の貸出行動	尾島 雅夫
DP2018-J06 〔2018年5月〕	高齢者の金融リテラシー計測の試み－「高齢者の金融リテラシーと金融行動に関する調査」の概要報告－	家森 信善 上山 仁恵 柳原 光芳
DP2018-J07 〔2018年7月〕	ラテンアメリカで地域統合の新しい潮流として蘇る「開かれた地域主義」	桑山 幹夫
DP2018-J08 〔2018年12月〕	創業支援のための信用保証制度の利用の現状と課題－愛知県信用保証協会アンケート調査結果の報告－	家森 信善 尾島 雅夫
DP2019-J01 〔2019年3月〕	近世日本経済の発展と金融に関する一試論	高槻 泰郎
DP2019-J02 〔2019年3月〕	わが国の高等学校における金融・証券教育の現状と課題－高等学校教員に対する調査結果の概要－	家森 信善 上山 仁恵 柳原 光芳
DP2019-J03 〔2019年3月〕	インド農家における経済活動の多様化：インド「全国標本調査」(National Sample Survey)の個票データを利用して	佐藤 隆広
DP2019-J04 〔2019年3月〕	インドにおけるフィンテックの現状	西尾 圭一郎 佐藤 隆広
DP2019-J05 〔2019年3月〕	鐘淵紡績における工場経営－1904年から1913年までの鐘紡資料をもとに－	伊藤 宗彦 松本 陽一
DP2019-J06 〔2019年3月〕	インドにおけるスズキの競争力：製品特性分析による企業戦略と競争力の探索	上野 正樹 佐藤 隆広
DP2019-J07 〔2019年8月〕	金融リテラシーと証券投資を通じた資産形成－「金融リテラシーと証券投資を通じた資産形成に関する調査」結果の概要－	家森 信善 上山 仁恵
DP2019-J08 〔2019年10月〕	人文社会科学の研究評価について	浜口 伸明
DP2019-J09 〔2019年11月〕	高齢者の金融リテラシーと資産運用－2019年「高齢者向けの金融サービスの利用状況に関する調査」の結果概要－	家森 信善 荒木 千秋 上山 仁恵
DP2019-J10 〔2019年12月〕	日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？	ホリオカ、チャー ルズ ユウジ
DP2020-J01 〔2020年1月〕	金融リテラシーと借入れ行動－「住宅ローン利用者の借入行動と金融リテラシーに関する調査」の結果の概要－	家森 信善 上山 仁恵

DP2020-J02 〔2020年1月〕	従業員と会計・情報開示	藤山 敬史 森脇 敏雄 深谷 優介
DP2020-J03 〔2020年2月〕	中小企業の事業承継の現状と金融機関や信用保証協会による事業承継支援の課題－兵庫県の中企業に対する事業承継に関するアンケート調査結果－	家森 信善 尾島 雅夫 小塚 匡文 橋本 理博
DP2020-J04 〔2020年2月〕	近世大坂米市場における価格形成の安定性	高槻 泰郎
DP2020-J05 〔2020年3月〕	処遇の受容を可能にする要因－処遇に対する「正しさ」と「好ましさ」はいつ知覚されるか－	江夏 幾多郎
DP2020-J06 〔2020年3月〕	近年における日本企業の経営者交代の特性－経営者のプロフィールと財務比率を中心として－	榎本 正博 山口 朋泰

## Ⅱ 研究者の研究活動と成果

以下の研究者の研究活動と成果については、  
2017年4月から2020年3月までを対象とした。

## 教授 上東 貴志 (Takashi KAMIHIGASHI)

研究部門 : グローバル金融  
最終学歴 : 平成6年8月 ウィスコンシン大学マディソン校博士課程修了  
Ph.D. (ウィスコンシン大学マディソン校) (平成6年8月)  
略 歴 : ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校経済学部助教授、神戸大学経済経営研究所助教授を経て平成15年4月現職  
研究分野 : マクロ政策分析  
研究課題 : (1) 資産バブル・デフレに関する研究  
(2) 経済モデルにおける確率的安定性に関する研究  
(3) ゲーム理論モデルにおける比較静学と組織形成に関する研究  
(4) 動的最適化の一般理論に関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

過去3年間においては以下のテーマを中心に研究を行った。

- ① 確率的資産バブル崩壊の国際波及に関する理論的分析
- ② 経済モデルにおける確率的安定性
- ③ 単調増加性に基づく確率的優越性の一般化
- ④ ダイナミックプログラミングを中心とした動的最適化理論
- ⑤ ゲーム理論モデルにおける比較静学と組織形成
- ⑥ マルコフ連鎖モンテカルロ法の拡張

①に関しては、2国世代重複モデルにおいて1国の資産バブルの崩壊がもう1国の資産バブルにどのように影響するか理論的考察を行った。その結果をまとめた論文は *Journal of Mathematical Economics* に掲載された。②に関しては、経済モデルで多く見られる単調増加的なマルコフ確率過程を考え、定常分布の存在と大域的安定性の条件を明らかにした。このテーマに関する研究結果は、*Theoretical Economics* に1本、*Journal of Economic Theory* に1本の論文が掲載された。③に関しては、単調増加性に基づく、確率的優位性の一般理論を確立した。その結果はディスカッション・ペーパーとして公開し、現在投稿準備中である。④に関しては、ベルマン方程式の解の存在と一意性を示した論文を執筆し、*International Journal of Economic Theory* 及び *Optimization* に掲載された。⑤に関しては、多数のプレーヤーから成る集計ゲームにおける比較静学の新たな結果を示し、その結果を纏めた論文が *Journal of Economic Theory* に掲載された。⑥に関しては、Multiple-Try法と Particle Marginal Metropolis-Hastings法を融合した形のマルコフ連鎖モンテカルロ法の拡張版を開発し、安定性等に関する定理を証明し、状態空間モデルにおけるシミュレーションにより、定理を確認した。他にも数学系の論文等を執筆した。

#### <研究業績>

##### 【著書 (分担執筆)】

「人と共生する AI 革命－活用事例からみる生活・産業・社会の未来展望」栗原聡 (著/編集)  
『計算社会科学と経済学における AI』エヌ・ティー・エス 12章4節 427-433頁 2019年6月

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

“Fast Value Iteration: An Application of Legendre-Fenchel Duality to a Class of Deterministic Dynamic Programming Problems in Discrete Time” (with Ronald Carpio), *Journal of Difference Equations and Applications*, Vol. 26(2), 209-222, doi:10.1080/10236198.2020.1713770, January 2020

“A Unified Stability Theory for Classical and Monotone Markov Chains,” (with John Stachurski), *Journal of Applied Probability*, Vol. 56(1), 1-22, doi:10.1017/jpr.2019.2, March 2019

「丁稚か「Salary man」かー神戸高等商業学校卒業生のキャリア選択ー」(石堂詩乃, 高槻泰郎と共著) *企業家研究* 15 2018年7月

“Power Laws in Stochastic Processes for Social Phenomena: An Introductory Review,” (with Shin-ichiro Kumamoto), *frontiers in Physics*, doi:10.3389/fphy.2018.00020, March 2018

“Robust Comparative Statics for Non-monotone Shocks in Large Aggregative Games,” (with Carmen Camacho and Çağrı Sağlam), *Journal of Economic Theory*, Volume 174, 288-299, March 2018

“An AI-based Approach to Auto-analyzing Historical Handwritten Business Documents: As Applied to the Kanebo Database,” (with Jinhui Chen, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Takatsuki and Munehiko Itoh), *Journal of Computational Social Science*, Vol.1(1), 167-185, doi: 10.1007/s42001-017-0009-2, January 2018

“A Simple Optimality-Based No-Bubble Theorem for Deterministic Sequential Economies with Strictly Monotone Preferences,” *Mathematical Social Sciences*, Volume 91, 36-41, doi: 10.1016/j.mathsocsci.2017.10.006, January 2018

### ・掲載論文

“Measuring Social Change Using Text Data: A Simple Distributional Approach,” (with Kazuhiro Seki and Masahiko Shibamoto), in *Reconstruction of the Public Sphere in the Socially Mediated Age*, edited by Kaoru Endo, Prof. Satoshi Kurihara, Takashi Kamihigashi, Fujio Toriumi, Springer, 139-163, November 2017

### ・未掲載論文

“Japan's Monetary Policy: A Literature Review and An Empirical Assessment,” (with Masahiko Shibamoto and Wataru Takahashi), *Discussion Paper Series*, No.DP2020-15, RIEB Kobe University, 39 pp., March 2020

“Organizational Refinements of Nash Equilibrium,” (with Kerim Keskin and Çağrı Sağlam), *Discussion Paper Series*, No.DP2017-25, RIEB Kobe University, 26 pp., October 2017

“Measuring Social Change Using Text Data: A Simple Distributional Approach,” (with Kazuhiro Seki and Masahiko Shibamoto), *Discussion Paper Series*, No.DP2017-16, RIEB Kobe University, 32 pp., May 2017 (Revised July 2020)

### <学会報告等研究活動>

(講演) “A Dynamic General Equilibrium IS-LM Model,” *Sapporo Summer Workshop on Monetary and Financial Economics 2018* 北海道大学 2018年8月8日

(講演) 「近似ベイズ計算に基づく大規模シミュレーションモデルの推定と評価」『第80回全国大会ーみんなの情報処理教育ー』早稲田大学西早稲田キャンパス 2018年3月14日

(司会) パネル・ディスカッション「計算社会科学の成果と課題」『神戸大学経済経営研究所公開シンポジウム「計算社会科学からの挑戦ーリスク社会におけるメディアの発達とソーシャル・キャピタルー」』神戸大学 2017年9月8日

(講演) 「テキスト分析による社会変動の計測」『神戸大学経済経営研究所公開シンポジウム「計算

社会科学からの挑戦～リスク社会におけるメディアの発達とソーシャル・キャピタル～」神戸大学 2017年9月8日

(講演)「テキストデータによる震災等の社会的影響の計測」『第25回地球環境シンポジウム』神戸大学 2017年9月6日

(パネリスト) Session2 パネル・ディスカッション「HPCの社会シミュレーションへの展開」『SS研 HPC フォーラム 2017「計算科学の新たな可能性」』富士通株式会社 2017年8月30日

(司会) 対談「アベノミクス再考」『神戸大学経済経営研究所公開シンポジウム アベノミクス再考：グローバル日本の金融・財政政策』神戸大学 2017年8月8日

### <社会活動>

IEFS Japan 会長 (2019年1月1日～)

査読付学術雑誌「Journal of Computational Social Science (JCSS)」の Editor-in-Chief

査読付学術雑誌「International Journal of Economic Theory (Wiley)」の Editor-in-Chief

経済理論専門誌「Economic Theory」の Associate Editor

「Economic Theory Bulletin」の Associate Editor

「Macroeconomic Dynamics」の Associate Editor

「Mathematical Social Sciences」の Associate Editor

### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究 (B)「地球温暖化問題における割引率と国際環境協定に関する研究」(2018～2020年度)(研究分担者)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動的展開および経済成長への含意」(2016～2020年度)(研究分担者)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (B)「人的資本と経済成長」(2016～2020年度)(研究分担者)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (A)「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」(2016～2019年度)(研究分担者)
- ・「ポスト「京」で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題に関するアプリケーション開発・研究開発」：萌芽的課題2「複数の社会経済現象の相互作用のモデル構築とその応用研究(多層マルチ時空間スケール社会・経済シミュレーション技術の研究・開発)」(2016～2019年度)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (B)「市場仲介と経済成長：日欧4研究所による国際共同研究プロジェクト」(2015～2019年度)(研究分担者)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」(2015～2019年度)(研究代表者)
- ・受託研究費『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』(領域開拓プログラム)「リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析」(2014年度～2017年度)
- ・科学研究費補助金：基盤研究 (B)「江戸幕府の金融政策－歴史資料と時系列データに基づく理論的・実証的分析－」(2013～2017年度)(研究分担者)

### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	演習 特殊研究	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科 神戸大学経済学部・大学院経済学研究科

	マクロ経済学Ⅱ	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2018年度	演習 特殊研究 マクロ経済学Ⅱ マクロ経済学Ⅱ 特殊講義	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科 神戸大学経済学部・大学院経済学研究科 神戸大学経済学部・大学院経済学研究科 神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2017年度	演習	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科

<受賞歴>

・第9回神戸大学学長表彰 財務貢献者 2017年10月

<特許>

「学術論文の査読者検索装置、査読者検索方法、及び査読者検索プログラム」 特願 2020-014904,  
幸若完壮, 上東貴志, 2020年3月出願

## 教授 趙 来勳 (Laixun ZHAO)

研究部門 : グローバル経済  
最終学歴 : 平成5年8月 フロリダ大学大学院修了  
Ph.D. (フロリダ大学) (平成5年8月)  
略 歴 : フロリダ大学経済学部客員講師、小樽商科大学商学部助教授、新潟大学経済学部助教授、北海道大学経済学部助教授、神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成19年10月現職  
研究分野 : 国際経済  
研究課題 : 留学、移民摩擦、起業とアウトソーシング、輸入品質、国際的リスク、地域格差、越境汚染、中国の戸籍改革

---

### 研究活動

#### <概要>

過去3年間においては以下のテーマを中心に研究を行った。

- ① イノベーションと国際競争
- ② 外交リスクと国際競争
- ③ 留学、移民と国際競争
- ④ 品質と貿易競争

いずれに関しても論文を海外の学術誌に掲載させる予定である。

#### <研究業績>

##### 【著 書】

Yi Liu and Laixun Zhao (2017), *Sino-Mexican Trade Relations Challenges and Opportunities*, Springer, ISBN: 978-981-10-4659-9, 80pp., May 2017

##### 【編著書】

Laixun Zhao, Hidetoshi Yamaji, Masahiro Enomoto, Akinobu Shuto (2018), *The Japanese Accounting Review* Vol.7/8, Research Institute for Economics and Business Administration, 43pp., December 2018

##### 【論 文】

・レフェリー付論文

##### 掲載済

“Cultural Factors and Study Destinations of International Students,” with Hao Wei and Ran Yuan, *China & the World Economy*, 27(6), 26-49, November 2019

“How Do Business Startup Modes Affect Economic Growth?,” with Colin Davis, *Canadian Journal of Economics*, 52(4), 1755-1781, November 2019

“Through Trade Wars, East Asians Finally Learning to Cooperate with Each Other?,” *China Economic Journal*, 12(2), 231-244, April 2019

“Trade and Firm Heterogeneity in A Schumpeterian Model of Growth,” with T. Haruyama, *Research in Economics*, 71 (3), 540-563, September 2017

“Multinational Public Goods Provision under Multilateral Income Transfers and Productivity Differences,” with T. Miyakoshi, *Applied Economics*, 49 (57), 5771-5779, June 2017

## 掲載予定

“International Talent Inflow and R&D Investment: Firm-Level Evidence from China,” with Hao Wei and Ran Yuan, *Economic Modelling*, forthcoming, 2020

“Study Abroad, Return Migration and Capital Accumulation,” with Takumi Naito, *Economic Modelling*, forthcoming, 2020

## ・未掲載論文

“Infrastructure Bottlenecks and Dual-Channel Exporters,” with Xiao Feng and Yongjin Wang, *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2019-19, 45pp., October 2019 (Revised October 2019)

“International Talent Inflow and R&D Investment: Firm-level Evidence from China,” Hao Wei and Ran Yuan, *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2019-17, 33pp., September 2019

## <学会報告等研究活動>

(学会運営) The 10th International Conference of The Japanese Accounting Review, (神戸大学経済経営研究所) 2019年12月22日

(発表) “A Simple Model of the Hukou System and Chinese Exports,” Workshop on Migration, Employment & Finance, (Kobe University) 2019年10月7日

(座長) “Local Government Response to Trade Liberalization,” Workshop on Trade & Finance in the East Asia Time Zone, (Kobe University) 2019年5月16日

(座長) “Did Italian Banks Trade off Lending with Government Bond Purchases?,” Workshop on Trade & Finance in the East Asia Time Zone, (Kobe University) 2019年5月16日

(発表) “Political Conflicts and Their Impacts on Bilateral Trade: Firm-Level Analysis from China,” Kobe International Conference on “Time Zones, Offshoring, Economic Growth and Dynamics” in collaboration with IEFS Japan Annual Meeting 2018, (Kobe University) 2019年3月1日

(学会運営) The 9th International Conference of The Japanese Accounting Review, (神戸大学経済経営研究所) 2019年1月5日

(発表) “Product Quality and Antidumping Filings,” One Belt One Road & U.S.-China Trade Disputes (RIEB セミナー／六甲フォーラム／科研基盤研究 (S)「グローバル経済におけるリスクの経済分析～国際経済学の視点から～」／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」), (神戸大学経済経営研究所) 2018年11月19日

(座長) Winter International Trade Seminar 2018 (小樽商科大学) 2018年3月4日

(発表) “How Sino-Japanese Diplomatic Conflicts Distort Bilateral Trade,” The Fudan-Kobe Joint Workshop: The Impact of the China Factor in East Asia (RIEB セミナー／六甲フォーラム／Fudan IWE／科研基盤研究 (A)「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」共催), (神戸大学経済経営研究所) 2017年12月8日

(座長) Hitotsubashi Conference on International Trade & FDI 2017, (Hitotsubashi University), 2017年9月10日

(発表) “International Talent Inflow & Chinese Exports: Firm Level Analysis,” Workshop on: Trade, Migration and Their Impacts in the East Asia Time Zone, (神戸大学経済経営研究所) 2017年8月29日

## <社会活動>

### 編集委員

- ・ The Japanese Accounting Review

### 学会誌審査委員

- ・ The Japanese Accounting Review

### 学会役員

- ・ 国際経済学会 特命理事

### 学会組織運営

- ・ Managing Editor, *The Japanese Accounting Review*
- ・ Associate Editor, *International Economic Journal*
- ・ Regular organizer of seminars and workshops related to international economics and IO at RIEB, Kobe University

## <研究助成金>

- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（B）「中国の労働市場制度と貿易構造・貿易量の関連に関する経済分析」（2019～2023年度）（研究代表者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（B）「中国一帯一路政策とアジア債券市場構想の政策的親和性：国際公共財・ネットワーク理論」（2018～2021年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（A）「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」（2016～2020年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）「動学的貿易モデルをもちいた経済発展と所得格差に関する理論分析」（2016～2018年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（S）「グローバル経済におけるリスクの経済分析～国際経済学の視点から～」（2014～2018年度）（研究分担者）

## <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	応用国際経済学 I 国際構造調整論演習 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2018年度	応用国際経済学 I 国際構造調整論演習 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2017年度	応用国際経済学 I 国際構造調整論演習 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科

## 教授 浜口 伸明 (Nobuaki HAMAGUCHI)

研究部門 : グローバル経済  
最終学歴 : 平成7年 米国ペンシルバニア大学大学院地域科学研究科博士課程修了  
Ph.D. (ペンシルバニア大学) (平成7年5月)  
略 歴 : アジア経済研究所開発研究部研究員、リオデジャネイロ連邦大学経済学部客員  
研究員、神戸大学経済経営研究所准教授などを経て平成19年10月現職  
平成24年4月から平成26年3月、平成30年4月から令和2年3月まで経済経営  
研究所長  
研究分野 : 経済統合  
研究課題 : ラテンアメリカの経済発展に関する実証研究、  
災害復興と地方創生に関する空間経済学からの研究、  
地域統合に関する東アジアとラテンアメリカの比較研究

---

### 研究活動

#### <概要>

##### (1) ラテンアメリカ経済研究

ラテンアメリカ経済は北米への製造品輸出を増やすメキシコと資源輸出を拡大する南米諸国の2つのタイプを示しながらグローバル化を進めてきたが、近年経済成長は停滞している。この原因は中国経済の成長減速や先進国経済の低成長といった外的要因のみならず、ラテンアメリカ固有の構造問題にも起因しており、構造問題を世界経済における周辺性と不平等な所得分配の2点に集約できることを明らかにした。ラテンアメリカの持続的経済成長のためには両方の構造問題の解決が必要であり、とりわけ技術進歩が重要である。本研究では、ラテンアメリカ経済の問題と課題を分析しながら、教育政策と地域統合の有効性について考察した。

##### (2) 地域統合に関する東アジアとラテンアメリカの比較研究

東アジアの地域統合は域内分業体制にもとづく中間財貿易が主で、最終需要を域外に依存しているのに対して、ラテンアメリカの地域統合は域内需要を求心力としつつ中間財の供給は域外に依存しているという対照的な関係にある。両者の比較研究を行い、発展途上地域の地域統合の在り方を検討した。

##### (3) 災害復興と地方創生に関する空間経済学からの研究

大都市における知識のスピルオーバーの重要性、産業集積間のネットワークの形成、遠隔地(内陸地)の経済発展、サプライチェーンのリスク分散、国内輸送インフラの発展が国際的産業集積分布に与える影響について研究した。

#### <研究業績>

##### 【著書】

“Innovation with Spatial Impact: Sustainable Development of the Brazilian Cerrado,” (co-authored with Akio Hosono and Alan Bojanic), Springer, September 2019, ISBN: 978-981-13-6181-4

“Cutting the Distance: Benefits and Tensions from the Recent Active Engagement of China, Japan, and Korea in Latin America,” (co-authored with Jie GUO, Chong-Sup KIM), Springer, September 2018, ISBN: 978-981-13-2434-5

『ラテンアメリカ所得格差論－歴史的起源・グローバル化・社会政策』国際書院 257頁 2018年

7月

藤田昌久、浜口伸明、亀山嘉大 著『復興の空間経済学—人口減少時代の地域再生』日本経済新聞出版社 288頁 2018年2月

丸屋豊二郎、浜口伸明、熊谷聡、白又秀治 編著『北陸地方創生と国際化・イノベーション』日本評論社 240頁 2017年9月

### 【著書（分担執筆）】

「人口減少下の都市システムと地域経済の安定的発展に向けた課題」矢野誠 編著『第4次産業革命と日本経済：経済社会の変化と持続的成長』東京大学出版会 65-85頁 2020年2月

“Spatial Diffusion of the PRODECER Effects: A Macro-spatial Approach,” in Akio Hosono, Nobuaki Hamaguchi, and Alan Bojanic eds., *Innovation with Spatial Impact: Sustainable Development of the Brazilian Cerrado*, Chapter 3, pp.69-96, September 2019

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

「ブラジル経済社会の不安定性」『比較経済研究』第57巻第1号 15-25頁（特集「新興市場経済システムの光と影」）2020年1月

“Brand Agriculture and Economic Geography: When Are Highly Differentiated Products Sustainable in the Remote Periphery?,” (co-authored with M. Fujita), *Review of Urban & Regional Development Studies*, Vol. 31, Issue 3, pp.169-202, November 2019

「ラテンアメリカ中所得国経済の発展と停滞における構造問題」（村上善道と共著）『ラテン・アメリカ論集』51号 2017年12月 33-53頁

#### ・掲載論文

「人文社会科学の研究評価について」『経済経営研究（年報）』第69号 神戸大学経済経営研究所 2020年3月 1-16頁

「ブラジル有権者の急な右旋回：市データを用いた2018年大統領選挙の分析（河合沙織と共著）『国民経済雑誌』第219巻第6号 2019年6月 1-20頁

「NAFTA 再交渉の経緯と日本企業の直接投資への影響」『経済経営研究年報』第68号 神戸大学経済経営研究所 2019年3月 1-16頁

「ラテンアメリカが抱える「構造的問題」として所得格差を読み解く」浜口伸明編著『ラテンアメリカ所得格差論—歴史的起源・グローバル化・社会政策』序章 国際書院 2018年7月

「所得格差問題からラテンアメリカを視る意義と意味：先行研究の検討と経済学理論を用いた分析から」浜口伸明 編著『ラテンアメリカ所得格差論—歴史的起源・グローバル化・社会政策』1章 国際書院 2018年7月

「日本の国際化戦略とラテンアメリカ」『経済経営研究年報』第67号 神戸大学経済経営研究所 2018年3月 1-17頁

「東日本大震災被災地域製造業企業の復興過程」『国民経済雑誌』第215巻第4号 神戸大学経済経営学会 2017年4月 1-17頁

#### ・未掲載論文

「九州における産業集積とスタートアップの成長」（岡野秀之・箆島修三と共著）ディスカッションペーパー *RIETI Policy Discussion Paper Series*, 20-J-003 経済産業研究所 2020年1月

『事業継続計画（BCP）に関する企業意識調査』の結果と考察」（野田健太郎・家森信善と共著）  
ディスカッションペーパー *RIETI Policy Discussion Paper Series*, 19-P-007 経済産業研究所 2019  
年4月

“Spatial Poverty and Inequality in South Africa: A Municipality Level Analysis,” (co-authored with Anda  
DAVID・Nathalie GUILBERT・Yudai HIGASHI・Hiroyuki HINO・Murray LEIBBRANDT・Muna SHIFA),  
RIEB Discussion Paper Series No.2018-02, RIEB Kobe University, January 2018

“Peripherality, Income Inequality, and Economic Development in Latin American Countries,” (co-authored  
with Yoshimichi Murakami), *RIEB Discussion Paper Series* No.2017-08, RIEB Kobe University, March  
2017 (Revised October 2018)

#### 【その他】

“AI technology and gender inequality,” (co-authored with K. Kondo), *Voxeu CEPR Policy Forum*, April  
2019

「中南米経済新政権の課題 ブラジル 国会との関係焦点」『経済教室』日本経済新聞 2018年11  
月6日

「自動車産業の未来（下）部品網の構造変化に備え」『経済教室』日本経済新聞 2017年9月26  
日

#### <学会報告等研究活動>

（講演）RIETI 政策シンポジウム「第4次産業革命と日本経済の展望」（イイノホール&カンファレン  
スセンター 2020年2月26日）「知識創造社会の地域経済」

（討論）ラテン・アメリカ政経学会第56回全国大会（獨協大学 2019年11月17日）「企画A『共  
著のすすめ—いかに共同研究をすすめるか—』（舛方周一郎，グスターボ・メイレス，奥田若菜）」

（発表）比較経済体制学会第59回全国大会（一橋大学 2019年6月22日）「公開シンポジウム 政  
策フォーラム『新興市場経済を考える』パネルディスカッション」 「ブラジル」

（発表）災害と経済に関する国際シンポジウム（神戸大学大学院国際協力研究科 2019年3月15  
日）セッション1「家計と企業の備え」 「大規模災害に備えるサプライチェーンの強靱化」

（発表）International Symposium on Political and Economic Factors Shaping Latin America in the Next  
Decade-Argentina, Brazil, Mexico and Comparison with East Asia- (Waseda University, March 8 2019),  
“Voters of Bolsonaro: Some Evidences from Municipal Data,” (with Saori Kawai)

（講演）凌霄会高知県支部懇親会「地域経済再生の勘所：今求められるレジリエンス（折れない力）」  
（三翠園 2018年10月13日）

（講演）RIETI BBL セミナー（経済産業研究所 2018年3月27日）「復興の空間経済学—人口減少  
時代の地域再生」

（座長）ラテンアメリカ・セミナー「ラテンアメリカにおけるグローバリゼーションと民主化の課  
題と現状」（神戸大学大学院国際協力研究科 2018年3月19日）「政治セッション」

（講演）神戸創生会議「神戸地域経済フォーラム」（マーカススクエア神戸 2018年3月15日）「神  
戸創生と都市型創造産業市場について」

（講演）日本ブラジル中央協会ブラジル経済情勢に関する講演会（新橋レンガ通りホール 2018  
年2月20日）「回復サイクルに入ったブラジル経済」

（発表）ラテンアメリカ・セミナー「ラテンアメリカ所得格差論」（神戸大学経済経営研究所 2018  
年2月19日）「ラテンアメリカにおける所得分配と社会変動」

（司会）ラテンアメリカ・セミナー「ラテンアメリカ所得格差論」（神戸大学経済経営研究所 2018

年2月19日)

(講演) ものづくり産業労働組合自動車部会 2018年度書記長会議(グリーンヒルホテル神戸 2018年1月12日)「自動車産業の未来～部品網の構造変化に備え～」

(基調講演) 北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸 AJEC)、独立行政法人経済産業研究所(RIETI)、日本貿易振興機構(ジェトロ) アジア経済研究所、福井県立大学共催シンポジウム「北陸地方創生と国際化・イノベーション～世界経済の成長をいかにして地域経済に取り込むか～」(金沢ニューグランドホテル 2017年11月30日)「グローバル化と人口減少下の日本経済における地域の課題」

(発表) 神戸大学経済経営研究所 神戸開港150年記念 公開講座「神戸を創った企業家たち」(神戸大学出光佐三記念六甲台講堂 2017年11月25日)「人口減少時代の強靱な地域づくり」

(発表) 64<sup>th</sup> North American Meeting of Regional Science Association International (Hyatt Regency, Vancouver, Canada, November 11, 2017) “Regional Employment and Artificial Intelligence in Japan,” (with Keisuke Kondo)

(発表) 在クリチバ日本国総領事館・パラナ連邦大学経済学部共催講演会「日本の経済外交」(クリチバ, パラナ連邦大学 2017年10月20日)「日本の経済外交と対ラテンアメリカ戦略」

(発表) 在サンパウロ日本国総領事館主催講演会「日本の対ラテンアメリカ経済外交」(サンパウロ, ジャパンハウス 2017年10月19日)「日本の経済外交と対ラテンアメリカ戦略」

(発表) ラテンアメリカ協会・Inter American Dialogue 共催セミナー Japan-Mexico Relations: Finding Common Ground in a Changing Policy Environment (メキシコシティ, Club Industrial 2017年10月17日)「日本の経済外交と対ラテンアメリカ戦略」

(発表) ラテンアメリカ政治経済研究部会(早稲田大学 2017年7月17日)“Peripherality, Inequality, and Economic Development in Latin American Countries,” (村上善道と共同発表)

(発表) ラテンアメリカ政治経済研究部会(早稲田大学 2017年7月17日)「ラテンアメリカ発展停滞の構図」

(発表) 未来世紀都市フェス2017(神戸大学百年記念館六甲ホール 2017年7月2日)「人の流動性がイノベーションを生む」

(発表) 神戸大学学友会三重県支部総会(プラザ洞津 2017年5月21日)「オリンピック遺構はリオデジャネイロをどう変えたか」

## <社会活動>

所属学会

- ・日本経済学会
- ・ラテン・アメリカ政経学会
- ・応用地域学会 (ARSC)
- ・Regional Science Association International (RSAI)

学術雑誌査読: *Review of Urban & Regional Development Studies* (Editorial Board member), *The Developing Economies*, 『応用地域学研究』, 『ラテン・アメリカ論集』, *The Annals of Regional Science*, *Pacific Economic Review*, *Asian Journal of Latin American Studies*, *Journal of Mountain Science*, *México y la Cuenca del Pacífico* (Editorial Council member)

## <研究助成金>

- ・科学研究費補助金: 基盤研究 (B) 「地域の期待に応える地域金融モデルの構築—災害耐性、人口減少、フィンテック」 (2019年度~2021年度) (研究分担者)

- ・科学研究費補助金：挑戦的研究（萌芽）「人口減少時代の地域再生と空間経済学」（2018～2020年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展のプロセスの研究」（2016～2019年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」（2016～2018年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「地域創生のための地域金融機関の役割に関する研究」（2015～2017年度）（研究分担者）

#### <国際交流活動>

- ・「日本とブラジルの二国間関係」Danielly Ramos Becard 准教授（ブラジル大学）と共同研究（2018年度～2020年度）
- ・「南アフリカの所得格差と社会調和」Murray Leibbrandt 教授（ケープタウン大学）と共同研究（2017年度）

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	演習 特殊研究 地域経済論演習 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2018年度	演習 特殊研究 地域経済論演習 地域経済特論 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2017年度	演習 特殊研究 ラテンアメリカ経済論 地域経済論演習 地域経済特論 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科

## 教授 下村 研一 (Ken-Ichi SHIMOMURA)

研究部門	: 企業競争力
生年月	: 昭和37年9月
最終学歴	: 平成5年8月31日 ロチェスター大学大学院経済学研究科博士課程修了 Ph.D. (ロチェスター大学) (平成6年2月)
略歴	: 京都大学経済研究所専任講師、大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授、 神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成19年10月1日より現職 平成22年3月26日から平成24年3月31日まで経済経営研究所長
研究分野	: 産業組織
研究課題	: (1) 経済一般における競争的行動と提携的行動の理論・実験分析 (2) 不完全競争市場 (製品差別化) の理論分析 (3) 完全競争市場 (交換経済) の理論・実験分析 (4) 戦略的意思決定の理論・実験分析

---

### 研究活動

#### <概要>

実物市場では、取引する商品の「特質」、「市場力」、「参加者数」という三要素に左右され、参加者の中に市場行動が非戦略的である者と戦略的である者が出現する。そこで、「市場力の差の解消」と「参加者数の増加」は、参加者の市場行動の競争形態にどのような影響を与え、その結果消費者を含む社会全体の資源配分と利得、つまり市場成果はどのように変わるのかを第1のプロジェクトとした。さらに、2人戦略的ゲームにおいて、純粋戦略の均衡が存在せず、かつ混合戦略の均衡で「じゃんけん」のように各純粋戦略への確率分布が等しくならないものが存在する事例を取り上げ、実験を行うことを第2のプロジェクトとした。また、近年ゲーム理論でマッチングの研究が盛んになり、協力ゲームが見直されている。このような研究の傾向を踏まえ、海外の共同研究者と協力ゲームの解のサーベイを行うことを第3のプロジェクトとした。各プロジェクトの成果は以下の通りである。

#### 1. 産业内製品差別化のある不完全競争市場の理論分析

製品差別化のある実物市場で寡占企業数が増加する場合どのように独占的競争市場の状態は決定されるか、経済全体の効率性はどうかを Dixit-Stiglitz 型の製品差別化モデルで分析した結果、小企業が存在すれば寡占的な大企業数が増加するほど、大企業の個別利潤も経済全体の効率性も単調に増加することがわかった。現在は Dixit-Stiglitz 型以外の製品差別化モデルで分析を継続している。

#### 2. 2人戦略的ゲームの実験分析

戦略的ゲームの混合戦略は、純粋戦略への確率分布として定義され、理論上は相手を変えて同じゲームを繰り返した場合、ゲームの回数が増えるにつれそれぞれの純粋戦略を取る割合が近づく数値となる。そこで、あらかじめ理論により予測を立て被験者を集めて実験を行った。現在まで行った実験でのデータは、理論値と比較すると、極端ではないが、説明できない差が観察された。この差については、心理学者の共同研究者とも協力して原因の究明を進めている。

#### 3. 多人数提携的ゲームの解の理論分析と展望

提携的ゲームの解は、与えられたゲームからプレイヤーの利得配分への写像として定義される。提携的ゲームは「誰と誰が組めば合計でいくらの利得が発生するか」という情報のみを記述するモデルであるが、1944年フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンが「安定集合」という解を定式化して以来75年間で、さまざまな解が提案された。その中で、本

プロジェクトでは、仁、カーネル、交渉集合を取り上げ、近年の学界の研究成果を体系的に整理した。その過程で、交渉集合が有する性質が一つ新たに見つかり、「整合性」と「逆整合性」とこの性質を満足する解が交渉集合しかないことがわかったので、論文に記した。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“The Nucleolus, the Kernel, and the Bargaining Set: An Update,” (with Elena Iñarra and Roberto Serrano), *Revue Économique* Vol.7, pp.225-266, February 2020

「民族多様性と市場メカニズムに関する実験研究：ケニアにおける相対取引実験」（大和毅彦と共著）『行動経済学』11巻 pp.96-109 2019年2月

“Reciprocity and Exclusion in Informal Financial Institutions: An Experimental Study of Rotating Savings and Credit Associations,” (with Shimpei Koike, Mayuko Nakamaru, Tokinao Otaka, Hajime Shimao, Takehiko Yamato), *PLOS ONE*, 13(8), August 2018

“Hometown-specific Bargaining Power in an Experimental Market in China,” forthcoming in *The Singapore Economic Review* (with Xiangdong Qin, Junyi Shen and Takehiko Yamato), 2018

#### ・掲載論文

「製品差別のある市場でのプライスリーダーシップ」『国民経済雑誌』第218巻第3号 pp.15-32 2018年9月

## <学会報告等研究活動>

(発表) “A Crash Course in Cooperative Game Theory II,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations 2019年10月18日 大阪大学

(発表) “A Crash Course in Cooperative Game Theory,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations 2019年5月31日 大阪大学

(発表) “What Can Experiments Tell Us about Strategic Behavior in Two-Person Non-Zero-Sum Games?,” 2018 Nanjing International Conference on Game Theory and the Fifth Microeconomics Workshop 2018年10月12日 Nanjing Audit University

(討論者) “Social Norm and Giving with Indivisibility of Money: An Experiment of Selfishness, Equality and Generosity,” The 6th Hanyang- Kobe- Nanyang Joint Workshop in Economics 2018年9月21日 シンガポール・南洋理工大学

(発表) “What Can Experiments Tell Us about Strategic Behavior in Two-Person Non-Zero-Sum Games?,” The 6th Hanyang- Kobe- Nanyang Joint Workshop in Economics 2018年9月21日 シンガポール・南洋理工大学

(司会) “Behavioral Economics,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, Tokyo Conference, Spring 2018年2月19日 東京大学

(発表) “What can experiments tell us about strategic behaviour in two-person non-zero-sum games?,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations 2017年10月20日 大阪大学

(討論者) “Learning Rival’s Information in Interdependent Value Auctions,” The 5th Hanyang- Kobe- Nanyang Conference in Economics 2017年6月9日 神戸大学経済経営研究所

### <社会活動>

- ・所属学会  
日本オペレーションズ・リサーチ学会
- ・学術論文レフリー  
International Journal of Game Theory
- ・外部委員  
公正取引委員会・政府規制等と競争政策に関する研究会会員  
公認会計士・監査審査会 公認会計士試験 試験委員

### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「市場均衡の動学的安定性と効率性に初期条件が及ぼす影響の研究」（2019年度～2023年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」（2018～2022年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究「リスク存在下での交通行動を観測するための仮想環境実験手法の構築と評価」（2016～2017年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「外部性の存在する経済におけるメカニズム・デザイン：理論と実験」（2014～2019年度）（研究分担者）

### <国際交流活動>

- (1) 「製品差別市場の寡占と独占的競争の併存に関する理論研究」潘麗君助教（中国南京大学）と共同
- (2) 「複数均衡を持つ交換競争経済に関する理論研究」Ted Bergstrom 教授（米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校）、大和毅彦教授（東京工業大学）と共同
- (3) 「2人戦略的ゲームにおける意思決定の理論実験研究」Alan Pearman 教授，Barbara Summers 教授（英国リーズ大学），瀧俊毅教授（神戸大学），高橋広雅教授（広島市立大学）と共同
- (4) 「交換競争経済に関する実験の研究」Charles Plott 教授（米国カリフォルニア工科大学），大和毅彦教授（東京工業大学），福田恵美子准教授（東京工業大学），瀧俊毅教授（神戸大学）と共同

### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	ミクロ経済学Ⅱ 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2018年度	ミクロ経済学Ⅱ 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2017年度	行動意思決定特論Ⅰ 行動意思決定特論Ⅱ 行動意思決定特論Ⅰ 特殊講義 行動意思決定特論Ⅱ 特殊講義 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科

## 教授 伊藤 宗彦 (Munehiko ITOH)

研究部門	: 企業競争力
最終学歴	: 平成 15 年 3 月 神戸大学経営学研究科博士課程後期修了 商学博士 (神戸大学) (平成 15 年 3 月)
略 歴	: パナソニック (旧・松下電工株式会社) 中央研究所研究員、アメリカ (サンノゼ) 研究所研究員、イリノイ大学客員研究員、神戸大学経済経営研究所准教授などを経て平成 19 年 12 月現職
研究分野	: イノベーション・マネジメント
研究課題	: (1) 製造業のサービス化の研究 (2) マーケティング・サイエンスに関わる研究 (3) サービス・イノベーションに関する研究 (4) 日本型経営システムの発展プロセスの研究 (5) 企業のサステナビリティに関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

#### イノベーション・マネジメントに関する研究

イノベーションと企業経営という大きな課題に対し、研究を行ってきた。2000 年より、日本企業のものづくりの優位性の研究成果を基に、技術経営 (MOT) の研究を行ってきた。その後、日本のモノづくりは、中国、東南アジアなどへ移転され、今では日本の GDP の約 25% となっている。新たな課題となったのは GDP の約 75% を占めるサービス産業の生産性向上である。こうした社会的な背景より、2008 年より、サービス人材育成のためのプロジェクトを立ち上げ、サービスに関するイノベーションの研究を継続してきた。こうした研究を 3 つの方向性に発展させ、研究をすすめている。

第 1 に、サービス・イノベーションの研究は、デジタル・エコノミーの研究とも密接に関連し、さらに、SNS 上のデータを分析するマーケティング・サイエンスの分野に発展させてきた。こうした分野では、データの定性的、定量的な分析方法が必要であり、さらには、ビッグデータを扱う、データサイエンスなどの研究課題にも取り組んでいる。こうした取り組みには、大型サーバーや高速・大容量 PC などのハードウェアと、SNS 上の書き込みといった定性的データのデジタル化、さらには、そのデータベース化が不可欠となっており、研究環境を整えてきた。

第 2 にこうしたデジタル化エコノミーの発展の一方、企業のサステナビリティの問題が顕在化している。様々な経営形態、例えば、同族経営の企業が安定した経営を続けている事例も知られている、こうした経営形態と永続的な企業の発展を支えるイノベーションとの関係など、全く、研究されていない領域である。産学共同の研究体制でこの問題に取り組んだ。

第 3 に、サービス・イノベーション研究で進めてきた大量データのデジタル化、データベース化の成果をふまえ、新たな研究課題として、経済経営研究所が所蔵する日本三大企業原資料の一つである鐘紡資料のデジタル化に取り組むことになった。すでに、社長決裁書、株主総会議事録、営業報告書など、鐘紡 130 年分の資料の、主要な部分のデジタル化を完了している。データベースを用いて、日本型経営システムの発展プロセスの研究を進めている。

## <研究業績>

### 【著書】

『鐘紡資料叢書 株主総会編第4巻』(研究叢書81号) 伊藤宗彦・國本光正・加島美和編 神戸大学経済経営研究所 293頁 2020年3月

『鐘紡資料叢書 株主総会編第3巻』(研究叢書80号) 伊藤宗彦・國本光正・加島美和編 神戸大学経済経営研究所 379頁 2020年3月

『鐘紡資料叢書 株主総会編第2巻』(研究叢書79号) 伊藤宗彦編 神戸大学経済経営研究所 272頁 2019年3月

『鐘紡資料叢書 株主総会編第1巻』(研究叢書78号) 伊藤宗彦編 神戸大学経済経営研究所 325頁 2019年3月

Munehiko Itoh, Atsumi Kato, Yoshitaka Shimono, Yasuhiko Haraguchi, Park Taehoon (2018), *Automobile Industry Supply Chain in Thailand*, Springer, ISBN-13: 978-9811323591, 124pp., September 2018

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

“Trends of Corporate Mission Statements: From pursuing profit to distinctive and social value,” (with Gang-Hoon, SEO), *HOLISTICA-Journal of Business and Public Administration*, Vol 10, Issue 3, pp27-36, March 2020

“The Perceived Risks of Online Apparel Shopping Japanese and Chinese Consumers Who Shop at Uniqlo Online,” (with C. Kohsaka, Kakuro K), *The Journal of Japanese Operations Management and Strategy*, Vol.9, Nov.1, pp1-17, December 2019

“An AI-based Approach to Auto-analyzing Historical Handwritten Business Documents: As Applied to the Kanebo Database,” (with Jinhui Chen, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Takatsuki, Takashi Kamihigashi), *Journal of Computational Social Science*, Vol.1 (1), pp.167-185, January 2018

#### ・掲載論文

「地域ブランド形成－1次産業の6次産業化－『国民経済雑誌』第220巻第4号 21-36頁 2019年10月

「タイにおける自動車産業のサプライ・チェーンの研究」(加藤厚海・下野由貴と共著)『国民経済雑誌』第216巻第4号 27-42頁 2017年10月

#### ・未掲載論文

「鐘淵紡績における工場経営－1904年から1913年までの鐘紡資料をもとに－」(松本陽一と共著) *RIEB Discussion Paper Series No.DP2019-J05* 神戸大学経済経営研究所 7頁 2019年3月

## <学会報告等研究活動>

(講演)「ホテル利用客の満足度に対するテキキストマイニングによる分析」(北中 英明、香坂 千佳子との共著) 経営情報学会春季研究大会春季大会 筑波大学東京キャンパス 2018年3月8日

(講演)「グローバル企業のサービス・イノベーション－競争優位に立つための成功要因とは－」第22回神戸経済経営フォーラム 神戸商工会議所 2018年1月29日

(報告) “The supply chain management of automobile industry in ASEAN,” *The 7th International Symposium on Operations Management and Strategy 2017*, Tokyo Metropolitan University, June 11, 2017

(報告)「タイにおける自動車産業のサプライ・チェーンの研究」JOMSA 第9回全国研究発表大会 首都大学東京 2017年6月11日

(報告)「ASEANにおける自動車企業のサプライ・チェーン・マネジメント」JOMSA 第9回全国研

究発表大会 首都大学東京 2017年6月11日

<社会活動>

- ・文部科学省専門職大学院評価委員
- ・(財)関西生産性本部 評議員
- ・所属学会  
日本商業学会  
日本経営学会  
組織学会  
JOMSA  
日本マーケティング学会

<研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」（2016～2019年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「ASEANにおける日系自動車サプライ・チェーンのグローバル化と現地化のダイナミズム」（2016～2019年度）（研究分担者）

<国際交流活動>

- ・Asian Productivity Organizationにおける産業育成事業のコーディネーター

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	サービス・イノベーション応用研究 演習 専門職大学院 演習	神戸大学経営学部・大学院経営学研究科 神戸大学経営学部・大学院経営学研究科 神戸大学経営学部・大学院経営学研究科
2018年度	サービス・イノベーション応用研究 演習	神戸大学経営学部・大学院経営学研究科 神戸大学経営学部・大学院経営学研究科
2017年度	マーケティング特殊研究（製品戦略） サービス・イノベーション応用研究	神戸大学経営学部・大学院経営学研究科 神戸大学経営学部・大学院経営学研究科

## 教授 佐藤 隆広 (Takahiro SATO)

- 研究部門** : グローバル経済  
**生年月** : 昭和45年1月  
**最終学歴** : 平成11年3月 同志社大学大学院商学研究科博士課程後期単位取得退学  
博士(経済学)(大阪市立大学)(平成14年9月)
- 略歴** : 福岡大学商学部貿易学科専任講師、大阪市立大学大学院経済学研究科助教授、カリフォルニア大学バークレー校南アジア研究センター客員研究員、大阪市立大学大学院経済学研究科准教授、神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成24年4月現職(平成23年~24年、ジャワハルラール・ネルー大学高等研究所フェロー・平成26年~27年、ジャワハルラール・ネルー大学東アジア研究センター客員研究員・平成30年~令和元年、Centers for International Projects Trust 客員研究員)
- 研究分野** : エマージングマーケット  
**研究課題** : (1) インド労働市場の構造と変動に関する理論的・実証的研究  
(2) インドのマクロ経済問題とマクロ経済政策に関する理論的・実証的研究  
(3) インド製造業の生産性と効率性に関する理論的・実証的研究  
(4) インド進出日系企業と日印経済関係に関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

これまで、開発経済学の分析手法を用いて、インド経済が現在直面するさまざまな経済問題を分析してきた。そのなかでも、マクロ経済問題と貧困問題の解明に取り組んできた。最近3年間の具体的な研究テーマとしては、つぎの3つである。

(1) 1991年にスタートしたグローバリゼーションがインドのマクロ経済やマクロ経済政策にどのような影響を及ぼしているのか、という問題意識のもと、①インド経済の総要素生産性の計測とその決定要因分析、②インド金融政策の有効性の検証、③インドにおける実質為替レートと貿易収支の長期関係、などの研究課題に取り組んだ。

(2) インドでは、人間が生存するうえで必須カロリー水準を摂取できない絶対的貧困層が国民の約3割も存在している。こうした絶対的貧困問題を考察するにあたって、インドの労働市場の構造とその変化に注目している。そうした問題意識のもと、①労働市場の柔軟化が与える雇用に対するインパクト、②出生率の決定要因、③貧困緩和計画などの公共政策の評価、などの研究課題に取り組んだ。

(3) インドは、現在、二輪および四輪自動車生産の世界的な集積地となっている。この背景には、ホンダやスズキなどのインドに進出した日本企業の役割を軽視することができない。日系企業がインドの産業発展に果たしてきた、あるいはこれから果たすであろう役割を考察するために、日印経済関係に関する歴史的な分析とインド進出日系企業に関する基礎的データベースなどの構築を行った。

#### <研究業績>

##### 【著書(分担執筆)】

「外国直接投資とインド製造業の生産性：外国直接投資のスピルオーバー効果の再検討」大塚啓二郎編『技術移転と産業発展の長期的展開過程：インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較研究』アジア経済研究所 第3章 2018年3月

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

“Productivity Dynamics and Rural Industrialization in India,” (with Aradhna Aggarwal), *Journal of Interdisciplinary Economics*, Volume 32 Issue 1, pp.23-46, December 2019

“Estimating Regional Returns to Education in India: A Fresh Look with Pseudo-Panel Data,” (with Prabir Bhattacharya), *Progress in Development Studies*, Volume 17, Issue 4, pp.282-290, October 2017

### ・掲載論文

「インド自動車産業における就業者とその特徴：インド政府の「定期労働力調査」(Periodic Labour Force Survey: PLFS) を利用して」『経済経営研究(年報)』第69号 2020年3月 17-69頁

「インドの経済成長と産業構造」(酒巻哲朗・市川恭子・齋藤善政・藤本知利との共著) *ESRI Research Note* No. 44 2019年3月 1-20頁

「ユーラシア地域大国における石油価格とマクロ経済：中国・インド・ロシアを事例として」(福味敦との共著)『比較経済研究』56巻1号 2019年1月 17-29頁

「インド政府統計からみたインドの航空機産業に関する研究ノート」『国民経済雑誌』第217巻第5号 2018年5月 51-71頁

「BRICS 経済の発展経路：成長回帰分析を用いて」(水野寛之・村上善道との共著)『経済経営研究(年報)』第67号 2018年3月 167-199頁

「インドにおける日系企業の事業活動：経済産業省『海外事業活動基本調査』個票データを利用して」(加藤篤行との共著)『経済志林』第85巻第4号 2018年3月 155-196頁

「中小企業のインド進出－2013～14年アンケートと調査に基づく一考察－」『商工金融』第67巻第11号 2017年11月 5-27頁

### ・掲載論文

「インドにおけるフィンテックの展開：フィンテックがアンバンドリングを通じて銀行業に与える影響の考察」(西尾圭一郎との共著)『大銀協フォーラム研究助成論文集』1-20頁 2020年2月

### ・未掲載論文

“Technological Diffusion through Foreign Direct Investment: A Firm-level Analysis of Indian Manufacturing Industries,” (with Azusa Fujimori and Manabu Furuta) *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2020-13, 16pp., March 2020

「インドにおけるスズキの競争力：製品特性分析による企業戦略と競争力の探索」(上野正樹との共著) *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2019-J06 神戸大学経済経営研究所 30頁 2019年3月

“Firm Heterogeneity and the Activity of Japanese Manufacturing Multinationals in India,” (with Hiroyuki Nishiyama and Azusa Fujimori) *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2019-06, 45pp., March 2019

「インド農家における経済活動の多様化：インド「全国標本調査」(National Sample Survey) の個票データを利用して」 *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2019-J03 神戸大学経済経営研究所 45頁 2019年3月

“Effects of Trade Liberalization on the Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector,” (with Manabu Furuta and Prabir Bhattacharya) *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-22, 16pp., September 2017 (Revised March 2018)

“India in the World Economy: Inferences from Empirics of Economic Growth,” *ESRI Discussion Paper Series*, No.338, 39pp., April 2017

## 【その他】

- 「インドの経済発展と日系製造業」『産業展望』日本物流新聞 2019年7月
- 「インド・モディ改革の行方：保護主義回避・労働政策カギ」『経済教室』日本経済新聞 2019年6月
- 「インド農村における貧困対策事業の実態について」『RIEB ニュースレター』No. 193 2018年12月
- 「このトピック、こう読みます：インドのGDP、28年に世界3位の規模に」『NNAカンパサール』No.36 2018年1月
- 「経済成長」、「国際貿易」、「外資参入規制」『インド文化事典』丸善出版 2018年1月
- 「インド 19年に総選挙控えるモディ政権」『週刊エコノミスト』41頁 2018年1月2・9日号
- 「インド 高額紙幣廃止でスマホ決済倍増」『週刊エコノミスト』32頁 2017年6月6日号

### <学会報告等研究活動>

- (報告) "Workers in the Auto Industry in India: A Fresh look at India's Periodic Labour Force Survey," RIEB セミナー(科研基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS) / 科研基盤研究 (C)「マイクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向」共催) 神戸大学 2019年12月13日
- (報告) "Social and Economic Changes in a Punjab Village: A Long-Term Perspective," Seminar at Punjab Agricultural University, November 22, 2019
- (報告)「インド産業発展の軌跡と展望」大阪工業協会時局講演会 ホテル日航大阪 2019年10月18日
- (報告) "Social and Economic Changes in a Punjab Village: A Long-Term Perspective," RIEB セミナー Seminar on the Political Economic Issues in South Asia (科研基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/南アジア地域研究東京大学拠点 (TINDAS)/ 科研基盤研究 (B)「経済発展政策の政治経済学的分析：理論モデル分析とインドにおける実証研究」/ 科研基盤研究 (B)「南アジアのコネクティビティとインド-越境インフラを巡る政治と経済」共催) 神戸大学 2019年9月28日
- (報告) "Determinants of success in the automobile industry in India: An analysis of foreign and local enterprise data for 2000-2008," Seminar at Indian Institute of Technology Patna, September 6, 2019
- (報告) "Determinants of success in the automobile industry in India: An analysis of foreign and local enterprise data for 2000-2008," 13th Indo-Japanese Dialogue on "Indian Economic Development", Punjab Agricultural University, September 2, 2019
- (報告)「インドにおけるスズキの競争力：製品特性分析による企業戦略と競争力の探索」日本国際経済学会第9回春季大会 県立高知大学 2019年6月15日
- (報告) "Economic Diversification of the Agricultural Households in India," International Conference on Asia's Development Experiences in 21st Century, Punjabi University, June 11, 2019
- (報告)「これからのインド～下院総選挙結果と今後のインド経済」太陽グラントソントン グローバルセミナー これからのインドビジネスの勘どころ 梅田センタービル 2019年5月30日
- (報告) "Determinants of Success in the Automobile Industry in India: An Analysis of Foreign and Local Enterprise Data for 2000-2008," (古田学, 大塚啓二郎と共同報告) RIEB セミナー (科研基盤研究 (A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」/「南アジア地域研究」東大拠点(TINDAS)共催) 神戸大学 2019年4月13日
- (報告) "Economic Diversification of the Agricultural Households in India," The Indo-Japanese Dialogue on

the Issues of the Indian Economic Growth (Jointly supported by ICSSR-JSPS / Grant-in-Aid for Scientific Research (A) / TINDAS / Kanematsu Seminar / KUCSSI), Kobe University, March 9, 2019

(報告) “Economic Diversification of the Agricultural Households in India,” The 12th Indo-Japanese Dialogue at the Japan Foundation New Delhi (Jointly supported by: Centers for International Projects Trust (CIPT) / Grant-in-Aid for Scientific Research (A) / ICSSR-JSPS / Japan Foundation), The Japan Foundation New Delhi, February 23, 2019

(報告) “FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries,” Seminar of Shailesh J. Mehta School of Management, IIT Bombay, February 18, 2019

(報告) 「アジア経済と貿易・投資の理論・実証・政策研究 (8) ユーラシア地域大国における石油価格とマクロ経済：中国・インド・ロシアを事例として」神戸国際経済研究会 (科研基盤研究 (C) 「ASEAN 現地企業への技術伝播と中所得国の経済成長に関する理論・実証研究」／科研基盤研究 (C) 「日本企業の対外直接投資の研究：米国、中国、インドの比較分析」／科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催) 金沢大学サテライト・プラザ 2019年1月12日

(報告) “Effects of Trade Liberalization on the Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector,” The Indian Society of Labour Economics 60th Annual Conference, Indira Gandhi Institute of Development Research (IGIDR), December 20, 2018

(報告) “Economic Relations between India and Japan,” Seminar at Indian Institute of Technology Patna, Indian Institute of Technology Patna, October 30, 2018

(報告) “Japan's Investment in India: With Special Reference to Bihar,” Seminar Jointly Organized by Bihar Industries Association (BIA), Patna and Confederation of Indian Industry (CII) Bihar, October 30, 2018

(報告) 「インド経済とモディ政権の行方」在コルカタ日本国総領事館 経済勉強会 在コルカタ日本国総領事館 2018年10月10日

(報告) “FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries,” The 10th Indo-Japanese Dialogue on the Indian Socio-Economic Issues with Special Reference to the Japanese Perspectives (Jointly supported by JSPS Bilateral Joint Research Projects, Seminars / Grants-in-Aid for Scientific Research (A) / Grants-in-Aid for Scientific Research (B) / Grants-in-Aid for Scientific Research (C) / RIEB Seminar), The Japan Foundation New Delhi, September 4, 2018

(報告) 「インド経済とモディ政権の行方」開発協力ひろば 国際交流基金ホール 2018年8月4日

(報告) 「ユーラシア地域大国の石油価格とマクロ経済ー中国・インド・ロシアを事例としてー」(福味敦との共同報告) 比較経済体制学会第58回全国大会 北海道大学 2018年6月9日

(報告) 「ユーラシア地域大国の中央・地方財政関係」(田畑伸一郎・梶谷懐・福味敦との共同報告) 比較経済体制学会第58回全国大会 北海道大学 2018年6月9日

(講演) 「インドの経済発展と自動車産業の将来」早稲田大学 自動車・部品産業研究所 / WIAPS 「経済発展の政治経済学」部会共催講演会 早稲田大学 2018年5月16日

(報告) “FDI and Productivity Spillovers in the Indian Manufacturing Industries,” Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia (Jointly supported by RIEB Seminar), Heriot-Watt University, May 4, 2018

(報告) 「モディ政権下のインド経済」日本南アジア学会30周年記念シンポジウム「ナレンドラ・モディ政権下のインド」(基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」／RIEBセミナー共催) 神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ 2018年4月8日

(報告) 「インド西部地域における日系企業の現状」(古田学・水野寛之との共同報告) RIEB セミナー (TINDAS と科研基盤研究 (A) 「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワ

ーク」共催) 神戸大学 2018年2月18日

(報告)「南アジアの経済発展と新貿易理論(2)」「南アジア経済発展の理論・実証的アプローチに関する研究会」(科研基盤研究(C)「日本企業の対外直接投資の研究:米国、中国、インドの比較分析」と科研基盤研究(A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催) 金沢大学サテライト・プラザ 2018年2月3日

(報告)「ナレンドラ・モディ政権下のインド経済」神戸大学凌霜会広島支部 広島県「ちどりや」  
2018年1月12日

(報告)「絵所秀紀教授の研究業績」法政大学経済学部絵所秀紀教授最終講義 法政大学 2017年12月20日

(報告)「モディ政権下のインド経済と高額紙幣廃止」第552回神戸大学金融研究会(兼松セミナー/神戸大学社会システムイノベーションセンター共催) 神戸大学 2017年12月16日

(報告)“Japanese Multinationals in India: Evidence from Unit-Level Data of METI's Survey of Overseas Business Activities” 第12回国際経済研究会 金沢大学 2017年12月14日

(報告)「インド:自動車部品産業と総要素生産性に関するノート」(古田学・水野寛之との共同報告)「技術移転と産業発展の長期的展開過程:インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較研究」研究会 神戸大学 2017年12月7日

(報告)“Japanese Multinationals in India: New Evidence from METI's Survey of Overseas Business Activities,” Nagoya International Economics Study Group Workshop “International Trade and Asian Economy”, Aichi Gakuin University, November 18, 2017

(主催)佐藤隆広編『インドの産業発展と日系企業』書評会(TINDAS/科研基盤研究(A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催) 東京大学 2017年10月29日

(コメント)「日本企業のGPNとインド経済」2017年度アジア政経学会秋季大会:自由応募分科会5「日本企業のグローバル生産ネットワークとインド経済」 富山大学 2017年10月21日

(報告)“India in the World Economy” 日本国際経済学会 第76回全国大会:第4分科会 アジア経済1 日本大学 2017年10月21日

(報告)“Estimating Regional Returns to Education in India: A Fresh Look with Pseudo-Panel Data” 日本南アジア学会第30回全国大会 東洋大学 2017年9月23日

(司会)キックオフシンポジウム「インドの産業発展と日本企業のグローバルネットワーク」(科研基盤研究(A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」キックオフシンポジウム/RIEBセミナー共催) 神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ 2017年8月7日

(報告)「趣旨説明:基盤研究(A)南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」RIEBセミナー(科研基盤研究(A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催) 神戸大学 2017年8月6日

(報告)“Effects of Trade Liberalization on Gender Wage Gap: Evidences from Panel Data of the Indian Manufacturing Sector”「ユーラシア地域大国の発展モデルの比較」研究会 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 2017年8月4日

(パネリスト)日印コラボレーションシンポジウム「インドの今は?課題は?日印連携の新たなステージへの可能性について」 駐日インド大使館 2017年7月27日

(報告)「ナレンドラ・モディ政権下のインド経済」日印コラボレーションシンポジウム 駐日インド大使館 2017年7月27日

(報告)「経済統計からみたインド進出日系企業」 国際金融開発経済研究会 久留米大学 2017年7月23日

(報告)“India in the World Economy: Inferences from Empirics of Economic Growth” 同志社大学経済学会 同志社大学 2017年6月27日

(報告)「経済統計からみたインド進出日系企業」2017年度アジア政経学会春季大会：自由応募分科会2「インドの産業発展と日系企業」 一橋大学 2017年6月24日

(報告)“India in the World Economy: Inferences from Empirics of Economic Growth,” the Second World Congress of Comparative Economics, HSE University, Moscow, June 15, 2017

(コメント)“Comments on "Jobs for Justice(S)"" The 5th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics, Kobe University, June 9, 2017

(報告)“Estimating Regional Returns to Education in India: A Fresh Look with Pseudo-Panel Data” 地域研究機構南アジア研究センター設立記念シンポジウム「南アジアの社会経済発展の基盤—教育・市場・国家」 東京大学 2017年6月4日

(報告)「TINDAS 経済発展班の研究課題について」TINDAS 第一回全体会議 東京大学 2017年6月3日

(報告)「日本・インド経済交流の今後」阪神シニアカレッジ講座 宝塚ソリオ2 2017年5月24日

(報告)“A Note on the India's Annual Survey of Industries”「技術移転と産業発展の長期的展開過程：インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較研究」研究会 神戸大学 2017年5月19日

(報告)「インドの自動車産業」「技術移転と産業発展の長期的展開過程：インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較研究」研究会 神戸大学 2017年5月18日

#### <社会活動>

##### ・所属学会

日本南アジア学会 (2007年度大会事務局長、2010年～2014年 常務理事、2014年～2017年 和文誌編集委員長、2016年～2018年 常務理事)

日本国際経済学会

アジア政経学会

International Advisory Board of *Journal of Interdisciplinary Economics* (2018年～現在)

#### <研究助成金>

・日本学術振興会 平成30年度(2018年度)二国間交流事業共同研究・セミナー「日印経済関係—行き詰まりを打開するために—」(共同研究/セミナー代表者)

・科学研究費補助金：基盤研究(B)「経済発展政策の政治経済学的分析：理論モデル分析とインドにおける実証研究」(2018～2021年度)(研究分担者)

・科学研究費補助金：基盤研究(A)「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」(2017～2022年度)(研究代表者)

・科学研究費補助金：基盤研究(C)「ミクロデータからみたインドの人口・労働・不平等の長期動向」(2017～2019年度)(研究代表者)

・科学研究費補助金：基盤研究(C)「日本型経営生産システムの歴史的位相の評価：1980年代以降の変化とその含意」(2017～2019年度)(研究分担者)

・科学研究費補助金：基盤研究(A)「ユーラシア地域大国(ロシア、中国、インド)の発展モデ

ルの比較」(2015～2018年度)(研究分担者)

<国際交流活動>

“Economic Relation between Japan and India”, Dr. Nalin Bharti, Associate Professor of Indian Institute of Technology Patna

“Productivity Dynamics in India”, with Dr. Aradhna Aggarwal, Professor of Copenhagen Business School

“The Impact Evaluation of Poverty Alleviation Programs in Rural India”, with Dr. Katsushi Imai, Senior Lecturer (Associate Professor) of Manchester University

“Inequality and Labour Markets in India”, with Dr. Kamal Vatta, Professor of Punjab Agricultural University

“Informal Sector and Economic Development in India”, with Dr. Prabir Bhattacharya, Associate Professor of Heriot-Watt University

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	演習 特殊研究 インド経済論 地域経済論演習 地域経済特論 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2018年度	演習 特殊研究 インド経済論 地域経済論演習 地域経済特論 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科
2017年度	演習 地域経済論演習 地域経済特論 Special Seminar	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科 神戸大学大学院国際協力研究科

<受賞歴>

第46回大銀協フォーラム特別賞 2019年1月

## 教授 Ralf BEBENROTH

研究部門 : 企業競争力  
生年月 : 昭和43年9月  
最終学歴 : 平成13年3月 カッセル大学博士課程修了  
博士(経営学)(カッセル大学)(平成13年3月)  
略歴 : 東京工業大学博士後研究員、大阪経済大学特別研究員、神戸大学経済経営研究所准教授などを経て平成24年10月現職  
研究分野 : コーポレート・ガバナンス  
研究課題 : 合併と買収、コーポレート・ガバナンス、海外駐在役員  
・ Corporate Governance Issues connected with Japan and Germany  
・ M&A research, especially success factors of Inbound Japanese acquisitions  
・ Expatriate research, especially about foreign expatriates in Japan  
・ Wide variety of research in business and marketing

---

### 研究活動

#### <概要>

#### 国際経営

これまで複数の研究プログラムを実施してきたが、以下ではその中で中心となった3点の新しい研究点について述べる。

合併と買収に関する諸研究であるプロジェクトでは、次のような調査・研究を行っている。

- (1) 海外企業によって合併・買収された企業は、どのくらい成功しているのかを調査する。この調査は、日本における中国の合併と買収の動向を調べ、論文を執筆した。その論文は、Chen Fay氏とKashif Ahmed氏との共著論文“Chinese Cross Border Acquisition Strategies Changes into Japan: from Resource Driven to Market Driven Chinese investments to Japan”で、「Organizations and Markets in Emerging Economies (OMEE)」に掲載予定である。(2020年2月10日にアクセプト済)
- (2) 戦略的な合併・買収の動向を調査する一方で、産業と投資家のリスクに関する調査を実施している。その成果は、Kashif Ahmed氏とJean-Francois Hennart氏との共著論文“Industry paper, Formal institutional risk and equity sought on foreign market entry: Does industry matter?”で、「Review of International Business and Strategy」に掲載予定である。(2020年4月14日にアクセプト済)
- (3) ドイツの被買収企業の社員はどのような態度を示すのかを調べている。この論文“Alienation Effects on Managers of a German Target Taken Over by a Japanese Firm”は、分担執筆著として刊行予定である。さらに、コーポレート・ガバナンスと日本における海外駐在役員(Expatriates)の活動に焦点を当てた研究である。次の執筆はFabian Froese氏と共著論文“Consequences of expatriate top manager replacement on foreign subsidiary performance”で、「Journal of International Management」に掲載予定である。(2019年11月15日にアクセプト済)

< 研究業績 >

【 論 文 】

・ レフェリー付論文

掲載済

Makowski-Komura, L. / Bebenroth, R.: "Job Satisfaction of Returnees to Japan," *International Journal of HR Development and Management*, 20(1), pp.1-24, February 2020

Bebenroth, R. / Berengueres, J.O.L.: "New Hires' Job Satisfaction Time Trajectory," *International Journal of Human Resources Development and Management*, 20(1), pp.61-74, February 2020

Ahmed, K. / Bebenroth, R.: "Acquisition behavior of emerging and developed market multinationals," *Organizations and Markets in Emerging Economies*, 10(1), pp.9-30, May 2019

Makowski, L. / Bebenroth, R. (2019): "Effect of Language Skills and Cultural Sensitivity on Performance Satisfaction: A Case of a European-Japanese Joint Venture," *European Journal of Social Sciences*, 57(4), pp.393-407, March 2019

Ismail, M. / Hamzah, S. R. / Bebenroth, R. (2018): "Differentiating knowledge transfer and technology transfer: What should an organizational manager need to know?," *European Journal of Training and Development*, 42(9), pp.611-628, September 2018

Bebenroth, R. / Ismail, M. (2018): "Changes in Target Employees' Old and Current Organizational Identification and the Impact of Motivational Cultural Intelligence," *European Journal of Social Science*, 56(4), pp.403-415, July 2018

Mathews, S.W. / Maruyama, M. / Sakurai, Y. / Bebenroth, R. / Luck, E. / Chen, H. / Franco, E. (2018): "Internet resources and capabilities: Japanese SME risk-taking, industry and performance," *Asia Pacific Business Review*, 24 (5), pp.675-692, July 2018

Malik, A. / Bebenroth, R. (2018): "Mind Your Language! Role of Language in Strategic Partnerships and Post-Merger Integration," *Journal of Global Operations and Strategic Sourcing*, 11 (2), pp. 202-223

Bebenroth, R. / Bartnik, R. (2018): "Japanese Cross Border M&A and German Target Employee Alienation Issues," *Strategic Human Resource Management and Employment Relations*, pp. 175-180

Goehlich, R. A. / Bebenroth, R. (2017): "Pilots' perceptions of justice and job identification," *World Review of Intermodal Transportation Research*, Vol. 6, No. 4, pp.291-305

Bebenroth, R. / Chen, F. (2017): "US-Cross-Border Acquisitions by Japanese Firms. Lessons to be learned from the Late 1980s," *International Journal of Engineering Technologies and Management Research*, 4 (11), pp.48-58

Bebenroth, R. / Thiele, K.O (2017): "When Organizational Justice Matters for Affective Merger Commitment," *Thunderbird International Business Review*, (TIBR), 59 (2), pp.227-241

掲載予定

Ahmed, K. / Bebenroth, R. / Hennart, J. (2020): "Formal Institutional Uncertainty and Equity Sought on Foreign Market Entry: Does Industry Matter?," *Review of International Business and Strategy*, forthcoming

Chen, F. / Ahmed, K. / Bebenroth, R.: "Chinese Cross Border Acquisition Strategies Changes into Japan: from Resource Driven to Market Driven Chinese investments to Japan," *Organizations and Markets in Emerging Economies (OMEE)*, Vol.11, Issue 1, pp.35-54, forthcoming, accepted Febr. 10th 2020

Bebenroth, R., "Alienation Effects on Managers of a German Target Taken Over by a Japanese Firm," *Bookchapter*, forthcoming

Bebenroth, R. / Froese, F.J.: "Consequences of expatriate top manager replacement on foreign subsidiary performance," *Journal of International Management*, Vol.26, Issue2, pp.1-12, forthcoming, accepted Nov. 15th 2019

Ahmed, K. / Bebenroth, R.: “Strategy impact on the choice of partial versus full acquisitions,” *International Journal of Management Practice*, Vol.13, No.4, pp.373-400, forthcoming, accepted August 5th 2019

Ahmed, K. / Bebenroth, R.: “Do company size and strategy matter in the choice of partial or full acquisitions?” *Journal for global business advancement (jgba)*, forthcoming, accepted May 8th 2019

Ahmed, K. / Bebenroth, R.: “EMMs Acquisition behavior of emerging and developed market multinationals,” *Organizations and Markets in Emerging Economies*, forthcoming, accepted May 5th 2018

・ 掲載論文

Bebenroth, R. (2019): 「被買収企業の従業員におけるアイデンティフィケーションの変化」『国民経済雑誌』 第 219 巻第 2 号 2019 年 2 月 pp.25-37

・ 未掲載論文

Bebenroth, R. / Goehlich, R. A.(2020): “Necessity to Integrate Operational Business During M&A: The Effect of Employees' Vision and Cultural Openness,” *Discussion Paper Series No.DP2020-09*, RIEB, Kobe University, February 2020, 22pp

Bebenroth, R. / Pao-Lien C. (2018): “Cherry Picking versus Lemon Grabbing: Target Selection of Cross-Border and Domestic Acquisitions in Japan,” *Discussion Paper Series No.DP2018-13*, RIEB, Kobe University, May 2018, 30pp

Malik, A. / Bebenroth, R. (2017): “Mind Your Language!: Role of Target Firm Language in Post-Merger Integration,” *Discussion Paper Series No.DP2017-15*, RIEB, Kobe University, May 2017, 27pp

< 学会報告等研究活動 >

(発表) 2019 年 12 月 4 日 “Common Corporate Language and Procedural Justice of Joint Venture Managers,” 33rd Annual Australian & New Zealand Academy of Management Conference, The Pullman Cairns International Hotel, Australia

(発表) 2017 年 9 月 19 日 「ドイツの教育システム」 神戸婦人有権者連盟 (KLWV)

(発表) 2017 年 8 月 22 日 “Japanese Bidder and German Target: Communication and Success,” Gothenburg University, Sweden

(発表) 2017 年 8 月 3 日 “Opportunities for Scientific Research and Publishing in Japan,” Hamburg-Harburg Technical University

(発表) 2017 年 8 月 1 日 “Communication Goal Structure as Imperative for Operative Integration Success at M&A,” Technische Universitaet Hamburg-Harburg

< 社会活動 >

日本経営学会

日本財務管理学会

Academy of Management (AOM)

Academy of International Business (AIB)

The Association of Japanese Business Studies (AJBS)

Euro-Asian Management Studies Association (EAMSA)

International Federation of Scholarly Associations of Management (IFSAM)

< 研究助成金 >

- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）“Outbound Japanese M&A and Target Employees”（2016～2018 年度）（研究代表者）

<国際交流活動>

・国際共同研究

Prof. Dr. Nir Kshetri, North Carolina University, USA 2006-

Prof. Fabian Froese, Göttingen University

Dr. Robert Goehlich, European Business School, Germany

Dr. Shane Matthews, QUT Business School, Australia

Prof. Dr. Ashish Malik, Newcastle University

Prof. Maimunah Ismail, UPM, Malaysia

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	Advanced International Business SESAMI Seminar 演習	神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科
2018年度	Advanced International Business SESAMI Seminar	神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科
2017年度	Advanced International Business	神戸大学大学院経営学研究科

## 教授 北野 重人 (Shigeto KITANO)

研究部門	: グローバル金融
最終学歴	: 平成 15 年 3 月 名古屋大学大学院経済学研究科後期博士課程修了 博士(経済学)(名古屋大学)(平成 15 年 3 月)
略 歴	: 名古屋大学大学院経済学研究科助手、和歌山大学経済学部講師、同准教授、神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成 26 年 1 月現職
研究分野	: 国際金融政策
研究課題	: (1) 開放経済下のマクロ政策に関する分析 (2) 新興国における資本規制政策に関する分析 (3) 為替レート制度選択に関する分析 (4) 新興国における金融政策とマクロ・プルーデンス政策に関する分析

---

### 研究活動

#### <概要>

国際資本移動のグローバル化が急速に進む中、マクロ経済政策の効果において、どのような影響が生じつつあるのかについて分析することが大きな研究テーマである。これまで先進国と新興国の間に生じる資本移動についてのメカニズム、並びに、それに伴う政策(資本移動の規制や為替相場制度の選択等)の効果について分析を行ってきた。特に新興市場国における望ましいマクロ経済政策のあり方について、特に資本移動や為替レートに関するマクロ政策を中心に研究を行ってきた。

主な研究の成果として、[1]は、ドル建てで債務を抱える小国開放経済に、金融フリクションを組み込んだニューケインジアンモデルを展開したものである。ラムゼー・タイプの分析を行い、変動為替相場制度の下での最適金融政策と、固定為替相場制度の下での資本規制政策の厚生を比較している。金融フリクションがない経済においては、固定為替相場制度の下で最適資本規制政策を行った場合よりも、変動為替相場制度の下で最適金融政策を行った場合のほうが、厚生が大きくなる。しかし反対に、金融フリクションがある経済においては、変動為替相場制度の下で最適金融政策を行った場合よりも、固定為替相場制度の下で最適資本規制政策を行った場合のほうが、厚生が大きくなることを明らかにした。

[2]は、[1]と同様に、ドル建てで債務を抱える小国開放経済に、金融フリクションを組み込んだニューケインジアンモデルを展開したものである。この研究では、資本規制政策の可能性の一つとして、金融危機時に金融機関へ信用供与を行う政策(credit policy)と同じ効果を、資本規制政策が持つことを示した。

[3]は、国内の銀行と海外の投資家にファイナンシャル・フリクションがある小国開放経済モデルを構築し、資本規制の厚生効果を分析した。分析の結果、前述のフリクションの程度が大きい場合ほど、資本規制の効果は大きく、より強い政策姿勢が望ましいことを明らかにした。

[4]は、新興国のデータからカリブレーションを行い、動学的一般均衡(Dynamic Stochastic General Equilibrium)モデルに、バランスシート摩擦のある銀行部門を導入して、資本規制政策とマクロプルーデンス政策を比較した。国内の銀行と海外の投資家の金融フリクションが比較的高い場合、資本規制政策の方がマクロプルーデンス政策より厚生改善効果が大きく、逆に、金融フリクションが比較的低い場合、マクロプルーデンス政策の方が資本規制政策より厚生改善効果が大きいことを示した。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

[1] “Capital Controls, Monetary Policy, and Balance Sheets in a Small Open Economy,” (with Kenya Takaku), *Economic Inquiry*, Vol.56, Issue 2, pp.859–874, April 2018

[2] “Capital Controls as a Credit Policy Tool in a Small Open Economy,” (with Kenya Takaku), *The B.E. Journal of Macroeconomics*, Vol.18, Issue 1, pp.1-19, January 2018

[3] “Capital Controls and Financial Frictions in a Small Open Economy,” (with Kenya Takaku), *Open Economies Review*, Vol.28, Issue 4, pp.761-793, September 2017

##### 掲載予定

[4] “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” (with Kenya Takaku), *Journal of Macroeconomics*, forthcoming, 2020

#### ・未掲載論文

“Financial Market Incompleteness and International Cooperation on Capital Controls,” (with Kenya Takaku), *RIEB Discussion Paper Series No.2020-05*, 23pp., January 2020

### 【その他】

「新興国において拡大する対外債務とリスク」*RIEB ニュースレター コラム No. 205* 2019年12月

## <学会報告等研究活動>

(セミナー報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel”, *Tsinghua SEM Seminar, Tsinghua University, China* 2019年10月31日

(学会報告) “Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Financial Market Incompleteness” *Computing in Economics and Finance (CEF), 25th International Conference, Carleton University, Canada* 2019年6月30日

(学会コメント) “Workforce Aging and Industry-level Productivity (by Song E. Young),” *日本国際経済学会第9回春季大会 高知県立大学* 2019年6月15日

(学会報告) “Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Financial Market Incompleteness,” *日本金融学会 2019年度春季大会 学習院大学* 2019年5月25日

(セミナー報告) “Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Financial Market Incompleteness,” *Xiamen University, China* 2019年5月9日

(セミナー報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel”, *Workshop on International Macroeconomics 神戸大学経済経営研究所* 2019年3月19日

(セミナー報告) “Gains from Policy Cooperation in Capital Controls and Incompleteness of Financial Markets,” *Workshop on International Macroeconomics 神戸大学経済経営研究所* 2018年12月7日

(セミナー報告) “Recent Development in the Adoption of Capital Controls in Emerging Economies: Theory and Practice,” (高久賢也と共同報告) *RIEB セミナー 神戸大学経済経営研究所* 2018年8月4日

(学会報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,”

Computing in Economics and Finance (CEF), 24th International Conference, Università Cattolica del Sacro Cuore, Italy 2018年6月21日

(学会コメント) “Uncertainty and Mutual Fund Portfolio (Xingdi Tian),” Western Economic Association International, 14th International Conference, University of Newcastle, Australia 2018年1月11日

(学会報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” Western Economic Association International, 14th International Conference, University of Newcastle, Australia 2018年1月11日

(セミナー報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” 神戸大学金融研究会 神戸大学経済経営研究所 2017年11月18日

(学会座長) Session IV: “Micro and Macro Environment,” The 11th International Workshop of Methods in International Finance Network (MIFN) Shandong University, China 2017年11月3日

(学会コメント) “Financial Kuznets Curve in the Transitional Economy: A Tale of China (Chi-Yang Chu and Mingming Jiang),” The 11th International Workshop of Methods in International Finance Network (MIFN) Shandong University, China 2017年11月2日

(学会報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” The 11th International Workshop of Methods in International Finance Network (MIFN) Shandong University, China 2017年11月2日

(学会報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” 13th Dynare Conference, 東京大学 2017年10月29日

(学会座長) Session F3: Capital controls, 13th Dynare Conference, 東京大学 2017年10月29日

(セミナー報告) “Recent Development of Capital Controls in Emerging Economies,” 第14回 Modern Monetary Economics Summer Institute (MME SI) in Kobe: 「グローバル流動性のリスクマネジメント」 神戸大学経済経営研究所 2017年9月8日

(学会座長) マクロ3 日本経済学会 2017年度春季大会 立命館大学 2017年6月25日

(学会座長) フラッシュトーク セッション3 日本経済学会 2017年度春季大会 立命館大学 2017年6月24日

(セミナー報告) “Capital Controls, Macroprudential Regulation, and the Bank Balance Sheet Channel,” 同志社大学商学部金融研究会 同志社大学 2017年6月13日

(学会座長) セッション: 国際資本移動, 日本金融学会 2017年度春季大会 早稲田大学 2017年5月28日

(学会報告) “Capital Controls and Financial Frictions in a Small Open Economy,” 日本金融学会 2017年度春季大会 早稲田大学 2017年5月27日

## <社会活動>

- ・学会役員  
日本国際経済学会理事 (2018年～)  
日本金融学会理事 (2014年～)
- ・学術誌編集  
Japanese Journal of Monetary and Financial Economics, Co-editor, 2014～
- ・所属学会  
American Economic Association  
日本経済学会

日本金融学会  
日本国際経済学会  
IEFS JAPAN

・ 学術論文レフリー

Journal of Money, Credit, and Banking  
Journal of International Money and Finance  
Journal of Macroeconomics  
Journal of Economics  
The Manchester School  
Review of Development Economics  
Japanese Economic Review  
Japanese Journal of Monetary and Financial Economics  
International Economic Journal  
Japan and the World Economy  
The B.E. Journal of Macroeconomics  
Emerging Markets Finance and Trade  
Economic Modelling  
Open Economies Review

・ その他

日本国際経済学会 2019 年春期大会プログラム委員  
日本国際経済学会 2019 年全国大会プログラム委員  
日本学術振興会科学研究費第 1 段審査委員 (平成 27・28 年度)  
日本金融学会 2017 年春期大会プログラム委員  
日本経済学会 2017 年春期大会プログラム委員  
日本金融学会 2016 年秋期大会プログラム委員  
神戸大学金融研究会 幹事 (2010 年～)

< 研究助成金 >

- ・ 科学研究費補助金：基盤研究 (B)「地域の期待に応える地域金融モデルの構築－災害耐性、人口減少、フィンテック」(2019 年度～2021 年度) (研究分担者)
- ・ 澤村正鹿学術奨励基金 (2018 年度)
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究 (C)「先進国の金融政策正常化により新興国において発生するリスクに対するマクロ経済政策」(2016 年度～2020 年度) (研究代表者)
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」(2015～2019 年度) (研究分担者)
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究 (B)「地域創生のための地域金融機関の役割に関する研究」(2015～2017 年度) (研究分担者)

< 教育活動 >

年度	講義・演習	大学院・学部
2019 年度	応用国際経済学Ⅱ 特殊研究	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2018 年度	応用国際経済学Ⅱ 特殊研究 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科

2017 年度	応用国際経済学Ⅱ 特殊研究 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
---------	------------------------	---

## 教授 家森 信善 (Nobuyoshi YAMORI)

- 研究部門** : グローバル金融  
**生年月** : 昭和 38 年  
**最終学歴** : 平成元年 3 月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程中途退学  
博士 (経済学) (名古屋大学) (平成 8 年 11 月)  
**略 歴** : 姫路獨協大学経済情報学部助手、同専任講師、同助教授、名古屋大学経済学部  
専任講師、同経済学部助教授、同大学院経済学研究科助教授、同高等研究院流  
動教官兼任、同大学院経済学研究科教授、同大学院経済学研究科副研究科長、  
同総長補佐、同社会連携推進室長、同大学院経済学研究科附属国際経済政策研  
究センター長を経て平成 26 年 4 月現職 (名古屋大学客員教授兼任)  
**研究分野** : ミクロ政策分析  
**研究課題** : (1) 日本の金融システム政策の実証研究  
(2) 地域経済と地域・中小企業金融の研究  
(3) 保険業と保険規制の研究  
(4) 金融経済教育と金融リテラシーの研究  
(5) コーポレートガバナンス  
(6) 商品先物市場の研究

---

### 研究活動

#### <概要>

私の専門分野は金融システム論です。金融システムに関するテーマについて幅広く研究を行ってきました。

現在最も力を入れているテーマを一言で言えば、「地域経済の再生・振興に金融を活かす」です。つまり、地域金融機関（地方銀行や信用金庫、信用組合）が中小企業の競争力を向上させるために何ができるのか、あるいは、そのために金融当局はどのようなことをすべきかを研究しています。金融システム論研究者にとって、金融機関の経営の健全性を高めることはもちろん重要ですが、そこから一步踏み出して、地域経済の再生・振興につながるような金融研究を行っていきたくと常に考えています。

中小企業が多く困難な課題に直面していることは広く認識されているのですが、大企業と違って、中小企業金融に関する情報は少なく、実態を把握するのは困難なままです。それでは、実効性のある政策対応はできません。そこで、多くの研究仲間や産業界の協力を得て、私は実態調査を繰り返してきました。

家森信善編『地域の中小企業と信用保証制度』（中央経済社 2010 年）では、愛知県信用保証協会の協力を得て、銀行との取引関係や信用保証制度の利用実態などについて分析しました。2012 年に科学研究費・基盤研究 (A) のプロジェクトとして愛知県の中小企業向けに実施した調査に基づき、愛知県庁などの協力を得て、家森信善編『地域連携と中小企業の競争力』（中央経済社 2014 年）を刊行しました。

神戸大学に着任後も、2016 年度に、金融ジャーナル社の協力を得て実施した調査に基づいて地域金融機関のあり方を考察した『地銀創生』（金融財政事情研究会）を刊行し、2018 年 3 月には経済産業研究所のファカルティフェローとして推進してきた研究プロジェクトの成果をまとめた『地方創生のための地域金融機関の役割』（中央経済社）を刊行しました。さらに、愛知県信用保証協会と連携して創業企業の実態を調査して、『信用保証制度を活用した創業支援』（中央経済社）を 2019 年に刊行しました。

また、近年、金融経済教育と金融リテラシーについて、日本証券業協会や生命保険文化

センターなどの業界関係団体の支援も受けたり、科学研究費や各種の財団などからの研究資金の助成を得たりしながら、研究を進めています。この領域では、『人生100年時代の金融リテラシーと金融サービス』（経済経営研究叢書・金融研究シリーズ No.8）を2020年3月に公刊しました。

このほかに、近年関心を持って研究を進めているテーマをあげると、保険業と保険規制、企業のガバナンス、公的金融のあり方、商品先物取引、などがあります。

## <研究業績>

### 【著書】

『はじめて学ぶ保険のしくみ（第3版）』中央経済社 2020年3月

Yamori, N., Asai, Y., Ojima, M., Tomimura, K., Yoneda, K., *Roles of Financial Institutions and Credit Guarantees in Regional Revitalization in Japan*, Springer, the SpringerBriefs in Economics Book Series (BRIEFSECONOMICS) and Kobe University Social Science Research Series, ISBN 978-981-329-679-4, 92pp., 2019

『ベーシック+（プラス）／金融論（第2版）』中央経済社 2019年1月

### 【編著書】

『人生100年時代の金融リテラシーと金融サービス』 経済経営研究叢書（金融研究シリーズ）No.8 神戸大学経済経営研究所 2020年3月

『信用保証制度を活用した創業支援－信用保証協会の役割と金融機関連携－』 中央経済社 2019年7月

『地方創生のための地域金融機関の役割－金融仲介機能の質向上を目指して－』 中央経済社 2018年3月

### 【著書（分担執筆）】

「経営者の経営力と中小企業支援の有効性」（海野晋悟と共著）村本孜・内田真人編著『アベノミクス下の地方経済と金融の役割』蒼天社 151-178頁 2019年3月

辻正次・竹内信仁・柳原光芳編著『新版 経済学辞典』中央経済社 544頁 2018年12月

### 【書評】

『ニッキン』 2020年2月（柳瀬典由・石坂元一・山崎尚志 著 保険論の新しい学び方を提案『リスクマネジメント』中央経済社 2018年）

『ニッキン』 2019年11月（森川博之 著 『データ・ドリブン・エコノミー デジタルが全ての企業・産業・社会を変革する』ダイヤモンド社 2019年）

『生活経済学研究』第50巻 85-87頁 2019年9月（山沖義和・廉了・森祐司・播磨谷浩三・茶野努・矢野聡・西畑一哉 著 『日本版ビッグバン以後の金融機関経営金融システム改革法の影響と課題』）

『ニッキン』2019年7月26日号 2019年7月（木村真樹 著『はじめよう、お金の地産地消』英治出版 2017年7月）

『季刊 個人金融』2019年春号 144-145頁 2019年（大庫直樹 著『経済が競争でない時代』一般財団法人ゆうちょ財団 2019年）

『ニッキン』2019年4月12日号 2019年4月（清家篤 編著『金融ジェロントロジー 「健康寿命」と「資産寿命」をいかに伸ばすか』東洋経済新報社 2017年4月）

『生活経済学研究』第49巻 121-124頁 2019年3月（奥田真之・大藪千穂 著『はじめての金融リテラシー：お金のキホンを身につけよう！』昭和堂 2018年4月）

『ニッキン』2019年1月18日号 第17面（忽那憲治・山田幸三編 著『地域創生イノベーション 企業家精神で地域の活性化に挑む』中央経済社 2016年10月）

『ニッキン』2018年9月28日号 2018年9月 第17面（「マンガでわかる地方創生」東京ウォーカー編集部『かわるに、かあらん 高知県地方創生プロジェクトにかけた男たち』KADOKAWA 2018年）

『ファイナンシャル・プランニング研究』No.17 108-109頁 2018年3月（橘木俊詔著『家計の経済学』岩波書店 2017年）

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

「高齢者の望ましい金融行動と関連の深い金融リテラシーは何か？—Lusardi and Mitchellの3大質問の有効性の検討—」『生活経済学研究』第51巻 1-17頁 （上山仁恵・柳原光芳と共著） 2020年3月

“The Effects of the Financing Facilitation Act after the Global Financial Crisis: Has the Easing of Repayment Conditions Revived Underperforming Firms?,” *Journal of Risk and Financial Management*, Vol.12, Issue 2, pp.1-17, April 2019

“How Did the Introduction of Deposit Insurance Affect Chinese Banks? An Investigation of Its Wealth Effects,” *Emerging Markets Finance & Trade*, Vol.55, Issue 9, pp.2022-2038 (coauthor: Jianjun Sun), 2019

「生活者の金融リテラシーと金融トラブル—2016年・金融リテラシーと金融トラブルに関する調査をもとに—」『生活経済学研究』第47巻 1-18頁（上山仁恵と共著） 2018年3月

「学校での金融経済教育の経験が金融リテラシーや金融行動に与える影響—2016年・金融リテラシーと金融トラブルに関する調査をもとに—」『ファイナンシャル・プランニング研究』No.17 52-71頁 （上山仁恵と共著）2018年3月

“The efficiency of Japanese financial cooperatives: An application of parametric distance functions,” *Journal of Economics and Business* 94, pp.43-53 (coauthor: Kozo Hariyama, Kei Tomiura), November-December 2017

“Clicks Business of Deposit-taking Institutions: An Efficiency analysis,” *Journal of Economic Studies*, Vol.44, Issue 6, pp.911-930 (coauthor: Farkhanda Shamim and Shahid Anjum), November 2017

“Corporate Governance structure and Efficiencies of Cooperative Banks,” *International Journal of Finance and Economics* 22, pp.368-378 (coauthor: Kozo Hariyama, Kei Tomiura), October 2017

“The Announcement Effects of Regional Tourism Industrial Policy: The Case of the Hainan International Tourism Island Policy in China,” *Tourism Economics*, Vol. 23 Issue 1, pp.200-205 (coauthor: Jianjun Sun, Su Zhang), May 2017

### ・掲載論文

「巻頭言：信用金庫職員の事業性評価能力は向上しているか？」『信金中金月報』 2-3頁 2020年2月

コラム："Business Feasibility Evaluation and Risk of Natural Disaster: Establishment of the Small and Medium Enterprise Strengthening Act and Expectations for Regional Financial Institutions," RIETI, January 2020

新春特別コラム：「事業性評価と自然災害リスクー中小企業強靱化法の成立と地域金融機関への期待ー」経済産業研究所 2019年12月

「銀行との差別化・競争と協業 令和時代にも不変の特性とビジョン：強みを生かした顧客・地域支援を」『金融ジャーナル』18-21頁 2019年11月

「関西の中小企業金融の実態」『アジア太平洋と関西 2019』131-135頁 2019年9月

「巻頭言：中小企業強靱化法が求める金融機関のBCP支援」『信金中金月報』2019年9月号 2-3頁 2019年9月

「最近の金融機関を取り巻く状況とは」『企業実務』2019年7月号 16-18頁 2019年7月

「順調に滑り出した新しい保証制度：企業支援の真の充実につなげよ」『金融ジャーナル』2019年5月号 70-73頁 2019年5月

「創業支援のため信用保証と地域金融機関の役割ー愛知県信用保証協会アンケート調査結果を基にしてー」『国民経済雑誌』第219巻第5号 1-19頁（尾島雅夫と共著） 2019年5月

「提言：顧客に寄り添い、選ばれる税理士に」『TKC』4月号 1頁 2019年4月

「巻頭言：学校教育に吹く金融経済教育への追い風」『ファイナンシャル・プランニング研究』No.18 1頁 2019年3月

「どのような金融機関支店長が政府系金融機関との協働に積極的か？ー地域金融機関支店長アンケート調査に基づいてー」『同志社商学』第70巻6号（藤原秀夫教授退職記念号） 377-401頁 2019年3月

「中小企業から見た中小企業に対する各種支援の取り組みの現状と課題ー「中小企業に対する金融経営支援に関する調査」の概要報告ー」『経済経営研究（年報）』68号 17-110頁（海野晋悟と共著） 2019年3月

「創業者アンケートから見る金融機関の課題」『信金中金月報』2019年2月号 2-3頁 2019年2月

「信金・信組の活路 事業への理解、有益な提案 強み信じ、「育てる金融」を」『エコノミスト』97巻5号 38-39頁 2019年2月

「(特集) 金融機関と地域活性化 地域金融機関による地方創生と地域連携ー取り組み意欲は高いが連携に課題もー」『地域づくり』2019年1月号 2-5頁 2019年1月

新春特別コラム：2019年の日本経済を読む「信用保証制度の改革ー中小企業支援の強化につなげられるかー」経済産業研究所 2018年12月

「特集 衰退する地域経済 もがく信金・信組」『週刊ダイヤモンド』2018年11月10日号 93頁 2018年11月

「地域経済の再生・振興と信用組合の役割について」『しんくみ』2018年10月号 14-23頁 2018年10月

「巻頭特別座談会 つなぐ。たゆまず、つぎの10年へ」『日本公庫 つなぐ』Vol.15 5-13頁 2018年10月

「巻頭言：信金らしさは創業者支援の武器になる」『信金中金月報』2018年8月号 2-3頁 2018年8月

「総特集 信金・信組 生き残りの条件 Part I 識者に聞く「三大条件」『金融ジャーナル』  
2018年8月号 8-9頁 2018年8月

「中小企業金融における信用保証制度への期待」『信用保証』135 2-32頁 2018年8月

コラム「連携強化と人事改革で企業支援力の向上を目指せー地域金融機関支店長3000人へのアンケート調査からー」経済産業研究所 2018年7月

「基調講演「中小企業の再生・承継等のための金融機関と弁護士の協働ー経営者保証ガイドラインの効果的な活用ー」『事業再生と債権管理』161号 2018年7月

「金融経済教育の経験が金融リテラシーや金融行動に与える影響」『金融構造研究』第40号  
31-41頁 2018年6月

講評:TKC東京5会『TKC中小企業経営支援フォーラム』TKC会報 2018年6月号38 2018年6月

坂本孝司・加藤恵一郎編著『中小企業金融における会計の役割』（中央経済社2017年）ニッキン 2018年6月22日号 2018年6月

「巻頭対談 地域金融機関と税理士の連携は粘り強く進めれば必ず実を結ぶ」『TKC会報』  
2018年5月号 4-11頁 2018年5月

「損害保険会社の社員の金融リテラシーと金融教育の課題ー損害保険事業総合研究所の本科講座受講生へのアンケート調査に基づいてー」『損害保険研究』第80巻1号 33-60頁 2018年5月

「新しい信用補完制度の活用によりさらなる事業者支援を」『しんくみ』2018年4月号 8-13頁 2018年4月

「民間と公的金融機関の連携深化のカギを握るものー現場が連携を図りやすい環境整備が肝要ー」『金融財政事情』2018年4月30日号 30-33頁 2018年4月

「日本の創業ファイナンスに関する実態調査の結果概要」『経営研究』66 1-56頁（内田浩史・郭チャリ・畠田敬・本庄裕司と共著）2018年4月

「Part III 識者に聞くー変革への処方箋 育てる金融に信用保証を活用」『金融ジャーナル』  
2018年4月号 74頁 2018年4月

「金融機関の人材マネジメントの現状と課題ー2017年「若年および中堅の金融機関職員の意識調査」の結果に基づいてー」『国民経済雑誌』第217巻3号 45-56頁 2018年3月

「地方創生に関する地域金融の現状と課題ー2017年・金融機関本部向け調査の概要報告ー」『経済経営研究（年報）』67号 19-166頁（富村圭・尾島雅夫・朱彤と共著）2018年3月

「巻頭言 知財活用型事業性評価への期待と課題」『特許研究』No.65 2-5頁 2018年3月

「提言『会計で会社を強くする』を広めるチャンスを生かそう」『TKC会報』1頁 2018年3月号

「コメント 地域にある成長の芽を育て、地方創生の担い手に」『お金の地産地消白書2017』  
38頁 2018年3月

「信用金庫は中長期的な収益を誰からどのように得るのか？」『信金中金月報』2018年2月号 2-3頁 2018年2月

「生活者の金融トラブルと金融経済教育ー2016年・金融リテラシーと金融トラブルに関する

- 調査をもとにー」『大銀協フォーラム研究助成論文集』第 22 号 1-19 頁 (上山仁恵と共著) 2018 年 2 月
- 「学校における金融経済教育の現状と課題」『証券アナリストジャーナル』55 巻 12 号 6-14 頁 2017 年 12 月
- 「地銀『育てる金融』に活路」『公明』 56-61 頁 2017 年 12 月
- 「資本注入制度を活用してビジネスモデルの転換を」『金融財政事情』2017 年 11 月 20 日号 20-24 頁 2017 年 11 月
- 「中小企業の事業の発展を支える信用補完制度：法改正の意味と実現への課題」『日本公庫つなぐ』Vol.11 6-7 頁 2017 年 10 月
- 「地域金融機関の地方創生推進の課題ー広がる取り組みの格差、人材育成に力をー」『金融ジャーナル』 84-97 頁 (富村圭と共著) 2017 年 10 月
- 「巻頭言 法改正で再生・経営支援が本業となる信用保証協会との協働の強化を」『事業再生と債権管理』No.158 2017 年 10 月
- 「信用保証協会の機能強化への期待」『信用保証』No.133 19-25 頁 2017 年 9 月
- 「地域金融機関の役割と税理士との協働への期待」『TKC会報』2017 年 9 月号 28-35 頁 2017 年 9 月
- “Challenges Facing the Managers of Japanese Regional Banks: Human resources capable of helping customers solve problems are the key to success,” Nihon Keizai Shimbun, August 2017 <http://www.rieti.go.jp/en/papers/contribution/yamori-nobuyoshi/02.html>
- 「<経済教室>地銀経営の課題 (下) “育てる金融”担う人材カギ」『日本経済新聞』2017 年 8 月 29 日
- 「営業現場から見た地方創生に取り組む上での課題」『信金中金月報』 2-3 頁 2017 年 8 月
- 「“信用保証”は金融仲介発揮の有力手段ー中小企業経営の改善・発達の実現へ」『金融ジャーナル』 20-23 頁 2017 年 7 月
- 「循環型地域経済実現のための地域金融機関の役割と地域内連携」『ガバナンス』 23-25 頁 2017 年 6 月
- “Fixing the Misunderstanding about the Proposed Reform of the Credit Guarantee Program,” Kinyu Zaisei Jijo, May 2017 <http://www.rieti.go.jp/en/papers/contribution/yamori-nobuyoshi/01.html>
- 「信用保証制度改革に対する誤解を正す」『金融財政事情』第 3215 号 38-41 頁 2017 年 5 月
- 「わが国の生活者の金融・保険リテラシーと保険加入行動ー2016 年・生活保障に関する調査をもとにー」『生命保険論集：金融・保険リテラシー特別号』 37-73 頁 2017 年 5 月
- 「保険市場の質の向上を目指した金融・保険リテラシー研究の起点にー“金融・保険リテラシーと保険市場の質”研究会を終えてー」『生命保険論集：金融・保険リテラシー特別号』 1-35 頁 2017 年 5 月
- 「巻頭言 信用保証制度の改革と事業性評価」『金融法務事情』第 2066 号 p.1 2017 年 5 月
- 「信用保証制度の改革でマル保融資はどう変わるべきか」『銀行実務』2017 年 5 月号 52-55 頁 2017 年 5 月
- 「金融仲介の質向上に向けて始まった金融危機の方向転換」『企業実務』 17-19 頁 2017 年 5 月

・未掲載論文

「中小企業の事業承継の現状と金融機関や信用保証協会による事業承継支援の課題－兵庫県の中企業に対する事業承継に関するアンケート調査結果－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2020-J03 100 頁 (尾島雅夫、小塚匡文、橋本理博と共著) 2020年2月

“Financial Literacy and Securities Investments: Based on the Results of "Survey on Wealth Building, Securities Investment and Financial Literacy";” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2020-08, RIEB Kobe University, 23pp., (with Hitoe UHEYAMA), February 2020

「金融リテラシーと借入れ行動－『住宅ローン利用者の借入行動と金融リテラシーに関する調査』の結果の概要－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2020-J01 106 頁 (上山仁恵と共著) 2020年1月

「高齢者の金融リテラシーと資産運用－2019年『高齢者向けの金融サービスの利用状況に関する調査』の結果概要－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2019-J09 87 頁 (荒木千秋、上山仁恵と共著) 2019年11月

“Consumer's Financial Literacy and Financial Troubles: Based on the 2016 Survey on Financial Literacy and Financial Troubles;” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2019-20, RIEB Kobe University, 25pp., (with Hitoe UHEYAMA), October 2019

“The Current State of Financial Education in Japanese Senior High Schools -A Summary of the Results from a 2019 Survey Conducted Among Senior High School Teachers-;” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2019-16, RIEB Kobe University, 33pp., (with Hitoe UHEYAMA and Mitsuyoshi YANAGIHARA), September 2019

「BCPの取り組みを促す上での金融機関の役割の現状と課題：RIETI『事業継続計画（BCP）に関する企業意識調査』をもとにして」 *RIETI Discussion Paper Series* 19-P-037 経済産業研究所 (浜口伸明・野崎健太郎と共著) 2019年8月

「『事業継続計画（BCP）に関する企業意識調査』の結果と考察」 *RIETI Discussion Paper Series* 19-P-007 経済産業研究所 (野田健太郎・浜口伸明と共著) 2019年4月

「金融リテラシーと証券投資を通じた資産形成－『金融リテラシーと証券投資を通じた資産形成に関する調査』結果の概要－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2019-J07 101 頁 (上山仁恵と共著) 2019年3月

「わが国の高等学校における金融・証券教育の現状と課題－高等学校教員に対する調査結果の概要－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2019-J02 53 頁 (上山仁恵、柳原光芳と共著) 2019年3月

「創業支援のための信用保証制度の利用の現状と課題－愛知県信用保証協会アンケート調査結果の報告－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2018-J08 140 頁 (尾島雅夫と共著) 2018年12月

“How Can Regional Financial Institutions Promote Regional Revitalization in Japan?: Results of the 2017 Survey on Regional Finance;” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2018-17, RIEB Kobe University, 29pp., (with Kei TOMIMURA), July 2018

「高齢者の金融リテラシー計測の試み－「高齢者の金融リテラシーと金融行動に関する調査」の概要報告－」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2018-J06 141 頁 (上山仁恵、柳原光芳と共著) 2018年5月

“Japan's Credit Guarantee System Reform of 2017 and New Functions of Credit Guarantee Associations;” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2018-03, RIEB Kobe University, 13pp., February 2018

「FX 投資における個人投資家の保護の論点」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2017-J15 13 頁 2017 年 12 月

“Current Situation and Challenges of Human Resources Management of Financial Institutions: Based on the 2017 Attitude Survey of Young and Mid-Level Staff of Japanese Financial Institutions,” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-33, RIEB Kobe University, 20pp., (with Koji Yoneda), November 2017

“How Do Accounting and Legal Experts View the Role of Regional Financial Institutions in Supporting SMEs? –Based on a 2016 Questionnaire Study of Accounting and Legal Experts–,” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-28, RIEB Kobe University, 22pp., (with Koji Yoneda), October 2017

「金融機関の人材マネジメントの現状と課題」神戸大学経営学研究科 Center for Research on Startup Finance Working Paper Series No.007. (米田耕士と共著) October 2017

「地方創生に対する地域金融機関の営業現場の取り組みの現状と課題—2017 年・RIETI 支店長アンケートの結果概要—」*RIETI Discussion Paper Series* 17-J-044 経済産業研究所 (相澤朋子、海野晋悟、小川光、尾崎泰文、近藤万峰、高久賢也、富村圭、播磨谷浩三、柳原光芳と共著) 2017 年 7 月

“Great East Japan Earthquake and Risk Management for Small and Medium-Sized Enterprises – How Do Japanese SMEs Prepare against Natural Disasters?–,” *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2017-14, RIEB Kobe University, 26pp., (with Yoshihiro Asai), April 2017

「金融機関職員から見た金融機関の人材マネジメントの現状と課題—2017 年『若年および中堅の金融機関職員の意識調査』の結果の概要—」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2017-J08 105 頁 (米田耕士と共著) 2017 年 4 月

「政府系金融機関と民間金融機関の連携による企業支援—連携商品と再生支援の現状—」神戸大学経済経営研究所ディスカッション・ペーパー No.DP2017-J07 50 頁 2017 年 4 月

#### 【その他】

知財金融委員会『中小企業知財金融促進事業最終取りまとめ—知財活用型事業性評価の広がり—と今後の展望』96 頁 2019 年 3 月

#### <学会報告等研究活動>

(講演)「自然災害に対する企業の備えと地域金融機関による支援—経済産業研究所で実施した 2 つの調査をもとに—」第 24 回公開シンポジウム「自然災害の発生が金融市場・金融機関に与える影響」名古屋市立大学附属経済研究所 2019 年 11 月 28 日

(講演)「信用金庫の強みを生かせる『育てる金融』」北陸地区信用金庫協会「第 1 期しんきん未来塾」第 2 回 信金中金北陸支店 2019 年 11 月 19 日

(報告)「自然災害に対する中小企業の備えと地域金融機関による支援—RIETI アンケート調査に基づく検討—」日本保険学会関西部会 関西学院大学 2019 年 11 月 16 日

(講演)「円滑な事業承継のための行政や金融機関の活用」日本政策金融公庫・第 13 回東北ブロック懇話会交流会「事業承継で繋いでいこう、『次の世代へ未来を手渡し』」仙台国際ホテル 2019 年 10 月 31 日

(司会) パネルディスカッション: 第 13 回東北ブロック懇話会交流会「事業承継で繋いでいこう、『次の世代へ未来を手渡し』」仙台国際ホテル 2019 年 10 月 31 日

(講演)「人生 100 年時代において解決を迫られる金融問題」神戸大学経済経営研究所創立

100周年記念連続シンポジウム 神戸大学 2019年10月30日

(司会) パネルディスカッション:「人生100年時代に求められる信頼できる金融機関と助言者」 神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム 神戸大学 2019年10月30日

(報告)「BCPの取り組みを促す上での金融機関の役割の現状と課題ーRIETI『事業継続計画(BCP)に関する企業意識調査』をもとにしてー(家森信善、浜口伸明、野田健太郎)」 日本保険学会全国大会・ポスターセッション 関西大学 2019年10月26日

(講演)「これからの企業経営者に求められることー経営強靱化に向けてー」 えんしん経営者クラブ 遠州信用金庫 2019年10月24日

(司会) 特別講演:遠藤俊英氏(金融庁長官)「金融行政の現状と課題」 日本金融学会 2019年秋季大会 甲南大学 2019年10月19日

(講演)“Roles of the Public Credit Guarantee System and Regional Financial Institutions in Supporting Startup Firms: Evidence from a Survey by the Aichi Credit Guarantee Corporation” RIETI Professional Development Workshop "Entrepreneurship, Innovation, and Finance: New Growth Avenues in Developed Economies" 経済産業研究所 2019年9月23日

(講演)「地方創生のための地域金融機関の役割」 日本政策投資銀行・設研現代問題セミナー 日本政策投資銀行設備投資研究所 2019年9月5日

(司会) 第20回大会記念シンポジウム「Technologyの進展と金融ビジネス」 日本FP学会 第20回大会 同志社大学 2019年8月31日

(報告)「わが国の高等学校における金融・証券教育の現状と課題ー高等学校教員に対する調査結果の概要ー」 日本FP学会第20回大会 同志社大学 2019年8月31日

(討論者) 山崎尚志氏:「日本版金融ビックバン以後の金融規制改革ー規制緩和 vs 規制強化ー」 第13回地域金融コンファレンス 長野県立大学 2019年8月29日

(講演)「地域金融機関と税理士の連携への期待ー信頼できる決算書は事業性評価の基盤ー」 TKC千葉会「書面添付シンポジウムー中小企業金融における決算書の信頼性を考えるー」 京成ホテルミラマーレ 2019年8月23日

(講評者) 全国信用保証協会連合会・愛知県信用保証協会主催「女性企業家支援に関する意見交換会」 愛知県信用保証協会 2019年8月22日

(講演)「愛知県内の信用保証を利用した創業支援の現状と課題」 神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム「創業支援の"これから"を考えるー信用保証制度改革と創業支援ー」 愛知県信用保証協会 2019年8月21日

(司会) パネルディスカッション:「金融機関の役割と女性が輝いて創業できる AICHI をめざして!」 神戸大学経済経営研究所 創立100周年記念連続シンポジウム「創業支援の"これから"を考えるー信用保証制度改革と創業支援ー」 愛知県信用保証協会 2019年8月21日

(講演)「地域金融機関の事業性評価と創業支援ー支店長アンケートと創業企業アンケートを」 第一回福岡金融研究会 西南学院大学 2019年8月16日

(講演)「地域経済と地域金融機関」 財務省大臣官房信用機構課「地域経済と地域金融機関に関する勉強会」 2019年8月7日

(講演)「中小企業再生・事業承継の重要性とそのための関係機関の連携の必要性」 沖縄県事

業承継ネットワーク／愛知大学事業承継研究プロジェクト／中小企業基盤整備機構沖縄事務所主催 「2019年度沖縄事業承継シンポジウム」 那覇商工会議所 2019年7月19日

(報告)「高齢者の望ましい金融行動と関連の深い金融リテラシーは何か?—『高齢者の金融リテラシーと金融行動に関する調査』に基づく分析—」(上山仁恵氏・柳原光芳氏との共同報告) 生活経済学会第35回研究大会 東洋大学 2019年6月23日

(討論者) 山崎尚志氏他:“The Effects of Catastrophic Events on the Purchasing Behavior for Earthquake Insurance in Japan: A Bayesian Approach” 保険学セミナー 公益財団法人生命保険文化センター 2019年4月13日

(運営・討論者) 奥村綱雄氏、臼井恵美子氏:“Pension Expectations and Household Portfolio Choice of the Elderly in Japan” 第3回 Household Finance 一橋講堂 2019年3月19日

(コーディネーター) 金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム 愛知学院大学名城公園キャンパスキャスルホール 明倫 2019年3月12日

(パネリスト) パネルディスカッション「金融機関と地域との連携のあり方」財務省近畿財務局主催「金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム」KKR ホテル大阪銀河 2019年3月11日

(総括講義)「知財活用型事業性評価の広がり—中小企業知財金融促進事業の成果と今後の展望」知財金融フォーラム 品川グランドホール 2019年3月4日

(モデレーター) パネルディスカッション「知財活用型事業性評価のひろがりと今後の展開」知財金融フォーラム 品川グランドホール 2019年3月4日

(講演)「地域経済活性化のための地域金融機関と税理士等外部専門家の連携強化」TKC 近畿大阪会新年賀詞交歓会 ウェスティンホテル大阪 2019年1月23日

(講演)「最近の地域金融のトピックス—地域金融行政、事業性評価への取り組み、信用保証改革、創業支援—」野村資本市場研究所(東京) 2018年12月26日

(講演)「制度見直し後の信用補完制度と地域金融」日本政策金融公庫 中小企業事業本部保険部門(東京) 2018年12月14日

(パネリスト) パネルディスカッション「創業・成長を金融面から支援するために」神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム「企業や地域の成長・活性化に貢献できる金融ビジネスに向けて」ANAクラウンプラザホテル神戸 2018年12月6日

(パネリスト) パネルディスカッション「新しい時代が求める株主名簿管理人(証券代行)とは—企業防衛の視点で現状の証券代行の問題を探る—」IR Japan セミナー 大手町産経プラザ(東京) 2018年12月5日

(講演)「地域金融の役割と信用保証制度改革について」エフアンドエムフォーラム2018 希望未来 東京コンベンションホール 2018年11月29日

(講演)「信用保証制度見直し後の保証協会に求められる役割」滋賀県信用保証協会(大津市) 2018年11月22日

(座長) セッション: 保険・リスクマネジメント 日本金融学会 2018年秋季大会 名古屋市立大学 2018年10月21日

(報告)「創業支援のために求められる信用保証協会の役割—愛知県信用保証協会アンケート調査結果を基にして—」日本金融学会 2018年秋季大会 名古屋市立大学 2018年10月20日

(コメント) “Predicting the Probabilities of Default for Privately Held Banks: The Case of Shinkin Banks in Japan (Brahim Guizani & Wako Watanabe)” 日本金融学会 2018 年秋季大会 名古屋市立大学 2018 年 10 月 20 日

(講演) 「地域金融機関と信用保証協会の連携による「育てる金融」への期待」山口県信用保証協会設立 70 周年記念「地域金融セミナー」山口グランドホテル 2018 年 10 月 2 日

(インタビュー出演) 「地域金融の現状と課題」NHK 国際放送 (ラジオ) NHK ワールド「インサイト」NHK 2018 年 9 月 12 日

(講演) 「信用金庫の使命と存在意義」全国信用金庫研修所「第 24 回経営者研究会」全国信用金庫研修所 2018 年 9 月 18 日

(基調講演) 「地域経済活性化のための地域金融機関と税理士による連携強化」TKC 中小企業経営支援フォーラム・滋賀 ポストンプラザホテル草津 2018 年 9 月 10 日

(司会) 「パネルディスカッション: Fintech と金融業」日本 FP 学会第 19 回大会 青山学院大学 2018 年 9 月 8 日

(討論) 「パーソナルファイナンス教育が学生の期待形成に与える影響ーイングランド銀行のコミュニケーション戦略を参考としてー (北野友士氏)」日本 FP 学会第 19 回大会 青山学院大学 2018 年 9 月 8 日

(講演) 「地域経済の再生・振興と信用組合の役割について」全国信用組合中央協会「新任理事長研修会」リフレフォーラム 2018 年 8 月 31 日

(司会) 「パネルディスカッション (パネリスト: 遠藤俊英氏・柴田久氏・平井敏雄氏)」第 12 回地域金融コンファランス 三島信用金庫・本部 2018 年 8 月 27 日

(報告) 「地方創生のための地域金融機関の役割～金融機関支店長 3000 人アンケートに基づく分析～」松山大学金融研究会 松山大学 2018 年 8 月 7 日

(パネリスト) 「地域経済活性化のための地域金融機関と税理士による連携強化」第 45 回 TKC 全国役員大会全体研修会 ホテル日航金沢 2018 年 7 月 13 日

(報告) 「地方創生にむけた地域金融の課題」内閣府・経済財政運営に関する勉強会 2018 年 7 月 10 日

(報告) 「地方創生にむけた地域金融の課題」滋賀大学学経済学部リスク研究センター金融セミナー 滋賀大学 2018 年 6 月 28 日

(講演) 「地域金融機関・支援機関等の役割と信用保証協会との協働への期待」青森県信用保証協会設立 70 周年記念「経営支援セミナー2018 地方創生と地域金融機関の役割」ラ・プラス青い森 2018 年 6 月 21 日

(講演) 「中小企業を活性化していくための金融機関の役割とは」愛知県プロフェッショナル人材戦略拠点「金融機関との連携強化に向けたシンポジウム」TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー 2018 年 6 月 15 日

(モデレーター) パネルディスカッション「実務家の視点で語る、これからの支援・アドバイスのあり方」証券アナリスト協会主催・日本経済新聞社共催事業承継シンポジウム 日経カンファレンスルーム 2018 年 6 月 7 日

(報告) 「地域金融機関の現状と望ましい地方金融の在り方ー支店長 3000 人アンケート (RIETI 実施) に基づいて」経済産業研究所 (RIETI) 第 1108 回 BBL セミナー 経済産業研究所 (RIETI) 2018 年 6 月 7 日

(講演)「中小企業再生・事業承継の重要性と、そのための関係機関の連携の必要性」兵庫県中小企業再生支援協議会・日本政策金融公庫「平成30年度再生支援事業金融機関責任者様向け説明会」アリストンホテル神戸 2018年6月6日

(講演)「新しい信用保証制度－中小企業信用保険法等の改正の概要－」倒産・再生法実務研究会第48回定例会 金融財政事情研究会 2018年6月2日

(コメント)「銀行口座動態情報を活用した中小企業の信用リスク分析(根本直子氏・吉野直行氏・大久保豊氏・稲葉大明氏・柳澤健太郎氏)」日本金融学会 2018年春季大会 専修大学 2018年5月27日

(講演)「地域金融機関の役割と税理士との協働への期待～いかに銀行・顧問税理士との関係を築くか～」TKC 経営者アカデミックセミナーTKC 中部会 名鉄ニューグランドホテル 2018年4月27日

(講演)「地域金融機関と税理士との協働への期待－連携の有効性と課題－」TKC 中小企業経営支援フォーラム ホテルメトロポリタンエドモント 2018年4月23日

(基調講演)「中小企業の再生・承継等のための金融機関と弁護士の協働－経営者保証ガイドラインの効果的な活用－」日本弁護士連合会主催・事業再生シンポジウム 弁護士会館 2018年4月16日

(コメント)「社会人の生命保険知識と今後の保険教育(村上恵子氏)」生命保険文化センター・保険学セミナー 大阪 2018年4月14日

(司会) パネルディスカッション 財務省東海財務局主催 金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム「地域企業の価値向上・地域活性化のためのアドバイスとファイナンス」ウィルあいち 2018年3月13日

(講演)「「育てる金融」の実現に向けて～人材育成と連携の課題～」財務省近畿財務局主催 金融仲介の質の向上に向けたシンポジウム「地域企業の価値向上・地域活性化のためのアドバイスとファイナンス」大阪国際交流センター 2018年3月12日

(講演) 特別報告「平成29年度中小企業知財金融促進事業の取り組みと中間成果」特許庁・金融庁主催「知財金融フォーラム～知財を活用した融資から本業支援へ～」コンgresクエア日本橋 2018年3月9日

(司会) パネルディスカッション 神戸大学社会システムイノベーションセンター・経済経営研究所共同主催シンポジウム「フィンテックと地域金融システムの変革」ANA クラウンプラザホテル神戸 2018年3月6日

(講演)「地方創生のために地域金融機関に期待されること」東海財務局主催第一回岐阜県金融懇談会 東海財務局岐阜財務事務所 2018年2月26日

(講演)「中小企業金融における信用保証制度への期待」第89回信用保証協会トップセミナー ホテルクレメント徳島 2018年2月16日

(講演)「地方創生に向けた地域金融機関の役割と税理士との協働への期待」TKC 近畿京滋会金融機関新年交流会 マリアージュグランド 2018年2月8日

(講演)「地方創生に向けた支援機関の役割と連携の意義」大阪府中小企業ネットワーク会議 大阪信用保証協会 2018年1月16日

(報告)「金融・保険教育、保険リテラシーおよび保険加入行動－2016年・生活保障に関する調査を中心にして－」保険学セミナー・東西交流研究報告会 生命保険文化センター 2018年1月27日

- (報告)「金融経済教育の経験が金融リテラシーや金融行動に与える影響」金融構造研究会・年末研究会 地方銀行協会 2017年12月26日
- (コメント)「高校生の保険教育—情報活動と経済関心との関係 (大藪千穂・奥田真之氏)」生活経済学会中部部会 愛知大学 2017年11月25日
- (講演)「地方創生と地域金融による「育てる金融」 兵庫県地域支援金融会議主催ひょうご信用創生アワード表彰式 ラッセホール) 2017年11月21日
- (講演)「パーソナルファイナンス教育とFPに期待される役割」FPフェア2017 東京国際フォーラム 2017年10月29日
- (報告)「金融機関の人材マネジメントの現状と課題—2017年「若年および中堅の金融機関職員の意識調査」の結果に基づいて—(米田耕士氏との共同報告))日本金融学会中部部会 愛知大学 2017年10月21日
- (コメント)「インドにおける邦銀の業務展開 (西尾圭一郎氏)」日本金融学会秋季全国大会 鹿児島大学 2017年10月1日
- (司会)「特別講演 森俊英・南日本銀行頭取」日本金融学会秋季全国大会 鹿児島大学 2017年9月30日
- (講演)「最近の地域金融の動向を踏まえた信用補完制度の課題と方向性」日本政策金融公庫 中小企業事業本部保険部門講演会 2017年9月28日
- (講演)「特別講演：地域金融機関の役割と税理士との協働への期待」TKC 静岡会秋期大学 ホテルセンチュリー静岡 2017年9月21日
- (コメント)「資産形成活動における地域性と金融経済教育：日銀調査をもとに (吉野直行、Peter J. Morgan、Long Q. Trinh 氏) 日本FP学会第18回大会 慶應義塾大学 2017年9月16日
- (報告) Jianjun Sun, Nobuyoshi Yamori, “How did the Introduction of Deposit Insurance Affect Chinese Banks? An Investigation on Its Wealth Effect,” International Finance and Banking Society IFABS Asia 2017 Ningbo China Conference, Ningbo Marriott Hotel, September 2, 2017
- (座長) 第11回地域金融コンファレンス 釧路公立大学 2017年8月18～19日
- (講演)「学校における金融経済教育の必要性について—生きる力を育むための金融経済教育—」日本証券業協会・教員向け金融・証券体験プログラム 東京証券会館 2017年8月17日
- 「生きる力を育むための金融経済教育教員」教員免許状更新講習テキストおよびDVD 教材 「教員のための金融リテラシー入門—生きる力を育む金融経済教育—」公益財団法人 才能開発教育研究財団 pp.1-24 2017年8月
- (講演)「地域金融の現状と課題—求められる「育てる金融」の強化—」政策研究大学院大学 GRIPS・DBJ ジョイントプロジェクト 地域振興・金融コース 地域経済・金融分析論 政策研究大学院大学 2017年7月18日
- (基調講演)「地域金融機関の役割と税理士との協働への期待」第44回TKC全国役員大会 JR ホテルクレメント高松 2017年7月14日
- (講演)「日本の地域金融行政および信用保証制度改革の動向—金融機関の企業支援強化を促す取り組み—」第7回 日中金融円卓会合内部検討会 中国・北京市 Westin Hotel 2017年6月3日
- (意見陳述) 参考人：参議院・経済産業委員会「中小企業の経営の改善発達を促進するため

の中小企業信用保険法等の一部を改正する法律案について」2017年6月1日

(討論者)「随清遠氏：銀行の配当政策と不良債権処理」へのコメント 日本金融学会 2017年春季大会 早稲田大学 2017年5月27日

(講演)「融経済教育の現状とFPに期待される役割・課題」日本FP協会兵庫支部・継続教育研修 兵庫県私学会館 2017年5月20日

(講演)「信用保証制度改革と事業性評価によるプロパー融資の促進」融資問題研究会(大阪会場) 2017年4月25日

(講演)「今後の地域金融のあり方についてー金融機関と専門家や信用保証協会等との連携を中心にー」しずおか中小企業支援ネットワーク全体会議第7回 ホテルアソシア静岡 2017年4月24日

(講演)「信用保証制度改革と事業性評価によるプロパー融資の促進」融資問題研究会(東京会場) 2017年4月20日

## <社会活動>

### ・学会役員

- 2019年 日本経済学会連合評議員(生活経済学会代表)
- 2019年 生活経済学会 学術交流委員会委員長(～2021年)
- 2018年 日本保険学会理事(～現在)
- 2018年 日本保険学会・学会賞選考委員会委員(～現在)
- 2017年 生活経済学会賞等選考委員会委員(～2019年)
- 2015年 日本FP学会理事(～現在)
- 2011年 日本学術会議連携会員(～現在)
- 2010年 日本保険学会評議員(～2018年)
- 2009年 生活経済学会理事(～2015年)(2017年～現在)
- 2008年 日本金融学会常任理事(～2014年)(2016年～現在)
- 2006年 日本金融学会理事(～2014年)(2016年～現在)

### ・プログラム委員

- 2019年10月 日本金融学会2019年秋季全国大会 甲南大学
- 2018年10月 日本金融学会2018年秋季全国大会 名古屋市立大学
- 2018年5月 日本金融学会2018年度春季大会 専修大学
- 2018年6月 生活経済学会第34回研究大会 岐阜大学
- 2017年9月 日本金融学会2017年度秋季全国大会 鹿児島大学
- 2017年5月 日本金融学会2017年度春季全国大会 早稲田大学

### ・雑誌編集

- 2010年ー2017年 Risk Governance and Control: Financial Markets & Institutions 編集委員
- 2003年ー2019年 日本経済政策学会『経済政策ジャーナル』編集委員

2002年－2018年 日本金融学会『金融経済研究』編集委員  
1998年－現在 International Journal of Business (カリフォルニア州立大フレズノ校  
クレイグ・ビジネススクール発行) Associate Editor

・学外委員

2019年 財務省・財政制度等審議会専門委員(財政投融资分科会所属)(～2021年3月)  
2019年 内閣府地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取り組み事例」選定に係る  
審査委員  
2019年 金融庁参与  
2019年 国土交通省「独立行政法人住宅金融支援機構業務実績評価有識者会合」委員  
(～2020年3月)  
2019年 特許庁事業「令和元年度中小企業知財経営支援金融機能活用促進事業」  
知財金融委員会委員長(～2020年3月)  
2019年 東海財務局・金融行政アドバイザー  
2019年 名古屋大学客員教授(～2020年3月31日)  
2019年 アジア太平洋研究所 リサーチリーダー兼上席研究員(～2020年3月)  
2019年 損害保険事業総合研究所・損害保険研究費助成制度・選考委員(～2020年3月)  
2019年 損害保険事業総合研究所・損害保険講座講師(～2020年3月)  
2019年 日本証券業協会「金融経済教育を推進する研究会」委員(再任～2021年3月)  
2019年 株式会社地域経済活性化支援機構 社外取締役・地域経済活性化支援委員  
(～2020年6月)  
2019年 信金中央金庫・地域・中小企業研究所「信金中金月報」編集委員  
(～2021年8月)  
2019年 全国信用金庫協会 支店長講座講師(～2019年11月)  
2019年 中小企業庁・中小企業政策審議会臨時委員(～2020年8月)  
2019年 ひょうご信用創生アワード選考委員(～2020年3月)  
2019年 京都市指定金融機関選定委員会委員(～2021年8月)  
2019年 名古屋証券取引所アドバイザーコミッティー委員(再任～2020年7月)  
2019年 環境省 地域におけるESG金融促進事業 意見交換会委員(～2020年3月)  
2019年 財務省 日本政策投資銀行の特定投資業務のあり方に関する検討会委員  
(～2019年12月)  
2019年 企業金融・企業ダイナミクス研究会 プロジェクトメンバー  
(～2021年10月31日)  
2018年 東京商品取引所・市場取引監視委員会委員  
2018年 愛知県信用保証協会・外部評価委員会委員  
2018年 名古屋証券取引所・アドバイザーコミッティー委員  
2018年 兵庫県信用保証協会・ひょうご信用創生アワード選考委員

- 2018年 日本証券業協会・金融・証券教育支援委員会委員
- 2018年 日本FP協会・理事
- 2018年 中小企業庁・中小企業政策審議会臨時委員
- 2018年 国土交通省住宅局・制度施行10年経過を見据えた住宅瑕疵担保履行制度のあり方に関する検討会委員
- 2018年 損害保険事業総合研究所・非常勤理事
- 2018年 株式会社地域経済活性化支援機構・社外取締役、地域経済活性化支援委員
- 2018年 損害保険事業総合研究所・損害保険講座講師
- 2018年 三菱UFJリサーチアンドコンサルティング  
特許庁事業・平成30年度中小企業知財金融促進事業 知財金融委員会委員長
- 2018年 名古屋大学客員教授
- 2018年 損害保険事業総合研究所・損害保険研究費助成制度・選考委員
- 2018年 全国銀行学術研究振興財団・選考委員（～2020年3月）
- 2018年 国土交通省・独立行政法人住宅金融支援機構業務実績評価有識者会合委員
- 2018年 金融庁・参与
- 2018年 特許庁・平成30年度中小企業等知財金融促進事業（知的財産評価書事業）に係る企画競争における事業者選定委員会委員
- 2018年 中小企業庁・商工中金の経営及び危機対応業務に関する評価委員会
- 2018年 経済産業研究所・ファカルティ・フェロー
- 2017年 兵庫県信用保証協会 ひょうご信用創生アワード選考委員
- 2017年 東海財務局 金融行政アドバイザー
- 2017年 「にししんハイスクール・ものづくりコンテスト2017」審査委員長
- 2017年 中小企業庁 商工中金の在り方検討会委員
- 2017年 独立行政法人経済産業研究所 企業金融・企業行動ダイナミクス研究会委員
- 2017年 名古屋証券取引所・アドバイザー・コミッティ委員
- 2017年 公益財団法人・生命保険文化センター 理事
- 2017年 名古屋大学客員教授 2017年 特許庁 平成29年度中小企業知財金融促進事業（知的財産評価書事業）に係る企画競争における事業者選定委員会委員
- 2017年 金融庁・金融審議会委員
- 2017年 銀行業務検定協会・銀行業務検定試験・事業性評価検定委員長

・学外営利企業の役員

- 2015年 アイ・アールジャパンホールディングス 社外取締役（監査等委員）（～現在）

<国際交流活動>

- ・ Jianjun SUN, School of Economics and Management, Hainan University, Haikou, China との中国金融に関する共同研究 (Emerging Markets Finance and Trade 誌に2019年に共著論文を発表)

- Farkhanda Shamim, Department of Economics and Finance, University of Bahrain, Sakhir, Bahrain  
との金融の電子化に関する共同研究 (Journal of Economic Studies 誌に 2017 年に共著論文を発表)

#### <研究助成金>

- 澤村正鹿学術奨励基金「わが国の学校における金融・証券教育の現状と課題」(2018~2019年) (研究代表者)
- 野村財団「金融リテラシーと証券投資を通じた資産形成」(2018~2020年) (研究代表者)
- 科学研究費補助金：基盤研究 (B) 「財政競争における部分協調の維持条件に関する理論研究」(2017~2021年度) (研究分担者)
- 科学研究費補助金：挑戦的研究 (萌芽) 「高齢化社会にふさわしい金融リテラシーの新しい尺度構築の挑戦的な試み」(2017~2019年度) (研究代表者)
- 科学研究費補助金：基盤研究 (A) 「地方創生を支える創業ファイナンスに関する研究」(2016~2020年度) (研究分担者)
- 科学研究費補助金：基盤研究 (B) 「地域創生のための地域金融機関の役割に関する研究」(2015~2017年度) (研究代表者)

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	特殊研究 演習 現代の経済 B (総合教養科目)	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2018年度	日本の金融政策 日本の金融システム 特殊研究 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2017年度	日本の金融政策 日本の金融システム 特殊研究 演習	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科

## 教授 潘 俊毅 (Junyi SHEN)

研究部門	: グローバル経済
最終学歴	: 平成 18 年 3 月 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程修了 博士 (国際公共政策) (大阪大学) (平成 18 年 3 月)
略 歴	: 上海龍柏ホテル・マーケティング部長、上海国際会議センターホテル・マーケティング部長、大阪大学社会経済研究所特任研究員、大阪大学大学院国際公共政策研究科助教、広島市立大学国際学部講師、広島市立大学国際学部・国際学研究科准教授、神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成 26 年 8 月現職
研究分野	: 経済開発戦略
研究課題	: 人間の経済活動における実験・実証分析、環境経済学に関する実証分析

---

### 研究活動

#### <概要>

#### 1. 人間の経済行動における実験分析

実験研究では、まず、目に見えない人々の参照点の違いが、彼らが不正行為を行うかどうかという意思決定に影響を及ぼすか否かを明らかにするため、経済実験を行った。その結果は、参照点の違いによって被験者の不正行為の意思決定が異なるものであった。期待獲得金額が高い被験者は、期待獲得金額が低い被験者より、不正する確率が統計的に有意に高かった。このような行動の変化は損失回避によってもたらされるものと推測される。また、不正の程度を表す不正の数に関しては、期待獲得金額が高い被験者は、期待獲得金額が低い被験者より、統計的に有意に多かった。

次に、最後通牒ゲームを使って、直接に現金で実験を行うケースと、ポイントで実験を行い、実験後現金に換金するケースにおいて、被験者のパフォーマンスに違いがあるか否かを検証した。主な結果は、ポイントで実験を行うケースと比べて、現金の場合に提案者の平均提案額が高く、応答者の平均拒否率が低いことが発見された。

最後に、相対取引による財の交換について交渉を行う実験において、一人で取引を行う場合と二人グループを形成して取引を行う場合について、中国での経済的に未発達な内陸地域の出身者と経済的に発展している沿岸地域の出身者の行動を比較分析する研究を行った。上海で実施した実験では、まず、全般的に、一人で取引を行う場合よりも、二人グループで取引を行う場合の方が、効率的な均衡結果が実現される割合が高い傾向があることを観察した。また、財の交換比率の観点から、一人で取引する場合は、内陸出身の方が沿岸出身者より交渉力が相対的に強いものに対して、二人グループで取引する場合は、沿岸出身の方が内陸出身者より交渉力が相対的に強いことを観察した。

#### 2. 環境経済学に関する実証分析

環境問題の研究では、中国において上海を含む長江デルタ地域に立地する製造業の企業を対象としたアンケート調査を行なった。その結果、外資資本がある企業ほど、および市場競争が厳しいほど、それらの企業が製品のエコラベルを認証するインセンティブが高くなり、総合的に高い経済効率性を達成することがわかった。また、製品のオリエンテーションや規模、上場企業であるか否かなどの要因も企業の製品のエコラベル認証行動に影響を及ぼすこともデータにより明らかになった。

## < 研究業績 >

### 【 論 文 】

#### ・ レフェリー付論文

##### 掲載済

“Gender-specific Reference-dependent Preference in an Experimental Trust Game,” *Evolutionary and Institutional Economics Review* 17, pp.25-38, (with Hiromasa Takahashi and Kazuhito Ogawa), January 2020

“Factors Affecting Participation in Health Checkups: Evidence from Japanese Survey Data,” *Health Policy*, 123(4), pp.360-366 (with Riko Noguchi), April 2019

“Examining Japanese Women's Preferences for a New Style of Postnatal Care Facility and Its Attributes,” *International Journal of Health Planning and Management* 33 (4), pp.890-901 (with Takako Nakashima, Izumi Karasawa, Tatsuro Furui, Kenichiro Morishige, Tatsuyoshi Saijo), November 2018

“Profit or Environment? A System Dynamic Model Analysis of Waste Electrical and Electronic Equipment Management System in China,” *Journal of Cleaner Production* 194, pp.34-42 (with Qinxin Guo, Enci Wang, Yongyou Nie), September 2018

“Examining Shanghai Consumer Preferences for Electric Vehicles and Their Attributes,” *Sustainability* 10(6) (with Yongyou Nie, Enci Wang, Qinxin Guo), June 2018

“Instability in the Voluntary Contribution Mechanism with a Quasi-linear Payoff Function: An Experimental Analysis,” *Journal of Behavioral and Experimental Economics*, 72, pp.67-77 (with Jun Feng, Tatsuyoshi Saijo, and Xiangdong Qin), February 2018

“Mate Choice Mechanism for Solving a Quasi-Dilemma,” *Journal of Behavioral and Experimental Economics*, 72, pp.1-8 (with Tatsuyoshi Saijo), February 2018

“Examining the Factors Affecting Personal Income: An Empirical Study Based on Survey Data in Chinese Cities,” *Frontiers of Economics in China*, 12 (4), pp.515-544 (with Lihui Wang), December 2017

##### 掲載予定

“Revisiting the Impact of Impure Public Goods on Consumers' Prosocial Behavior: A Lab Experiment in Shanghai,” *Bulletin of Economic Research*, (with Qinxin Guo, Enci Wang, and Yongyou Nie), forthcoming, 2020

“Hometown-specific Bargaining Power in an Experimental Market in China,” *The Singapore Economic Review*, (with Xiangdong Qin, Ken-Ichi Shimomura and Takehiko Yamato), forthcoming, 2020

#### ・ 掲載論文

“Examining the Factors Affecting the Choice of Mobile Payments: An Empirical Study Based on Survey Data in Shanghai,” 『国民経済雑誌』第 220 巻第 6 号 pp.73-90 (Chong Li と共著) 2019 年 12 月

“Does Physical Exercise Affect Tradeoffs between Fixed Pay and Performance-related Pay for Individuals?,” 『国民経済雑誌』第 216 巻第 6 号 pp.25-46 (Weiyi Zhang, Hiromasa Takahashi と共著) 2017 年 12 月

#### ・ 未掲載論文

“Valuing Rural Residents' Attitude Regarding Agri-environmental Policy in China: A Best-worst Scaling Analysis,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2020-01, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University (with Qinxin Guo), January 2020

“An Empirical Comparison Between Discrete Choice Experiment and Best-worst Scaling: A Case Study of Mobile Payment Choice,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2019-14, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University (with Qinxin Guo), July 2019

The Pivotal Mechanism Versus the Voluntary Contribution Mechanism: An Experimental Comparison,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2018-23, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University (with Tatsuki Homma, Takuma Wakayama, Hirofumi Yamamura, Takehiko Yamato), November 2018

“Revisiting the Impact of Impure Public Goods on Consumers' Prosocial Behavior: A Lab Experiment in Shanghai,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2018-22, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University (with Qinxin Guo, Enci Wang, Yongyou Nie), November 2018

“The Effect of Anchoring on Dishonest Behavior,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2018-04, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University (with Hiromasa Takahashi), February 2018

### <社会活動>

- ・ 学術論文レフリー

American Journal of Agricultural Economics

Annals of Regional Science

Applied Economics

Asia Pacific Management Review

British Journal of Economics, Management & Trade

China Economic Review

Economics Letters

Energy Economics

Energy Policy

Environment and Behavior

Global Environmental Change

International Journal of Sustainable Development

Journal of Behavioral and Experimental Economics

Journal of Environmental Management

Journal of Environmental Planning and Management

Journal of Environmental Psychology

Journal of Neuroscience, Psychology, and Economics

Journal of Service Science and Management

Journal of Socio-Economics

Singapore Economic Review

Society and Natural Resources

Transportmetrica

Transportation Research Part A: Policy and Practice

### <研究助成金>

- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）「市場均衡の動学的安定性と効率性に初期条件が及ぼす影響の研究」（2019～2023年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）「公共プロジェクトのメカニズムデザイン：理論と実験」（2019～2021年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（A）「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」（2018～2022年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）「消費増税が消費行動に与える影響に関する研究：行動経済学と経済実験によるアプローチ」（2017～2019年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（C）「手持ち現金が経済人の合理性に与える効果の分析：経済実験によるアプローチ」（2015～2017年度）（研究代表者）

<国際交流活動>

- ・「人数と出身地が異なる家計同士の交換競争経済に関する実験研究」  
秦向東准教授（中国上海交通大学）・大和毅彦教授（東京工業大学）・下村研一教授（神戸大学）  
と共同

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	演習	神戸大学大学院経済学研究科
2018年度	演習	神戸大学大学院経済学研究科
2017年度	演習 特殊研究	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科

## 教授 西谷 公孝 (Kimitaka NISHITANI)

- 研究部門** : 企業競争力  
**最終学歴** : 平成 21 年 3 月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了  
博士 (経営学) (神戸大学) (平成 21 年)  
**略 歴** : 広島大学大学院国際協力研究科特任助教、神戸大学経済経営研究所准教授、ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校客員研究員等を経て平成 28 年 2 月より現職  
**研究分野** : 国際経営  
**研究課題** : (1) サステナビリティ経営  
(2) サステナビリティ報告・統合報告  
(3) グリーン・サプライチェーン・マネジメント  
(4) 女性の活躍  
(5) SDGs (持続可能な開発目標)
- 

### 研究活動

#### <概要>

近年、環境や社会の視点を経営に取り込むことは長期的な成長には不可欠であると考えられており、そのために必要なもう一つの要因であるコーポレートガバナンスも含めて ESG (環境・社会・ガバナンス) と呼ばれるなど、サステナビリティ経営の範囲は、環境・社会だけでなく、企業のサステナビリティにも広がっている。こうした背景をもとに、サステナビリティ経営の要因や、サステナビリティ経営と環境・社会パフォーマンス、もしくは経済パフォーマンスとの関係を実証分析した。また、企業内部で行われているサステナビリティ経営は外部にその情報を開示することによって初めて様々なステークホルダーに伝わることから、サステナビリティ報告や統合報告についても多様な角度から分析を行った。さらには、2015 年に SDGs が採択されてからは、SDGs の観点から日本企業だけでなく外国企業、特に途上国企業のサステナビリティ経営を対象とした分析も行った。

#### <研究業績>

##### 【著 書】

『創発型責任経営－新しいつながりの経営モデル』(國部克彦・北田皓嗣・安藤光展との共著) 日本経済新聞出版社 2019 年 6 月

##### 【著書 (分担執筆)】

「環境マネジメントシステム (EMS)」環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版 438-439 頁 2018 年 5 月

「ベトナムにおける MFCA の展開」(グエン ティ ビック フェ・國部克彦との共著) 國部克彦・中畠道靖編著『マテリアルフローコスト会計の理論と実践』同文館出版 286-299 頁 2018 年 2 月

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

“Are Third-party Assurances Preferable to Third-party Comments for Promoting Financial Accountability in Environmental Reporting?” (coauthored with Haider, M.B. and Kokubu, K.) Journal of Cleaner Production 248, 119199, March 2020

“Can Firms Enhance Economic Performance by Contributing to Sustainable Consumption and Production? Analyzing the Patterns of Influence of Environmental Performance in Japanese Manufacturing Firms,” (coauthored with Kokubu, K.) Sustainable Production and Consumption 21, pp.156-169, January 2020

“Comprehensive Environmental Management Control System and Stakeholder Influences: Evidence from Thailand,” (coauthored with Kokubu, K., Wu, Q., Tongurai, J. and Pakpong, P.) Sustainability Management and Business Strategy in Asia (Kokubu, K. and Nagasaka, Y. (eds.)), pp.131-148, October 2019

“Does Corporate Environmental Performance Enhance Financial Performance? An Empirical Study of Indonesian Firms,” (coauthored with Jannah, N., Kaneko, S. and Hardinsyah) Environmental Development, Vol. 23, pp.10-21, September 2017

#### 掲載予定

“Views of Corporate Managers on Assurance of Sustainability Reporting: Evidence from Japan,” (coauthored with Haider, M.B.), International Journal of Disclosure and Governance, forthcoming, 2020

“Corporate Social Reporting in the Banking Industry of Bangladesh: A Test of Legitimacy Theory,” (coauthored with Islam, M.T. and Kokubu, K.), Social Responsibility Journal, forthcoming, 2020

### ・未掲載論文

“Can Material Flow Cost Accounting as a Mediating Instrument Contribute to the Sustainable Development Goals?,” (coauthored with Kokubu, K., Kitada, H., and Shinohara, A.), RIEB Discussion Paper Series, DP2020-04, 38pp., January 2020

“Patterns of Influence of Environmental Performance on Economic Performance: An Empirical Study of Japanese Manufacturing Firms,” (coauthored with Kokubu, K.), RIEB Discussion Paper Series, DP2019-07, 35pp., March 2019

“Do Environmental Disclosures and Their Credibility Play a Role in Linking Corporate Environmental Performance and Shareholder Value?,” (coauthored with Haider, M.B. and Kokubu, K.), RIEB Discussion Paper Series, DP2018-07, pp.1-37, March 2018

“Dynamics of Factors to Influence Integrated Reporting Practice: Evidence from Japan and UK,” (coauthored with Unerman, J. and Kokubu, K.), RIEB Discussion Paper Series, DP2017-12, 51pp., March 2017

## 【その他】

「株主が関心高める社会・環境問題」『週刊エコノミスト』2017年10月24日号 56-57頁  
2017年10月

「環境対策は供給連鎖管理で」『週刊エコノミスト』2017年9月19日号 52-53頁  
2017年9月

「製造業のサービス化で競争力確保」『週刊エコノミスト』2017年8月8日号 48-49頁  
2017年8月

「廃棄物費用把握で環境負荷削減」『週刊エコノミスト』2017年7月4日号 52-53頁  
2017

年 7 月

「非財務情報重要度が増す企業経営」『週刊エコノミスト』2017 年 5 月 30 日号 50-51 頁  
2017 年 5 月

「環境経営にビジネスチャンス」『週刊エコノミスト』2017 年 4 月 18 日号 54-55 頁 2017  
年 4 月

#### <学会報告等研究活動>

(発表)「三菱重工業グループの『き・ず・な活動』」経済経営研究所創立 100 周年記念事業・社会システムイノベーションセンター共催 出版記念シンポジウム 創発型責任経営-新しいつながりの経営モデル- 神戸大学 2019 年 8 月 2 日

(発表)「三菱重工業グループの『き・ず・な活動』」経済経営研究所創立 100 周年記念事業・社会システムイノベーションセンター共催 出版記念シンポジウム 創発型責任経営-新しいつながりの経営モデル- 法政大学 2019 年 7 月 26 日

(発表)「企業、市場、コーポレートガバナンス」100 周年記念特別セミナー サービスイノベーション人材育成ビデオ制作記念「コーポレートガバナンスと企業経営:ファミリービジネスから見えてくるものは」 神戸大学 2019 年 5 月 21 日

(講演)「ワーク・ライフ・バランスをどう活用するか」第 23 回神戸経済経営フォーラム 神戸商工会議所 2019 年 2 月 15 日

(ディスカッサント)「企業の社会的責任に対する消費者の評価ー有機栽培原材料の使用と従業員の長時間労働に関する考察ー(中野牧子)」環境経済・政策学会 2018 年大会 上智大学 2018 年 9 月 9 日

(講演)「これからの環境経営をどう考える？」関西電カグループ環境管理委員会第 17 回会合 大阪 2018 年 6 月 1 日

(発表)“What is Environmental Management Control Systems? A Construct Validation Study on Dimensions and Measures,”(國部克彦, T.Guenther, 吳綺, E.Guenther, J.Endrikat と共同報告) 日本会計研究学会第 76 回全国大会 広島大学 2017 年 9 月 23 日

(発表)“Integrated reporting practices in Japanese companies,” 2nd Seminar on Material Flow Cost Accounting, Malaya University 2017 年 10 月 26 日

(発表)「統合報告書のディスコース分析」RIEB セミナー「経営学研究のフロンティア: 環境経営、管理会計、組織・人事領域の研究動向レビューと経験的研究の方向性」神戸大学経済経営研究所 2017 年 7 月 8 日

#### <社会活動>

- ・所属学会  
環境経済・政策学会  
日本社会関連会計学会  
日本 LCA 学会  
日本会計研究学会  
Centre for Social & Environmental Accounting Research

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金: 基盤研究 (B)「社会・環境・経済問題の同時解決を目指すサステナビリティ会計の体系的研究」(2019~2021 年度) (研究代表者)

- ・メルコ学術振興財団研究助成「SDGs時代に適応するサステナビリティ管理会計の開発と利用に関する研究」（2018年度）（研究代表者）
- ・環境研究総合推進費「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」（2016～2020年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」（2016～2019年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「グローバル経済下におけるグリーン・イノベーションの研究」（2016～2018年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「統合報告書の実証的日英比較研究」（2015～2017年度）（研究代表者）

#### <国際交流活動>

- ・「企業のSDGsへの取り組みに関する国際比較研究」國部克彦（神戸大学）、Ataur R. Belal（シェフィールド大学）と共同研究
- ・「環境情報開示の日米比較研究」國部克彦（神戸大学）、Jin Dong Park（タウソン大学）と共同研究
- ・「統合報告書の日英比較研究」國部克彦（神戸大学）、遠藤貴宏（一橋大学）、Jeffrey Unerman（ランカスター大学）、Franco Zappettini（リバプール大学）と共同研究
- ・「日本・ドイツ企業における経営管理と環境マネジメントの関係に関する国際比較研究」國部克彦（神戸大学）、梶原武久（神戸大学）、北田皓嗣（法政大学）、Thomas Guenther（ドレスデン工科大学）、Edeltraud Guenther（ドレスデン工科大学）他と共同研究
- ・「アジアにおける企業の環境経営モデルの展開とステークホルダーによる導入支援方策に関する研究」國部克彦（神戸大学）、Nguyen Thi Bich Hue（貿易大学）、Pakpong Pochanart（National Institute of Development Administration）他と共同研究
- ・「インドネシアにおける環境経営の現状に関する研究」金子慎治（広島大学）、Nurul Jannah（ボゴール農科大学）Hardinsyah（ボゴール農科大学）と共同研究

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	経営制度特殊研究(CSR経営)演習	神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科
2018年度	経営制度特殊研究(CSR経営)	神戸大学大学院経営学研究科
2017年度	経営制度特殊研究(CSR経営)	神戸大学大学院経営学研究科

## 教授 神谷 和也 (Kazuya KAMIYA)

研究部門 : グローバル金融  
生年月月 : 昭和 32 年 7 月  
最終学歴 : イェール大学大学院経済学部 修了 (Ph.D. イェール大学)  
昭和 62 年 7 月 大阪大学大学院経済学研究科後期課程退学  
略歴 : カソリック大学 (ベルギー) CORE 研究員、大阪大学経済学部助教授、同社会  
経済研究所助教授、東京大学経済学部助教授、同大学院経済学研究科助教授、  
同教授、同副学長 (平成 28 年 3 月まで) を経て平成 28 年 4 月より現職、  
令和 2 年 4 月から経済経営研究所長  
研究分野 : ミクロ政策分析  
研究課題 : 貨幣サーチ理論、契約理論、価格調整プロセス

---

### 研究活動

#### <概要>

#### 1. 貨幣モデルの経済実験

貨幣サーチモデルなどのミクロ経済学的基礎付けを持つ貨幣モデルにおいては、連続無限個の定常均衡が存在する (つまり非決定である) ことが知られている。したがって、実験を行った際に、どの均衡が選択されるか明らかではない。実験の結果、比較的効率的かつ貨幣保有分布が複雑な均衡が選ばれることが分かった。また、動学的ダブルオークション・モデルについても実験を行い、どのような均衡が選択されるか、実験を行った。その結果、必ずしも効率的ではない均衡が選ばれることが多いことが分かった。

#### 2. 貨幣モデルの理論的研究

貨幣モデルは、非決定性に関連して 2 種類に分類できることを明らかにした。具体的には、貨幣保有分布から分布の定常性を表す関係へのマップが **completely continuous** の場合には、バナッハ空間上の陰関数定理の条件が満たされる限りにおいて、非決定性 (定常均衡が連続無限) になる。この場合は、ある意味、方程式の数と変数の比較を無限次元に拡張できる場合になる。一方、このマップが\*弱位相における連続性しか満たさない場合は、定常均衡が有限個になり決定性を持つ可能性が発生する。この場合には、そもそも微分も定義できず陰関数定理を適用できない。また、方程式の数と変数の数の関係の無限次元版を考えることが困難になり、多くの興味深い場合が発生するものと考えられる。また、効用関数と費用関数がアフィン関数の場合の貨幣サーチモデルを分析し、ナッシュ交渉により取引が行われる場合には、均衡が無限個あるにもかかわらず、社会厚生は一定になることが分かった。したがって、このケースでは政策効果を分析可能になる。

#### 3. 契約理論

どのような状況でどのような期間の雇用契約および賃金形態 (固定賃金あるいは成果給) が最適になるのかを分析した。より具体的には、雇用者 (プリンシパル) と被雇用者 (エージェント) が、契約期間 (1 期ずつの契約 (短期契約)、数期ずつの契約 (中期契約)、あるいは全期まとめでの契約 (長期契約))、および賃金形態 (固定賃金あるいは成果給) について交渉により選択し契約するモデルを考察した。

#### 4. 価格調整プロセス

タトヌマン・プロセスが、リミット・サイクルになるような一般均衡モデルを構築した。また、このようなケースでダブル・オークション等の実験を行った場合、どのようなふるまいをするか分析を行う予定である。現在は、予備実験を行った段階。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

“Real Indeterminacy of Stationary Monetary Equilibria in Centralized Economies”, *The Japanese Economic Review*, (with Kayuna Nakajima and So Kubota), Volume68, Issue4, Pages 497-520, December 2017

#### ・未掲載論文

“Efficiency of Monetary Exchange with Divisible Fiat Money: An Experimental Approach,” (with Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichijo, and Takashi Shimizu), *RIEB Discussion Paper Series*, No. 2019-21, 41pp., October 2019

「国内5大学附置研究所及びシンガポール国立大学経済学部の研究生産性比較調査（2018年）（二神孝一、芹澤成弘、柴田章久と共著）*ISER Discussion Paper*, No.1057 2019年5月

“On the Real Determinacy and Indeterminacy of Stationary Equilibria in Monetary Models,” *RIEB Discussion Paper Series*, No. 2019-03, 13pp., March 2019

「国内5大学附置研究所及びシンガポール国立大学経済学部の研究生産性比較調査（2017年）（二神孝一、芹澤成弘、柴田章久と共著）*ISER Discussion Paper*, No.1031 2018年5月

“Combinations of Different Length Contracts in a Multiperiod Model: Short, Medium and Long-term Contracts,” (with Meg Adachi-Sato), *RIEB Discussion Paper Series*, No. 2018-05, 46pp., March 2018

「9大学経済学研究科・附置研究所の研究生産性比較調査（2016年）」（二神孝一、芹澤成弘、柴田章久と共著）*ISER Discussion Paper*, No.998 2017年4月

## <学会報告等研究活動>

（報告）“On the Real Determinacy and Indeterminacy of Stationary Equilibria in Monetary Models”, 数理経済学会 慶応大学 2019年11月3日

（報告）“Equilibrium Selection in Dynamic Auction Markets with Fiat Money: An Experimental Approach”, (with Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichijo, Takashi Shimizu), 2019 ESA World Meeting, Vancouver, Canada, July 8, 2019

（報告）“Equilibrium Selection in Monetary Search Models: An Experimental Approach”, (with Hajime Kobayashi, Tatsuhiro Shichijo, Takashi Shimizu), 2018 Asia Pacific Economic Science Association Conference, Brisbane, Australia, February 8, 2018

## <社会活動>

#### ・所属学会

日本経済学会  
数理経済学会  
Econometric Society

#### ・役員

数理経済学会・会長  
日本経済学会・監事

#### ・Editor 等

Associate Editor, *Advances in Mathematical Economics*  
Associate Editor, *International Journal of Economic Theory*

<研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「貨幣のサーチ・モデルにおける価格の決定要因：理論と実験」（2016～2020年度）（研究代表者）
- ・科学研究費基金：挑戦的萌芽研究「新しい貨幣モデルの構築」（2016年度～2018年度）（研究代表者）

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	経済数学	神戸大学大学院経済学研究科・経済学部
2018年度	経済数学	神戸大学大学院経済学研究科・経済学部
	経済数学特殊講義	神戸大学大学院経済学研究科・経済学部
	現代の経済 B	神戸大学大学院経済学研究科・経済学部
2017年度	ミクロ経済学Ⅱ	神戸大学大学院経済学研究科・経済学部

## 教授 榎本 正博 (Masahiro ENOMOTO)

**研究部門** : 企業情報研究  
**最終学歴** : 平成 11 年 3 月 大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程  
単位修得退学  
博士 (経営学) (大阪大学) (平成 24 年 9 月)  
**略 歴** : 静岡大学人文学部経済学科講師・助教授, 東北大学大学院経済学研究科助教  
授・准教授, 神戸大学経済経営研究所准教授を経て平成 30 年 11 月現職  
**研究分野** : 会計情報分析  
**研究課題** : 会計情報の国際比較分析, 会計情報と投資の効率性の関連の分析, 会計情報と  
コーポレート・ガバナンスの関連の分析, 会計情報と債務契約の関連の分析

---

### 研究活動

#### <概要>

研究は利益マネジメントを中心としている。その中でも、わが国における会計基準の新設・改訂と利益マネジメント、利益マネジメントの国際比較について研究を行ってきた。

#### 1. 利益マネジメントの国際比較

世界各国の金融発展が各国の利益の質に与える影響について分析を行った。利益の質に影響を与えるものとしては、経営者の会計的裁量行動と実体的裁量行動に着目した。コーポレート・ガバナンスの状況も、利益の質に影響を与えうる。コーポレート・ガバナンスの状況として大株主に注目し、大株主と利益の質に関して研究を進めた。また利益の質 (利益マネジメント) の国際比較研究についてのサーベイと今度の研究可能性について探求を行った。

#### 2. 投資の効率性(investment efficiency)と財務報告の質(financial reporting quality)

企業投資の効率性と利益の質の関係に関する分析を行った。わが国の利益の質と投資の効率性について、長期データを用いて分析し、この関係にコーポレート・ガバナンスの変容がどう影響を与えるか分析した。

3.. コーポレート・ガバナンスが利益の質と支払債務の関係に与える影響を分析した。会計情報は企業内の会計システムを通じて計算されるため、コーポレート・ガバナンスの状況が会計数値を生み出すシステムひいては会計数値を用いた契約に影響を与えうるということが考えられる。

## <研究業績>

### 【編著書】

Laixun Zhao, Hidetoshi Yamaji, Masahiro Enomoto, Akinobu Shuto (2018), *The Japanese Accounting Review* Vol.7/8, Research Institute for Economics and Business Administration, 43pp., December 2018.

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

“A Cross-Country Study on the Relationship between Financial Development and Earnings Management,” (with Fumihiko Kimura and Tomoyasu Yamaguchi), *Journal of International Financial Management and Accounting*, 29 (2): 166-194, June 2018.

#### ・掲載論文

「大規模データとしての会計情報と国際比較研究」『会計』193 (1): 25-37 頁, 2018 年 1 月.

「「会計方針」開示企業の規則性」『企業会計』第 69 巻第 4 号, 35-43 頁, 2017 年 4 月

#### ・未掲載論文

「近年における日本企業の経営者交代の特性—経営者のプロフィールと財務比率を中心として—」*RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2020-J06 30 頁 2020 年 3 月 (山口朋泰との共著)

“Is Japan more like the U.S now in the relation between accounting quality and investment efficiency?” (with B. -C. Jung, G. Rhee, and A. Shuto) 2019.

“The Effect of Corporate Governance on the Relationship between Accounting Quality and Trade Credit: Evidence from Japan,” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2018-12, 42pp., April 2018 (Revised February 2020)

“Cross-Country Research on Earnings Quality: A Literature Review and Future Opportunities,” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2018-06, 33pp., March 2018

「利益の質に関する国際比較研究の進展と展望」*RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-J13 30 頁 2017 年 11 月

### 【その他】

「教える勉強法」『RIEB ニュースレター』No. 186 2018 年 5 月

## <学会報告等研究活動>

(学会運営) The 10th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University December 22, 2019,.

(学会報告) “Is Japan more like the U.S now in the relation between accounting quality and investment efficiency?” 2019 Taiwan Accounting Association Annual Conference, 2019年12月5日, Regent Taipei, 台湾. (with B. -C. Jung, G. Rhee, and A. Shuto).

(学会討論) Discussion of “Lost in Translation? Analysts’ Forecasts of Cross-Listed Firms?” 2019 Taiwan Accounting Association Annual Conference, 2019年12月5日, Regent Taipei, 台湾.

(学会司会)院生セッション, 第78回研究大会日本会計研究学会 2019年9月9日 神戸学院大学 (パネル・ディスカッション) 「査読付きジャーナルの特徴と公刊のポイント『The Japanese Accountitng Review』」 日本経営分析学会日本ディスクロージャー研究学会第36回年次大会 2019年7月12日 早稲田大学 (単独)

(学会司会) Plenary Session, The 9th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 5, 2019

(学会運営) The 9th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 5, 2019

(学会報告) "Effect of corporate governance on the relationship between accounting quality and trade credit: Evidence from Japanese firms," 2018 Taiwan Accounting Association Annual Conference, 国立政治大学, 台湾, December 6, 2018 (単独)

(学会討論) 「経営者交代と利益調整による利益ベンチマーク達成」に関する討論 日本経営財務研究学会第42回全国大会, 2018年10月6日, 一橋大学.

(学会司会)自由論題報告英語会場, 第77回研究大会日本会計研究学会 神奈川大学 2018年9月6日

(学会司会) 研究報告3, 第4回 JARDIS ワークショップ 小樽商科大学 2018年8月21日

(セミナー報告) "Effect of corporate governance on the relationship between accounting quality and trade credit: Evidence from Japanese firms," 東北大学会計大学院会計研究会, 東北大学, 2018年3月30日 (単独)

(学会司会) "Opening Ceremony", "Concurrent Session C", The 8th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 6, 2018

(学会運営) The 8th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 6, 2018

(学会司会) 自由論題報告(2) 自由論題報告, 日本ディスクロージャー研究学会第16回研究大会 法政大学 2017年12月17日

(学会討論) 第1サブテーマ「大規模データとしての会計情報」日本会計研究学会第76回全国大会 広島大学 2017年9月24日

(招待講演) 「大規模データとしての会計情報と国際比較研究」日本会計研究学会第76回全国大会 広島大学 2017年9月23日

(学会報告) 「監査等委員会設置会社への移行要因の探索」(浅野信博・松中学との共同報告) 日本ディスクロージャー研究学会第15回研究大会 東北大学 2017年6月25日

(学会司会) 自由論題報告(1) オーラルセッション 日本ディスクロージャー研究学会第15回研究大会 東北大学 2017年6月24日

(セミナー報告) 「事実に忠実な会計報告と会計責任」実証会計学研究フォーラム公開セミナー 神戸大学 2017年6月10日

## <社会活動>

The Japanese Accounting Review (編集委員)

日本ディスクロージャー研究学会 (理事: 学会誌編集委員)

- ・所属学会  
経営財務学会  
原価計算研究学会  
日本会計研究学会  
日本管理会計学会  
日本ディスクロージャー研究学会

- ・学会誌審査委員  
会計プロセス, 経営財務研究, 管理会計学, The Japanese Accounting Review, Journal of International Accounting, Auditing and Taxation, Accounting, Economics and Law: A Convivium

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「外国人投資家が会計情報の質に及ぼす影響に関する研究」（2018～2020年度）（研究分担者，研究代表者：木村史彦）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「財務報告の質と投資の効率性の関連に関する実証研究」（2017～2019年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「わが国における監査役会の機能の解明」（2017～2020年度）（研究分担者，研究代表者：浅野信博）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」（2016～2019年度）（研究分担者，研究代表者：伊藤宗彦）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「利益マネジメントに関する国際比較研究」（2015～2017年度）（研究分担者，研究代表者：木村史彦）

#### <国際交流活動>

「企業投資の効率性に関する研究」首藤昭信(東京大学), Boochun Jung (University of Hawaii), S. Ghon Rhee (University of Hawaii)と共同研究

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	財務会計特殊研究（実証会計学） 演習	神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科
2018年度	財務会計特殊研究（実証会計学）	神戸大学大学院経営学研究科
2017年度	財務会計特殊研究（実証会計学）	神戸大学大学院経営学研究科

## 教授 Charles Yuji HORIOKA

研究部門	: グローバル金融
最終学歴	: 昭和 60 年 6 月 ハーバード大学博士課程修了 博士 (学術) (ハーバード大学) (昭和 60 年 6 月)
略 歴	: 京都大学経済学部講師、同助教授、大阪大学社会経済研究所助教授、同教授、 同招へい教授、アジア開発銀行経済研究部コンサルタント (研究職)、フィリピン 大学ディリマン分校経済学部教授、公益財団法人アジア成長研究所主席研究 員、同副所長、同教授、同特別教授を経て平成 30 年 4 月現職
研究分野	: マクロ政策分析
研究課題	: (1) 家計行動の実証分析 (2) 国際資本移動に関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

過去 3 年間の研究業績を家計行動に関する研究と国際資本移動に関する研究に大別することができる。

#### (1) 家計行動に関する研究

日本、アジア諸国などにおける家計の消費・貯蓄・遺産行動、親子関係、資産格差などを様々なデータを用いて様々な観点から研究してきた。例えば、

#### (イ) 家計消費・貯蓄行動

博士論文から始まる一連の研究では、個別目的のための貯蓄について分析し、特に住宅購入、子供の教育費・結婚費用、老後のための貯蓄、予備的貯蓄に重点を置いてきた。また、日本、アジア諸国における家計貯蓄率の決定要因について検証し、特に人口の年齢構成や男女比率などの影響に重点を置いてきた。これらの研究の分析結果に基づき、人口の高齢化に伴って日本の家計貯蓄率が急落し、2010 年頃にはゼロまたマイナスになると 1985 年頃から繰り返し予言してきたが、その予言はほぼ的中した。さらに、日本およびイタリアの高齢者世帯の貯蓄行動について検証し、なぜ高齢者の資産の取り崩し率が予想以上に低いのかについて検証し、いずれの国においても予備的貯蓄と遺産動機が共に重要であるということを示した。また、日本における住宅ローンの急激な拡大が日本人の住宅購入行動、借り入れ行動などにどう影響したかを明らかにした。最後に、日本人の貯蓄行動・遺産行動は主に文化、国民性、社会的規範によるものなのか、経済合理性によるものなのかについて検証し、主に後者によるものであるという結論に至った。

#### (ロ) 遺産動機・親子関係

遺産動機、遺産の分配方法の国際比較を行い、人々がどういった動機で遺産を残しているのかについて検証してきた。その結果、日本人の遺産動機は他の国民よりも利己的であり、老後の世話の見返りの色彩が強く、日本では、戦略的遺産動機 (交換動機) 仮説が成り立っているということが分かった。なお、遺産動機が人々の行動にどう影響するかについて検証し、日本では、親の遺産動機は子の同居、介護行動などに影響し、親の就業・退職行動にも影響するということを示した。

#### (ハ) 資産格差・教育格差

子への遺産・生前贈与・教育投資が資産格差の水準と継承にどの程度貢献しているかについて検証し、いずれも相当貢献しているということが分かった。

## (2) 国際資本移動に関する研究

1980年に出版されたマーチン・フェルドシュタイン教授との共著論文では、資本市場がグローバル化しているにもかかわらず、貯蓄の大半は自国に留まり、国内で投資されるということを示した。この結果はフェルドシュタイン・ホリオカ・パズル（またはパラドックス）と名付けられ、この論文は経済学の分野では、最も引用回数の多い論文の1つである。その後もこのテーマに関する研究を続け、2018年にはその総集編というべき論文を完成させ、パズルの最も有力な説明を提唱し、それを示すために理論モデルを構築した。すなわち、2国間の純資本移転を実現するためには、資本市場のみならず、財市場も開放されていなければならない、財市場において輸送費、関税、非関税障壁などのような摩擦があるため、パズルが発生するのだという説明である。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“Was the Expansion of Housing Credit in Japan Good or Bad?,” (with Yoko Niimi), *Japan and the World Economy*, Vol.53, 100996, March 2020

“Financial Literacy, Incentives, and Innovation to Deal with Population Aging,” (with Yoko Niimi), *Aging Societies: Policies and Perspectives* (ed: Asian Development Bank Institute), pp.83-89, December 2019

“The Wealth Decumulation Behavior of the Retired Elderly in Japan: The Relative Importance of Precautionary Saving and Bequest Motives,” (with Yoko Niimi), *Journal of the Japanese and International Economies*, 51, 52-63, March 2019

“Are the Japanese Unique? Evidence from Household Saving and Bequest Behavior,” *Singapore Economic Review*, 64(1), 5-22, March 2019

“Public and Private Investment in Human Capital and Intergenerational Transfers in Asia: An Overview,” (with Peter J. Morgan and Yoko Niimi), *Journal of the Asia Pacific Economy*, 23(4), 511-514, November 2018

“Aging in Asia: Introduction to Symposium,” (with Peter J. Morgan, Yoko Niimi, and Guanghua Wan), *Review of Development Economics*, 22(3), 879-884, August 2018.

“The Impact of Intergenerational Transfers on Wealth Inequality in Japan and the United States,” (with Yoko Niimi), *World Economy*, 41(8), 2042-2066, August 2018

“Why Do Children Take Care of Their Elderly Parents? Are the Japanese Any Different?” (with Emin Gahramanov, Aziz Hayat, and Xueli Tang), *International Economic Review*, 59(1), 113-136, February 2018

「日本の高齢者世帯の貯蓄行動に関する実証分析」(新見陽子と共著)『経済分析』(196) 29-47 頁  
2017年12月

“The Impact of Sex Ratios before Marriage on Household Saving in Two Asian Countries: The Competitive Saving Motive Revisited,” (with Akiko Terada-Hagiwara), *Review of Economics of the Household*, 15(3), 739-757, September 2019

“A Possible Explanation of the ‘Exchange Rate Disconnect Puzzle’: A Common Solution to Three Macroeconomic Puzzles?,” (with Nicholas Ford), *Applied Economics Letters*, 24(13), 918-922, September 2017

##### 掲載予定

「日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？」宇井貴志・加納隆・土居潤子・渡部敏明 編  
『現代経済学の潮流 2020』東洋経済新報社 2020年8月

“The Impact of a Failed Coup d’État on Happiness, Life Satisfaction, and Trust: The Case of the Plot in

Turkey on July 15, 2016,” (with K. Ali Akkemik, Gerçek Çiçek, and Yoko Niimi), *Applied Economics Letters*, forthcoming, 2020

“The Wealth Decumulation Behavior of the Retired Elderly in Italy: The Importance of Bequest Motives and Precautionary Saving,” (with Luigi Ventura), *Review of Economics of the Household*, forthcoming, 2020

“Household Debt and Aging in Japan,” (with Yoko Niimi), *Remaking Retirement: Debt in an Aging Economy* (Olivia S. Mitchell and Annamaria L. Lusardi, eds.), forthcoming, 2020

#### ・未掲載論文

“Does the Selfish Life-Cycle Model Apply in the Case of Japan?,” RIEB Discussion Paper Series, DP2020-14, 24pp., March 2020

“The Impact of Bequest Motives on Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis,” (coauthored with Emin Gahramanov, Aziz Hayat, and Xueli Tang), RIEB Discussion Paper Series, DP2019-26, 43pp., December 2019

「日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか？」 RIEB Discussion Paper Series, DP2019-J10, 20pp., December 2019

“Household Debt and Aging in Japan,” (coauthored with Yoko Niimi), *RIEB Discussion Paper Series*, DP2019-23, 22pp., November 2019

“The Impact of a Failed Coup d’État on Happiness, Life Satisfaction, and Trust: The Case of the Plot in Turkey on July 15, 2016,” (coauthored with K. Ali Akkemik, Gerçek Çiçek, and Yoko Niimi), *RIEB Discussion Paper Series*, DP2019-22, 18pp., November 2019

#### 【その他】

紹介記事 若林緑「家族の変化と社会保障（7）--公的介護維持への条件は（やさしい経済学）」『日本経済新聞』（朝刊）2020年1月28日

コメント記事「年金改革との向き合い方 識者に聞く：高齢者の労働環境整備が先決」『日経ヴェリタス』11頁 2019年11月10日

記事「（経済教室）年金制度改革の論点：働く意欲ゆがめぬ仕組みに」『日本経済新聞』23頁（朝刊）2019年9月6日

紹介記事「Minister calls for closer partnerships between govts and academics」『THE STRAITS TIMES』2019年8月6日

#### <学会報告等研究活動>

（討論）Mari Tanaka, Yusuke Narita, and Chiaki Moriguchi, "Meritocracy and Its Discontent: Long-run Effects of Repeated School Admission Reforms," Japan Economic Seminar, Columbia Business School, Columbia University, 2020年2月20日

（報告）"The Feldstein-Horioka Puzzle after Forty Years," Workshop on Trade, Finance and Innovation, Kobe University, 2020年1月31日

（招待講演）"Was the Expansion of Housing Credit in Japan Good or Bad?," Workshop on Trade, Development, and Inequality, Wuhan University, 2019年12月28日

（講演）"How to Write and Publish Papers," School of Management, Wuhan University of Technology, 2019年12月27日

（講演）"Does Culture Matter? Evidence from Saving and Bequest Behavior in Japan," Noon Seminar, East-West Center, 2019年12月4日

- (司会) 第19回パネル調査・カンファレンス 慶應義塾大学 2019年12月3日
- (報告) "The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy," Sixth International Workshop on the Socio-Economics of Ageing, University of Lisbon, 2019年10月25日
- (特別報告) 「日本でライフ・サイクル仮説は成り立っているか?」日本経済学会2019年度秋季大会 神戸大学 2019年10月13日
- (講演) 「老後資金：いくら貯めればいいのか?」公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構主催のシンポジウム「少子高齢化社会の制度設計～年齢で人生を区別しない社会並びに子供を生き育てやすい社会の実現に向けて～」 ホテルクラウンパレス神戸 2019年10月11日
- (報告) "The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis," Japan Seminar: Household Saving, Bequest, and Retirement Behavior in the Era of Population Aging, Banque de France and l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, 2019年9月26日
- (基調講演) "Inequality and Bequests," Inequality and ...? Lecture Series, University of Luxembourg and European Investment Bank, 2019年9月25日
- (パネリスト) "Macroeconomic Stability of the Era of Population Aging", Asia-Pacific Social Protection Week 2019: Securing the Future of the Region, Asian Development Bank, 2019年9月11日
- (招待講演) "Do People Leave Bequests, and If So, Why and Does It Matter?," Kyoto University Faculty of Economics 100th Year Anniversary International Conference: Economic Growth and Income Distribution: Facing Real Economy, Kyoto University, 2019年8月24日
- (招待講演) "The Impact of Bequest Motives on Saving, Labor Supply, and Caregiving Behavior," Singapore Economic Review Conference (SERC) 2019, Mandarin Orchard Hotel, 2019年8月6日
- (パネリスト) "Is the World under Threat?," Singapore Economic Review Conference (SERC) 2019, Mandarin Orchard Hotel, 2019年8月5日
- (招待講演) "Was the Expansion of Housing Credit in Japan a Good Thing or a Bad Thing?," 15th Annual Meeting of the Asia-Pacific Economic Association (APEA), 福岡大学経済学部, 2019年8月2日
- (国際会議幹事) National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project Meeting 2019 アジア開発銀行研究所 2019年7月29日
- (招待講演) "The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis," Seventh Kobe University-Nanyang Technological University-Hanyang University Joint Symposium in Economics: "Current Issues in Global Economies and Their Implications to Asian Economies", Hanyang University, 2019年6月14日
- (パネリスト) "Aging Population: Fiscal Sustainability and Adequacy of Social Security Systems," Think 20 (T20) (G20大阪サミットの政策研究ネットワーク) Japan Summit 虎ノ門ヒルズフォーラム 2019年5月26日
- (招待講演) "Aging and Debt in Japan," 2019 Pension Research Council (PRC) Symposium: Remaking Retirement? Debt in an Aging Economy, The Inn at Penn, 2019年5月2日
- (招待講演) "Financial Literacy, Incentives, and Innovations to Deal with Population Aging," Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD)-Asian Development Bank Institute (ADBI) Roundtable on Capital Market and Financial Reform in Asia, Asian Development Bank Institute, 2019年2月26日
- (報告) "The Impact of Bequest Motives on Labor Supply and Retirement Behavior in Japan: A Theoretical and Empirical Analysis," 富山大学経済学部経済セミナー, 富山大学, 2019年2月18日

- (招待講演) “Completing the Solution to the Feldstein-Horioka Puzzle,” Conference on “Asian Economic Outlook and Challenges to Growth and Stability,” Korea University, 2018年11月23日
- (報告) “The Wealth Decumulation Behavior of the Retired Elderly in Japan: The Relative Importance of Precautionary Saving and Bequest Motives,” 16th International Convention of the East Asian Economic Association (EAEA), National Taiwan University, 2018年10月27日
- (報告) “The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy,” 35th General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth (IARIW), DGI-byen Copenhagen, 2018年8月21日
- (国際会議幹事) National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project Meeting 2018 アジア開発銀行研究所 2018年7月30日
- (報告) “The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy,” Econometric Society Australasian Meeting (ESAM), Auckland Institute of Technology, 2018年7月4日
- (報告) “The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy,” Second Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO), Paris School of Economics, 2018年5月23日
- (報告) “The Saving Behavior of the Retired Elderly in Italy,” 公益財団法人アジア成長研究所・所員研究会, 公益財団法人アジア成長研究所, 2018年5月8日
- (討論) Carolina Laureti and Melanie Volral, “Saving with Premeditation: How Poor Households in Bangladesh React to Access to Commitment Savings Accounts,” 2018 Annual Meeting of the American Economic Association (AEA), Marriott Philadelphia Downtown, 2018年1月5日
- (報告) “The Solution to the Feldstein-Horioka Puzzle,” 一般財団法人統計研究会財政班・公益財団法人アジア成長研究所共催の財政学に関するコンファレンス, ホテル・アルモニー・サンク, 2017年12月8日
- (報告) “You Can’t Take It with You: The Saving Behavior of the Aged in Japan,” Asian Development Bank Institute (ADBI)-Asian Growth Research Institute (AGI) International Workshop on “Public and Private Investment in Human Capital and Intergenerational Transfers in Asia”, Hotel Harmonie Cinq, 2017年11月14日
- (招待講演) “Policy Challenges for Inclusive and Balanced Growth,” Japan National Committee for Pacific Economic Cooperation (JANPEC) Symposium on “Post-2020 Bogor Goal: Toward the Next APEC Agenda,” Japan Institute of International Affairs, 2017年9月1日
- (基調講演) “Do People Leave Bequests, and If So, Why and Does It Matter?,” Universiti Brunei Darussalam International Conference on Business, Economics and Finance 2017, Universiti Brunei Darussalam, 2017年8月23日
- (招待講演) “Do People Leave Bequests, and If So, Why and Does It Matter?,” Singapore Economic Review Conference (SERC) 2017, Mandarin Orchard Singapore, 2017年8月2日
- (パネリスト) “Globalization: Where Is It Headed?,” Singapore Economic Review Conference (SERC) 2017, Mandarin Orchard Singapore, 2017年8月2日
- (国際会議幹事) National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project Meeting 2017 アジア開発銀行研究所 2017年7月31日
- (報告) “You Can’t Take It with You: The Saving Behavior of the Aged in Japan,” 92nd Annual Conference of the Western Economic Association International (WEAI), Marriott Marquis & Marina San Diego, 2017年6月28日
- (基調講演) “Do People Leave Bequests, and If So, Why and Does It Matter?,” First Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO), San Diego City College, 2017年6月25日

(報告) “The Impact of Intergenerational Transfers on Household Wealth Disparities in Japan and the United States,” 2017 Asian Meeting of the Econometric Society (AMES), The Chinese University of Hong Kong, 2017年6月3日

(報告) “The Impact of Intergenerational Transfers on Wealth Disparities in Japan and the United States,” Fifteenth International Conference on “Pensions, Insurance and Savings,” Paris-Dauphine University, 2017年5月23日

### <社会活動>

#### 学会役員

- President-elect, Society of Economics of the Household (SEHO) (2019年5月～)
- Council Member, International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018年8月～)
- Program Committee, General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018年8月～)
- Board Member, Society of Economics of the Household (SEHO) (2017年6月～)
- Scientific Committee, Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO) (2017年6月～)
- 日本経済学会 代議員 (2016年～)
- Co-organizer, National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project meeting (2004年～)
- Research Associate, National Bureau of Economic Research (1987年～)

#### 学外委員

- 審査委員長, 慶應義塾大学経済研究所パネルデータ設計・解析センター (PDRC) 主催「第1回パネルデータ論文コンテスト(JHPS AWARD)」2020年3月
- 執行委員会委員・研究委員会委員、慶應義塾大学経済研究所パネルデータ設計・解析センター JPSC (消費生活に関するパネル調査) 部門 2019年～
- 公益財団法人アジア成長研究所 理事 2017年～
- 広島大学医療経済研究拠点・拠点アドバイザー 2016年～
- (公財) 日本国際問題研究所 太平洋経済協力会議 (PECC) 日本委員会委員 2015年～

#### 所属学会

- Econometric Society
- International Association for Research in Income and Wealth
- Society of Economics of the Household
- アメリカ経済学会 (American Economic Association)
- 全米経済研究所 (National Bureau of Economic Research)
- 王立経済学会 (Royal Economic Society)
- 日本経済学会
- 東京経済研究センター
- 東アジア経済学会 (East Asian Economic Association)
- 日本経済学会
- Econometric Society

#### 学術誌編集

- Editorial Board member, Eurasian Economic Review (2019年～)
- Editorial Member, Journal of Business and Economic Analysis (2019年～)
- Editorial Board member, Review of Income and Wealth (2018年～)
- Editorial Adviser, Asian Economic Journal (2017年～)
- Advisory Board member (2016~2017年), Co-Editor, Review of Economics of the Household (2017年～)

- International Advisory Board member, Singapore Economic Review (2016年～)
- International Advisory Board member, Thailand and the World Economy (formerly Thammasat Economic Journal) (2015年～)
- Editorial Advisory Board member, Philippine Review of Economics (2013年～)
- Board of Editors member, Japan and the World Economy (2006年～)
- Editorial Board member, Journal of Family and Economic Issues (2004年～)
- 編集評議員 経済分析 (2003年～)

#### <研究助成金>

- 科学研究費補助金：基盤研究（B）「世代間の相互関係：遺産・介護と労働供給・消費貯蓄を通じて」（2020～2024年度）（研究分担者）
- 科学研究費補助金：基盤研究（B）「世代間移転と社会経済的地位・格差の継承に関する実証分析」（2018～2022年度）（研究代表者）
- 科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本の社会政策の成功と失敗：アジアは何を学べるか」（2015～2017年度）（研究代表者）

#### <国際交流活動>

“The Saving Behavior of the Elderly in Italy” (2017年～)  
Luigi Ventura, Sapienza, University of Rome, Italy

“An International Comparison of Happiness, Life Satisfaction, and Social Trust” (2016年～)  
K. Ali Akkemik, Yamaguchi University, Japan (citizen of Turkey)  
Gerçek Çiçek, MEF University, Turkey, and Otto von Guericke University Magdeburg, Germany  
Yoko Niimi, Doshisha University, Japan

“Completing the Solution to the Feldstein-Horioka Puzzle” (2015年～)  
Nicholas Ford, University of Cambridge, United Kingdom

“The Impact of Bequest Motives on the Behavior of Parents and Children” (2012年～)  
Emin Gahramanov, American University of Sharjah, United Arab Emirates  
Aziz Hayat, Deakin University, Australia  
Xueli Tang, Deakin University, Australia

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	Household Economics (家計経済学)	神戸大学大学院経済学研究科

## 准教授 藤村 聡 (Satoshi FUJIMURA)

研究部門 : 企業情報  
生年月月 : 昭和40年3月  
最終学歴 : 平成9年3月 神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了  
博士(学術)(神戸大学)(平成9年3月)  
略歴 : 神戸大学経済経営研究所非常勤研究員、同非常勤講師、同講師を経て平成16年4月現職  
研究分野 : 企業史料分析  
研究課題 : 兼松史料による戦前期企業における人事システムの分析、兼松史料による戦前期企業の会計システムの分析、兼松史料による戦前期羊毛貿易及び国内羊毛取引の分析、商社史料による不祥事と内部統制の分析

---

### 研究活動

#### <概要>

貿易商社兼松を対象に賃金構造やキャリアパスの学歴格差は希薄であった状況を明らかにしたこれまでの研究成果を踏まえて、まず全産業に視野を広げて貿易商社の特性を分析した。具体的には昭和5年に文部省が作成した全産業分野の従業員学歴報告書のほか、兼松や三井物産を分析した結果、貿易商社では従業員の人数に占める学卒者(高等教育修了者)の比率が著しく高く、従業員の半分以上を学卒者が占めていることが判明した。鐘紡などのメーカー企業を含めて他の業種では学卒者の比率は1~2割にすぎず、多数の学卒者の雇用が貿易商社の特徴になっている。従業員の学歴を伝える企業資料は少ないが、官立高等商業学校では多数の卒業生が貿易商社に就職したことが確認され、大正中期の神戸高商では約6割に達する。貿易商社と高等教育の強い結びつきは他の貿易商社にも見られるように考えてよい。

賃金やキャリアパスの学歴格差が希薄な一方で、学卒者を多数雇用するという一見して矛盾する現象は、どのように解釈すべきだろうか。通常、学卒者の利点には専門知識や学校生活で培った人的ネットワークが挙げられるが、ここでは従業員の規範意識に着目した。具体的に、それを数値で提示すべく明治36(1903)年~昭和23(1948)年の三井物産の「社報」に掲載された従業員の懲罰辞令を分析したところ、横領や重大な規則違背で解雇に至った不祥事17件のうち、学卒者は3件4名にすぎず、圧倒的 대부분は中初等教育修了者であった。それぞれの学歴別の母集団の人数を考慮しても不祥事の発生頻度には明確に学歴格差が存在し、それは三井物産だけではなく他の貿易商社に共通する。兼松では不祥事を起こした従業員は全員が中初等教育修了者、古河商事は中初等教育修了者による「大連事件」(先物取引による大損失)で経営破綻しており、逆に言えば、そうした規範意識の涵養が高等教育の意義であったのではないかという見通しを得た。上記の問題意識を踏まえて、2018年にはイタリアで開催された *European Business History Association* で三井物産の『社報』に基づく内部不祥事の実態を発表した。

今後は、さらに対象時期を拡大して三井物産の不祥事の実態を解明し、同時に内部統制の在り方の検討をすると共に、高等教育の意義や戦前期労働市場の在り方を探るべく貿易商社をはじめとする各業種における学卒者の就業実態を神戸高商卒業生の動向を通じて分析することを課題にしたい。

## <研究業績>

### 【著書（分担執筆）】

「上水道（第3章近世／都市社会）」都市史学会編『日本都市史・建築史事典』丸善出版 2018年11月 624頁

「戦前期三井物産の処罰と規律」『学歴と格差の経営史—新しい歴史像を求めて』若林幸男編著 日本経済評論社 2018年2月 197-228頁

### 【論文】

#### ・掲載論文

「戦前期における商社の研究—従業員教育と社風に着眼して—」『衆知』2020年3・4月号 46-53頁 2020年2月

「明治期の三井物産における従業員の処罰」『国民経済雑誌』第220巻第3号 89-107頁 2019年9月

「鈴木商店と神戸高商—『学校一覧』による卒業生の就業実態—」『国民経済雑誌』第219巻第3号 61-76頁 2019年3月

「人的要因から見た鈴木商店の経営破綻」『関西大学経済・政治研究所』セミナー年報2017』121-133頁 2018年3月

「古川商事『大連事件』の人的要因—企業不祥事と従業員の気質—」『国民経済雑誌』第216巻第2号 57-72頁 2017年8月

### 【その他】

「ブラック・ボックスとしての鈴木商店」『RIEB ニュースレター』No.179 2017年10月

「もしフォーコーが三井文庫に出会っていたら」『私の一点』（三井文庫論叢 第50号別冊）2017年9月 220-221頁

## <学会報告等研究活動>

（講演）「戦前期商社の動向と従業員の教育機会 ～『商人道』と『社風への包摂』～」PHP研究所「新しい商人道研究会」 PHP 研究所京都本部 2019年10月8日

（発表）「戦前期労働市場と高学歴ホワイトカラー—労働統計資料として『学校一覧』の可能性—」社会経済史学会第88回全国大会 青山学院大学 2019年5月19日

（発表）“Control and punishment of employees : a case of Mitsui&Co.” (with Yasuhiro Shimizu), European Business History Association, アンコナ/イタリア 2018年9月

（発表）「商社の論理—組織構造と内部不祥事—」第329回 GASSY 研究会 ひょうごボランティアプラザ 2018年6月2日

（発表）「破綻した鈴木商店と生き残った兼松—両社の命運を分けたもの—」関西大学経済・政治研究所主催 第225回産業セミナー「再考・「幻の総合商社」鈴木商店」関西大学 2017年9月23日

（発表）「戦前期企業社会の学歴評価—貿易商社と学校教育—」第85回社会経済史学会全国大会 北海道大学 2016年6月11日

## <社会活動>

### ・所属学会

日本史研究会

経営史学会  
社会経済史学会  
企業家研究フォーラム

<研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「戦前期商社の内部不祥事と経営組織」（2019年～2022年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「戦前期学校教育制度と国際的人材育成に関する史的研究」（2016年～2018年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「戦前期3組織の内部労働市場—人事データの比較分析—」（2016年～2018年度）（研究分担者）

## 准教授 松本 陽一 (Yoichi MATSUMOTO)

**研究部門** : 企業競争力  
**生年月** : 昭和 54 年 4 月  
**最終学歴** : 平成 20 年 3 月 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科後期博士課程修了  
博士 (政策・メディア) (慶應義塾大学) (平成 20 年 3 月)  
**略歴** : 神戸大学経済経営研究所講師を経て平成 24 年 11 月現職  
**研究分野** : イノベーションマネジメント  
**研究課題** : (1) 太陽光発電ビジネスのイノベーション  
(2) 薄型ディスプレイのイノベーション  
(3) 日本の半導体企業の競争力分析  
(4) ダイナミック・ケイパビリティ  
(5) リストラクチャリング

---

### 研究活動

#### <概要>

収益獲得はつねに企業の重要な経営目標である。ただし、こんにちの日本において企業の収益獲得の問題はとりわけ重要である。近年、複数の注目すべき研究が日本企業の収益性の低下を指摘してきた。薄型テレビや DVD 関連機器といった複数の製品分野において、日本企業は技術イノベーションで先行しながら、そこから十分なリターンを得ることに失敗している懸念がある。

技術イノベーションで先行しながら、日本企業が自ら成し遂げたイノベーションから収益を獲得することが困難になっているとすれば、それはどのように生じるのか。こうした事態はどのように解決できるのか。これが研究の問題意識である。イノベーションを成し遂げるために企業は先行して投資を行わなければならない。もしも自ら果たしたイノベーションから十分な収益を得られなければ、つぎのイノベーションに向けた投資が難しくなり、企業は持続的に競争優位を維持することができなくなる可能性は高い。新興国の台頭が著しい現代において、日本企業が持続的な競争優位を得るためには、このイノベーションのサイクルを上手く回していかなければならない。

この問題について、筆者は太陽光発電産業、液晶ディスプレイ産業、半導体産業の三つの異なる製品分野に関心を寄せ、調査研究を行ってきた。どの分野でも、日本企業はかつて世界的に極めて強い競争力を持ち、その技術革新をリードしてきた。ところが、近年では世界的な存在感を大きく低下させている。こうした分野で日本の有力企業が苦戦を強いられている理由とは何か。この疑問について、筆者は大別 2 つの観点からの研究を進めている。ひとつは技術開発に関わる問題であり、技術革新としてのイノベーションについてである。もう一つは技術開発以外の問題であり、例えば収益のあげ方という意味でのビジネス・モデルのイノベーションについてである。いずれか一方だけに問題があるというよりも、それぞれに何らかの問題が潜んでいる可能性があり、互いが影響しあっている可能性もある。こうした観点から、事例および理論の研究を進めた。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文 掲載済

“A Review of the Ecosystem Concept: Towards Coherent Ecosystem Design,” (with Masaharu Tsujimoto, Yuya Kajikawa and Junichi Tomita), *Technological Forecasting and Social Change*, Volume 136, pp.49-58, November 2018

#### ・未掲載論文

「鐘淵紡績における工場経営－1904年から1913年までの鐘紡資料をもとに－」（伊藤宗彦と共著）  
Discussion Paper Series No.DP2019-J05 神戸大学経済経営研究所 2019年3月

## <学会報告等研究活動>

（講演）「実りあるイノベーションの実現にむけた経営戦略の重要性」第24回神戸経済経営フォーラム アリソンホテル神戸 2020年2月3日

（学会報告）「データサイエンスで大切な問題に取り組む」（中川功一と共同報告） 組織学会年次大会 小樽商科大学 2019年10月19日

（学会報告）「鐘淵紡績における工場経営－1904年から1913年までの鐘紡資料をもとに－」（伊藤宗彦と共同報告） 組織学会 2019年度研究発表大会 駒澤大学 2019年6月2日

（学会報告）“Natural Experiments Approach in Historical Management Studies: Asian Perspective,” (with Hiroshi Shimizu, Yasuo Sugiyama, and Gino Cattani), 79th Annual Meeting of the Academy of Management, Boston Hynes Convention Center, August 9, 2018

（学会報告）“Dynamic Resource Reallocation and Firm Performance”, (with Sea-Jin Chang), SMS 38th Annual Conference, Paris Marriott Rive Gauche Hotel & Conference Center, September 24, 2018

（学会報告）“Inter-temporal Scope Economies and Resource Reallocation in Global Semiconductor Industry”, (with Sea-Jin Chang), 78th Annual Meeting of the Academy of Management, Hyatt Regency Chicago, August 13, 2018

（セミナー報告）“Inter-temporal Scope Economies and Resource Reallocation: Entries, Retrenchments, and Business Deepening in Global Semiconductor Industry”, Research Seminar, NUS Business School, January 17, 2018

## <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「企業の構造改革における参入・撤退・資源の再配分：半導体産業の実証研究」（2017～2020年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」（2016～2019年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「ビジネス・エコシステムの動作メカニズムの解明と設計・制御法の開発のための研究」（2014～2018年度）（研究分担者）

## <国際交流活動>

- ・Intra- and inter-temporal scope economies: the case of semiconductor industry CHANG, Sea-Jin 教授（シンガポール国立大学）との共同研究

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	Innovation Management and Strategy テクノロジーマネジメント特殊研究 演習	神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科 神戸大学大学院経営学研究科
2018年度	Innovation Management and Strategy	神戸大学大学院経営学研究科

<受賞歴>

Academy of Management 78th Annual Meeting of the Academy of Management / Distinguished Paper Award (Strategic Management Division) Inter-temporal Scope Economies and Resource Reallocation in Global Semiconductor Industry 2018年8月

## 准教授 高槻 泰郎 (Yasuo TAKATSUKI)

**研究部門** : グローバル金融  
**最終学歴** : 平成 22 年 3 月 東京大学大学院経済学研究科後期博士課程修了  
博士 (経済学) (東京大学) (平成 22 年 3 月)  
**略 歴** : 日本学術振興会・特別研究員 (DC2、社会科学)、東京大学大学院経済学研究科  
助教、神戸大学経済経営研究所講師を経て平成 25 年 1 月現職  
**研究分野** : ミクロ政策分析  
**研究課題** : (1) 前近代経済の時系列データを用いた計量分析  
(2) 幕末開港前後における経済動態の実証研究  
(3) 我が国における関係的融資慣行の成立過程分析

---

### 研究活動

#### <概要>

2017 年 4 月より 2020 年 3 月までの 3 年間は、科学研究費補助金・基盤研究 (B) の研究プロジェクト「両替商金融から近代金融へ：新史料に基づく加島屋久右衛門と鴻池屋善右衛門の比較研究」に従事した。

本プロジェクトは、近世大坂両替商による資本蓄積過程と近代的金融機関への移行過程を分析することにより、我が国の経済が明治以降に急速な成長を遂げた背景を考察するものである。

近世大坂の大両替商は、幕末に向けて収益を低下させ、明治初頭の銀目廃止によって打撃を受けたと一般的に理解されており、近世の金融市場と近代のそれとは断絶するかのよう描かれてきた。近年の研究によって、商人が利用する手形決済ネットワークが移行期においても機能していたことが明らかにされているが、大両替商の動向については、依然として不明な部分が多く残る。そこで本プロジェクトは、近世・近代大阪の金融界を牽引した商家・廣岡家の新発見史料を第一の検討素材として、両替金融がいかにして近代金融へと移行していったのかを具体的に描き出すことを目指すものである。

新たに発見された廣岡家伝来の史料 (約 3 万点) については、2016 年～2017 年度中に全てを目録化し、その概要を学界に向けて報告した。この作業によって明らかになった事実の内、特筆すべきは、廣岡家 (両替屋・加島屋久右衛門) の圧倒的な致富と明治以降への接続 (1888 年より加島銀行) である。加島屋は、諸大名や江戸幕府に対して巨額の融資を行っていたが、その大部分は明治政府の発行する公債として継承されたのである。

本プロジェクトの学術的意義は、近世・近代日本の金融市場を牽引した、豪商の代名詞とも言える廣岡家の経営史料を発見・整理・分析したことにある。その結果、同じく豪商として著名な鴻池屋善右衛門 (山中家) を凌ぐ資産規模を廣岡家が有していたこと、その大部分が公債の形で明治以降も継承され、同家が加島銀行・大同生命保険を創立する礎となっていたことを明らかにしたことは、近世・近代の金融市場の連続性を実証的に解明した例として貴重である。また、このプロジェクトで発見・調査された歴史的史料は、大坂豪商・廣岡家の生活様式・風俗を物語る貴重な物証でもあり、学術的意義を超えた一般への訴求力を持つものと評価できる。

以上の研究課題は、科学研究費補助金：基盤研究 (B) 「両替商金融から近代金融へ：新史料に基づく加島屋久右衛門と鴻池屋善右衛門の比較研究」(平成 28 年度～平成 30 年度) (研究代表者、課題番号：16H03645) の助成を受けて行われた。

## <研究業績>

### 【著書】

『大坂堂島米市場 江戸幕府 vs 市場経済』講談社 318頁 2018年7月

### 【著書（分担執筆）】

「日本経済の歴史と金融」『坂根嘉弘・森良次編『日本の経済発展をどうとらえるか』清文堂出版 第2章 33-63頁 2019年9月

「農業金融の矛盾と公債市場の安定」（柴本昌彦、牧原成征との共著）深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史第2巻 近世：16世紀末から19世紀前半』岩波書店 105-147頁 2017年8月

「世界初の先物取引所と米の品質競争―幕藩領主と大坂米市場―」『知っておきたい歴史の新常識』勉誠出版 148-151頁 2017年6月

「三都をまたにかけた対幕府交渉」公益財団法人三井文庫編『三井文庫史料 私の一点』公益財団法人三井文庫 148-149頁 2017年5月

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

「丁稚か「Salary man」か―神戸高等商業学校卒業生のキャリア選択―」『企業家研究』第15号 2018年7月（上東貴志、石堂詩乃との共著）

“An AI-based Approach to Auto-analyzing Historical Handwritten Business Documents: As Applied to the Kanebo Database,” (with Jinhui Chen, Tetsuya Takiguchi, Munehiko Itoh, Takashi Kamihigashi) Journal of Computational Social Science, Vol1 (1), PP167-185, January 2018

#### ・掲載論文

「江戸時代日本の経済分析からみえる経済史学の可能性」『経済セミナー』701号 2018年4月 50-53頁

「金納御手伝普請をめぐる熊本藩の対幕府交渉記録―天明八年「御用金一件」について―」『永青文庫研究』創刊号 2018年3月 55-74頁

廣岡家研究会「廣岡家文書と大同生命文書―大坂豪商・加島屋（廣岡家）の概容―」『三井文庫論叢』第51号 2017年12月 303-394頁（内、第一章～第三章を分担執筆）

「近世日本における相場情報の通信技術」『電子情報通信学会誌』Vol.100 No.9 2017年9月 987-991頁

#### ・未掲載論文

「近世大坂米市場における価格形成の安定性」Discussion Paper Series No.DP2020-J04 神戸大学経済経営研究所 2020年2月

「近世日本経済の発展と金融に関する一試論」Discussion Paper Series No.DP2019-J01 神戸大学経済経営研究所 2019年3月

「大坂米市場の形成と気象変動」Discussion Paper Series No.DP2018-J03 神戸大学経済経営研究所 2018年3月

## 【書評】

『歴史と経済』第242号(第61巻第2号)2019年1月 73-75頁(今井典子『近世日本の銅と大坂銅商人』思文閣出版,2015年)

『日本経済思想史研究』第18号 2018年3月 55-58頁(小室正紀編著『幕藩制転換期の経済思想』慶應義塾大学出版会 2016年)

『歴史と経済』第238号 2018年1月 60-62頁(大豆生田稔『防長米改良と米穀検査—米穀市場の形成と産地(1890年代~1910年代)—』日本経済評論社 2016年)

## 【その他】

「競争的過ぎる国際学会の話」RIEB ニュースレター コラム No.203 2019年10月

インタビュー記事「コメ先物残した松平定信 神戸大・高槻准教授に聞く」『日本経済新聞』(電子版)(2019年7月26日付)

インタビュー記事「コメ先物識者に聞く(2) "江戸時代を教訓に" 高槻・神戸大准教授」『日本経済新聞』(電子版)(2018年10月11日付)

### <学会報告等研究活動>

(セミナー報告) 歴史人口学セミナー 麗澤大学東京研究センター 2019年7月23日 単独口頭報告「気候適応史の試み—近世日本の米市場を素材として—」

(招待講演) 金融経済学勉強会 金融庁 2019年7月23日 「江戸幕府による金融監督・規制—大坂堂島米市場を中心に—」

(セミナー報告) The 129th Meeting: The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, OEIO, Jointly Organized with International Public Policy Semin, Osaka School of International Public Policy, Osaka University, July 19, 2019, "Can Market Economy Mitigate the Influence of Climate Change? Evidence from Pre-industrial Japan (co-authored with Masahiko Shibamoto)"

(セミナー報告) 大阪大学 2019年5月23日 "Climate Changes and Market Economy: The Case of Early Modern Japan (joint with Masahiko Shibamoto)"

(招待講演) 2019年度同志社大学公開講座 同志社大学 2019年5月22日 単独口頭報告「堂島米市場の成立と近世社会」

(セミナー報告) 第95回経済史研究会 大阪経済大学 2019年4月20日 単独口頭報告「江戸時代の「経済学」—大坂米市場へのまなざし—」

(講演) TOCOM サロン TOCOM スクエア(東京商品取引所内) 2019年4月18日 単独口頭報告「大坂堂島米市場を舞台とした江戸時代の市場経済の実態」

(報告) シンポジウム「熊本藩からみた日本近世—比較藩研究の提起—」熊本大学 2019年3月2日 単独口頭報告「上方金融商人の成長と領国経済—熊本藩を事例に—」

(招待講演) 堂島米市場跡新モニュメント「一粒の光」完成記念講演会 大阪府立中之島図書館 2019年2月9日 単独口頭報告「堂島米市場とはなにか~江戸時代経済における大坂の位置づけ~」

(招待講演) 大阪取引所・大阪企業家ミュージアム共催講演会 大阪企業家ミュージアム 2019年2月7日 単独口頭報告「五代友厚と堂島米市場~堂島米市場の繁栄から大阪経済の近代化をひもとく~」

(セミナー報告) MEW 研究会 関西学院大学 2019年1月 単独口頭報告「堂島米市場の取引制度」

(セミナー報告) 同志社大学金融経済研究会 同志社大学 2019年1月 単独口頭報告「堂島米市

場の取引制度」

(セミナー報告) 第 26 回地球研地域連携セミナー「私たちの祖先は気候変動にいかに対峙してきたかー弥生時代から近世までー」大阪歴史博物館 2018 年 12 月 16 日 単独口頭報告「米切手相場と気候変動の関係ー堂島米市場を舞台として」

(セミナー報告) 東京経済大学研究会 東京経済大学 2018 年 11 月 30 日 単独口頭報告「堂島米市場のマイクロストラクチャー」

(講演) 第 57 回日本女子大学史学研究会大会 日本女子大学 2018 年 11 月 24 日 単独口頭報告「廣岡家の「発見」ー2010 年代の成果を中心にー」

(招待講演) 首都大学東京大学院経営学プログラム (MEc) シンポジウム AP 東京丸の内 2018 年 11 月 23 日 単独口頭報告「江戸時代大坂の金融市場ー大名の資金調達を素材にー」

(招待講演) 紀伊國屋書店梅田本店講演会 阪急グランドビル 8・10 号室 2018 年 8 月 27 日 単独口頭報告「堂島米市場を中心とする大坂金融市場の魅力」

(学会報告) World Economic History Congress, Boston Marriott Cambridge, August 2018, 単独口頭報告 “Societal response to climate variation; Institution, market and social change in early modern and modern Japan”

(報告) Summer Workshop on Economic Theory 小樽商科大学 2018 年 8 月 単独口頭報告 “Climate changes and market economy: the case of early modern Japan”

(報告) 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築プログラム・ワークショップ 一橋大学 2018 年 7 月 単独口頭報告「神戸大学経済経営研究所所蔵社会科学データ」

(学会報告) 社会経済史学会第 87 回全国大会 大阪大学 2018 年 5 月 27 日 単独口頭報告「大坂豪商・加島屋久右衛門の資本蓄積過程」

(招待講演) 三菱商事社内セミナー 三菱商事株式会社 2018 年 2 月 28 日 単独口頭報告「江戸時代の大名による資金調達ー大坂金融市場を中心にー」

(セミナー報告) 第 117 回「書物・出版と社会変容」研究会 一橋大学 2018 年 2 月 3 日 単独口頭報告「「相場指南書」から見た大坂米市場」

(セミナー報告) 福岡大学経済学部第 126 回研究会 福岡大学 2018 年 1 月 31 日 単独口頭報告 “Communication with market participants for macroeconomic policy: Empirical assessment using data in early modern Japan” (joint work with Masahiko Shibamoto)

(セミナー報告) 近世政治史研究会 大阪大学中之島センター 2017 年 11 月 19 日 単独口頭報告「「相場指南書」研究序説」

(招待講演) 福井県神戸大学校友会 ザ・グランユアーズフクイ 2017 年 11 月 18 日 単独口頭報告「福井藩の財政窮乏と大坂の大名貸商人」

(セミナー報告) 第 8 回人文・社会科学資料のアーカイブに関する研究会 京都大学 2017 年 10 月 4 日 単独口頭報告「神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センターの活動と所蔵経営資料の活用」

(学会報告) 日本金融学会秋季全国大会 鹿児島大学 2017 年 10 月 1 日 単独口頭報告「江戸時代大坂の金融業ネットワークー大名の資金調達を素材にー」

(学会報告) 社会経済史学会第 86 回全国大会 慶應義塾大学 2017 年 5 月 28 日 単独口頭報告「近世日本の中央市場と気候変動」

## <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」（研究代表者、課題番号：18KK0343）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「山片蟠桃の経済理論とその政策論の再検討」（2019～2021年度（研究分担者、課題番号：19K01578）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（A）「日本型経営システムの形成と発展プロセスの研究」（2016～2019年度（研究分担者、課題番号：16H02032）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「両替商金融から近代金融へ：新出史料に基づく加島屋久右衛門と鴻池屋善右衛門の比較研究」（2016～2018年度）（研究代表者、課題番号：16H0635）
- ・科学研究費補助金：研究成果公開促進費（データベース）「近世経済データベース」（2017年度）（作成代表者、課題番号：17HP8011）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「小西家資料の総合的研究」（2014～2018年度）（研究分担者、課題番号：26284096）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「江戸幕府の金融政策－歴史資料と時系列データに基づく理論的・実証的分析－」（2013～2017年度）（研究分担者、課題番号：25285100）

## <社会活動>

### ●取材協力

- ・DVD「日本を変えた女性たち 第1巻 広岡浅子」丸善出版株式会社 2018年6月28日刊行
- ・NHK 総合番組『NHK スペシャル シリーズ 大江戸「第2集 驚異の成長！！あきんどが花開かせた"商都"」』2018年6月10日21時～
- ・テレビ東京「大同生命 PRESENTS こんな会社があったのか！？常識破りの「小さな巨人たち」～成功の鍵は健康経営～」、2018年1月13日16時～

### ●編集委員

- ・日本史研究会（2015年10月1日～2017年10月7日）
- ・政治経済学・経済史学会（2014年12月1日～）

### ●学外委員

- ・日本学術会議連携会員（2017年10月1日～）
- ・日本学術会議若手アカデミー（2017年10月1日～）

### ●参加プロジェクト

- ・総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（「気候適応史料プロジェクト」）

### ●その他

#### メディア掲載など

- ・（ラジオ出演）ラジオ NIKKEI「マーケット・トレンド」2019年4月18日
- ・宮本又郎氏（リサーチフェロー）とともに撰文した堂島米市場跡地の碑文と、安藤忠雄氏デザインによるモニュメントと共に公開された際の除幕式の様子について  
「世界初の先物 堂島米市場に10トンの記念碑 "一粒の光"」『毎日新聞』（2018年10月24日付）  
「堂島米市場跡地に記念碑…安藤忠雄さんデザイン」『読売新聞』（2018年10月24日付）  
「大阪・堂島米市場跡地に記念碑 安藤忠雄さんデザインの"一粒の光"」『毎日放送ニュース』（2018年10月24日付）  
「堂島市場に"一粒の光" 大坂、安藤忠雄氏がデザイン」『産経新聞』（2018年10月24日付）  
「堂島米市場跡に新モニュメントが完成」『産経ニュース』（2018年10月24日付）  
「先物取引発祥の地 堂島米市場跡に新モニュメント」『テレビ大阪ニュース』（2018年10月24日付）  
「堂島米市場跡地に新モニュメント」『NHK 関西 NEWS WEB』（2018年10月24日付）

<国際交流活動>

- ・「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」 SNG Tuan Hwee (シンガポール国立大学) と共同研究

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	日本金融史 演習 特殊研究	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2018年度	日本金融史 演習 特殊研究	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科
2017年度	比較制度分析概論 演習 比較制度分析概論特殊講義	神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科 神戸大学大学院経済学研究科

## 准教授 岩佐 和道 (Kazumichi IWASA)

研究部門	: グローバル経済
最終学歴	: 平成 20 年 9 月 神戸大学大学院経済学研究科経済システム分析専攻博士後期課程退学 博士 (経済学) (神戸大学) (平成 23 年 3 月)
略 歴	: 平成 19 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 (DC2) 平成 20 年 10 月 京都大学経済研究所グローバル COE 特定助教 平成 23 年 4 月 京都大学経済研究所助教 平成 26 年 1 月 神戸大学経済経営研究所准教授
研究分野	: 国際経済
研究課題	: 国際貿易論とマクロ経済動学

---

### 研究活動

#### <概要>

これまで、家計の選好に焦点を当てた動学的国際貿易モデルを構築し、貿易と経済成長に関する理論研究を行ってきた。具体的には、国際的な資本移動および資本市場が存在しないという国際貿易論では標準的な仮定のもとで、2 国 2 要素 2 財の動学的ヘクシャー・オリーンモデルを構築し、家計の選好を非相似拡大的であるとした場合における経済モデルの分析を行ってきた。そして、(1)両財が正常財である限りは、選好を相似拡大的であるとした場合に得られる結果が同じく成立するが、(2)労働集約財が劣等財である場合には、その財に対する家計の支出割合が 0 に近い場合でも得られる結果は大いに異なり、多数定常均衡や均衡経路の不決定性といった状況が起こるということを示した。

平成 29 年度は、ウィーン大学の Gerhard Sorger 教授とともに、動学的貿易モデルをもちいた経済発展と所得格差に関する理論分析に関する研究を開始した。またそれと並行して、各国の時間選好率格差が、定常状態の各国の資本量と貿易パターンに及ぼす影響に関して、Blanchard(1985)流の想定に基づく分析を行った。そして、国際的な資産市場や非貿易財の存在といった貿易構造が、結果に及ぼす重要性について明らかにした。

平成 30 年度も引き続き、ウィーン大学の Gerhard Sorger 教授およびザンクトガレン大学の Reto Foellmi 教授とともに、動学的貿易モデルをもちいた経済発展と所得格差に関する理論分析に関する研究を行った。そして Sorger 教授とは、標準的な一部門成長モデルにおいて、周期解が発生する条件についての分析を行い、これまでの研究で用いてきた図を援用することで、その必要条件を明らかにした。Foellmi 教授とは、非相似拡大的な選好のもとで、所得分布の変化が経済成長に及ぼす影響について明らかにするべく理論的な研究を行い、現在、得られた定性的な結果に関する考察と、モデルの定量的な分析に取り組んでいる。

平成 31 年度は、内生的時間選好を導入した国際貿易モデルにおける均衡の一意性と安定性に関する研究に取り組んだ。実証的に支持される decreasing marginal impatience (DMI) と呼ばれる内生的時間選好を仮定した際には、同質の家計であっても、保有する初期資産量が少しでも異なると、モデルの対称的な均衡は不安定となるため、理論分析の上で困難が生じる。そのため、私がこれまで研究してきた動学的ヘクシャー・オリーンモデルに、DMI を導入することは難しかったのだが、新たに消費の外部性をモデルに組み込むことで、非常に扱いやすいモデルの構築に成功した。そして、その動学的貿易モデルにおける均衡の一意性と安定性に関して分析を行い、自らの消費が時間選好に及ぼす影響よりも、他者の消費が及ぼす影響の方が大きい場合には、DMI の仮定の下でも対称均衡は安定となることを示した。ここで示された結果は、異質な家計が存在するその他のモデルにおいても成立することが予想され、その有用性に関して研究を行った。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“Trade and indeterminacy revisited,” (with Kazuo Nishimura and Makoto Yano), *International Journal of Economic Theory*, Vol.15, Issue 1, pp.37-51, March 2019

“Periodic Solutions of the One-sector Growth Model: The Role of Income Effects,” (with Gerhard Sorger), *Journal of Mathematical Economics*, Vol.78, pp.59-63, October 2018

##### 掲載予定

“Time preference and international trade,” (with Kazuo Nishimura), *International Journal of Economic Theory*, forthcoming

#### ・掲載論文

「貿易と大域的不決定性」『国民経済雑誌』第221巻3号 71-82頁 2020年3月

「南北貿易モデルにおける不決定性の発生」『国民経済雑誌』第217巻2号 89-99頁 2018年2月

## <学会報告等研究活動>

(学会報告) “Inequalities and Patience in Catching Up,” 17th SAET Conference on Current Trends in Economics, Faro, Portugal, June 26, 2017

(セミナー報告) “Inequalities and Patience in Catching Up,” VGSE Research Seminar, University of Vienna, June 20, 2017

## <社会活動>

#### ・学術誌レフリー

Macroeconomic Dynamics, *International Journal of Economic Theory*, *Journal of Mathematical Economics*

## <研究助成金>

・科学研究費補助金：基盤研究（B）「人的資本と経済成長」（2016～2020年度）（研究分担者）

・科学研究費補助金：基盤研究（A）「タイムゾーンとサービス・タスク貿易理論の動学的展開および経済成長への含意」（2016～2020年度）（研究分担者）

・科学研究費補助金：基盤研究（C）「動学的貿易モデルを用いた経済発展と所得格差に関する理論分析」（2016～2018年度）（研究代表者）

・科学研究費補助金：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）「非相似拡大的選好と内生的時間選好による動学的貿易理論の再構築（国際共同研究強化）」（2016～2018年度）（研究代表者）

・科学研究費補助金：基盤研究（S）「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」（2015～2019年度）（研究分担者）

## <国際交流活動>

・「動学的貿易モデルをもちいた経済発展と所得格差に関する理論分析に関する研究」Gerhard Sorger (University of Vienna) および Reto Foellmi (University of St.Gallen) との共同研究

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	応用国際経済学Ⅲ	神戸大学大学院経済学研究科

## 准教授 柴本 昌彦 (Masahiko SHIBAMOTO)

**研究部門** : グローバル金融  
**最終学歴** : 平成 19 年 9 月 大阪大学大学院経済学研究科博士課程修了  
博士 (経済学) (大阪大学) (平成 19 年 9 月)  
**略 歴** : 日本学術振興会特別研究員、神戸大学経済経営研究所講師を経て平成 26 年  
4 月現職  
**研究分野** : 国際金融政策  
**研究課題** : (1) マクロ経済政策効果及び政策対応に関する実証研究  
(2) 金融政策における期待管理政策の効果波及メカニズムの解明  
(3) 銀行貸出に関する金融政策リスクテイキング経路の検証  
(4) テキストマイニング手法を応用した「バブル」への関心度の抽出と債券・  
株式予測との関係に関する実証分析  
(5) 江戸時代経済に関するマクロ時系列分析

---

### 研究活動

#### <概要>

時系列データを用いてマクロ経済における景気循環変動及び経済政策に関する実証分析を行っている。特に、計量経済学及び時系列分析手法を応用することで、経済学的な因果関係に基づいた実証分析を行う。更に、現代の数量データのみならず、江戸時代や明治・大正時代も含めた歴史データ及びテキストデータも分析対象にすることで、データに基づいた経済理論の現実妥当性を包括的に検証する。

1. 金融政策の役割及び波及経路の再検討
2. 長期停滞期における景気循環変動メカニズムの解明
3. 期待形成メカニズムに関する文理融合研究
4. 江戸時代経済に関するマクロ時系列分析

#### <研究業績>

##### 【著書 (分担執筆)】

「ETF・REIT 購入は有効 先行きの指針 意図の明示を」日本経済新聞社編『黒田日銀 超緩和の経済分析』日本経済新聞出版社 第 6 章 2018 年 10 月

“Measuring Social Change Using Text Data: A Simple Distributional Approach,” (joint with Takashi KAMIHIGASHI and Kazuhiro SEKI), in Reconstruction of the Public Sphere in the Socially Mediated Age, ed. by Endo, K., Kurihara, S., Kamihigashi, T., and Toriumi, F., Springer, pp.139-164, November 2017

「農業金融の矛盾と公債市場の安定」(高槻泰郎氏、牧原成征氏との共著) 深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史第 2 巻 近世:16 世紀末から 19 世紀前半』岩波書店 105-147 頁 2017 年 8 月

「米切手取引市場」(高槻泰郎氏との共著) 深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史第 2 巻 近世:16 世紀末から 19 世紀前半』岩波書店 第 2 章第 3 節 130-143 頁 2017 年 8 月

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載済

“Cross-Country Evidence on Determinants of Fiscal Policy Effectiveness: The Role of Trade and Capital Flows,” (with Agata Wierzbowska), *Applied Economics*, Volume 50 Issue 32, pp.3493-3514, 2018

“Construction and Application of Sentiment Lexicons in Finance,” (with Kazuhiro Seki), *International Journal of Multimedia Data Engineering and Management*, Volume 9, No. 1, pp.22-35, 2018

### ・未掲載論文

“Japan's Monetary Policy: A Literature Review and An Empirical Assessment,” (with Wataru TAKAHASHI and Takashi KAMIHIGASHI), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2020-15, Kobe University, March 2020

“Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka NAKASHIMA and Koji TAKAHASHI), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2019-09, Kobe University, March 2019

“Risk-Taking Channel of Unconventional Monetary Policies in Bank Lending,” (with Kiyotaka NAKASHIMA and Koji TAKAHASHI), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-24, Kobe University, September 2017 (Revised 2019-4)

“Measuring Social Change Using Text Data: A Simple Distributional Approach,” (with Takashi KAMIHIGASHI and Kazuhiro SEKI), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-16, Kobe University, May 2017 (Revised July 2017)

“Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka NAKASHIMA and Koji TAKAHASHI), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2017-05, Kobe University, March 2017 (Revised April 2017)

## 【その他】

「政策金利とフォワードガイダンスの効果」『経済セミナー』705号 日本評論社 pp.31-37 2018年11月

「日銀新体制の課題（下）ETF・REIT 購入有効 先行きの指針意図明示を」『経済教室』日本経済新聞 2018年3月15日

### <学会報告等研究活動>

(発表) “Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organization, 大阪大学, 2020年1月10日

(発表) “Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), 2019 CEBRA Annual Meeting, SIPA Columbia University, 2019年7月19日

(討論者) “Black Market Prices during World War II in Japan: An Estimate Using the Hedonic Approach,” (鎮目雅人) 日本金融学会 2019 春季大会, 武蔵大学 2019年6月9日

(討論者) “The Collateral Channel versus the Bank Lending Channel: Evidence from a Massive Earthquake,” (植杉威一郎、宮川大介、細野薫、小野有人、内田浩史) 日本金融学会 2019 春季大会(with Kenneth N. Kuttner), 学習院大学 2019年5月26日

(発表) “Inflation Shock, Expectation, and Monetary Policy,” (with Kenneth N. Kuttner), Monetary Economic Workshop 関西学院大学 2019年2月23日

(発表) “Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and

Koji Takahashi), 日本銀行金融研究所セミナー 日本銀行金融研究所 2019年2月18日

(司会) パネルディスカッション「創業・成長を金融面から支援するために」神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム「企業や地域の成長・活性化に貢献できる金融ビジネスに向けて」ANAクラウンプラザホテル神戸 2018年12月6日

(発表) “Learning by Implementing Macroeconomic Policy: Empirical Assessment using Data in Early Modern Japan,”, Financial History Workshop 早稲田大学 2018年11月24日

(司会) “Kick-off conference for the Center for Computational Social Science (CCSS),” 神戸大学 2018年10月26日

(座長) 「セッション：金融政策・貨幣マクロⅡ」日本金融学会 2018年度秋季大会 名古屋市立大学 2018年10月21日

(発表) 「金融政策の実証分析に関する最近の進展について」日本金融学会 2018年度秋季大会 名古屋市立大学 2018年10月20日

(発表) “Recent Progress in Empirical Analysis of Monetary Policy,” 科研基盤研究 (B) 「金融政策正常化を規定する社会経済的要因を考慮したマクロ経済分析：理論・実証・歴史」共催 Monetary Economics Workshop in Honor of Prof. Kenneth Kuttner at Kobe University (基盤研究 (S) 第21回研究会) 神戸大学経済経営研究所 2018年9月25日

(発表) “Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), 2018 International Association for Applied Econometrics Conference, Université du Québec à Montréal, 2018年6月27日

(発表) “Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), 2018 Asian Meeting of the Econometric Society, Sogang University, Seoul, 2018年6月22日

(発表) “Risk-Taking Channel of Unconventional Monetary Policies in Bank Lending,” (joint with Kiyotaka Nakashima) 2018 Royal Economic Society Annual Conference, University of Sussex, 2018年3月27日

(発表) 「近世日本の中央市場と気候変動」第6回 CODH セミナー『歴史ビッグデータ～過去の記録の統合解析に向けた古文書データ化の挑戦～』国立情報学研究所 2018年3月12日

(発表) “Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy,” Brown bag seminar Williams College, 2017年8月12日

(ディスカッサント) “Household Credit and Local Economic Uncertainty (Edison Yu),” Western Economic Association International 92nd Annual Conference Marriott Marquis & Marina, San Diego, California, 2017年6月28日

(発表) “Identifying Unconventional Monetary Policy Shocks” Western Economic Association International 92nd Annual Conference Marriott Marquis & Marina, San Diego, California, 2017年6月27日

#### <社会活動>

- ・所属学会
  - 日本経済学会
  - 日本金融学会
  - American Economic Association
  - Western Economic Association International
  - Royal Economic Society
  - Econometric Society

## International Association for Applied Econometrics

- ・学術雑誌レフェリー

*Journal of the Japanese and International Economies (2), Asian Economic Journal, Japanese Economic Review (2), Japan and the World Economy, Asia-Pacific Financial Markets, Macroeconomic Dynamics, Review of Development Economics*

- ・参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（「気候適応史料プロジェクト」）

### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「実証分析による金融市場・実体経済における金融政策の役割の再検討」（2017～2020年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（S）「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント:理論・実証・シミュレーション」（2015～2019年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「江戸幕府の金融政策－歴史資料と時系列データに基づく理論的・実証的分析－」（2013～2017年度）（研究分担者）

### <国際交流活動>

- ・「Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy」 Kenneth N. Kuttner (Williams College) との共同研究

### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	演習	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2018年度	演習	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2017年度	演習	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
	応用時系列分析 応用時系列分析特殊講義	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科 神戸大学経済学部・大学院経済学研究科

## 准教授 松尾 美和 (Miwa MATSUO)

**研究部門** : 企業競争力  
**生年月** : 昭和 54 年 9 月  
**最終学歴** : 平成 20 年 11 月 Harvard Graduate School of Design, Doctor of Design 修了  
Doctor of Design (Harvard Graduate School of Design) (平成 20 年 11 月)  
**略歴** : Harvard Graduate School of Design Pollman Postdoctoral Fellow、The University of Iowa, School of Urban and Regional Planning Assistant Professor、早稲田大学高等研究所 准教授を経て平成 28 年 2 月現職  
**研究分野** : 産業組織  
**研究課題** : 米国ヒスパニック系移民の交通行動と雇用、経済・教育機会ロスに関する研究  
日本の中心市街地活性化と公共交通の在り方に関する研究  
米国の地方公共交通事業における経営効率性とサービス有効性の研究

---

### 研究活動

#### <概要>

都市と交通が社会・経済的にもたらす影響を定量的に解明することに取り組んできた。具体的には、以下の三つのテーマに取り組んできた。

#### 1. 社会的弱者の交通行動制約と経済機会損失

空間を移動する能力としてのモビリティは、社会生活を営む上で非常に重要な要素となっている。本研究ではアメリカの女性ヒスパニック系住民に着目し、移民や女性が直面している交通行動の制約や、その及ぼす経済機会の損失の考察を行った。ヒスパニック系女性は、運転者になる確率も、家庭内で所有している車両へのアクセスも、男性に比べて低いことが示された。また、その低いモビリティが就業機会の限定や低給与の固定化などにもつながることも判明した。この男女のモビリティ格差は移民で特に顕著であったが、興味深いことにアメリカ生まれや、大学の学位を持つ勤労者であっても観察された。親、特に母親のモビリティの低さは子供の学外活動の制約にもなっており、次世代の人的資本投資にも影響していることも示された。

#### 2. 商業活動の都市圏間・都市圏内競争と、中心市街地活性化事業

日本では中心市街地の空洞化や郊外の無計画な開発に伴う公共サービスの効率低下が懸念されており、1998 年の中心市街地活性化法制定以降、様々な中心市街地活性化事業が行われてきた。その事業の一環として、交通事業によって中心市街地の立地優位性を維持し、商業活性化をしようという試みがなされてきた。本研究では、商業の都市圏間競争と都市圏内競争に着目し、中心市街地への交通投資が、都市圏内での中心市街地の商業シェアの向上につながったか、都市圏間競争において都市圏総体としての商業的成功につながっているかについて考察した。

#### 3. 交通網の効率性と有効性

交通問題の経済的側面の研究として、バス交通の効率性と有効性をテーマに研究を行ってきた。日本やアメリカなどの非大都市圏ではバス交通が交通弱者のモビリティを確保しているが、それらは補助金に依存して経営されていることが多い。本研究ではアメリカの事例を用いてネットワーク包絡分析を用いた事業評価を行い、(1)これらの事業が資源を効率的に用いて経営されているか(効率性)と、有効に交通弱者救済効果をあげているか(有効性)の二点を総合的に評価する効率性指標の在り方と、(2)どのような地域レベルで計画・運行を行うことが効率性・有効性を上げるうえで望ましいかの二点について研究を行った。

<研究業績>

【論文】

・レフェリー付論文

掲載済

“Carpooling and drivers without household vehicles: gender disparity in automobility among Hispanics and non-Hispanics in the U.S.,” *Transportation*, forthcoming, pp.1-33, January 2019

・掲載論文

「米国交通事業選択基準の変容：パフォーマンス規定型計画への取組み」『国民経済雑誌』第 217 巻 4 号 pp.95-109 2018 年 4 月

・未掲載論文

“Giving up Job Search Because I Don't Have a Car: Labor Market Participation and Employment Status Among Single Mothers With and Without Cars,” (with Hiroyuki Iseki), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2020-07, Kobe University, February 2020

“Children Without Soccer Mom or Dad: Impacts of Parents' Auto-Immobility to Children's Travel,” *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2019-11, Kobe University, April 2019

<学会報告等研究活動>

(報告) “Giving up Job Search Because I don't Have a Car: Labor Market Participation and Employment Status Among Single Mothers With and Without Cars (with Hiroyuki Iseki),” *Transportation Research Board 99th Annual Meeting*, Walter E. Convention Center, January 15, 2020

(報告) “Giving up Job Search Because I don't Have a Car: Labor Market Participation and Employment Status Among Single Mothers With and Without Cars (with Hiroyuki Iseki),” *Urban Economics Workshop* 京都大学経済研究所 2019 年 12 月 13 日

(報告) “Giving up Job Search Because I don't Have a Car: Labor Market Participation and Employment Status Among Single Mothers With and Without Cars (with Hiroyuki Iseki),” 第 33 回応用地域学会 (ARSC) 研究発表大会 佐賀大学 2019 年 11 月 23 日

(座長) セッション：Early Bird (地域経済 I) 応用地域学会佐賀大会 佐賀大学 2019 年 11 月 23 日

(討論) 「Feminization of International Migration from Asian Countries to Developed Countries and the Affect of Remittance on International Female Migration (Tahmina Shahzadi 氏)」応用地域学会名古屋大会 名古屋大学 2019 年 11 月 23 日

(報告) “Children without Soccer Mom or Dad: Impacts of Parents' Auto-immobility to Children's Travel,” *The 6th International Conference on Women's Issues in Transportation*, Irvine, California, September 12, 2019

(報告) “Carpooling and Drivers Without Household Vehicles: Gender Disparity in Automobility Among Hispanics in the United States,” *Transportation Research Board Annual Meeting*, Walter E. Convention Center, January 15, 2019

(報告) “Inter- and Intra-Regional Competition among Retail Industries: Empirical Evidences from Japan,” 応用地域学会名古屋大会 南山大学 2018 年 12 月 1 日

(討論) 「商業統計を用いた大規模小売店舗の出店が既存店舗の撤退・売上げに与える影響に関する検証 (宮川翼氏)」応用地域学会名古屋大会 南山大学 2018 年 12 月 1 日

(座長) セッション：租税 応用地域学会名古屋大会 南山大学 2018 年 12 月 1 日

(報告) “Efficiency, effectiveness, and management characteristics of rural bus services in the US: A

semiparametric approach,” the 65th North American Meetings of the Regional Science Association International, Hyatt Regency Riverwalk Hotel, San Antonio, November 8, 2018

(討論) “Rural and Agricultural Development by Land Consolidation: A Spatial Production Analysis of Aurtoria’s parishes (Alvarez, Inmaculada),” the 65th North American Meetings of the Regional Science Association International, Hyatt Regency Riverwalk Hotel, San Antonio, November 8, 2018

(報告) “Performance management in the U.S. transportation policy,” 交通マネジメントワークショップ 神戸大学 2018年7月21日

(報告) “Automobility Disparity and Gender Gaps of Hispanic Households in the U.S.,” 東北大学現代経済学研究会 東北大学 2018年3月29日

(報告) “Wasting Time in Vehicles?: Carpooling in the Hispanic Immigrant Families in the U.S.,” 応用地域学会 東京大学 2017年11月25日

(討論) “Identifying Key Factors Influencing Electric Vehicle Acquisition by Canadian Fleet Operators (Khan, Shakil),” the 64th Annual North American Meetings of the Regional Science Association International, Vancouver, BC, November 11, 2017

(報告) “Wasting Time in Carpooling?: Travel Behavior of Hispanic Immigrant Families in the U.S.,” the 64th Annual North American Meetings of the Regional Science Association International, Vancouver, BC, November 11, 2017

(報告) 「意思を持って流される：日米の多様なロールモデルに触れて」神戸大学経済経営研究所公開シンポジウム「女性のキャリア形成と選択～中村麻里子さんを迎えて～」神戸大学 2017年11月3日

(報告) “Hidden Costs of Carpooling in the Family Life of Hispanic Immigrants,” the 57th Association of Collegiate Schools of Planning Annual Conference, Denver, CO, October 14, 2017

(パネル討議) 「DIVERSITY の視点から見直そう：土木計画学における研究と教育」土木学会全国大会 第72回年次学術講演会 九州大学伊都キャンパス 2017年9月11日

(報告) “Hidden Costs of Carpooling in Family Life: Travel Behavior of Hispanic Families with Children in the US,” The 5th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics, Kobe University, June 9, 2017

#### <社会活動>

- ・所属学会  
日本交通学会  
都市計画学会  
応用地域学会  
Regional Science Association International  
Transportation Research Board  
Association of Collegiate Schools of Planning
- ・委員歴  
2018年4月 応用地域学会 運営委員

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：若手研究 B (PI) 「日米地方バス事業の効率性・有効性と、それに対する土地利用形態の影響」(2015年度～2019年度) (研究代表者)

#### <国際交流活動>

- ・共同研究プロジェクト

“Automobility for Escaping from Poverty” with Hiroyuki Iseki (Maryland University, College Park) 2019年4月-2021年3月

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	Public Administration and Project Evaluation	神戸大学大学院経営学研究科・経営学部
2018年度	Public Administration and Project Evaluation	神戸大学大学院経営学研究科・経営学部
2017年度	Public Administration and Project Evaluation	神戸大学大学院経営学研究科・経営学部

## 准教授 江夏 幾多郎 (Ikutaro ENATSU)

研究部門 : 企業競争力  
生年月 : 昭和54年  
最終学歴 : 平成17年3月神戸大学大学院 経営学研究科 博士前期課程 修了  
平成20年3月一橋大学大学院 商学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学  
略歴 : 名古屋大学講師、同准教授を経て令和元年9月より現職  
研究分野 : 産業組織  
研究課題 : 人的資源管理・処遇の公正性、雇用管理における情報技術

---

### 研究活動

#### <概要>

企業における人事管理に関して様々な角度から研究・調査を行ってきており、その一部を紹介したい。

第一に、人事評価についての従業員の認識メカニズムについて、国内外でのフィールド調査や質問表調査を行っている。公正であることは、従業員が人事評価に納得する事の有力な条件であることは当然だが、その条件が整わなくても従業員は人事評価に納得することがある。そうした納得は、例えば、組織に所属して働くことで得られる意味のある報酬が人事評価と関わらない部分においても存在している時、あるいは人事評価に関連したコミュニケーションそのものに対して実際の評価の高低に還元されない有意義さを見出したときに現れる。つまり、人事評価を実際に行う管理者による、人事評価制度を「使いこなす」「使い倒す」という姿勢が、従業員の納得感の鍵となる。

第二に、組織レベルでの人事管理と業績の間の因果関係を明らかにできるような、人事管理の測定のある方の開発を行っている。従来の研究では、組織の人事管理の実態について、人事部長のような特定の回答者の解釈のみに頼って描いてきた。しかしそれでは、個人の視点の妥当性の低さ、実態についての解釈が多様でありそのことが組織業績にインパクトを与えている可能性の無視、といった問題が生じてしまう。そこで私は、課レベルの職場を分析単位とし、そこに所属するメンバーすべての回答をもとに、様々な人事施策の実態についての知覚の平均値や分散などを導出し、課レベルの業績との因果を推定しようとしている。同じサンプルから、人事管理と業績の関係について、「個人レベル→個人レベル」というマイクロレベル、「集団レベル→個人レベル」というマルチレベル、「集団レベル→集団レベル」というメゾレベルの間の比較が行えるようになる。組織現象における創発特性の実態の解明にもつなげていきたい。

第三に、「ピープルアナリティクス」「HR Tech」といった流行語に見られるように、近年の人事業務には情報技術が導入されつつあるが、それにより人事専門職が備えるべきコンピテンシーにどのような変化が生じるのかについて、観察を始めている。現状では、人事の専門職の多くにおいて、数量的データをもとにした因果推定や、解析結果の実務への展開という点で課題が見られる。こうした状況では、たとえ情報系の人事業務サービスが開発されたとしても、期待された効果は発揮されないだろうし、業務サービスそのものの十分な刷新も期待できない。情報技術を通じて人事業務の質を向上させるため、サービス提供者、人事専門職、そして研究者がどのように関わり合えばいいのかについて、アクションリサーチの手法も活用しながら解を導出したいと考えている。

## <研究業績>

### 【著書】

『人事管理一人と組織、ともに生きるために』（平野光俊氏との共著。江夏は第二著者）有斐閣 2018年6月

### 【著書（分担執筆）】

梅崎修・池田心豪・藤本真編『労働・職場調査ガイドブック』中央経済社 pp.130-140 2019年12月.

上林憲雄・平野光俊編著『日本の人事システム—その伝統と革新』同文館出版 pp.42-62 2019年7月

人材育成学会編『人材育成ハンドブック』金子書房 pp.213-217 2019年3月

栗木契・横田浩一編著『デジタル・ワークシフト—マーケティングを変えるキーワード30』産学社 pp.279-290, 291-300, 325-333 2018年4月

### 【論文】

#### ・掲載論文

「処遇の公正性と従業員の時間的展望」『組織学会大会論文集（トランザクションズ）』8(1) pp.96-102 2019年6月

「情報技術の進展に人事はどう向き合うべきか」『オムニ・マネジメント』2019(6) pp.8-11 2019年6月

「リーダーシップ教育における産学連携」『経済科学』66(4) pp.27-31 2019年3月

「人事評価における2つの『かんじょう』」『試験と研修』第041号 pp.31-318, 2018年5月

「質問紙調査から読み解く（後編） ベテラン社員の働きがい左右するものは何か」『JMA マネジメント』6(2), pp.12-15, 2018年2月

「質問紙調査から読み解く（前編） ベテラン社員の働きがい左右するものは何か」『JMA マネジメント』6(1), pp.12-15, 2018年1月

「賃金とは—経営学の観点から」『日本労働研究雑誌』681号, pp.29-31, 2018年4月

#### ・未掲載論文

「処遇の受容を可能にする要因—処遇に対する「正しさ」と「好ましさ」はいつ知覚されるか—」*RIEB Discussion Paper Series* No.DP2020-J05 神戸大学経済経営研究所 pp.1-35 2020年3月

「「人材マネジメントの新展開」調査報告書」（上林憲雄・平野光俊・余合淳・庭本佳子・島田善道・浅井希和子と共著）神戸大学大学院経営学研究科ディスカッションペーパー（2018, 05） pp.1-113 2018年3月

## <学会報告等研究活動>

（報告）「競争力を高めるインフォメーション・コミュニケーション・テクノロジーの組織的活用法を探る」2020年度組織学会年次大会 西南学院大学 2019年10月20日（村瀬俊朗氏，大沼沙樹市との共同報告。江夏は第2報告者）

（報告）「経営学の視点から」創造的回顧—日本の人事労務研究のレビュー研究会（主催：日本労

務学会) 早稲田大学 2019年9月15日

(報告)「人事評価における「測定」の可能性と実態」日本経営学会・組織学会・日本情報経営学会合同研究部会 名城大学 2019年6月22日

(報告)「実践としての人事評価—「測定メタファー」の相対化を目指して」第4回経済社会研究フォーラム 名古屋大学 2019年6月12日

(報告)「処遇の公正性と従業員の時間的展望—状況に調整される認知プロセス」2019年度組織学会研究発表大会 駒沢大学 2019年6月1日

(報告)「戦略的人事管理研究の潮流と展望」一橋大学国際交流セミナー 一橋大学 2019年5月24日

(報告)「人事評価の受容メカニズム」RIEBセミナー 神戸大学 2018年11月12日

(報告)「人事管理研究におけるマクロ視点」2018年度組織学会研究発表大会 駒沢大学 2018年9月23日

(報告)「人事評価研究における「測定パラダイム」の盛衰」日本労務学会中部部会 名古屋経済大学 2018年8月25日

(報告)「人事ポリシーの多様性と従業員の働きがい」日本労務学会中部部会 中京大学 2018年3月24日

(報告)「処遇の納得感についての実証研究—媒介要因としての“総合的公正判断 (General Fairness Judgment)”に着目して」慶應義塾大学 HRM 研究会 慶應義塾大学 2017年5月20日

#### <社会活動>

##### ・所属学会

Academy of Management

組織学会

経営行動科学学会

日本労務学会

##### ・委員歴

経営行動科学学会 研究担当理事 (兼, 機関誌『経営行動科学』編集委員長) (2020年4月~)

日本労務学会 第50回全国大会プログラム委員会 委員長 (兼, 大会実行委員会 委員)

(2019年6月~)

経営行動科学学会 中部部会長 (2018年4月~2020年3月)

日本労務学会 50周年記念行事準備委員会 委員 (2017年11月~)

日本労務学会 第49回全国大会プログラム委員会 委員 (2018年6月~2019年6月)

組織学会 大会委員会 委員 (2017年9月~2019年6月)

日本労務学会 副会長 (兼, 組織委員会 委員) (2017年6月~2019年6月)

#### <研究助成金>

・科学研究費補助金: 基盤研究 (C) 「日本の人事管理研究についての計量的学説史レビュー」(2019~2021年度) (研究代表者)

・科学研究費補助金: 基盤研究 (C) 「国際経営における経営理念共有の実態と理念共感のマネジメントに関する研究」(2017~2019年度) (研究分担者)

<教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2019年度	経営管理特殊講義	経営学研究科

## 准教授 後藤 将史 (Masashi GOTO)

研究部門	: 企業競争力
最終学歴	: 平成 29 年 3 月 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 博士 (経済学) (京都大学) (平成 29 年 3 月)
略 歴	: 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター非常勤講師、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授などを経て令和元年 10 月より現職
研究分野	: イノベーションマネジメント
研究課題	: (1) 革新的技術と職業 (2) 革新的技術と産業 (3) 国際化と日本企業

---

### 研究活動

#### <概要>

#### 革新的技術と職業

近年発展がめざましい革新的技術、特に人工知能の台頭によって、人間が行う仕事のあり方が大きく変化し、多くの職種が代替される可能性も議論されている。これは、専門知識を核に教育・法規制・資格など制度化を進め、社会的に大きな影響力を持つ専門職においても例外ではない。社会制度としての職業（特に専門職）が、革新的技術の台頭に応じてどう変化するかを、会計監査と法務に関わる専門職などの事例に基づき、制度変化・職業アイデンティティ・ビジネスモデル等の理論的視点で検討している。

#### 革新的技術と産業

革新的技術、特に人工知能は幅広い産業で適用が検討され、各業界での競争構造が大きく変化する可能性が議論されている。しかし、現在も発展途上にある新技術の活用・普及は不確実性が高く、個別企業が単独で取り組むには難しさがある。そのため各業界レベルでの組織化が進み、企業の枠を超えた協働や調整が広く観察される。小売業界で進む人工知能活用をめぐる組織化の事例に基づき、組織間協働・業界組織等の視点で、革新的技術がもたらす産業レベルの組織化の新しいあり方を検討している。

#### 国際化と日本企業

事業と経営の国際化のさらなる進展に伴い、多くの企業は国を超えて普遍的に通用する経営手法・ベストプラクティスを意識し、その実践に注力している。日系多国籍企業におけるグローバル人事制度の導入事例を題材に、そのような国際経営手法の採用・実行の速度や質について、企業間でどのような要因から差が生じるかを、制度論の視点を援用し検討した。

## <研究業績>

### 【著書】

『グローバル人事改革の挫折と再生 制度論で捉える組織変革』 京都大学学術出版会 2018年  
3月

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

「制度的圧力に対する『意図せざる不実行』の比較事例研究」『組織学会大会論文集』6巻1号 87-93  
頁 2017年8月

#### ・未掲載論文

“Theorization of Institutional Change in the Rise of Artificial Intelligence,” *Discussion Paper Series*,  
No.DP2020-12, RIEB Kobe University, March 2020

### 【その他】

“Impact of Digital Innovation on Business Management,” *Hitachi Review*, Vol.68, No.4, pp.6-7, September  
2019

「デジタル革新が企業経営にもたらすインパクト」『日立評論』 Vol.101 No.03 270-271 頁 2019  
年5月

「AIが企業経営にもたらすインパクト」『ダイヤモンドクォーターリー』第14号 50-55 頁 2019年  
2月

## <学会報告等研究活動>

(発表) “Professional Identity Reformation in the Age of Artificial Intelligence: A Case Study of Audit  
Professionals,” Annual Oxford Conference on Professional Service Firms, Boston, USA, August 14, 2019

(発表) “Inter-organizational Collaboration for Innovating with Disruptive Technology: A Case Study of  
Retail AI in Japan,” The Academy of Management, OCIS Division Conference, Boston, USA, August 7,  
2019

(発表) “The Emergence of Disruptive Technology and Retheorization of Professional Logic: A Case Study  
of Big 4 Accounting Firms in Japan on AI Audit,” 34<sup>th</sup> EGOS (European Group of Organization Studies)  
Colloquium, Tallinn, Estonia, July 6, 2018

(発表) “How Institutional Attachments of Middle Leaders Affect Coupling After Unintended Decoupling,”  
34<sup>th</sup> EGOS (European Group of Organization Studies) Colloquium, Tallinn, Estonia, July 5, 2018

(発表) “Theorization of Institutional Change in the Emergence of Disruptive Technology: Big 4 Accounting  
Firms and AI Audit,” The Academy of Management Specialized Conference Big Data and Managing in a  
Digital Economy, Guildford, UK, April 20, 2018

(発表) 「制度的圧力に対する『意図せざる不実行』の比較事例研究」2017年度組織学会研究発表  
大会 滋賀大学 2017年6月17日

## <社会活動>

#### ・所属学会

Academy of Management

組織学会

国際ビジネス研究学会

## 講師 藤山 敬史 (Keishi FUJIYAMA)

研究部門 : 企業情報  
生年月 : 昭和 61 年 4 月  
最終学歴 : 平成 27 年 3 月 一橋大学大学院商学研究科博士後期課程修了  
博士 (商学) (一橋大学) (平成 27 年 3 月)  
略歴 : 平成 27 年 4 月 1 日より現職  
研究分野 : 会計情報分析  
研究課題 : のれんの減損損失に対する制度要因の影響  
減損損失計上時の人員削減  
従業員との契約と利益マネジメント  
利益属性の国際比較  
減損会計と透明性  
日本企業の利益平準化

---

### 研究活動

#### <概要>

大きく 3 つの柱で研究活動を行った。1 つ目の柱は、国レベルの制度が会計実務に与える影響についての研究である。特に、近年活発に議論が行われているのれんの減損会計に焦点をあてて、分析を行っている。制度はその持続性から、会計基準が統一されたとしても会計実務の国家間での差異を生じさせる可能性がある。近年、会計基準が国際的に統一される潮流にあるなか、文化の影響を分析することは会計基準の統一だけでなく、会計実務の統一あるいは会計数値の理解にとって意義のあることである。国レベルでの会計報告の透明性 (accounting transparency) に影響を与える制度変数がのれんの減損損失計上意思決定とどのような関係にあるかを分析した。

2 つ目の柱は従業員との契約と利益属性に関する研究である。近年、企業のファンダメンタルの低下により、従業員と企業との関係性も少しずつ変化してきている。そのような中で、会計数値がどのように両者の利害を調整し得るのかについて理解を深めることが本研究の意義である。従業員との契約として人員削減に焦点をあてて、二つの文脈で研究を行っている。1 つは減損損失の計上タイミングであり、いま 1 つは利益調整と保守主義である。前者では、減損損失を計上した企業を対象に、人員削減の前後のどのタイミングで減損損失が計上されるのかについて従業員の影響力の観点から分析を行った。後者では、人員削減前後に会計利益が保守的になっているのか、あるいは、利益調整が行われているのかについて分析を行った。つまり、人員削減前後において利益が低下しているのは、ファンダメンタルの低下に加えて、何らかの会計的なバイアスが生じているのかについて保守主義および利益調整の観点から分析を行った。

3 つ目の柱は利益属性に関する国際比較研究および日本企業の研究である。注目する利益属性は利益平準化である。利益平準化は各国で観察されているものの、その程度は国によって異なることが知られている。本研究では、どのような要因で各国の利益平準化の程度が異なるのかについて、雇用法制が影響しうるのかについて、アーカイバル・データを用いて分析を行った。また、日本企業の利益平準化の程度について時系列でどのような変化が生じているのかについて日本の証券取引所における銀行持株比率に焦点をあてた分析を行った。さらに、株式持合に関する分析も進めた。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・掲載論文

「日本企業による利益平準化」(古賀裕也と共著)『国民経済雑誌』第217巻3号 57-81頁 2018年3月

#### ・未掲載論文

「従業員と会計・情報開示」(森脇 敏雄、深谷 優介と共著) RIEB Discussion Paper Series No. DP2020-J02 神戸大学経済経営研究所 18pp. 2020年1月

“The Effect of Voluntary IFRS Adoption on Information Asymmetry: Evidence from Japan,” (with Jong-Hoon Kim and Y. Koga) RIEB Discussion Paper Series No. DP2018-21, 38pp., November 2018

“Dynamics of Standard Setter's Translation: 'Goodwill' in Japanese GAAP,” (with S. Matsubara and T. Endo) RIEB Discussion Paper Series No. DP2018-08, 28pp., March 2018

“Employee Downsizing and Accounting Choices: Evidence from Japan,” (with M. Kuroki), RIEB Discussion Paper Series No. DP2017-06, 43pp., March 2017 (Revised, September 2017)

## <学会報告等研究活動>

(学会運営) The 10th International Conference of The Japanese Accounting Review, Kobe University, December 22, 2019

(発表) 「日本企業に対する Khan and Watts (2009) による C スコア適用の妥当性について」(山下知晃と共著) 日本会計研究学会第78回大会 2019年9月9日

(発表) “Transitioning from a bank towards an equity financing system in Japan: The impact of income smoothing practice over 40 years” (co-authored with S. Gray and Y. Koga), 42nd Annual Congress of the European Accounting Association, Paphos, Cyprus, May 30, 2019

(発表) “The effect of voluntary IFRS adoption on information asymmetry: Evidence from Japan (co-authored with J. Kim and Y. Koga), 42nd Annual Congress of the European Accounting Association, Paphos, Cyprus, May 31, 2019

(学会運営) The 9th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 5, 2019

(発表) “The effect of Voluntary IFRS adoption on Information Asymmetry: Evidence from Japan,” 日本 (with Jonghoon Kim and Yuya Koga), 会計研究学会第68回関西西部会 京都産業大学 2018年12月8日

(発表) “The Influence of National Culture on Goodwill Impairment Recognition under IFRS: Evidence from the European Union,” (with Sidney Gray), 13th World Congress Accounting Educators and Researchers, Sydney, Australia, November 9, 2018

(討論) “Foreign Investors and Implied Cost of Equity Capital: Evidence from Korean Stock Market,” (報告者: Chang Seop Rhee 氏 (Sejong University), Hong-min Chun 氏 (Chungbuk National University), 日本会計研究学会第77回全国大会 神奈川大学 2018年9月5日

(発表) “The Impact of Shifting from a Bank Towards an Equity Financing System on Accounting Practice : The Case of Income Smoothing in Japan over 40 Year,” (with Sidney Gray and Yuya Koga), 日本会計研究学会第77回全国大会 神奈川大学 2018年9月5日

(発表) “National Institutional Factors and Accounting for Goodwill: The Case of Goodwill Impairment Recognition under IFRS in Europe,” (with Sidney Gray), Korean Accounting Association 2018 Annual Summer/International Conference, The Ocean Resort, Yeosu, Korea, June 2018

(学会司会) Concurrent Session A, The 8th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 6, 2018

(学会運営) The 8th International Conference of *The Japanese Accounting Review*, Kobe University, January 6, 2018

(発表) “Employee Downsizing and Accounting Choices,” 『台湾会計学会』 中国文化大学 2017年11月30日

(発表) “An experimental study of the effect of accounting transparency on impairment loss recognition,” The 18th Annual Conference of the Asian Academic Accounting Association, Bali, Indonesia, November 22, 2017

(司会) 国際院生セッション 日本会計研究学会第76回全国大会 広島大学 2017年9月

#### <社会活動>

- ・所属学会  
アメリカ会計学会 (American Accounting Association)  
ヨーロッパ会計学会 (European Accounting Association)  
日本会計研究学会  
日本インベスター・リレーションズ学会

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：若手研究 (B) 「利益平準化に対する従業員および取引先の影響の研究：国際比較および日本企業の分析」 (2017～2019年度) (研究代表者)
- ・科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究 「財務会計情報の内部作成・利用過程における保守主義とエンフォースメントの実験研究」 (2016～2018年度) (研究分担者)

#### <受賞歴>

2017年度みずほ証券寄附講座研究奨励賞 最優秀賞 2017年11月

## 講師 加藤 諒 (Ryo KATO)

研究部門 : 企業情報  
最終学歴 : 平成 31 年 3 月 慶應義塾大学大学院 経済学研究科 後期博士課程 修了  
博士 (経済学) 慶應義塾大学 (平成 31 年 3 月)  
略 歴 : 日本学術振興会特別研究員 (DC1) 経て平成 30 年 4 月より現職  
研究分野 : マーケティング  
研究課題 : (1) 大規模データを用いた消費者行動の理解と統計モデルの開発  
(2) ベイズ統計学の社会科学への応用  
(3) マーケティング・サイエンス

---

### 研究活動

#### <概要>

実社会のデータを用いて消費者行動の理解を行うマーケティング・サイエンスとそれに付随する統計科学に関する諸問題に関して研究を行った。

マーケティング・サイエンスの分野では、位置情報などの近年利用可能となっている新しいデータを用いて消費者の買い回り行動を明らかにする研究や、マーケティングの研究課題を解決するための統計的手法の開発を行ってきた。

位置情報を用いた研究では、位置情報から来店者数を取得することで、競合の存在を考慮した商圈レベルでのチラシ効果の推定を行った。ここでは、競合の存在を無視するとチラシの弾力性が正しく推定されない点や、これまで扱えなかった「チラシを発行しない小売店舗の顧客が、競合店舗のチラシにどの程度反応するか」という点を明らかにした。またその効果が、小売店舗の価格戦略(毎日価格を変動させる HiLo 戦略か、価格を基本的には変動させない EDLP 戦略か)や、店舗が位置する地理的な要因によって異なることを示した。統計科学部分野では、ベイズ統計学の観点からセミパラメトリックモデルを用いた欠測データ解析法や操作変数法を提案した。欠測データに関する研究に関しては、社会科学を含む多くの研究分野においてこの対処は非常に重要である。データの欠測を正しく扱わない場合、誤った意思決定を行う可能性を孕む。特に近年では、多くの分野で大規模なデータが利用できる状況にあるが、それと同時にデータの欠測が大きな問題となっている。近年、欠測データ解析には連鎖式による多重代入法 (MICE) が広く用いられているが、モデルに非常に強い仮定を置くことができない場合、推定量は一般に一致性を持たない。そこでディリクレ過程混合モデルによるノンパラメトリックな表現を一部利用することで、これらの問題点を解決可能なセミパラメトリック多重代入法を提案した。この方法は、例えばマーケティングデータなどに見られる連続変数と離散変数とともに含むデータセット (例: 年齢、所得などは連続変数、アンケート調査の回答は順序尺度や名義尺度などの離散変数) への対処も容易であるため、多くの分野で適用可能である。乱数によるシミュレーションを行った結果、MICE や機械学習的な手法では母数を正しく推定できない状況においても、提案手法は正しい推論を行うことが示された。

その他の関連分野においても、会計学・監査論における因果推論の応用として、監査の質に関する実証研究なども行った。

## <研究業績>

### 【論文】

#### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“The Impact of Competitors Store Flyer Advertisement on EDLP/HiLo Chain Performance in Highly Competitive Retail Market: GPS Information and POS Data Approach in Japan” (coauthor: Takahiro Hoshino) *Journal of Advertising*, 48(5), pp.569-587, November 2019

“Does Big N Matter for Audit Quality? Evidence from Japan,” (coauthor: Hu Dan), *Asian Review of Accounting*, Vol. 27 (1), pp.2-28, 2019

##### 掲載予定

“Semiparametric Bayesian Multiple Imputation for Regression Models with Mixed Continuous-Discrete Covariates,” (coauthor: Takahiro Hoshino), *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 72(3), pp.803-825, June 2020

#### ・掲載論文

“Gender Differences in Extended Warranty Purchases: The Case of Electronic Products,” (coauthor: Adachi, Takanori), 『経済科学』 66 (1), pp.1-14, 2018年6月

「企業ブランドイメージと広告費、財務指標の関連性に関する実証分析」(星野崇宏と共著)『日経広告研究所報』 Vol. 294, pp.18-25, 2017年9月

#### ・未掲載論文

“Semiparametric Bayesian Instrumental Variables Estimation for Nonignorable Missing Instruments”, (with HOSHINO, Takahiro), *RIEB Discussion Paper Series*, No.2020-6, February 2020, 26pp.

“Semiparametric Bayes Instrumental Variable Estimation with Many Weak Instruments,” (with Takahiro Hoshino), *RIEB Discussion Paper Series*, No. DP2018-14, May 2018, 26pp.

## <学会報告等研究活動>

(発表) “Measuring the effect of competitors’ store flyers on EDLP and HiLo store performance: GPS data approach” (with Takahiro Hoshino) 2019 INFORMS Marketing Science Conference, University of Rome Tre, Italy, June 20, 2019

(発表) 「母集団情報を利用した欠測を含む操作変数への対処」(共著者：星野崇宏) 2018年度統計関連学会連合大会 中央大学 2018年9月12日

(発表) 「位置情報とIDPOSデータを用いた購買行動の理解」(共著者：星野崇宏) 日本行動計量学会第46回大会 慶應義塾大学 2018年9月5日

(発表) 「AIはどこまで人間の仕事を代替可能か? ~Frey and Osborne (2013) の批判的検討」(共著者：上野雄史, 星野崇宏) 日本行動計量学会第46回大会ラウンドテーブルディスカッション 慶應義塾大学 2018年9月4日

(発表) “Semiparametric Bayes Model for Multidimensional Instrumental Variables,” (with Takahiro Hoshino), 2018 Joint Statistical Meetings, Vancouver Convention Centre, July 30, 2018

(発表) 「スキャナーパネルを用いた新製品に対する非計画購買の理解」(共著者：星野崇宏) 第56回消費者行動研究コンファレンス 亜細亜大学 2018年5月20日

(発表) 「位置情報とチラシデータを用いた消費者の商圏内購買行動の理解」(共著者：星野崇宏) 2017年度消費者行動ワークショップ 南山大学 2018年3月5日

(発表) 「位置情報と購買履歴のマッチングによる競合他社での購買行動の理解」(共著者：星野崇

宏, 松村優哉) 日本マーケティング・サイエンス学会第 102 回研究大会 電通ホール 2017 年 12 月 3 日

(発表)「経済学モデルと行動経済学的知見のマーケティングサイエンスへの貢献」(共著者: 猪狩良介, 竹内真登, 中川宏道, 星野崇宏) 日本マーケティング・サイエンス学会第 102 回研究大会 電通ホール 2017 年 12 月 2 日

(発表)「スキャナーパネルに対する購買直後調査を用いた新製品のトライアルリピートの理解」(共著者: 星野崇宏) 日本マーケティング・サイエンス学会 新しいデータと競争環境の下でのマーケティングサイエンス研究部会 WS 慶應義塾大学 2017 年 9 月

(発表)「多次元の弱操作変数がある場合のセミパラメトリックベイズ操作変数法の提案」(共著者: 星野崇宏) 2017 年度統計関連学会連合大会 南山大学 2017 年 9 月 4 日

(発表)「スキャンパネル協力者に対する購買直後調査を用いた購買行動規定要因の探索: トライアルリピートと非計画購買に着目して」(共著者: 村上智章, 竹内真登, 星野崇宏) 消費者行動研究コンファレンス 慶應義塾大学 2017 年 5 月 20 日

(発表)「広告接触の因果効果・調整効果のブランド属性と個人属性の影響を調べる: マルチレベルデータの因果効果推定」(共著者: 星野崇宏) 日本行動計量学会第 44 回大会 札幌学院大学 2016 年 8 月 31 日

#### <社会活動>

- ・所属学会  
日本マーケティング・サイエンス学会  
日本行動計量学会  
日本商業学会  
日本消費者行動研究学会

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金: 研究活動スタート支援「位置情報を用いた消費者の商圏内買い回り行動の理解」(2018~2019 年度) (研究代表者)
- ・吉田秀雄記念事業財団研究助成「集計マクロレベル情報とマイクロレベルデータを融合した広告効果推定法の開発と応用」(2017 年度) (研究分担者)
- ・日本学術振興会 特別研究員奨励費 (2016 年 4 月~2018 年 3 月)

#### <受賞歴>

- ・2017 年 統計関連学会連合「優秀報告賞」

## 講師 榎本 大悟 (Daigo UMEMOTO)

研究部門 : グローバル金融  
最終学歴 : 平成 29 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了  
博士 (理学) 東京大学 (平成 29 年 3 月)  
略 歴 : 日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻研究生、  
理化学研究所 (計算科学研究機構, 現計算科学研究センター) 特別研究員をへ  
て平成 31 年 4 月現職  
研究分野 : マクロ政策分析  
研究課題 : シミュレーションを用いた社会・都市・交通の研究

---

### 研究活動

#### <概要>

2017 年度の前半は、交通流の分析に活用可能な深層学習アルゴリズムへの習熟を視野に、博士課程にて取り組んでいた雷雲ガンマ線のデータに深層学習アルゴリズム(オートエンコーダ)を適用してイベント探索を試み、物理学会にて発表した。2017 年後半からは都市規模の交通シミュレーションに取り組み、まず手作業にてデータ解析を試みたところ、交通量が冪分布するという一般則の存在が判明したため、年内に物理学会にて報告し、2018 年度に入ってから内容を付け加え、論文として投稿した。2019 年度はこれに加え、冪分布が発生する条件の特定に取り組み、道路の階層性・ボトルネック(まさに渋滞の原因と考えられる)の存在が逆比例の関係を持つ分布を生じさせた可能性が示唆されたため、学会・論文にて報告した。2019 年からは新たに RIEB に着任することとなり、阪神高速との共同研究を取りまとめる役を仰せつかり、遂行した。提供されたデータを手で解析したところ、道路の使用状況には幾つか特徴的な相関が見られたため、日本物理学会にて報告を行った。これらの他、上東教授主催のゼミで学生の研究発表に助言を与えたり、CCSS Workshop にて座長を務めるなどの研究職務を遂行した。

#### <研究業績>

##### 【論文】

###### ・レフェリー付論文

“Large-scale Parallel Execution of Urban-scale Traffic Simulation and its Performance on K Computer,” (with Nobuyasu Ito), *Journal of Computational Social Science*, 2(1), 97-101, March 2019

“Power-law Distribution in an Urban Traffic Flow Simulation,” (with Nobuyasu Ito), *Journal of Computational Social Science*, 1(2), 493-500, September 2018

“Photonuclear Reactions Triggered by Lightning Discharge,” (with Teruaki Enoto, Yuuki Wada, Yoshihiro Furuta, Kazuhiro Nakazawa, Takayuki Yuasa, Kazufumi Okuda, Kazuo Makishima, Mitsuteru Sato, Yousuke Sato, Toshio Nakano, and Harufumi Tsuchiya), *Nature*, 551(7681), 481, November 2017

###### ・掲載論文

“High-Energy Radiation Phenomena from Winter Thunderstorms and Lightning in Japan,” (with Teruaki Enoto, Yuuki Wada, Yoshihiro Furuta, Kazuhiro Nakazawa, Takayuki Yuasa, Kazuo Makishima, Mitsuteru Sato, Yousuke Sato, Harufumi Tsuchiya, Gregory S Bowers, Masashi Kamogawa, Yoshitaka Nakamura,

Takeshi Morimoto, and David Smith), AGU Fall Meeting Abstracts, December 2018

“Photonuclear Reactions Triggered by Lightning Discharge in a Japanese Winter Thunderstorm,” (with Teruaki Enoto, Yuki Wada, Yoshihiro Furuta, Kazuhiro Nakazawa, Takayuki Yuasa, Kazufumi Okuda, Kazuo Makishima, Mitsuteru Sato, Yosuke Sato, Toshio Nakano, and Harufumi Tsuchiya), EGU General Assembly Conference Abstracts, April 2018

#### 【その他】

「社会を科学的に見てみる」産経新聞『科学の中身』 2018年12月

「予測技術を防災に活用」神戸新聞『安心の素』 2018年9月

#### <学会報告等研究活動>

(報告) 「阪神高速 ETC 交通ビッグデータの解析」 日本物理学会 2020 年次大会 名古屋大学  
(緊急事態宣言発令により非開催、概要投稿により発表成立) 2020年3月

(司会) 第4回計算社会科学ワークショップ(CSSJ2020) 神戸大学 2020年2月28日～3月1日

(司会) CCSS Workshop on Computational Social Science 神戸大学 2020年2月28日～3月1日

(講演) 講演「数理で考える渋滞の起こし方」兵庫県立北摂三田高校インスパイア講演会 2019年11月14日

(ポスター報告) “Study of power-law like distribution in traffic simulations,” NetMob2019, Oxford University, July 9, 2019

(報告) “Power-law Distribution Found in City-scale Traffic Flow Simulation,” Recent Developments in Computer Simulation Studies in Condensed Matter Physics, University of Georgia, December Date, 2018

(報告) “Power-law distribution in city-scale traffic flow simulations”, FAN 2018, ST-18-67 横浜国立大学 2018年9月

(報告) 「都市交通のシミュレーションで生じた冪分布」 日本物理学会 2018 年秋季大会 同志社大学 2018年9月11日

(報告) “Large scale parallel execution of urban scale traffic simulation and its performance on K computer”, PRIMA workshop, AIST, 2018年9月

(報告) 「GROWTH 実験 2014 年度データを用いた雷雲ガンマ線イベントの探索法の改善」日本物理学会 2017 年秋季大会 宇都宮大学 2017年9月

#### <教育活動>

上東貴志教授ゼミでの大学院生指導 (2019年)

#### <受賞>

・電気学会 電子・情報・システム部門 研究会 優秀論文発表賞「都市交通のシミュレーションで生じたべき分布」 2019年9月

・日本電気学会 システム技術委員会 インテリジェント・システム・シンポジウム(FAN2018) 最優秀プレゼンテーション (和田) 賞「都市交通のシミュレーションで生じたべき分布」2019年2月

## 助教 陳 金輝 (Jinhui CHEN)

研究部門 : 企業競争力  
最終学歴 : 平成 28 年 3 月 神戸大学システム情報学研究科情報科学専攻博士課程修了  
博士 (工学) (神戸大学) (平成 28 年 3 月)  
略 歴 : 平成 28 年 3 月 1 日より現職  
研究分野 : イノベーションマネジメント  
研究課題 (1) 社会課題への解決技術: 機械学習手法による新たな人工知能活用技術の開発  
(2) 機械学習を用いた大規模社会・経済データの自動分析・実証に関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

我々人間は、脳で見た・聞いた情報を学習し、知識を得ます。得た知識で新たに見たものを認識したり、聞いた状況を理解したり、柔軟に行動することができます。同様のことをコンピュータに行わせることができれば、面白いでしょう。本研究室はそれを研究動機として計算機がデータからヒトの「知識」を学習・利活用するための仕組み及びそれを実現するための統計的モデリングやアルゴリズムなど機械学習枠組みの研究を行っています。研究は、パターン認識・データ処理を始めとしたタスクで、人間活動からなる膨大で複雑な構造を有するデータから、価値のある知識や情報を学習、発見、あるいは生成し、さらに、それを利活用するための知的データ処理に関わる基礎理論・アルゴリズム・処理方式、ならびに、それらの地域課題における様々な問題への応用に関する内容となります。現在は以下の研究課題を取り扱っています。(1) 社会課題への解決技術: 機械学習手法による新たな人工知能活用技術の開発、(2) 機械学習を用いた大規模社会・経済データの自動分析・実証手法の提案。

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ・ジャーナル論文 (査読あり)

“Emotional Voice Conversion Using Dual Supervised Adversarial Networks With Continuous Wavelet Transform F0 Features,” (with Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi and Yasuo Arikawa), IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech and Language Processing (TASLP), Vol. 27(10), pp.1535-1548, October 2019

“Neutral-to-emotional voice conversion with cross-wavelet transform F0 using generative adversarial networks,” (Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi and Yasuo Arikawa), APSIPA Transactions on Signal and Information Processing, Vol.8, pp.1-11, March 2019

“Polar Transformation on Image Features for Orientation-Invariant Representations,” (with Zhaojie Luo, Zhihong Zhang, Faliang Huang, Zhiling Ye, Tetsuya Takiguchi and Edwin R. Hancock), IEEE Transactions on Multimedia, Vol. 21(2), pp. 300-313, February 2019

“An AI-based Approach to Auto-analyzing Historical Handwritten Business Documents: As Applied to the Kanebo Database,” (with Tetsuya Takiguchi, Yasuo Takatsuki, Munehiko Itoh, Takashi Kamihigashi), Journal of Computational Social Science, Vol.1 (1), pp.167-185, January 2018

“Rotation-reversal Invariant HOG Cascade for Facial Expression Recognition,” (with Tetsuya Takiguchi, and Yasuo Arikawa), Signal, Image and Video Processing, Vol.11 (8), pp.1485-1492, November 2017

“Overlapping Community Detection for Multimedia Social Networks,” (with Faliang Huang, Xuelong Li, Shichao Zhang, Jilian Zhang and Zhinian Zhai), IEEE Transactions on Multimedia Vol.19 (8), pp.1881-1893, August 2017

“Emotional voice conversion using neural networks with arbitrary scales F0 based on wavelet transform,” (with Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi, and Yasuo Arikki), EURASIP Journal on Audio, Speech, and Music Processing, Vol. 2017, 2017:18, pp.1-13, August 2017

・ 国際会議論文（査読あり）

“Emotional Voice Conversion with Adaptive Scales F0 based on Wavelet Transform using Limited Amount of Emotional Data,” (with Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikki), Interspeech, pp.3399-3403, August 2017

“Facial Expression Recognition With Deep AGE,” (with Zhaojie Luo, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Arikki), IEEE International Conference on Multimedia and Expo Workshops (ICMEW) 2017, pp.657-662, July 2017

### 【その他】

「音源推定研究の簡単紹介」『RIEB ニュースレター』No. 195 2019年2月

#### <社会活動>

- ・ 所属学会  
電子情報通信学会（IEICE）正会員  
米国計算機学会（ACM）正会員  
米国電気電子学会（IEEE）正会員

#### <特許>

- “表情認識方法、表情認識装置、コンピュータプログラム及び広告管理システム”，陳金輝，羅兆傑，有木康雄，特開 2018-055470 / 特願 2016-191819
- “画像認識装置、画像認識方法、コンピュータプログラム、及び製品監視システム”，陳金輝，上東貴志，伊藤宗彦，高槻泰郎，特開 2018-165948 / 特願 2017-063675

#### <研究助成金>

- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（A）「大規模生体データを用いた AI による個人・集団レベルの創造性に関する実証研究」（2019～2023 年度）（研究分担者）
- ・ 科学研究費補助金：基盤研究（B）「構音障がい者の複数モダリティを用いたコミュニケーション支援技術の研究」（2017～2020 年度）（研究分担者）

## 助教 村上 善道 (Yoshimichi MURAKAMI)

- 研究部門** : グローバル経済
- 最終学歴** : 平成 19 年 3 月 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了  
平成 25 年 3 月 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程修了  
博士 (経済学) (神戸大学) (平成 25 年 3 月)
- 略 歴** : 日本学術振興会特別研究員 (DC1)、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 国際貿易統合部インターン、神戸大学経済経営研究所講師 (研究機関研究員)、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 ラテンアメリカ・カリブ経済社会計画研究所アソシエートエキスパート、神戸大学経済経営研究所特命助教を経て平成 29 年 4 月より現職
- 研究分野** : 経済統合
- 研究課題** : (1) ラテンアメリカにおけるグローバル経済統合と所得分配および経済発展に関する理論的・実証的研究  
(2) チリにおける賃金格差と生産性に関する実証的研究  
(3) 外国直接投資 (FDI) とグローバル・バリューチェーン (GVC) に関する理論的・実証的研究

---

### 研究活動

#### <概要>

これまで、国際経済学、開発経済学の理論および分析手法を用いてラテンアメリカやチリの経済発展に関する実証的研究を行ってきた。とりわけ同地域が積極的に進めてきたグローバル経済への統合が所得分配および生産性にどのような影響を与えたのかということに関して実証研究を行ってきた。対象 3 年度の具体的な研究概要としては以下があげられる。

#### <1. ラテンアメリカにおけるグローバル経済統合と所得分配および経済発展に関する理論的・実証的研究>

ラテンアメリカ地域は積極的にグローバル経済への統合を進め、さらに北半球の市場への近接、豊富な天然資源を有するなど、経済発展への良好なポテンシャルを数多く有しているが、依然として対外的な経済ショックへの脆弱性が高く、近年は経済成長も鈍化し、2000 年代に進展した所得分配の改善も停滞傾向にある。このようなラテンアメリカの経済発展の特徴を解明するため、構造主義や新構造主義の理論をサーベイし、現代のラテンアメリカ地域の抱える周辺的な特徴が一次産品依存だけでなく、技術進歩や GVC への統合の遅れにあることを指摘した。さらにこれを踏まえて、現代のラテンアメリカ地域のグローバル化は「メキシコ・中米型」と「南米型」の二つのタイプあることを明らかにし、ラテンアメリカ地域 18 か国を対象にパネルデータ・セットを作成し、同時方程式モデルを用いて周辺性、所得格差、一人当たり所得レベルの関係について実証研究を行った。

#### <2. チリにおける賃金格差と生産性に関する実証的研究>

ラテンアメリカ諸国の中でも最も早く経済改革に取り組んできたチリを事例に、家計調査データを用いて、賃金格差の 1990 年以降の拡大と 2000 年以降の縮小の要因を高等教育の拡大に着目して実証分析を行った。さらに 2000 年以降に関しては、この時期に進展した地域貿易協定にも着目し、実行関税率および事業所レベルデータから推定した外国直接投資比率、技術水準、生産性などを前述の家計調査データと産業レベルでマッチさせて新たなデータセットを構築した。これを用いて、グローバル化と賃金格差の関係を詳細に分析した。

### <3. FDI と GVC に関する理論的・実証的研究>

FDI と GVC は共に多国籍企業の活動に伴う国際的な生産工程の分業に関わるものであり、またそれが途上国における国内企業の技術進歩の重要な源泉であることは広く知られているが、両者の研究はこれまで別々に行われてきた。そこで、両者の統合をめざして主要な実証研究をサーベイし、GVC 研究の視点、とりわけ多国籍企業と国内企業の関係性に関わる変数を FDI の実証研究に入れることで、多国籍企業からの技術スピルオーバーが国内企業の生産性向上に与える経路をより実態的に明らかにする定式化に基づく実証研究が可能なことを指摘した。

### <研究業績>

#### 【著書（分担執筆）】

「ラテンアメリカにおけるグローバル化と所得格差の関係－「メキシコ・中米型」と「南米型」にみる影響経路の違い」浜口伸明編『ラテンアメリカ所得格差論－歴史的起源・グローバル化・社会政策』国際書院 2018年7月 第2章 69-109頁

#### 【論文】

##### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“Governance, Information Spillovers, and Productivity of Local Firms: Toward an Integrated Approach to Foreign Direct Investment and Global Value Chains,” (大塚啓二郎と共著) *The Developing Economies*, Volume 58, Issue 2, pp.134-174, June 2020

DOI: 10.1111/deve.12232

“Expanding Higher Education and Wage Inequality in Chile,” (野村友和と共著) *Journal of Economic Studies*, Volume 47, Issue 4, March 2020

DOI: 10.1108/JES-12-2018-0445

“The Impacts of China on Economic Growth: Evidence for Brazil, Chile and Peru,” (René A. Hernández と共著) *Journal of Post Keynesian Economics*, Volume 41, Issue 3, pp.430-454, May 2018

DOI:10.1080/01603477.2016.1136565

「ラテンアメリカ中所得国経済の発展と停滞における構造問題」(浜口伸明と共著)『ラテン・アメリカ論集』第51号 2017年12月 33-53頁

##### ・掲載論文

「BRICS 経済の発展経路－成長回帰分析を用いて－」(水野寛之・佐藤隆広と共著)『経済経営研究(年報)』第67号 神戸大学経済経営研究所 2018年3月 167-199頁

##### ・未掲載論文

“Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile,” RIEB Discussion Paper Series, DP2020-11, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University, March 2020

“The Expansion of Higher Education and Wage Inequality in Chile,” (野村友和と共著) RIEB Discussion Paper Series, DP2018-24, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, November 2018

“Globalization and Income Inequality in Latin America: A Review of Theoretical Developments and Recent Evidence,” RIEB Discussion Paper Series, DP2018-16, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, May 2018 (Revised August 2018)

“A Review of the Literature on Productivity Impacts of Global Value Chains and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach,” (大塚啓二郎と共著) RIEB Discussion Paper Series, DP2017-19, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, August 2017 (Revised July 2018)

“Peripherality, Income Inequality, and Economic Development in Latin American Countries,” (浜口伸明と共著) RIEB Discussion Paper Series, DP2017-08, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, March 2017 (Revised October 2018)

“Determinants of Wage Equalization in Chile from 1996 to 2006: Decomposition Approach,” (野村友和と共著) RIEB Discussion Paper Series, DP2016-24, Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, July 2016 (Revised April 2017)

### 【コラム記事】

「100周年記念誌作成余録」『RIEB ニュースレター』No.197 2019年4月

### 【翻訳】

マーティン・ラヴァリオン (柳原透監訳) 『貧困の経済学』(第1章担当) 日本評論社 2018年9月

### <学会報告等研究活動>

(発表) “Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile,” 日本国際経済学会 2019年度第4回関西支部定例研究会 関西学院大学大阪梅田キャンパス 2020年3月14日

(発表) “Trade Liberalization and Wage Inequality: Evidence from Chile,” ラテンアメリカ・セミナー (神戸大学経済経営研究所ラテンアメリカ政治経済研究部会/科研若手研究 (B)「ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」共催) 神戸大学 2020年3月11日

(討論) “Percepción y justificación de desigualdad económica,” (発表者 Juan Carlos Castillo) The University of Tokyo Latin American & Iberian Network for Academic Collaboration (LAINAC) Workshop on “Rethinking Inequality: Its Causes, Perceptions and Politics,” The University of Tokyo, January 23, 2020

(発表) “Peripherality, Income inequality, and Economic Development in Latin American Countries,” The University of Tokyo Latin American & Iberian Network for Academic Collaboration (LAINAC) Workshop on “Rethinking Inequality: Its Causes, Perceptions and Politics,” The University of Tokyo, January 23, 2020

(討論) “How Does Innovation Take Place in the Mining Industry?: Understanding the Logic behind Innovation in a Changing Context,” (発表者 飯塚倫子) ラテン・アメリカ政経学会第56回全国大会 獨協大学 2019年11月16日

(討論) 「報告パネル この20年のメキシコ経済II」(報告者 久松佳彰・内山直子・受田宏之) ラテン・アメリカ政経学会 第55回全国大会 神田外語大学 2018年12月1日

(発表) “Globalization and Income Inequality in Latin America: A Review of Theoretical Developments and Recent Evidence,” 日本国際経済学会 第77回全国大会 関西学院大学 2018年10月14日

(討論) “Loan Groups and Elements of Success in a Microcredit Group-Lending Program: Estimating the Impacts of a Self-Selected Loan Group on the Household Income of Its Members Evidence from India,” (報告者 西村めぐみ) 日本国際経済学会 第77回全国大会 関西学院大学 2018年10月13日

(発表) “Globalization and Inequality in Latin America: What We Know So Far and What We Should Study Further?,” Latin America Seminar “Globalization and Democracy in Latin America: Recent Trends and Future Challenges.”, (Jointly supported by Kobe University RIEB Workshop on Economic and Political Research on Latin America, Grant-in-Aid for Scientific Research (B), and Grant-in-Aid for Young Scientists (B)), Kobe University, March 19, 2018

(発表) 「BRICS 経済の発展経路ー成長回帰分析を用いてー」日本国際経済学会 2017 年度関西支部第 5 回定例研究会 関西学院大学大阪梅田キャンパス 2018 年 3 月 17 日

(発表) 「ラテンアメリカにおけるグローバル化と所得分配の関係」ラテンアメリカ・セミナー「ラテンアメリカ所得格差論」(神戸大学経済経営研究所ラテンアメリカ政治経済研究部会／科研基盤研究 B 「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」／科研若手研究 B 「ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」共催) 神戸大学 2018 年 2 月 19 日

(発表) “A Review of the Literature on Productivity Impacts of Global Value Chains and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach,” The Fudan-Kobe Joint Workshop: The Impact of the China Factor in East Asia, (Jointly supported by: RIEB Seminar / Rokko Forum / Fudan IWE / Grant-in-Aid for Scientific Research (A)), Kobe University December 8, 2017

(討論) 「報告パネル この 20 年のメキシコ経済」(発表者 久松佳彰・内山直子・受田宏之) ラテン・アメリカ政経学会 第 54 回全国大会 京都大学 2017 年 11 月 4 日

(発表) “A Review of the Literature on Productivity Impacts of Global Value Chains and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach,” 日本国際経済学会 第 76 回全国大会 第 8 分科会「グローバル・バリュー・チェーン」日本大学 2017 年 10 月 22 日

(講演) 「グローバリゼーションは発展途上国の格差を拡大させるか」神戸大学東京六甲クラブ木曜会講演会 神戸大学東京六甲クラブ 2017 年 9 月 14 日

(発表) “A Review of the Literature on Productivity Impacts of Global Value Chains and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach,” (大塚啓二郎と共同報告) APL セミナー (アジア研パワーランチセミナー) アジア経済研究所 2017 年 8 月 31 日

(発表) “A Review of the Literature on GVC and FDI: Towards an Integrated Approach,” (大塚啓二郎と共同報告) RIEB セミナー (六甲フォーラム／社会システムイノベーションセンター共催) 神戸大学 2017 年 7 月 24 日

(発表) “A Review of the Literature on Global Value Chain and Foreign Direct Investment: Towards an Integrated Approach,” (大塚啓二郎と共同報告) 開発経済学月例研究会 政策研究大学院大学 2017 年 7 月 18 日

(発表) “Peripherality, Inequality, and Economic Development in Latin American Countries,” (浜口伸明と共同報告) 神戸大学経済経営研究所ラテンアメリカ政治経済研究部会 (科研基盤研究 (B) 「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」研究会共催) 早稲田大学 2017 年 7 月 17 日

(発表) “A Review of the Literature on GVC and FDI: Towards an Integrated Approach,” (大塚啓二郎と共同報告) アジア経済研究所研究プロジェクト「技術移転と産業発展の長期的展開過程：インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較事例研究」研究会 神戸大学 2017 年 5 月 18 日

## <社会活動>

### ・所属学会

ラテン・アメリカ政経学会、日本ラテンアメリカ学会、日本国際経済学会、

### ・学術雑誌査読

『ラテン・アメリカ論集』『Journal of Economic Studies』

・学外委員

日本貿易振興会アジア経済研究所 研究会「技術移転と産業発展の長期的展開過程：インドとタイにおけるオートバイ産業と自動車産業の比較事例研究」 外部委員（2017年度）

<研究助成金>

- ・科学研究費補助金：若手研究（B）「ラテンアメリカにおけるバリューチェーン統合と生産性・分配に関する実証研究」（2017～2019年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「ラテンアメリカ発展停滞のパズル」（2016～2018年度）（研究分担者）
- ・神戸大学社会システムイノベーションセンター研究プロジェクト「契約栽培と下請契約：途上国の発展における契約の役割」（2017年度）（構成メンバー）

## 特命教授 小島 健司 (Kenji KOJIMA)

- 研究部門 : 企業競争力  
最終学歴 : 昭和 54 年 3 月 神戸大学大学院博士課程単位修得退学  
M.M. (ノースウエスタン大学) (昭和 50 年 6 月)  
略 歴 : 南山大学経営学部助手、同講師、同助教授、神戸大学経済経営研究所助教授、  
同教授を経て平成 24 年 4 月現職  
研究分野 : コーポレートガバナンス  
研究課題 : 1 経営戦略の内容および策定・遂行について、次のような研究課題に取り組む。  
1.1 経営戦略内容の理論分析  
1.2 経営戦略策定・遂行の理論および実証分析  
1.3 経営戦略遂行に関わる環境適応企業人材開発プログラムの研究および開発  
2 経営戦略の策定および遂行に関わる企業統治について、次のような研究課題に取り組む。  
2.1 経営戦略と企業統治機構について、ゲーム理論にもとづく理論分析  
2.2 各国企業の企業統治機構の仕組みと機能についての比較実証分析
- 

### 研究活動

#### <概要>

経営戦略の内容および策定・遂行について、次のような研究課題に取り組む。

- (1) 経営戦略内容の理論分析
- (2) 経営戦略策定・遂行の理論および実証分析
- (3) 経営戦略遂行に関わる環境適応企業人材開発プログラムの研究および開発

経営戦略の策定および遂行に関わる企業統治について、次のような研究課題に取り組む。

- (1) 経営戦略と企業統治機構について、ゲーム理論にもとづく理論分析
- (2) 各国企業の企業統治機構の仕組みと機能についての比較実証分析

#### <学会報告等研究活動>

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 35 回「企業価値を創造する「財務職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2020 年 2 月 15 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 34 回「企業価値を創造する「企業変革リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2020 年 1 月 25 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 12 回「事業価値を創造する「営業職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学東京六甲クラブ 2020 年 1 月 18 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 33 回「事業価値を創造する「オペレーション職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019 年 12 月 7 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 32 回「事業価値を創造する「研究開発職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ)

2019年11月30日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第31回「事業価値を創造する「B2Bマーケティング職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年10月26日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第11回「事業価値を創造する「事業企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学東京六甲クラブ 2019年10月19日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第30回「事業価値を創造する「営業職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年9月28日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第29回「事業価値を創造する「事業開発職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年8月31日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第28回「事業価値を創造する「事業企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年7月27日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第10回「企業価値を創造する「経営企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学東京六甲クラブ 2019年6月22日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第27回「企業価値を創造する「経営企画職リーダーシップ」はどうあるべきか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年6月8日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第25回「事業価値を創造する「事業変革イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年3月16日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第9回「企業価値を創造する「企業変革」をどのように行うか」 神戸大学東京六甲クラブ 2019年2月2日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第24回「事業価値を創造する「事業変革」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2019年1月26日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第23回「顧客価値・社会価値を創造する「医療法人の組織・オペレーション変革」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018年11月17日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第8回「企業価値を創造する「組織・人事変革」をどのように行うか」 神戸大学東京六甲クラブ 2018年10月20日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第22回「企業価値を創造する"組織・人事変革"をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018年9月15日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第21回「企業価値を創造する"中小企業変革"をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018年7月21日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第20回「企業価値を創造する「企業戦略変革」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018年5月26日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 19 回「顧客価値を創造する「サムライ・サービス・イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018 年 3 月 17 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 18 回「事業価値を創造する「スポーツビジネス・イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2018 年 2 月 10 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 17 回「事業価値を創造する「B2B 営業イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 12 月 16 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 16 回「企業価値を創造する「中小企業経営イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 11 月 25 日

(発表)「企業価値を創造する「HRM イノベーション」をどのように行うか」 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 15 回「企業価値を創造する「HRM イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 9 月 9 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 15 回「企業価値を創造する「HRM イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 9 月 9 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会東京シンポジウム第 8 回「事業価値を創造する「B2B 営業イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学東京六甲クラブ 2017 年 8 月 26 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 14 回「顧客価値を創造する「地域医療イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 8 月 19 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 13 回「事業価値を創造する「プロダクション (生産技術・管理)・イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 6 月 24 日

(モデレーター) 神戸 MBA 勉強会大阪シンポジウム第 12 回「事業価値を創造する「メディア・イノベーション」をどのように行うか」 神戸大学梅田教室 (インテリジェント・ラボラトリ) 2017 年 5 月 27 日

## <社会活動>

### ・外部委員

NISSHA 株式会社 (旧日本写真印刷株式会社) 社外取締役

### ・神戸 MBA 勉強会「経営戦略講義・シンポジウム」

2014 年 4 月に小島健司特命教授が中心となり組織されました。神戸大 MBA を対象に、社会有為の経営者育成を目的としています。2020 年 3 月現在の会員数は 349 名。2019 年度は大阪で 9 回、東京で 3 回、計 12 回の講義とシンポジウムを実施。

## 特命教授 西村 和雄 (Kazuo NISHIMURA)

- 研究部門** : グローバル金融  
**生年月** : 昭和21年10月  
**最終学歴** : 昭和51年8月 米国ロチェスター大学大学院経済学研究科博士課程修了  
昭和52年6月 Ph.D. ロチェスター大学より博士論文 “On the Problems of Uniqueness” (指導教官 Lionel McKenzie 教授)  
Ph.D (ロチェスター大学) (昭和52年6月)
- 略歴** : ダルハウジー大学経済学部助教授、東京都立大学経済学部講師、同助教授、ニューヨーク州立大学経済学部客員助教授、南カリフォルニア大学経済学部客員助教授、同客員准教授、京都大学経済研究所教授、オーストラリア国立大学経済学部客員研究員、コーネル大学客員研究員、ウィーン大学客員研究員、パリ大学客員教授、マルセイユ大学客員教授、Institute for Complex Adaptive Matter Board of Governors、京都大学経済研究所所長、東京大学経済国際共同研究センター客員教授、サンタフェ研究所特任教授、立命館大学経済学部客員教授、独立行政法人経済産業研究所ファカルティフェロー、京都大学名誉教授、京都大学経済研究所特任教授、京都大学学際融合教育研究推進センター統合複雑系科学国際研究ユニット代表、同志社大学経済学部客員教授、学士院会員を経て平成25年4月現職
- 研究分野** : マクロ政策分析  
**研究課題** : (1) 内生的成長モデルの理論的研究  
(2) 都市発展モデルの理論的研究  
(3) 人的資本の生産性に関する実証研究  
(4) 動学的国際貿易モデルの理論的研究

---

### 研究活動

#### <概要>

非線形動学の手法を応用し、ミクロからマクロまでの経済的問題についての理論研究を行った。ミクロ的レベルで、経済主体の認知のあり方が、意思決定にどのような影響を与えるかについて、個人の脳活動計測を含めた神経経済学的な分析を行い、マクロレベルで、人的資本蓄積の生産性への貢献を測り、貿易を通じた景気循環の国際連関を分析した。

#### <研究業績>

##### 【著書 (分担執筆)】

山極壽一・村瀬雅俊・西平直編『未来創成学の展望—逆説・非連続・普遍性に挑む』「経済動学と理数科教育—非線形のゆらぎ」第12章 275-304頁 2020年3月

##### 【編著】

『Individual Choice and Social Welfare: A Special Issue in Honor of Kotaro Suzumura』(Kaushik Basu・Makoto Yano と共編) International Journal of Economic Theory 14, Number 1, Wiley, 2018年3月

## 【論文】

### ・レフェリー付論文

#### 掲載予定

“Education for Enhancing the Abilities of Engineers – A Survey Conducted in Japan and its Analyses –,” (with Tadashi Yagi and Dai Miyamoto), *Journal of Education and Learning*, Vol. 9, No. 3, forthcoming

“A Theory of Heterogeneous City Growth,” (with Christian Ghiglini and Alain Venditti), *International Journal of Economic Theory*, forthcoming

“Does Financial Sector Development Amplify Sunspot Fluctuations?,” (with Takuma Kunieda), *Pure and Applied Functional Analysis*, forthcoming

#### 掲載済

“Happiness and Self-Determination -An Empirical Study in Japan,” (with Tadashi Yagi), *Review of Behavioral Economics*, Vol.6, No.4, pp.385-419, November 2019

“Endogenous Business Cycles in a Perpetual Youth Model with Financial Market Imperfections,” (with Takuma Kunieda), *International Journal of Economic Theory*, Vol.15, No. 3, pp.231-248, September 2019

“In Memoriam: Professor Tapan Mitra,”(with Makoto Yano), *International Journal of Economic Theory*, Vol.15, No. 3, pp.229, September 2019

“Two-Sided Altruism and Time Inconsistency,” (with Takaaki Aoki and Makoto Yano), *Studies in Nonlinear Dynamics and Econometrics*, Vol.23, Issue 4, September 2019

“Hopf bifurcation and the existence and stability of closed orbits in three-sector models of optimal endogenous growth,” (with Tadashi Shigoka), *Studies in Nonlinear Dynamics and Econometrics*, Vol.23, Issue 4, September 2019

“Growth and Public Debt: What Are the Relevant Trade-offs?,” (with Arnaud Cheron, Carine Nourry, Thomas Seegmuller, Alain Venditti) *Journal of Money, Credit and Banking*, Vol.51, Issue 2-3, pp.655-682, March 2019

“Trade and indeterminacy revisited,” (with Kazumichi Iwasa, Makoto Yano) *International Journal of Economic Theory*, Vol.15, Issue 1, pp.37-51, March 2019

“A Two- Sector Growth Model with Credit Market Imperfections and Production Externalities,” (with Takuma Kunieda) *Advances in Mathematical Economics*, Vol.22, pp.117-137, 2018

“Finance and Economic Growth in a Dynamic Game,” (with Takuma Kunieda), *Dynamic Games and Applications*, Volume 8 Issue 3, pp.588-600, September 2018

“Science Subjects Studied and Relation to Income after University Graduation – An Empirical Analysis in Japan,” (with Junichi Hirata, Tadashi Yagi, Junko Urasaka), *Journal of Higher Education Theory and Practice*, Volume 18, Issue 1, pp.49-63, 2018

“Specializations, financial constraints, and income distribution,” (with Takuma Kunieda, Akihisa Shibata), *International Review of Economics and Finance*, Volume 56, pp.3-14, July 2018

“Span of Control, Transaction Costs and the Structure of Production Chains,” (with Tomoo Kikuchi, John Stachurski), *Theoretical Economics* Vol.13, Issue 2, pp.729-760, May 2018

“Global convergence in an overlapping generations model with two-sided altruism,” (with Takaaki Aoki), *Journal of Evolutionary Economics*, Vol.27, Issue 5, pp.1205-1220, November 2017

“An Integrated Brain Function –Sheaf Theoretic Approach to Brain as a Conscious Entity,” (with Goro Kato) *Annals of Cognitive Science*, Vol. 1(2017), no.2, pp.39-43, The Scholarly Pages, August 2017

### ・掲載論文

“A Special Issue on Market Frictions in Macroeconomic Dynamics: Introduction,” (with Jess Benhabib, Makoto Yano) *International Journal of Economic Theory*, Vol. 15, Issue 1, pp.3-8, March 2019

「コメント シリーズ「会社とは何か」どこにある？ベストな人生」『日経ビジネス』1979号  
日経BP 32-33、40-41頁 2019年2月

・未掲載論文

「生活と職場での満足感と行動変容能力—日本における実証研究」（八木匡と共著）ディスカッションペーパー *RIETI Policy Discussion Paper Series, 20-J-004* 経済産業研究所 2020年2月

【その他】

「教育政策と失われた経済成長」『産経新聞』（2019年5月24日付「正論」）

インタビュー記事「幸福感と自己決定—日本における実証研究」*RIETI Highlight 72* 17-20頁  
2019年

インタビュー記事「実証データに基づく日本の教育改革を目指して」神戸大学広報誌『風』vol.12  
8-11頁 2018年12月

「子供の暴力、劇的改善に学ぶ」『産経新聞』（2018年11月14日付「正論」）

<学会報告等研究活動>

（招待講演）「幸福・道徳・創造性を経済学で考える」スーパーライフ&エコノミクスプログラム  
～研究テーマ設定のための経済学入門～ 早稲田塾・品川大崎校 2020年2月1日

（講演）「複雑系経済学：神戸大学とロチェスター大学から私が学んだこと」計算社会科学センター  
西村和雄教授《瑞宝重光章》受章記念講演会 神戸大学出光佐三記念六甲台講堂 2020年  
1月9日

（発表）“Flying or Trapped?” International Conference on Trade, Financial Integration and Macroeconomic  
Dynamics & IEFS Japan 2019 Annual Meeting 神戸大学 2019年11月17日

（招待授業）「君はなぜ学ぶのか：勉強と人間性が成功をもたらす」京都市立西京中学校 2019年  
11月14日

（発表）“Flying or Trapped?” 経済経営研究所創立100周年記念事業 International Conference on  
Economics and Finance: Celebrating Prof. Jean-Michel Grandmont's 80th Birthday 神戸大学 2019年  
10月14日

（発表）“Flying or Trapped?” 北海道大学経済学部 2019年9月26日

（発表）「学問のすゝめ：記憶の中の教育」公開シンポジウム「学ぶ心と教育を支える環境」京都  
大学 2019年8月31日

（講演）未来発見プログラム「君は何故学ぶのか」早稲田塾 2019年2月23日

（講演）「幸福とは何か」神戸大学経済経営研究所創立100周年記念連続シンポジウム「幸せの計  
り方」神戸大学出光佐三記念六甲台講堂 2018年9月12日

（パネリスト）パネルディスカッション「どうやって「幸せ」を計るべきか？」神戸大学経済経営  
研究所創立100周年記念連続シンポジウム「幸せの計り方」神戸大学出光佐三記念六甲台講堂  
2018年9月12日

（招待講演）“Two-Sided Altruism and Time Inconsistency,” 26th Symposium of the Society of Nonlinear  
Dynamics and Econometrics ‘Special Session in Honor of Kazuo Nishimura’ Keio University, March 19,  
2018

（報告）“Two-sided Altruism and Time Inconsistency”, Conference on Institutions, Markets, and Market  
Quality—Two-sided Altruism and Time Inconsistency Kyoto University-, IEFS Japan Annual Meeting 2017,

March 9, 2018

(報告) “Non-Balanced Endogenous Economic Growth and Structural Change: When Romer meets Kaldor and Kuznets,” Recent Advances in International Trade and Finance, Chu Hai College of Higher Education, Hong Kong, December 14, 2017

(総合講演) 「学習指導要領の変遷と失われた日本の研究開発力」第68回コロイドおよび界面化学討論会 神戸大学出光佐三記念六甲台講堂 2017年9月7日

(講演) 「創造性を育てる教育とは何か」公開シンポジウム「創造性を育てる」京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールII 2017年9月2日

(報告) “Indeterminacy in one- and two-sector growth models: the role of income effects,” Real and Financial Interdependencies: New Approaches with Dynamic General Equilibrium Models, University of Paris, July 8, 2017

(報告) “Non-Balanced Endogenous Growth and Structural Change: When Romer Meets Kaldor and Kuznets”, The 2017 Asian Meeting of the Econometric Society, The Chinese University of Hong Kong, June 5, 2017

#### <社会活動>

##### ・所属学会

International Engineering and Technology Institute

・2015～ Distinguished Fellow

Econometric Society

・1992～ Fellow of the Econometric Society

日本経済学会 (理論計量経済学会)

日本経済学教育協会 (経済学検定試験実施)

・2002～ 会長

国際教育学会

・2006～ 会長

東京経済研究センター

##### ・学術誌編集

*Taiwan Journal of Applied Economics*, Member of the Honorary International Editorial Advisory Board, 2017-

*Neuroscience Communications*, Smart Science & Technology, Member of Editorial Board, 2015-

*International Journal of Economic Theory*, Basil Blackwell, Managing Editor, 2004-

*Advances in Dynamical Systems and Applications*, Research India Publications, Member of Editorial Board, 2006-

*Advances of Mathematical Economics*, Springer-Verlag, Member of Editorial Board, 1998-

*Annals of Financial Economics*, World Scientific, Member of the Advisory Board, August 2013-

*Brazilian Journal of Business Economics*, Catholic University of Brasilia, Member of Advisory Board, February 2012-

*Chaos, Solitons and Fractals*, Pergamon Press, Member of Editorial Board, 1990-

*Journal of Reviews on Global Economics*, Lifescience Global, Member of Editorial Board, 2012-

*Journal of Risk and Financial Management*, Multidisciplinary Digital Publishing Institute, Member of the Advisory Board, August 2013-

*Journal of Macroeconomics*, Elsevier, Member of Editorial Board, 2003-

*Journal of Economic Development*, Chung Ang University, Member of Editorial Board, 1997-

*Journal of Difference Equations and Applications*, Gordon and Breach Publishers, Member of Editorial Board since 1997

*Journal of Informatics and Data Mining*, Insight Medical Publishing, Member of Editorial Board, 2015-

*Journal of Health & Medical Economics*, Insight Medical Publishing, Member of Editorial Board, 2015-

*Journal of Integrated Creative Studies*, Kyoto University, Member of Editorial Board, 2015-

*International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations*, Nova Science Publishers, Member of Editorial Board, 2006-

*Pacific Economic Review*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 2003-

*Review of International Economics*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 1997-

*Seoul Journal of Economics*, Seoul University, Member of Editorial Board, 1996-

*Studies in Nonlinear Dynamics and Econometrics*, MIT Press, Member of Editorial Board 1995-

*Theoretical Economics Letters*, Scientific Research Publishing, Member of the Editorial Board, April 2011-

・代表を務めたプロジェクト

・21世紀COEプログラム『先端経済分析のインターフェイス拠点の形成』：リーダー  
文科省の21世紀COEプログラムに認められ、2003年より、その中の複雑系経済学グループのリーダー、2006年より全体の拠点リーダーを務める。

・州立カリフォルニア大学複雑系研究所（ICAM）京都支所：代表

ICAMはサンタフェ研究所のDavid Pines教授によって、カリフォルニア州立大学機構に2002年7月に創設された複雑系研究所。2005年7月から、京都大学経済研究所は、大学院理学研究所物理学第一教室と共に、ICAMの京都支部として活動する。

ICAM 京都支部の代表は、経済研究所西村和雄（教授）と理学研究科八尾誠（教授）が務める。

・COE『複雑系としての非線形経済システム：理論と応用』：代表

文部省の卓越した研究拠点形成（センター・オブ・エクセレンス、COE）プロジェクトに認められ、1997年より複雑系経済学の研究を行う。共同研究プロジェクト全体の代表を務める。

・21世紀人材育成フォーラム：代表

通産省の委託で、人材育成、教育へのヴィジョンを探る共同研究プロジェクトの代表を務める。

・グローバル市場競争時代における教育、人材、育成のあり方研究委員会：座長

地球産業文化研究所の依頼で、21世紀の教育のヴィジョンを探る研究会を定期的にかけて、その座長を務める。

・委員等その他

2017～ 大阪市教育委員会 顧問

2013～2017 大阪市教育委員会 委員

2013～ 総合診断医療研究会 名誉顧問

2012～ 高等教育国際基準協会 名誉顧問

2010～ 法科大学院全国統一適性試験管理委員会 委員

2005～ NPO これからの教育を考える会 理事

・番組出演

NHK BS プレミアム「アナザーストーリーズ 運命の分岐点～戦後最大の教育改革～」2018年12月11日

TOKYO FM「中西哲生のクロノス」（2018年9月3日放送）

・その他

メディア掲載など

・日本経済新聞 コメント記事「大阪市、最下位ほぼ脱出 独自テストで校長評価検討」（2019年8月1日付朝刊、16面）

・日本経済新聞 幸福度研究の紹介「『心の資本』を増強せよ」（2019年7月1日付朝刊「核心」）

・毎日新聞 コメント記事 特集ワイド「生き方考えるたたき台」（2019年4月12日夕刊）

- ・日本経済新聞「"選択の自由"が幸福感に」（2018年9月4日朝刊、34面）
- ・産経新聞「所得より"選択の自由" 日本人の幸福感に影響」（2018年8月29日東京朝刊、24面）
- ・毎日新聞「自分で選んだ人生 幸せ」（2018年8月29日朝刊、27面）
- ・読売新聞「"自分で選んだ道"が幸せ」（2018年8月29日朝刊、27面）
- ・神戸新聞「所得よりも、学歴よりも—"自分で決める" 人生に満足感」（2018年8月29日朝刊、25面）
- ・幸福感についての調査研究について紹介  
関西テレビ情報番組『報道ランナー』（2018年8月28日 16:47～放送）

#### <国際交流活動>

- ・コースの企業理論  
オーストラリア国立大学 John Stachurski、シンガポール国立大学 Tomoo Kikuchi（2017年度～2020年度）
- ・経済の不安定性  
マルセイユ経済大学 Alain Venditti（2017年度～2020年度）
- ・GSSE  
サンタフェ研究所 David Pines 他（2017年度～2018年度）
- ・脳の機能と抽象代数  
California Polytechnic State University, San Luis Obispo 校 Goro Kato（2014年度～2020年度）
- ・習慣に依存する効用と資本蓄積（2014年度～2018年度）  
コーネル大学 Tapan Mitra
- ・都市と成長  
サンタフェ研究所 Luis Bettencourt（2014年度～2018年度）
- ・経済変動  
GREQAM Carine Nourry, Thomas Seegmuller, Alain Venditti（2013年度～2018年度）

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「地球温暖化問題における割引率と国際環境協定に関する研究」（2018～2020年度）（研究分担者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（B）「人的資本と経済成長」（2016～2020年度）（研究代表者）
- ・科学研究費補助金：基盤研究（S）「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：理論・実証・シミュレーション」（2015～2019年度）（研究分担者）

#### <教育活動>

年度	講義・演習	大学院・学部
2018年度	特殊研究	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2018年度	特殊研究	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科
2017年度	特殊研究	神戸大学経済学部・大学院経済学研究科

#### <受賞歴>

- ・瑞宝重光章 2019年11月

## 特命講師 小代 薫 (Kaoru KOSHIRO)

研究部門	: 企業情報
最終学歴	: 平成 25 年 3 月 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程 単位取得退学 博士 (工学) 神戸大学 (平成 26 年 3 月)
略 歴	: 小代薫建築研究室 主宰、神戸大学先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット 構成員等を経て平成 30 年 6 月より現職
研究分野	: 建築・都市史
研究課題	: 1. 近現代日本の都市形成に関する歴史研究 2. 建築都市環境の総合性能評価及びマネジメントに関する理論研究 3. 現代建築意匠論

---

### 研究活動

#### <概要>

スマートシティに見られるように都市に関するありとあらゆる膨大な情報が瞬時に集まるようになる時代が目前に迫っている。しかし、どの情報にどのような意味を見だし、ベストプラクティスを導いていくのかというロジックの蓄積はいまだ不十分であるといつてよい。また研究分野ごとに都市の一側面を切り取ることは、関心の濃淡や分野間の連携状況によっては、都市を歪なかたちで認識、変容させるという弊害を生むことも指摘されている。次世代は都市を要素還元ではなく、いかに統合的に捉えることができるかが問われている。

このような状況に対して、都市の性能を客観的に評価する際の世界標準となっている環境・経済・社会のトリプルボトム構造を持つ建築 (都市) 環境総合評価システム CASBEE (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency の略) を発展させ、都市の過去、現在、未来の性能評価に応用し、俯瞰的アプローチからその時空間上の推移を観測し、新たなロジック抽出に繋げる研究を行った。過去については地図や統計データ、現在についてはセンシング情報、未来については数千通りの災害予測シミュレーションなど高度な計算技術を扱える体系へと評価システム自体を改良していくことを想定できるが、過去を対象にその技術的方法を確立した。

他方、このような方法では捉えきれない現象に対しては、ケーススタディ的なアプローチが必要になる。その一つとして明治以降現代までの神戸市中央区における緑地公園整備や観光地としてのまちづくりの来歴に注目し、市民の関与と街のアイデンティティの形成という観点から、都市形成に関する歴史研究を行った。この成果については神戸市または兵庫県主催の講演会で発表し、同時に新聞、テレビ、図書を通じて発表した。

これらより得られる知見を、どのように今後のまちづくりに反映させていくのか。その実践研究の基礎段階として、神戸市中央区布引地区を選び、地区の都市形成に関する歴史研究と共にフィールドワークを行った。さらにこれを発展させ実際のまちづくりを進めるために、2019 年度から研究者、行政、民間が一堂にまちづくりを進める NPO 法人を一件立ち上げ、もう一件についても設立準備のワークショップを 3 回開催した。内容は SNS をはじめ新聞を通じて公表し、公民学

が連携する形で新しいまちづくりがスタートした。

都市を統合的に捉えて評価・マネジメントする文理融合の基礎理論を歴史学と建築学の規範を用いて抽出することを課題としている。

#### <研究業績>

##### 【著書（分担執筆）】

「布引・諏訪山遊園等」新修神戸市史編集委員会編『新修神戸市史 -生活文化編-』 第3章  
pp186-223 2020年3月

##### 【その他】

「神戸の観光案内」『RIEB ニュースレター』No. 188 2018年7月

#### <学会報告等研究活動>

(基調講演)「ひょうごの歴史 まちづくりとみちづくり」地域と未来をつなぐ ひょうご基幹道路ネットワークシンポジウム 加古川プラザホテル 2019年12月

(基調講演)「中央区の歴史とまちづくり」中央区連合婦人会 30周年記念会 ホテルオークラ神戸 2019年6月

(共同講演)「神戸のアイデンティティと未来のまちづくりについて」road to 078 ボラボラ 2019年2月 (神戸新聞 2019年2月2日付に紹介記事掲載)

(講演)「神戸の都市形成と歴史的建造物, 観光まちづくりについて」アーバンデザインセンター神戸例会 神戸クレセントビル 2018年12月

(講演)「神戸の都市形成と歴史的建造物, その被災と復興について」NHK 神戸放送局・神戸市外国語大学共催 NHK 大学セミナー 神戸市外国語大学 2018年12月

(講演)「神戸の都市形成と歴史的建造物, その災害と復興, 布引地区の整備の必要性について」一般財団法人建設工学研究所 60周年記念講演会 湊川神社楠会館 2018年11月

(単独招待講演)「神戸の都市形成と歴史的建造物, その災害と復興, 布引地区の整備の必要性について」わが街神戸再発見シリーズ第一回 神戸国際会館 2018年11月

(講演)「未来世紀の都市像」未来世紀都市フェス 2018 神戸大学 100年記念館六甲ホール 2018年11月

(単独招待講演)「布引滝周辺の歴史的環境とみどころ」NPO 法人神戸外国人居留地研究会 三宮交通センタービル 2018年10月13日

(講演)「神戸の都市形成と歴史的建造物について」「ブラタモリ」案内人が語る神戸の魅力! NHK 文化センター神戸教室 2018年9月

(研修・街歩き案内)「神戸の魅力再発見」全日本通訳案内士連盟 JFG 主催 2018年度西日本第1回 業務研修会 神戸市北野, 布引, 舞子 2018年7月

(企画協力・招待講演・新聞掲載)「神戸開港と北野の歴史的背景」神戸市教育委員会文化財課主催開港 150年記念イベント『坂本勝比古博士に聞く神戸北野誕生物語ー北野町山本通伝統的建造物群保存地区ー』(「ブラタモリ神戸案内人と対談「異人館博士」が講演」神戸新聞 2018年2月27日掲載) ホテル北野プラザ六甲荘 2018年2月25日

(単独招待講演)「雑居地が育んだ神戸の独自文化」神戸の魅力発信セミナー 神戸商工貿易セン

タービル 2017年12月

(単独招待講演)「神戸旧居留地と北野異人館街の歴史」サローネ・デル・ロト第612例会 奈良県本門寺霊山閣 2017年12月12日

(企画・講演・モデレーター・新聞掲載)神戸大学経済経営研究所 神戸開港150年記念 公開講座「神戸を創った企業家たち」神戸大学経済経営研究所・先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット共催(「トップが語る 神戸と企業」神戸新聞社 2017年11月26日付朝刊掲載)神戸大学 2017年11月25日

(単独招待講演)「神戸旧居留地と北野異人館街の歴史」神戸開港150年記念神戸観光講演会 神戸市立博物館 2017年10月

(単独招待講演)「神戸港開港150年と神戸の居留地・雑居地の建築」第10回神戸大学木材凌霄会 大阪倶楽部 2017年9月

(講演)「日本のランドスケープ・アーバニズムを神戸の地勢と都市形成から考える」第25回土木学会地球環境シンポジウム『未来世紀都市創出～地球環境とエネルギーそして防災～』神戸大学 2017年9月6日

(単独招待講演)「神戸の地勢と都市形成史から考える日本の未来都市」第142回暁木一水会(神戸大学工学部土木工学科OB会) 湊川神社楠公会館 2017年8月2日

(研究発表)「戦後の阪神間一都市計画家水谷頴介と小林一三②」小林一三研究会 元町映画館 2017年6月

(単独招待講演)「神戸開港150年と現代建築史」一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会 関西支部 平成29年度第5回定時社員総会記念講演 建築交流会館グリーンホール 2017年5月

## <社会活動>

### ・所属学会

日本建築学会 正会員  
応用地域学会 正会員

### ・学術論文レフリー

『日本建築学会計画系論文集』

### ・委員等その他

NPO 法人 UnknownKobe 副理事長  
アーバンデザインセンター神戸 078 (UDC078) 理事  
兵庫県建築士会 一級建築士

### ・街歩き案内

「舞子移情閣, 旧武藤山治邸, 旧木下家住宅, 舞子ホテル」神戸市, 2018年11月

「神戸旧居留地, 南京町の歴史, 町並み, 建築」おとな旅神戸 南京町誕生 150周年記念, 2018年11月

「旧乾邸, 住吉御影」まいまい京都, 2018年10月

「北野異人館, 南京町の歴史, 町並み, 建築」おとな旅神戸 南京町誕生 150周年記念, 2018年6月

「神戸旧居留地の歴史, 町並み, 建築」神輝産業, 2018年6月

「神戸北野」, 「旧居留地」まいまい京都, 2018年5月

「旧乾邸, 住吉御影」まいまい京都, 2018年4月

「北野異人館街」おとな旅神戸, 2017年11月

「舞子移情閣, 旧武藤山治邸, 旧木下家住宅, 舞子ホテル」おとな旅神戸, 2017年11月

「旧乾邸」おとな旅神戸 神戸 INK 物語, 2017 年 10 月  
「神戸北野」読売テレビ「かんさい情報ネット ten.」, 2017 年 9 月 19 日 (放送)  
「神戸北野の宗教施設群」Infinity Ventures Summit. 2017 Spring Kobe, 2017 年 6 月  
「神戸北野町」神輝産業, 2017 年 5 月  
「旧居留地」おとな旅神戸, 2017 年 4 月  
「神戸北野」おとな旅神戸, 2017 年 4 月  
「神戸北野」, 「旧居留地」まいまい京都, 2017 年 4 月

#### <国際交流活動>

- ・JETRO (日本貿易振興機構)「産業観光連携事業～KOBE×PEARL～」海外バイヤー・海外メディアを対象とした神戸旧居留地街歩き案内 2017 年 12 月

#### <研究助成金>

- ・神戸大学先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット:「未来世紀に向けた防災都市モデルの提案ー環境・経済・社会から見た災害インパクトの地区間経年比較分析から, 望ましい災害対応シナリオに向けた事前介入計画の策定, 効果検証までー」(2017 年度～)

## 特命講師 幸若 完壮 (Sadamori KOJAKU)

研究部門 : グローバル金融  
最終学歴 : 平成 27 年 9 月 北海道大学大学院情報科学研究科博士課程修了  
博士 (計算科学) 北海道大学 (平成 27 年 3 月)  
略 歴 : アメリス株式会社、ブリストル大学博士後研究員を経て平成 31 年 4 月より現職  
研究分野 : マクロ政策分析  
研究課題 : 1. 銀行間取引のネットワーク推定に関する研究  
2. 多変量相関の疎推定に関する研究

---

### 研究活動

#### <概要>

人間関係や食物連鎖など「つながり」は身近な所に登場する。凡人でも三人寄れば文殊の知恵が出るように、つながりによって生まれる価値がある。どのようなつながりが、どういった価値を生み出すのか？これらの問いに答えるネットワーク科学の研究に従事している。特に、つながりの中心にあるネットワークのコアに関する研究、データからつながりを精度よく推定する方法の開発を行っている。またこれらの研究を基盤として、科学者が自身の被引用数を伸ばす目的でお互いの論文を引用しあう「引用カルテル」に関する研究を行っている。

#### <研究業績>

#### 【論文】

##### ・レフェリー付論文

##### 掲載済

“Constructing networks by filtering correlation matrices: A null model approach,” (with Naoki Masuda), Proceedings of the Royal Society A, 475(2231), 20190578, November 2019

“Multiscale core-periphery structure in a global liner shipping network,” (with Mengqiao Xu, Haoxiang Xia, and Naoki Masuda), Scientific Reports, 9(1), January 2019

“A configuration model for correlation matrices preserving the node strength,” (with Naoki Masuda and Yukie Sano), Physical Review E, 98, 012312, July 2018

“A generalised significance test for individual communities in networks,” (with Naoki Masuda), Scientific Reports, 8(1), May 2018

“Core-periphery structure requires something else in the network,” (with Naoki Masuda), New Journal of Physics, 20(4), 043012, April 2018

“Structural changes in the interbank market across the financial crisis from multiple core-periphery analysis,” (with Giulio Cimini, Guido Caldarelli, and Naoki Masuda), Journal of Network Theory in Finance, 4(3), pp.33-51, September 2018

“Solving Feature Sparseness in Text Classification using Core-Periphery Decomposition,” (with Xia Cui, Naoki Masuda, and Danushka Bollegala), SEM@ NAACL-HLT, pp. 255-264, 2018

“Finding multiple core-periphery pairs in networks,” (with Naoki Masuda), Physical Review E, 96 (5), 052313 November 2017

・未掲載論文

“Venture Capital Networks: An analysis using the exponential random graph model”, (with Daisuke Miyakawa) RIETI Discussion Paper Series 17-E-084, Research Institute of Economy, Trade and Industry, May 2017

<学会報告等研究活動>

(発表) “Structural changes in the interbank market across the financial crisis from multiple core-periphery analysis,” (with Giulio Cimini, Guido Caldarelli, Naoki Masuda) International Conference on Network Science (NetSci), Vermont, U.S.A., May 2019

(発表) “Multiscale core-periphery structure in a global liner shipping network,” (Mengqiao Xu, Haoxiang Xia, Naoki Masuda) The 7th International Workshop on Complex Networks and Their Applications, Cambridge, UK, December 2018

(発表) “Core-periphery structure in degree-heterogeneous networks,” (with Naoki Masuda) International Conference on Network Science X (NetSci-X), Hangzhou, China, January 2018

(発表) “Identifying core-periphery structure of networks across different scales using random walks,” Complex Systems and Dynamics Meeting (CoSyDy) “Network Dynamics and Structure”, University of Leeds, July 2017

<特許>

「学術論文の査読者検索装置、査読者検索方法、及び査読者検索プログラム」 特願 2020-014904, 幸若完壮, 上東貴志, 2020年3月出願

## 非常勤研究員 熊本 真一郎 (Shin-Ichiro KUMAMOTO)

生年月 : 昭和 59 年 6 月  
最終学歴 : 平成 26 年 3 月 金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程数物科学専攻修了  
博士 (理学) (金沢大学) (平成 26 年 3 月)  
略歴 : 金沢大学理工研究域研究協力員、金城大学非常勤講師を経て平成 28 年 6 月現職  
研究分野 : マクロ政策分析  
研究課題 : 経済物理学、相転移現象、素粒子物理学

---

### 研究活動

#### <概要>

素粒子物理学の分野の研究では、陽子・中性子の質量の生成機構の解析や、相転移現象の正しい物理的解の数学的記述法の開発に取り組んできた。また、社会経済物理学の分野では、様々な社会経済現象に現れる確率分布のべき則 (power-law) というマクロな性質が、どのようにミクロなダイナミクスから導かれるかを理論的に解明する研究に取り組んでいる。具体的内容は以下の通りである。

#### (1) 質量生成機構の非摂動くりこみ群による解析

陽子・中性子はクォークという素粒子 3 つにより構成されており、このクォーク 3 つの総質量は、陽子・中性子 1 つの質量のわずか 3% ほどしかなく、残り 97% の質量は、クォーク同士の間で働く力 (相互作用) を起源とする自発的対称性の破れという機構によって生成されると考えられている。この生成される質量は、非摂動くりこみ群方程式という 1 階の非線形偏微分方程式の解から得られる物理量であるが、この方程式は通常の意味での解 (古典解) を持たない。そこで南部 - Jona-Lasinio 模型の非摂動くりこみ群方程式の弱解 (粘性解) を数値計算し、そこから得られる弱解の性質が物理的に正しいという事を明らかにした。

#### (2) 相転移現象における物理的解としての弱解

Ising モデルの自己無撞着方程式や、南部 - Jona-Lasinio 模型の Schwinger-Dyson 方程式等の相転移に伴い多価解を持つ方程式から、それと等価な偏微分方程式を導出する一般的な手法を開発した。また、多価解から 1 価解を得る際に、その偏微分方程式の弱解 (エントロピー解) が示す結果が、従来の自由エネルギー (有効ポテンシャル) の高さを比較する手法の結果と一致する事を明らかにした。

#### (3) べき則の数理的構造

べき則 (power-law) とは、ある確率変数の確率分布が、ある範囲内でその確率変数のべき乗 (power) に従うというマクロな性質である。これは、多くの自然現象・社会経済現象の中で観測されている。これらの現象の中には、ミクロなモデルとして確率過程 (確率微分方程式) が提案されているものもあるが、その確率微分方程式から得られる偏微分方程式 (Fokker-Planck 方程式) の解である確率分布関数が、なぜべき則を満たすかは自明ではない。そこでこの確率分布関数を経路積分表示し、そこから非摂動くりこみ群によりべき則が生み出される機構を理論的に解明する事を目指している。

<研究業績>

【論文】

・レフェリー付き論文

掲載済

“Phase structure of NJL model with weak renormalization group” (with Ken-Ichi Aoki, Masatoshi Yamada), Nuclear Physics B, 931(2018), pp.105-131

“Power Laws in Stochastic Processes for Social Phenomena: An Introductory Review” (with Takashi Kamihigashi), Frontiers in Physics, 6 (2018):20

“Singularity Free Direct Calculation of Spontaneous Mass Generation” (with Ken-Ichi Aoki, Tamao Kobayashi, Shinnosuke Onai and Daisuke Sato), The Science Reports of Kanazawa University, 61(2017), pp.1-23

<社会活動>

・所属学会

日本物理学会

## 学術研究員 上池 あつ子 (Atsuko KAMIKE)

**最終学歴** : 平成 14 年 3 月同志社大学 大学院商学研究科博士課程後期課程単位修得退学  
博士 (経済学) (大阪市立大学) (平成 29 年 12 月)  
**略 歴** : 龍谷大学経済学部非常勤講師等を経て平成 28 年 4 月現職  
**研究分野** : エマージングマーケット  
**研究課題** : インド製薬産業および製薬企業の成長要因の分析

---

### 研究活動

#### <概要>

第 1 の研究課題として、WTO の TRIPS 協定以降のインド製薬産業の成長の要因を、グローバル・バリューチェーン (GVC) の視点から分析してきた。TRIPS 協定以降、製薬産業の GVC がインドに拡大してきた。インド製薬企業は、GVC の拡大を好機ととらえ、外資提携を積極的に活用する戦略に転換した。外資提携を通じた GVC への参加がインド製薬企業の経営戦略の重要な要素となった。GVC への参加は、インド製薬企業へのスピルオーバーを増大させ、GVC においてアップグレードしてきた。インド製薬企業のアップグレードの実態を企業の個別の事例研究を通じて検討してきた。また、GVC による技術移転は自動的に生じるものではなく、アップグレードの実現には企業の能力によるところが大きいと考えた。「企業の能力」とは、技術の受け入れ (学習・模倣) や技術吸収能力の向上などの技術的能力、既存の経営資源の革新的結合、ダイナミックに変化する環境に機敏に適応する能力、そして起業家精神を総合したものを想定した。GVC におけるアップグレードを実現するインド製薬企業の「企業の能力」についても分析した。

第 2 の研究課題としては、製薬産業における日印間の投資の状況について、インド製薬企業の日本市場への進出、日本の製薬企業のインド進出について、進出の背景と事業展開の状況を検討し、製薬産業における日印間の投資促進には何が必要であるかについて検討してきた。

第 3 の研究課題としては、インド製薬企業のオープンイノベーションについて、オープンイノベーションの実施状況を整理し、インド製薬企業のオープンイノベーションの類型化を試みた。

#### <研究業績>

##### 【著 書】

『模倣と革新のインド製薬産業史－後発国のグローバル・バリューチェーン戦略－』ミネルヴァ書房 2019 年 1 月

##### 【論 文】

##### ・レフェリー付き論文 掲載済

“The TRIPS Agreement and the Pharmaceutical Industry in India,” Journal of Interdisciplinary Economics, Volume 32 Issue 1, pp.95-113, January 2020

「模倣と革新のインド製薬産業史－後発国のグローバル・バリューチェーンへの戦略」大阪市立大学 博士学位論文 2017 年 12 月

##### ・掲載論文

「インド製薬企業のオープンイノベーション」『経済経営研究 (年報)』第 69 号 2020 年 3 月 145-178 頁

「インドの医薬品価格規制と薬価動向」月刊 PHARM STAGE (ファーム ステージ) 7 月号 2019

年7月 37-40頁

「インドのバイオ医薬品企業の経営戦略ーBioconの事例研究を中心にー」『経済経営研究（年報）』第68号 2019年3月 111-159頁

「インドの医薬品市場と希少疾患製品の開発の現状」『希少疾患』No.1969 情報技術協会 2018年11月

「TRIPS協定後のインド製薬企業の経営戦略 Zydus Cadilaの事例研究を中心に」『経済志林』85(4) 2018年3月 247-285頁

「インド製薬産業の挑戦ーバイオシミラー市場への参入ー」『現代インド・フォーラム』（2018年冬季号 No.36）2018年1月 25-43頁

「医薬品アクセス向上に向けた取組ー医薬品供給サービスの可能性」『アジア研ワールド・トレンド』No.265 2017年11月 17-18頁

#### <学会報告等研究活動>

（報告）「インド製薬企業のオープンイノベーション戦略」インドと国際化する日本企業に関する研究会（日本南アジア学会九州部会・東京大学現代南アジア研究拠点（TINDAS）・基盤研究（A）「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」共催）福岡大学 2019年5月19日

（報告）「基調報告」兼松セミナー「上池あつ子『模倣と革新のインド製薬産業史』を読む」（基盤研究（A）「南アジアの産業発展と日系企業のグローバル生産ネットワーク」／「南アジア地域研究」東大拠点（TINDAS）共催）神戸大学経済経営研究所 2019年3月10日

（報告）“The TRIPs Agreement and Pharmaceutical Industry in India,” Edinburgh-Kobe Dialogue on the Economic Development in South Asia, Heriot-Watt University, May 4, 2018

（司会）2017年度アジア政経学会秋季大会:自由応募分科会5「日本企業のグローバル生産ネットワークとインド経済」富山大学 2017年10月21日

（報告）「医薬品アクセスの向上に向けた取組：医薬品供給サービスの可能性」2017年アジア経済研究所夏期公開講座（東京）コース5 インドにおける公共サービスの課題：食料、医療、電力 ジェトロ本部 2017年8月1日

（発表）「模倣と革新のインド製薬産業史」2017年度アジア政経学会春季大会:自由応募分科会2「インドの産業発展と日系企業」一橋大学 2017年6月24日

#### <社会活動>

- ・所属学会  
日本南アジア学会  
アジア政経学会

#### <研究助成金>

- ・科学研究費補助金：基盤研究（C）「TRIPS協定後の製薬産業のグローバル・バリューチェーン戦略ーインドを事例として」（2019～2021年度）（研究代表者）
- ・公益財団法人医療科学研究所 研究助成金「インド製薬企業のオープンイノベーション戦略に関する研究」（2018年度）（研究代表者）

外国人研究員（客員准教授）     **Scott Arthur WILBUR**

- 最終学歴     : Ph.D. in Political Science and International Relations, University of Southern California, U.S.A, 2017
- 略     歴     : Banque de France Chair, Center for French-Japanese Advanced Studies, Fondation France-Japan École des Hautes Études en Sciences Sociales, Paris, FRANCE 等を経て  
2019年より Japan Foundation CGP Postdoctoral Associate, Yale University, USA
- 研究分野     : 中小企業金融、信用保証
- 研究課題     : 日本の中小企業政策の分析
- 

研究活動（2019年5月～6月）

<概要>

Investigation of the politics of Japan's financial system for SME, especially the credit guarantee system, the system's reform between 2014 and 2017, and the issue of distressed firms known as “zombie firms”.

<学会報告等研究活動>

（報告）“A Political Economy Explanation of Zombie Firms among Japanese SME,” RIEB Seminar, Kobe University, June 24, 2019

外国人研究員（客員教授） Min Hwan LEE

最終学歴 : Ph.D.in Economics, Kyoto University, JAPAN, 1999  
略 歴 : Korea Deposit Insurance Corporation, Korea Insurance Research Institute 等を経て  
2009 年より Professor, School of Business, Inha University, KOREA  
研究分野 : 金融学  
研究課題 : 地域発展における金融の役割—日韓の比較研究

---

研究活動（2019 年 6 月～8 月）

<概要>

地域金融及び地域中小企業に関する日本の事例を調べるとともに、韓国の現状と比較してその類似点と差異点を比較する研究を主なテーマとした。その結果、高齢化の進展、経済の首都圏に対する集中など類似点が多く、両国の経験を相互に生かすことの重要性を確認した。

<学会報告等研究活動>

（報告）「韓国の地域金融の現状」RIEBセミナー 神戸大学経済経営研究所 2019年8月26日

外国人研究員（客員教授） Xiangdong QIN

最終学歴 : Ph.D. in Applied Economics, Clemson University, U.S.A., 1998  
略歴 : Editorial Council, January 1999 to January 2003, Journal of Agricultural and Applied  
Economic; Assistant Professor, Department of Agribusiness and Applied Economics,  
North Carolina A&T State University 等を経て 2014 年より Professor, Antai College  
of Economics and Management, Shanghai Jiao Tong University, CHINA  
研究分野 : 実験行動学、行動経済学  
研究課題 : 時間選好、意思決定、グループ

---

研究活動（2019 年 7 月～8 月）

<概要>

- Hold discussion about the individual preference and group preference.
- Introduce the study on intertemporal moral choices.
- Give a seminar and discussion on the study “2-Stage moral behaviors: some evidence from lab experiments”.
- Literature reviews on the difference between individual decision making and group decision making.
- Plan for the next phase of the joint research on "Time preference of group decision making"

<学会報告等研究活動>

（報告）“Two-Stage Moral Behaviors: Some New Evidence from Lab Experiments,” RIEB Seminar, Kobe University, July 24, 2019

## 外国人研究員（客員教授） Keunkwan RYU

最終学歴 : Ph.D. in Economics, Stanford University, U.S.A., 1990  
略歴 : Department of Economics, UCLA 等を経て 2004 年より Professor, Department of Economics, Seoul National University, KOREA  
研究分野 : エコノメトリクス、応用経済学  
研究課題 : 異常値の扱い方：経営インセンティブと技術革新における企業の異質性

---

### 研究活動（2019 年 12 月～2020 年 1 月）

#### <概要>

経営インセンティブが技術革新に与える影響について最小二乗法を用いて推定する例は数多くあるが、これらの分析には二つの欠点がある。まず、第一に、多くの企業は技術革新を全く行わない。第二に、異常値が多く存在する。この二つの問題を克服するために、二段階の推定方法を用いる。第一段階では、クロスセクションのロジット分析を行うことによって技術革新が盛んな産業と盛んでない産業を識別する。第二段階では、分位点回帰分析を行うことによって技術革新が盛んな産業における企業の間での異質性を推定する。

#### <学会報告等研究活動>

(特別講義) “Statistical inference: Classical vs. Bayesian approaches (Hypothesis testing vs. Model selection, Objective oriented inferences, Lindley's paradox),” “Conditional independence assumption (CIA), matching vs. multiple regression, propensity score matching (PSM), difference in differences (DiD),” “Observables vs. unobservables, instrumental variables (IV), treatment heterogeneity and LATE, regression discontinuity (RD),” Three Lectures on Useful Concepts and Tools in Econometrics, RIEB Seminar, Kobe University, December 11 – 12, 2019

(報告) “Price Elasticity of Demand for Reverse Mortgage in Korea,” (by Junseok Byun and Keunkwan Ryu) 神戸大学金融研究会 神戸大学経済経営研究所 2019年12月17日

## 外国人研究員（客員教授） Yongjin WANG

最終学歴 : Ph.D. in Economics, Nankai University, CHINA, 2010  
略歴 : Xiamen University を経て 2013 年より Nankai University、2018 年より Professor,  
School of Economics, Nankai University  
研究分野 : 国際経済学  
研究課題 : グローバリゼーションにおける品質検査と不平等

---

### 研究活動（2020 年 1 月～3 月）

#### <概要>

所得の不平等は今日の世界が直面している重要な課題のひとつである。本プロジェクトは生産物の品質検査の視点から分析を始め、賃金契約制度と関連して、質の異なるものの生産者に、違う賃金やボーナスを与える、よって、不平等が生まれる。グローバリゼーションの下では、所得の不平等が拡大するか縮小するか、詳しく解明する。

#### <学会報告等研究活動>

（報告）“Escaping from Distortion via Exporting,” Workshop on Public Trade, Finance & Innovation, Kobe University, January 31, 2020

（報告）“Why Distance Matters for Online Trade,” Workshop on Public Policies and Time Zone, Kobe University, February 26, 2020

# Ⅲ 付 録

## 1 沿革

- 明治 35 年 3 月 本学の前身である神戸高等商業学校が設置された。大正 3 年 8 月、これに調査課が設けられ、経済・法律の文献資料の収集、新聞記事の切抜整理、外国経済記事日誌の作成、銀行・会社営業報告書等研究調査資料の所在調査及び収集、実業教育に関する諸資料の収集並びに国民経済雑誌の編集を行った。
- 大正 8 年 2 月 株式会社兼松商店から、研究所に建物及び研究基金の寄付があった。
- 大正 8 年 10 月 調査課を廃止して商業研究所が設置され、教授滝谷善一が調査部長となり、国内及び海外の商業・経済に関する実証的・総合的研究を行う。  
当時の事業  
商業に関する調査研究  
商業に関する調査研究の資料の収集と整理  
商業に関する公刊物の発行  
講演会、講習会、その他研究集会の開催  
商業に関する質疑に対する応答  
公衆の依頼による経済調査
- 以上に従って実行された具体的な事業活動としては、国民経済雑誌（月刊）、研究所彙報（大正 9 年 7 月 第 1 号）、研究所講演集（大正 10 年 2 月 第 1 号）、重要経済統計（大正 13 年 第 1 輯）、研究所論集（大正 15 年 6 月 第 1 冊）、研究所叢書（大正 15 年 12 月 第 1 冊）、経済・法律文献目録（昭和 2 年 10 月 第 1 輯）の刊行、大正 9 年 12 月に始まる京阪神地区における年 4 回の学術講演会の開催、大正 6 年以来の朝鮮、台湾、満州、中国、フィリピン、インド、ビルマ、タイ、インドネシア各地への学生の海外経済事情調査旅行派遣及びその報告書の刊行等があげられる。当時における商業研究所の地位は、大正 9 年、旧満鉄東亜経済調査局等と図り、全国経済調査機関連合会設立に主導的役割を果たしたことから容易に推測することができる。
- 昭和 4 年 4 月 神戸高等商業学校は神戸商業大学に昇格し、研究所も神戸商業大学商業研究所となった。
- 昭和 9 年 8 月 筒井ヶ丘から六甲台への学舎移転を機会に、中南米経済調査室、東亜経済調査室、統計室、国内資料室、海外資料室、新聞資料室、考課状文庫等を設置して研究体制を拡充した。
- 昭和 13 年 1 月 中南米経済調査室の設置が一つの契機となり、福原八郎、野田良治両氏の寄贈図書を基礎として南米文庫が開設された。
- 昭和 16 年 5 月 本学に経営計算研究室が設置され、経営機械化の研究を開始した。当時、米国の IBM 社及び我が国の業界からの寄贈貸与による諸種の統計機を備え、本邦における経営の計数管理体制研究の先駆をなした。
- 昭和 19 年 4 月 商業研究所は大東亜研究所と改称し、調査部長制に代えて所長制（学長丸谷喜市兼務）を敷いた。
- 昭和 19 年 8 月 経営計算研究室は官制化され、経営機械化研究所（所長平井泰太郎）に発展した。当時の事業は、経営機械化の研究、経営機械の性能、運用、応用の実験的研究、実用普及化、要員養成等であった。
- 昭和 19 年 10 月 神戸商業大学は神戸経済大学と改称した。
- 昭和 20 年 10 月 終戦に伴う情勢の変化により、大東亜研究所は経済研究所（所長福田敬太郎）と改称した。
- 昭和 21 年 4 月 神戸商業大学経営機械化研究所は神戸経済大学経営機械化研究所と改称した。

昭和 24 年 5 月 31 日	法律第 150 号「国立学校設置法」の公布により「神戸経済大学経済研究所」並びに、「神戸経済大学経営機械化研究所」は統合され同法第 4 条に基づく附置研究所として「神戸大学経済経営研究所」が発足し、「国際貿易」、「経営機械化」、「経営経理」の 3 研究部門が設置された。
昭和 28 年 8 月	「海事経済」研究部門が増設され合計 4 研究部門となった。
昭和 31 年 4 月	「中南米経済」研究部門が増設され合計 5 研究部門となった。
昭和 38 年 4 月 1 日	「国際経営」研究部門が増設され合計 6 研究部門となった。
昭和 39 年 2 月 25 日	文部省令第 4 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令」の公布により経済経営研究所の研究部門が次のように定められた。「国際貿易」、「海事経済」、「中南米経済」、「経営機械化」、「経営経理」、「国際経営」（昭和 38 年 4 月 1 日適用）
昭和 39 年 4 月 1 日	文部省令第 11 号「国立学校設置法施行規則の全部を改正する省令」の公布により「神戸大学経済経営研究所」に「経営分析文献センター」が設置された。
昭和 42 年 5 月 31 日	文部省令第 12 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令」の公布により「経営計測」研究部門が増設され合計 7 研究部門となった。（昭和 42 年 6 月 1 日施行）
昭和 46 年 3 月 31 日	文部省令第 16 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令」の公布により「国際資金」研究部門が増設され合計 8 研究部門となった。（昭和 46 年 4 月 1 日施行）
昭和 49 年 4 月 11 日	文部省令第 12 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令一部を改正する省令」の公布により「国際労働」研究部門が増設され合計 9 研究部門となった。
昭和 52 年 4 月 18 日	文部省令第 15 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令一部を改正する省令」の公布により「オセアニア経済」研究部門が増設され合計 10 研究部門となった。
昭和 57 年 3 月 31 日	文部省令第 5 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令」の公布により従来の 10 研究部門がいわゆる大研究部門に改組され次の 5 研究部門となった。 「国際経済」、「国際経済経営環境」、「国際比較経済」、「国際経営」、「経営情報システム」（昭和 57 年 4 月 1 日施行）
昭和 63 年 4 月 8 日	文部省令第 17 号「国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令」の公布により「国際協力」研究部門（外国人客員：平成 10 年 3 月まで存続）が増設された。
平成 10 年 3 月 31 日	「国際協力」研究部門（外国人客員）が廃止された。
平成 10 年 4 月 1 日	「経済経営協力政策」研究部門（外国人客員：平成 20 年 3 月まで存続）が増設された。
平成 14 年 4 月 1 日	従来の 6 大研究部門は「情報経済経営」研究部門、「国際経済経営」研究部門の 2 大研究部門となった。 附属経営分析文献センターは附属政策研究リエゾンセンターに拡充改組され、「企業ネットワーク」研究部門、「経済政策評価」研究部門の 2 研究部門となり、「経済経営協力政策」研究部門（外国人客員）は附属政策研究リエゾンセンター「経済政策評価」研究部門の「対外政策」研究分野（外国人客員）となった。
平成 17 年 4 月 1 日	EU インスティテュート・イン・ジャパン関西における研究所の研究分担活動を含む、研究所の多くの国際的研究活動を支援する目的で国際研究支援センターが設置された。（所内措置）
平成 19 年 4 月 1 日	附属政策研究リエゾンセンターに「グローバル経済」研究部門が増設され、3 研究部門となった。

平成 22 年 4 月 1 日

従来の 2 大研究部門を改組し、「グローバル経済」「企業競争力」「企業情報」「グローバル金融」の 4 研究部門となった。

附属政策研究リエゾンセンターが改組され、附属企業資料総合センターとなった。

平成 29 年 3 月 15 日

部局内組織として「計算社会科学研究センター」を創設。

平成 30 年 4 月 1 日

「計算社会科学研究センター」は、全学基幹研究推進組織となった。

※「シミュレーション部門」「データ分析」「データベース部門」の 3 部門が設置された。

事業：

計算社会科学における先端研究

計算社会科学における研究を促進するための技術開発

計算社会科学における研究を促進するためのデータベース作成

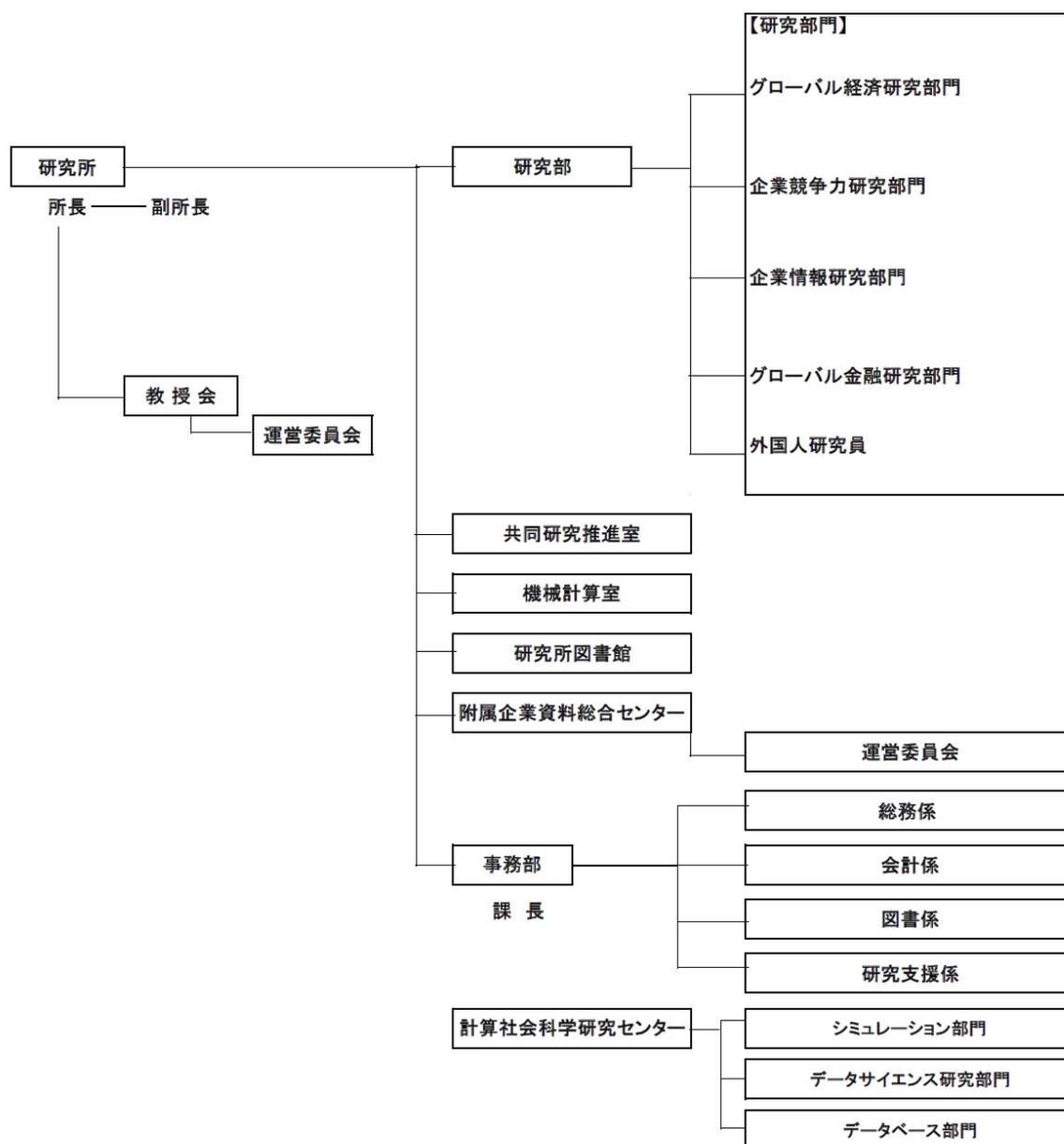
その他、計算社会科学における学術研究の推進と普及のために必要な

事業

## 2 組織・機構・職員及び予算等

経済経営研究所は、「経済並びに経営に関する学理及びその技術の研究」のため、研究部、附属企業資料総合センター、共同研究推進室を設けているほか、機械計算室、研究所図書館を設置している。平成29年3月15日に部局内組織として創設した計算社会科学研究センターは、平成30年4月1日に全学基幹研究推進組織となった。

### 【機構】



### 【現員】

(令和2年3月31日現在)

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	事務職員	合計	備考
現員 (人)	14	8	4	3	3	32	19	51	
	2		1			3		3	その他 特命教授, 特命講師

【 役 職 員 】

経済経営研究所長	教授	濱口 伸明
経済経営研究所副所長	教授	神谷 和也
	教授	家森 信善
共同研究推進室長	教授	北野 重人
附属企業資料総合センター長	教授	伊藤 宗彦
計算社会科学研究所センター長	教授	上東 貴志
経済経営研究所	事務課長	仁尾 嘉宏
	研究支援係長（併）	
	総務係長	置山 小郷
	会計係長	森 恵衣子
	図書係長	榎本 陽子

【 決算額・科学研究費補助金・奨学寄附金・科学研究費補助金以外の外部資金 】

決算額（国立学校特別会計・運営費交付金）

（単位千円）

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
運営費交付金	470,389	498,154	498,639	532,086	522,870	598,874
人件費	355,798	371,523	413,849	443,920	428,454	420,728
物件費等	114,591	126,631	84,790	88,166	94,416	178,146
計	470,389	498,154	498,639	532,086	522,870	598,874

科学研究費補助金（特別研究員奨励費含む）

（単位千円）

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
交付件数	22	23	31	30	28	27
交付額	44,161	65,200	96,789	89,900	74,600	91,773

科学研究費補助金以外の外部資金

（単位千円）

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
件数	15	7	8	7	9	9
金額	20,023	13,835	23,454	18,592	22,008	15,556

※平成 21 年度より、当該年度入金分のみでの金額とする。

### 3 図 書

当研究所は経済学・経営学専門図書館として国内でも評価の高い資料を所蔵し、庫内開架方式により閲覧、貸出を行っている。

国立情報学研究所の総合目録データベースに登録しているので、他研究機関からも当研究所の蔵書の検索が可能になっている。

#### 【 蔵 書 】

(令和2年3月31日現在)

区 分	和 書	洋 書	そ の 他
図 書	62,359 冊	77,578 冊	
統 計 書	14,328 冊	8,768 冊	各国政府経済統計, OECD, EU 等国際経済統計
文 庫	中南米文庫		11,781 冊 中南米の人文・社会科学関係コレクション
	アメリカ文庫	1,603 冊	8,920 冊 大阪アメリカン・センター寄贈図書
	オセアニア文庫		3,483 冊 オーストラリア政府寄贈図書 等
	新聞記事文庫	3,200 冊	明治44年以降昭和45年までの新聞切抜記事
雑 誌	1,630 種	1,751 種	製本済雑誌
	20,155 冊	25,265 冊	
合 計	101,645 冊	135,795 冊	
マイクロ・フィルム マイクロ・フィッシュ		6,930 reels 704,827 sheets	米国議会資料, 米国情勢調査報告書, 米国政府統計資料, ラテン・アメリカ諸国統計資料, アジア諸国統計資料 等

#### 【 図書の利用 】

当研究所では庫内開架方式により、閲覧、貸出を行っている。(学外の方は閲覧のみ)

#### 【 貸 出 (一時帯出を含む) 】

(冊)

	学 外 者	大学院生 (学 部生を含む)	学部教職員	研究所教職員	計
平成21年度	186	1,055	406	563	2,210
平成22年度	131	1,033	376	536	2,076
平成23年度	190	431	270	747	1,638
平成24年度	181	373	361	864	1,779
平成25年度	138	609	165	910	1,822
平成26年度	126	565	122	805	1,618
平成27年度	147	859	174	857	2,037
平成28年度	177	780	224	676	1,857
平成29年度	111	636	165	896	1,808
平成30年度	109	651	184	747	1,691
令和元年度	28	766	217	644	1,655

【 文献複写（電子複写・リーダープリンター複写）】

年 度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
枚 数	18,516 枚	12,819 枚	16,839 枚	13,533 枚	13,033 枚	11,667 枚

【 国際経済統計資料 】

統計資料は経済学・経営学の研究上必須のもので、当研究所の重点収集領域の一つである。

国際経済関係の資料としては次のような国際機関及び各国政府機関刊行の経済統計資料のコレクションを所蔵し、所外の研究者にも公開している。

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

資 料 名	収 集 期 間
国際機関統計資料集成	1983～1987
世界各国中央銀行年次報告書	1946～1999
アフリカ諸国公式統計資料集成	1821～1976
アフリカ諸国統計シリーズ	1936～1982
中東・北アフリカ諸国統計シリーズ	1907～1983
アジア諸国統計シリーズ	1935～1977
欧州各国公式統計資料集成	1843～1970
中南米諸国公式統計資料集成	1821～1976
ラテン・アメリカ諸国統計シリーズ	1935～1977
英国統計資料集成	1801～1967
米国情勢調査報告書	1790～1970
米連邦政府刊行統計関連出版物	1973～1992
オーストラリア政府統計	1904～1965
カナダ統計局刊行統計資料	1851～1988
米国統計関連出版物総集成	1980～1995
英国王立印刷局 20 世紀政府刊行物	1922～1977
米議会・委員会刊行諸種報告書・文書総集成	1789～1969

(すべてマイクロ資料)

【 電子資料 】

優れた検索機能を持つ電子資料（CD-ROM, DVD）の刊行に伴い、予算の許す限り整備に努めている。現在、利用条件の枠内で利用に供している主な CD-ROM, DVD は次のとおりである。

(収集期間とデータ収録期間は異なる場合がある)

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

資 料 名	収 集 期 間
会社財務カルテ（榊東洋経済新報社編）	2002, 2008, 2011 年版
産業別財務データ・個別企業編（日本開発銀行・日本政策投資銀行編）	1998, 2001, 2006, 2010
主要経済・金融データ（日本銀行調査統計局編）	1997, 1999-2003 年版
証券統計年報（東京証券取引所）	1999-2000
アジア・オセアニア経済統計年報（インデックス株式会社）	2002
日本マーケットシェア事典	2005-2010
Eurostat Statistics (Data Service & Information GMBH)	1999-2005
International Statistical Yearbook (DSI Data Service & Information)	2000
Statistical Compendium (OECD)	2000-2001
World Development Indicators (World Bank)	1997, 1999-2012

## 【 国連寄託図書館 】

国連寄託図書館は、国際連合がその活動を世界中の人々に知らせるために各国に設置している図書館である。

現在、135以上の国々に351ヶ所以上、日本では14館あり、神戸大学国連寄託図書館もその1つで、1968年に寄託図書館の指定を受け当研究所に設置されたものである。

近畿地区はもとより、四国・中国地区まで広く地域の人々に開放され、経済、外交、人権等の調査研究に役立っている。国連資料については電子化が進められ、冊子体での発行は年々減少しているが、現在受入分とともに遡及入力も順次行っており、約13,000件がOPACで検索可能となっている。

また、国際連合の専門機関であるIMO（国際海事機構）の寄託図書館でもあり、そのほか、WTO（世界貿易機関）、IMF（国際通貨基金）、ILO（国際労働機構）、WORLD BANK（世界銀行）等の資料も重点的に収集し、研究者の利用に供している。



## 4 附属企業資料総合センター

### 【概要】

企業資料総合センターは、平成22年4月1日、旧経営分析文献センター(昭和39年4月設置)、政策研究リエゾンセンター(平成14年4月改組)をさらに改組して、企業資料の総合センターとして発足しました。企業に関する文献、資料、データを収集・整備し、公開利用に供するとともに、経済経営研究への活用を図ることを目的としています。

### 企業情報データの提供

企業情報分析資料室では、経営分析に関する図書・資料及び産業に関する基本資料を収集・整備しその分析研究を行っています。また、高度情報社会に即応した情報センター的役割を果たすために、企業情報データベースの充実をめざしています。センターのWEBでデータを公開・提供しています。

### 【教員スタッフ】(平成31年4月1日現在)

企業資料総合センター長	教授	伊藤 宗彦
主任教授		瀨 俊毅
講師		國本 光正

### 【設備】

(令和2年3月31日現在)

機 器 名	型 式	台 数
<業務用>		
パソコン	NEC MK34HE	9
パソコン	NEC MK37LA	4
パソコン	HP ENVY 750-180jp	2
複合機	OKI MC780	1
スキャナ	Fujitsu ScanSnap SV600	4
スキャナ	Fujitsu ScanSnap iX500	1
データベースサーバ	DELL PowerEdge T640	1
ファイルサーバ	QNAP TS-1277	1
ファイルサーバ	QNAP TVS-671	1
ファイルサーバ	QNAP TVS-663	1
<利用者用>		
パソコン(書誌検索用)	NEC MK34HE	1
パソコン(データベース用)	NEC MK37LA	1
プリンタ	NEC MultiWriter 5220N	1
マイクロフィルムリーダー	FUJIFILM FDIP 7500 II	1
マイクロフィルムリーダー	microfilm ScanPro 2000	1
カメラ	DELL OPTIPLEX 3020	1
オーバーヘッドスキャナ	Canon EOS Kiss X5	1
	KONICA MINOLTA PS5000C MK II	1
	HP dc7900	1
ブックドライブ	ATIZ Book Drive DIY	1
	HP Z800	1
<図書館業務専用>		
パソコン	DELL OPTIPLEX 3020	1

【資料収集・提供】

経営分析に関する図書・資料及び産業に関する基礎資料（特に、有価証券報告書、会社営業報告書、社史・企業者伝記）を系統的に収集・管理するとともに、これらの所蔵目録を作成して、学内外の研究者に提供している。

（令和2年3月31日現在）

資料名	収集期間
<b>有価証券報告書</b>	
東証・大証・名証1部上場会社全社	1949年～現在
東証・大証・名証2部上場会社全社	1962年～1996年
地方単独上場会社	1989年～1996年
上場外国会社全社	1972年～1985年、 2002年
非上場会社	1962年～1985年
遡及版（CD-ROM） （東証、大証、名証の各1部・2部上場、店頭登録、外国企業）	1986年～1995年
イメージデータ版（CD-ROM） （1部・2部上場、地方上場、店頭登録、非上場等）	1996年4月～ 2003年3月
SPEEDA（オンラインデータベース）	
<b>会社営業報告書</b>	
営業報告書集成（第1～9集）	8,577社
東証1部上場会社	1,281社
鉄道会社	約1,000社
企業史料統合データベース（オンラインデータベース）	
工鉱業関係会社報告書（占領初期実態調査）	2,272社
<b>外国会社報告書</b>	
米国SEC届出10-K年次営業・財務報告書	約12,000社
Disclosure's Compact D/SEC (CD-ROM)	
米国株主向年次報告書	約12,000社
米国主要企業株主向年次報告書	702リール
英国大企業年次報告書	114社
国際企業年次報告書	約3,000社
ドイツ大企業・銀行資料	109リール
Mergent's international company archives manual	2003年
Mergent's U.S. company archives manual	2004年
欧米企業・経営資料集 （ギブス商会営業資料集成 他）	18～20世紀
社史・企業者伝記	13,353冊 ・440リール
企業年鑑・産業別年鑑	延54種
産業・経営統計書及び企業刊行資料	各種
雑誌	(和) 510種 (洋) 404種
<b>企業原資料</b>	
兼松資料	3,976点
鐘紡資料	6,524点
	他

## 【 主要刊行物 】

これまでに当企業資料総合センター（旧政策研究リエゾンセンター及び旧経営分析文献センター一分を含む）は主に次の刊行物を発行してきた。

刊行物名	刊行年月	判型・頁数
営業報告書目録〔1. 戦前の部〕	昭和40年3月刊	A5・112頁
所蔵社史目録	昭和40年5月刊	B5・196頁
経営分析統計―統計利用者へのガイド―	昭和40年5月刊	A5・7頁
米国会社年次報告書 1951～1963	昭和41年2月刊	B5・146頁
有価証券報告書目録	昭和42年3月刊	A5・129頁
外国企業年次報告書目録	昭和47年3月刊	B5・176頁
明治～昭和前期営業報告書目録集覧	昭和49年3月刊	B5・273頁
社史・企業者伝記目録（外国の部・I）	昭和51年3月刊	B5・191頁
総合商社における海外進出企業の実態調査	昭和54年12月刊	A4・187頁
社史・企業者伝記目録（外国の部・II）	昭和55年3月刊	B5・302頁
本邦主要企業系譜図集 第1集	昭和56年3月刊	A4・212頁
本邦主要企業系譜図集 第2・3集	昭和57年3月刊	A4・428頁
本邦主要企業系譜図集 第4集	昭和58年3月刊	A4・250頁
本邦主要企業系譜図集 第5集	昭和59年2月刊	A4・300頁
本邦主要企業系譜図集 総索引	昭和59年3月刊	A4・95頁
多国籍企業関係資料需要動向調査報告書	昭和59年3月刊	A4・27頁
本邦主要企業系譜図集 第6集	昭和60年2月刊	A4・115頁
主要企業の系譜図（雄松堂出版）	昭和61年7月刊	A4・844頁
国際企業年次報告書目録	平成6年2月刊	B5・123頁
本邦主要企業系譜図集 第7集	平成6年3月刊	A4・40頁
所蔵社史目録	平成6年10月刊	B5・178頁
雑誌目録1995	平成7年2月刊	A5・362頁
日本型流通取引制度の生成（比較取引制度コンファランス）	平成8年12月刊	A4・115頁
神戸大学経済経営研究所所蔵 兼松資料目録	平成11年2月刊	A4・195頁
所蔵 社史・経営者の伝記・団体史目録	平成11年3月刊	B5・335頁
日本の主要多国籍企業系譜図	平成13年3月刊	A4・141頁
RIEB 政策研究ワークショップ「マクロ経済政策の課題」	平成15年2月刊	A4・92頁
RIEB 政策研究ワークショップ「政府統計データを活用した日本企業の分析」	平成15年3月刊	A4・79頁
RIEB-IMF ワークショップ「日本企業の構造転換」	平成16年3月刊	A4・239頁
フラットパネルディスプレイ「戦略的技術マップ」	平成16年10月刊	A4・50頁
政策研究ワークショップ「財政政策のマクロ経済効果」	平成18年2月刊	A4・177頁
RIEB 政策研究ワークショップ「量的緩和政策の効果」	平成19年3月刊	A4・120頁
所蔵有価証券報告書目録非上場企業及び地方取引所 上場企業の部 昭和37年～昭和60年 マイクロフィルム版（暫定版）	平成19年3月刊	A4・140頁
RIEB 政策研究ワークショップ「日本における近代通貨システムへの移行の世界史的意義：『決済』の観点から」	平成20年4月刊	A4・110頁
RIEB 政策研究ワークショップ「両大戦間期日本における物価変動予想の形成」	平成20年9月刊	A4・88頁
鐘紡資料叢書 株主総会編 第1巻	平成31年3月刊	A5・331頁
鐘紡資料叢書 株主総会編 第2巻	平成31年3月刊	A5・275頁

### 【 企業情報データベース 】

平成14年度から、「リエゾンセンター企業情報データベース」構想の実現に着手した。これは科学研究費補助金（研究成果公開促進費・データベース）を受けて、データベースを構成するサブデータベース（企業資料DB等）の作成・充実に向けた活動を行っていくというものである。以下がその具体的な内容である。

#### (1) 企業資料データベース

平成14年度に着手した主要サブデータベースである「企業資料データベース」は平成14年度から科学研究費補助金の助成を受けて新たに事業化したもので、平成18年度末までに日本を代表する企業約270社38万ページにのぼる各種企業資料を収録している。

平成22年度以降、引き続き既存の各データの整備・更新等を積極的に行うとともに、新しいデータベースの開発や情報提供サービスの向上に向けて、さらなる努力を行なっている。

#### (2) 「鐘紡資料データベース」

平成25年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）の助成を受け、「鐘紡資料」のデジタル画像化・テキスト化事業に着手した。回章類を画像化し、そのテキスト化を進めている。これに伴い、旧漢字検索、西暦和暦変換検索、同義語など、明治・大正期の資料に用いられる言葉に対応した高度な検索システムと、画像および新たなメタデータ項目を搭載した新しい「鐘紡資料データベース」を作成した。平成29年度には社長回章と呼ばれる稟議書、全冊(38,000頁)の公開を開始した。

(3) 鐘紡資料などの企業原資料をはじめ、センター独自に整理・分類している資料の横断的な検索を可能にする新たなデータベースシステムを開発するべく、同様な事例の情報収集および試作に取り組んでいる。

## 5 機械計算室

当機械計算室は、当研究所の教員がより効率的な研究活動が行えるよう各種サービスを提供し、サポートを行っている。データベース利用環境の提供や研究室のパソコンや計算サーバなどのコンピュータ利用環境の提供、無線 LAN システムや SSL-VPN システムや Web メールシステム、ウイルスチェックシステムなどのネットワーク利用環境などの提供を行なっている。これらのサービスの一部は研究所だけではなく、他部局の教員も共同利用できるようサービスの提供を行なっている。

機械計算室では研究所教員だけではなく、他部局の教員や学生がデータベース検索や統計ソフトなどを利用できるようパソコン環境を整備したオープンスペースを提供しており、また学外の共同研究者が自由にネットワークを利用できるよう情報コンセントを設置したゲストスペースも提供している。

機械計算室では、1995 年以来、WWW による情報公開も行っている。

### 【研究用電子計算機システム】

平成 30 年 2 月には研究用電子計算機システムを一新した。

研究用電子計算機システムでは、教職員が利用するパソコンの利用環境を始め、計算サーバ、データベースサービス、メールサービス、WWW サービス、共有ディスクサービス、認証サービスなど研究活動の基盤となるサービスを提供している。

主要なサーバ・ネットワーク機器は 2 重化を行い、また各サーバは定期的にシステム無停止でのシステムバックアップを行い、万一の障害発生時にも研究活動に支障がないよう考慮している。

全教職員の PC とメールサーバにはウイルス検出ソフトを導入し、外部からのコンピュータウイルスの侵入を防ぎ、安全な運用に配慮している。

SSL-VPN 接続、Web メールシステムも提供しており、これによって教員は学外にいてもネットワークを利用した毎日の研究活動の継続が可能となっている。

本システムではメインストレージ装置のオールフラッシュ化、バックアップストレージ装置の重複排除技術の導入などにより、システムの高速度化と消費電力の削減(従来の 11,200kw から 27% 削減)を実現した。

### 【データベース】

機械計算室では、以下に示すデータベースを教員に提供しており、社会科学系の研究では非常に充実したデータベース環境を整えている。

平成 21 年 4 月からは日経 NEEDS Financial QUEST の利用を開始し、教員は膨大なデータをオンラインでリアルタイムに検索できるようになっている。

平成 23 年 1 月から IMF 統計データ (IFS, BPS, DTS, GFS) の過去データをネットワークディスクを利用したシステムとして公開していた。しかし、IMF から CD-ROM でのデータ提供が終了したために、更新を停止し、現在は IMF のウェブサイトにて利用可能となっている。

平成 25 年 1 月からは Bloomberg データベースを導入し、経営学研究科および経済学研究科と共同利用を行なっている。

平成 25 年 2 月からは Datastream データベースの提供を開始した。

平成 28 年 1 月からはトムソンロイター ニュースアーカイブキストデータ (2003-2014 年のデータ) の提供を当研究所の教員向けに開始した。

平成 28 年 3 月からは Bankscope DVD-ROM (2016 年 3 月発行) の提供を当研究所の教員向けに開始した。

令和元年 7 月からはニッセイ基礎研究所 株式持ち合い状況調査基礎データの提供を当研究所の教員、経営学科の教員・大学院生・MBA 生向けに開始した。

日経 NEEDS Financial QUEST

IMF 統計

IFS（国際金融）※検索可能データ：2017 年 8 月分まで

BPS（国際収支）※検索可能データ：2017 年 1 月まで

DTS（貿易）※検索可能データ：2016 年 12 月まで

GFS（財政）※検索可能データ：2014 年 9 月まで

Bloomberg

Datastream

トムソンロイター ニュースアーカイブ

Bankscope

ニッセイ基礎研究所 株式持ち合い状況調査基礎データ

## 【計算サーバ】

平成 22 年 5 月に計算サーバを新規導入し、平成 30 年 2 月に 3 代目となる計算サーバを導入した。計算サーバは、パソコンでは搭載できない強力な CPU と大量のメモリを搭載しており、非常に高速な計算処理ができるようになっている。これにより、教員は計算時間の大幅な短縮をはかることができ、研究を効率よく行うことができる。

計算サーバには Stata などの社会科学系の研究によく利用されるソフトウェアをインストールしており、教員は各自で計算用のパソコンやソフトウェアを用意する必要がなく、いつでも利用することができる。

計算サーバは XenApp を利用してリモートから接続することにより、研究室からだけでなく、学外からも利用可能となっている。

サーバ性能

CPU：Intel Xeon E7-8867v4 4CPU(2.4GHz～3.30 GHz, 72Core CPU)

メモリ：256GB

OS：Microsoft Windows Server 2016

CPU：Intel Xeon E5-2623v4 2CPU(2.6GHz～3.2GHz, 8Core CPU)

メモリ：96GB

OS：Microsoft Windows Server 2016

ソフトウェア

Stata15, Stata16

MATLAB R2017b, MATLAB R2018b, MATLAB R2019b

Eviews11

SPSS Statistics Base, Amos 25.0

TSP Ver5.1

R 3.4.2

### 【経営機械化展示室・ブックスキャナ】

平成 29 年 12 月には、研究所創立 100 周年事業の一環として、オーストリア Qidenus Technologies 社製「ROBOTIC BOOK SCAN 4.0」を国内で初めて導入した。最大 2,500 ページ/時間のスキャン性能を持ち、全自動で書籍のデジタル画像を撮影できる。撮影データは TIFF, JPEG, PDF などのファイル形式で保存することができるほか、RAW 形式での保存もサポートしている。

本機器は当研究所兼松記念館 1 階の経営機械化展示室に設置され、学内の古文書のデジタル化プロジェクトに使用されているほか、学外からの見学希望にも対応している。

## 6 その他

### 【 研究所諸規則 】

#### 神戸大学経済経営研究所規則

(平成 16 年 4 月 1 日制定)

改正 平成 17 年 3 月 17 日 平成 22 年 3 月 23 日

平成 27 年 3 月 31 日 平成 29 年 3 月 21 日

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人神戸大学学則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「学則」という。)

第 6 条第 3 項の規定に基づき、神戸大学経済経営研究所(以下「研究所」という。)の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第 2 条 経済経営研究所は、経済及び経営に関する総合研究を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 経済・経営に関する研究・調査
- (2) 経済・経営に関する資料の収集・整理
- (3) 研究成果の刊行
- (4) その他適当と認められた事業

(教授会)

第 4 条 研究所の重要事項については、教授会に置いて審議する。

(所長)

第 5 条 研究所長は、研究所に関する事項を総括する。

2 研究所長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(副所長)

第 6 条 研究所に副所長 2 人を置く。

2 副所長は、研究所長の職務を補佐する。

3 副所長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(研究部及び研究部門)

第 7 条 研究所に研究部を置く。

2 研究部に次の研究部門を置く。

- (1) グローバル経済
- (2) 企業競争力
- (3) 企業情報
- (4) グローバル金融

第 8 条 削除

(共同研究推進室)

第 9 条 研究所に共同研究推進室を置く。

2 共同研究推進室は、研究所における共同研究の推進及び支援に関する業務を行う。

3 共同研究推進室の組織及び運営に関する事項は、別に定める。

(附属企業資料総合センター)

第 10 条 研究所に、学則第 9 条第 1 項に基づき、附属企業資料総合センター(以下「センター」という。)を置く。

2 センターの組織及び運営に関する事項は、別に定める。

(機械計算室)

第 10 条の 2 研究所に、研究所の事業遂行のための計算及び情報処理業務を行うため、機械計算室を置く。

2 機械計算室に関する事項は、別に定める。  
(寄託図書館)

第 11 条 研究所に、次の寄託図書館を置く。

- (1) 国連寄託図書館
- (2) IMO 寄託図書館

2 寄託図書館に関する事項は、別に定める。  
(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教授会の議を経て、研究所長が定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 17 年 3 月 17 日)

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 22 年 3 月 23 日)

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年 3 月 31 日)

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 29 年 3 月 21 日)

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

○神戸大学附属図書館利用規程

平成 16 年 4 月 1 日制定  
平成 23 年 3 月 25 日改正  
平成 31 年 3 月 29 日改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、神戸大学附属図書館規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)第 10 条の規定に基づき、神戸大学附属図書館(以下「附属図書館」という。)の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(利用者)

第 2 条 附属図書館を利用することができる者(以下「利用者」という。)は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 神戸大学(以下「本学」という。)の教職員(神戸大学名誉教授、神戸大学医療技術短期大学部名誉教授及び神戸商船大学名誉教授を含む。以下同じ。)

(2) 本学の学生

(3) 本学の卒業生(大学院修了者を含む。)

(4) 前号に掲げる者のほか、附属図書館の利用を申し出た学外者

(利用の区分)

第 3 条 附属図書館の利用を次の各号に区分する。

(1) 図書館施設の利用

(2) 館内閲覧

(3) 館外貸出し

(4) 参考調査

(5) 情報検索

(6) 文献複写

(7) 相互利用

(8) 設備・機器の利用

(図書館施設の利用)

第 4 条 利用者は、所定の手続を経て、次の各号に掲げる図書館、分館、図書室(以下「図書館(室)」という。)を利用することができる。

(1) 総合図書館

(2) 社会科学系図書館

(3) 自然科学系図書館

(4) 人文科学図書館

(5) 国際文化学図書館

(6) 人間科学図書館

(7) 経済経営研究所図書館

(8) 医学分館

(9) 保健科学図書室

(10) 海事科学分館

(開館時間)

第 5 条 附属図書館の開館時間は、別に定める。

(休館日)

第 6 条 休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、社会科学系図書館の休館日については、第 1 号及び第 2 号の規定を適用せず、医学分館の休館日については、第 2 号の規定は適用しない。

(1) 日曜日

(2) 春季、夏季及び冬季の休業期間中の土曜日(経済経営研究所図書館にあっては、毎曜日)

(3) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日

(4) 年末及び年始 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで

(5) 館内整理日

2 前項第 5 号に掲げる館内整理日のうち、定例的なものは図書館(室)ごとに別に定めるものとし、蔵書点検のための整理日等は、その都度館長又は分館長(以下「館長等」という。)が定める。

3 前 2 項の規定にかかわらず、館長等が必要と認めるときは、臨時に休館又は開館することができる。

(利用証の交付)

第 7 条利用者は、所定の手続を経て、神戸大学附属図書館利用証(以下「利用証」という。)の交付を受け、利用に際して携行するものとする。ただし、第 2 条第 3 号及び第 4 号の利用者における一時的な利用については、利用証の交付及び携行を省略することができる。

2 第 2 条第 1 号の利用者においては職員証、第 2 条第 2 号の利用者においては学生証をもって利用証とすることができる。

(館内閲覧)

第 8 条利用者は、次のとおり図書館資料(以下「図書」という。)を閲覧することができる。ただし、試験期間中において閲覧室が非常に混雑している場合等、教育研究に支障をきたすおそれがある場合においては、図書の閲覧利用を制限することがある。

(1) 開架図書は、閲覧室で自由に閲覧することができる。

(2) 書庫内図書は、所定の手続を経て、書庫内検索を行い、また閲覧室で閲覧できるものとする。

(3) 貴重図書及び特殊資料は、所定の手続を経て、指定の場所で閲覧できるものとする。

2 次の各号に掲げる場合においては閲覧を制限することがある。

(1) 図書に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)第 5 条第 1 号、第 2 号及び第 4 号イに掲げる情報が記録されていると認められる場合(当該情報が記録されている部分に限る。)

(2) 図書の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は法人等(国、独立行政法人等及び地方公共団体を除く。)から寄贈又は寄託を受けている場合(当該期間が経過するまでの間に限る。)

(3) 図書の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は附属図書館において当該原本が現に使用されている場合。

(館外貸出し)

第 9 条利用者は、館外貸出し(以下「貸出し」という。)を受けることができる。

2 貸出しを受けようとする者は、所定の手続を経なければならない。

3 第 2 条第 1 号及び第 2 号に掲げる利用者については、貸出冊数及び期間を図書館(室)ごとに別に定める。

4 第 2 条第 3 号及び第 4 号に掲げる利用者については、貸出しの条件、資料の範囲、貸出冊数及び期間を別に定める。

(禁帯出図書)

第 10 条次の各号に掲げる図書は、貸出しを行わない。

(1) 貴重図書

(2) 参考図書

(3) マイクロ資料

(4) 貸与すると著作権侵害となる視聴覚資料

(5) 学位論文

(6) 図書館(室)ごとに別に定める図書

(7) その他禁帯出の表示のある図書

2 前項の規定にかかわらず、館長等が特に必要と認める場合には、期間を定めて貸し出すことができる。

(貸出中の保管)

第 11 条図書の帯出者は、その保管責任を負うものとし、当該図書を他人に転貸してはならな

い。

(返納)

第 12 条 図書の帯出者は、貸出期間内に当該図書を返納しなければならない。

2 図書の帯出者が退職、卒業その他の理由により貸出しを受ける資格を失ったときは、直ちに当該図書を返納しなければならない。

3 館長等は、必要と認めたときは、貸出中の図書の返納を求めることができる。

この場合において、当該図書の返納を求められた者は、速やかに所定の事項について回答しなければならない。

(貸出中の図書の調査等)

第 13 条 館長等は、管理上必要があると認めたときは、貸出中の図書の調査を行い、又は返納させ、若しくは一定期間貸出しを停止することができる。この場合において、当該図書の返納の請求を受けた者は、直ちに返納しなければならない。

(研究室等備付図書の貸出し)

第 14 条 本学の部局等の研究室、教室、資料室、事務室等(以下「研究室等」という。)は、研究室等の予算で購入した図書又は研究室等を通じて寄贈された図書のうち、常時備付を必要とする図書があるときは、所定の手続を経て、必要な期間当該図書の貸出しを受けることができる。

2 研究室等は、前項の図書について、支障のない限りにおいて、他の利用者の利用に供するものとする。

3 研究室等備付図書の管理に必要な事項は、別に定める。

(参考調査)

第 15 条 利用者は、教育研究又は学習の上で必要とするときは、資料の所在調査等を依頼することができる。

(情報検索)

第 16 条 本学の教職員は、教育研究上必要とするときは、情報検索を依頼することができる。

(文献複写)

第 17 条 利用者は、国立大学法人神戸大学附属図書館文献複写規程(平成 16 年 4 月 1 日制定)の定めるところにより、附属図書館所蔵の図書の複写を申し込むことができる。ただし、著作権の侵害及び原本の損傷のおそれのある場合等は申込みに応じられない。

2 本学の教職員及び学生が他大学図書館等が所蔵する図書の複写を希望するときは、附属図書館へ複写手続を依頼することができる。

3 他大学図書館等から附属図書館の所蔵する図書の複写について依頼があったときは、学内の利用に支障のない範囲でこれに応じることができる。

(相互利用)

第 18 条 本学の教職員及び学生が他大学図書館等を利用しようとするときは、所定の手続により附属図書館に依頼することができる。

2 本学の教職員及び学生が他大学図書館等が所蔵する図書の貸借を希望するときは、附属図書館へ貸借手続を依頼することができる。

3 他大学図書館等から附属図書館の利用について依頼があったときは、学内の利用に支障のない範囲でこれに応じることができる。

(設備・機器の利用)

第 19 条 本学の教職員及び学生は、教育研究又は学習の上で必要とするときは、所定の手続を経て、図書館(室)の設備・機器を利用することができる。

2 前項に掲げる者のほか、特に館長等が許可した者については、設備・機器の利用を認めることができる。

(規律の遵守)

第 20 条 利用者は、この規程その他館内規律を遵守しなければならない。

(利用の停止及び禁止)

第 21 条 館長等は、利用者が前条の規定に違反したときは、附属図書館の利用を停止又は禁止することができる。

(損害の弁償)

第 22 条 附属図書館の施設、設備等を破損し、又は図書を紛失若しくは損傷した者は、その損害を弁償しなければならない。

(雑則)

第 23 条 この規程に定めるもののほか、附属図書館の利用に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 3 月 17 日)

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 2 月 19 日)

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 12 月 25 日)

この規程は、平成 21 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 25 日)

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 3 月 29 日)

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

○神戸大学附属図書館利用細則

(平成 16 年 4 月 1 日制定)

改正 平成 17 年 3 月 17 日 平成 17 年 6 月 1 日  
 平成 18 年 4 月 1 日 平成 19 年 2 月 13 日  
 平成 20 年 12 月 25 日 平成 21 年 3 月 31 日  
 平成 23 年 3 月 25 日 平成 24 年 4 月 20 日  
 平成 25 年 3 月 27 日 平成 27 年 3 月 31 日  
 平成 28 年 3 月 31 日 平成 29 年 3 月 31 日  
 平成 31 年 3 月 29 日

(趣旨)

第1条 神戸大学附属図書館利用規程(平成16年4月1日制定。以下「利用規程」という。)第23条の規定に基づき、この細則を定める。

(開館時間)

第2条 開館時間は、次のとおりとする。

図書館(室)	平日	土曜日	日曜日
総合図書館	午前8時45分から午後9時30分(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 午後5時)まで	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 閉館)	＼
社会科学系図書館	午前8時45分から午後9時30分まで	午前10時から午後7時まで	
自然科学系図書館	午前8時45分から午後9時30分(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 午後5時)まで	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 閉館)	
人文科学図書館	午前8時45分から午後9時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 午後5時)まで	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 閉館)	
国際文化学図書館	午前8時45分から午後9時30分(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 午後5時)まで	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 閉館)	
人間科学図書館	午前8時45分から午後9時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 午後5時)まで	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期間中については, 閉館)	＼
経済経営研究所図書館	午前8時45分から午後5時まで	＼	
医学分館	午前8時45分から午後9時まで	午前9時から午後5時まで	
保健科学図書室	午前8時45分から午後9時	午前10時から午後6時まで(春季, 夏季及び冬季の休業期	

	間中については、午後 5 時) 間中については、閉館) まで
海事科学分館	午前 8 時 45 分から午後 9 時 午前 10 時から午後 6 時まで (春季, 夏季及び冬季の休業期 (春季, 夏季及び冬季の休業期 間中については、午後 5 時) 間中については、閉館) まで

ただし、「春季休業期間」は、3月1日から翌年度4月の授業開始時期までを指す。

2 前項の規定にかかわらず、館長又は分館長(以下「館長等」という。)が必要と認めたときは、臨時に開館時間を変更することがある。

(館内整理日)

第3条 社会科学系図書館、自然科学系図書館及び人文科学図書館の定例館内整理日は、次のとおりとする。

図書館(室)	館内整理日
社会科学系図書館	奇数月第 1 日曜日
自然科学系図書館	毎月第 3 木曜日(ただし、午後 1 時以降は開館)
人文科学図書館	毎月第 2 火曜日(ただし、午後 1 時以降は開館)

(学内者の貸出冊数及び期間)

第4条 利用規程第2条第1号及び第2号に掲げる利用者の館外貸出しに係る貸出冊数及び期間は、次のとおりとする。

(1) 総合図書館

対象者	冊数	期間	
		図書	雑誌
学生(大学院学生を除く。)	6 冊	2 週間	
大学院学生	20 冊	1 か月	1 週間
教職員	30 冊	1 か月	

ただし、上記の冊数は、国際文化学図書館の冊数を含む。

(2) 社会科学系図書館

対象者	書庫内図書		開架図書	
	冊数	期間	冊数	期間
学生(大学院学生を除く。)	開架図書と合わせて 6 冊	2 週間	書庫内図書と合わせて 6 冊	
大学院学生	20 冊	2 か月	6 冊	2 週間
教職員	50 冊	1 年間		

(3) 自然科学系図書館

対象者	冊数	期間
教職員及び学生	6 冊	2 週間

(4) 人文科学図書館

対象者	冊数	期間
-----	----	----

		書庫内図書	開架図書	雑誌
学生(大学院学生を除く。)	6冊	2週間		
大学院学生	20冊	1か月		1週間
教職員	30冊	1年間	1か月	

(5) 国際文化学図書館

対象者	冊数	期間	
		図書	雑誌
学生(大学院学生を除く。)	6冊	2週間	
大学院学生	20冊	1か月	1週間
教職員	30冊	1か月	

ただし、上記の冊数は、総合図書館の冊数を含む。

(6) 人間科学図書館

対象者	冊数	期間		
		書庫内図書	開架図書	雑誌
学生(大学院学生を除く。)	6冊	2週間		
大学院学生	20冊	1か月	2週間	1週間
教職員	20冊	6か月		

(7) 経済経営研究所図書館

対象者	冊数	期間
学生(大学院学生を除く。)	5冊	2週間
大学院学生	10冊	1か月
経済経営研究所の教職員	50冊	6か月
その他の教職員	25冊	3か月

(8) 医学分館

対象者	冊数	期間
教職員及び学生	6冊	2週間

(9) 保健科学図書室

対象者	冊数	期間
学生	6冊	2週間
教職員	30冊	3か月

(10) 海事科学分館

対象者	冊数	期間	
		図書	雑誌
学部学生(4年次生を除く。)	10冊	2週間	1週間

学部 4 年次生	10 冊	1 か月
----------	------	------

教職員及び大学院学生	20 冊	1 か月
------------	------	------

- 2 前項の規定にかかわらず、館長等は、必要と認めるときは、春季、夏季及び冬季の休業期間中の貸出し並びに論文作成等を目的とする貸出しに限り、その冊数及び期間について、特別の取扱いをすることができる。

(本学の卒業生(大学院修了者を含む。))の貸出条件等

第 5 条 利用規程第 2 条第 3 号に掲げる利用者の館外貸出しに係る条件等は、次のとおりとする。

資料の範囲	貸出冊数	期間
図書(雑誌を除く。)	6 冊	3 週間

(学外者の貸出条件等)

第 6 条 利用規程第 2 条第 4 号に掲げる利用者の館外貸出しに係る条件等は、次のとおりとする。

(1) 総合図書館

対象者	資料の範囲	貸出冊数	期間
放送大学の学生のうち、放送大学兵庫学習センター又は姫路サテライトスペースを利用する者(以下「兵庫学習センター等利用者」という。)	第 4 条に掲げる学生(大学院学生を除く。)の条件に準じる。		
15 歳以上の学外者(兵庫学習センター等利用者を除く。)	開架図書(雑誌及び視聴覚資料を除く。)	3 冊	2 週間

(2) 海事科学分館

対象者	資料の範囲	貸出冊数	期間
兵庫学習センター等利用者	第 4 条に掲げる学部学生(4 年次生を除く。)の条件に準じる。		
15 歳以上の学外者(兵庫学習センター等利用者を除く。)	書庫内図書及び開架図書(雑誌及び視聴覚資料を除く。)	3 冊	2 週間

(3) その他の図書館、分館及び図書室

対象者	資料の範囲	貸出冊数	期間
兵庫学習センター等利用者	第 4 条に掲げる学生(大学院学生を除く。)の条件に準じる。		

- 2 前項の規定にかかわらず、館長等が特に必要と認めた場合は、特別の取扱いをすることができる。  
(禁帯出図書)

第 7 条 利用規程第 10 条第 6 号に掲げる館外貸出し(以下「貸出し」という。)を行わない図書は、次のとおりとする。

図書館(室)	貸出しを行わない図書
総合図書館	新着雑誌
社会科学系図書館	法令・法規集、統計書、加除式図書、雑誌、震災文庫資料
自然科学系図書館	視聴覚資料、新聞、雑誌
人文科学図書館	新着雑誌
国際文化学図書館	新着雑誌

人間科学図書館	加除式図書，新着雑誌，郷土研究資料
経済経営研究所図書館	統計書，雑誌
医学分館	雑誌
保健科学図書室	雑誌
海事科学分館	新着雑誌，新聞

- 2 前項の規定にかかわらず，総合図書館，人文科学図書館，国際文化学図書館及び人間科学図書館の参考図書及び新着雑誌については，必要のある場合は，閉館1時間前から翌開館日の開館後1時間以内までに限り貸出しを行うことができる。

附 則

この細則は，平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月17日)

この細則は，平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年6月1日)

この細則は，平成17年6月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この細則は，平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年2月13日)

この細則は，平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年12月25日)

この細則は，平成21年1月1日から施行する。

附 則(平成21年3月31日)

この細則は，平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月25日)

この細則は，平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年4月20日)

この細則は，平成24年5月1日から施行する。

附 則(平成25年3月27日)

この細則は，平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月31日)

この細則は，平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月31日)

この細則は，平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月31日)

この細則は，平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月29日)

この細則は，平成31年4月1日から施行する。

## 神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター規則

平成 22 年 3 月 26 日制定

改正 平成 27 年 3 月 31 日

改正 平成 28 年 9 月 30 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神戸大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 9 条第 3 項の規定に基づき神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、企業及び産業に関する文献、資料、データ等（以下「文献その他の資料」という。）を総合的に収集、整備し、これを公開利用に供するとともに、経済経営研究への活用を図ることを目的とする。

(事業)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 文献その他の資料の収集、整理及び保管並びに調査研究
- (2) 文献その他の資料の閲覧、検索、複写、目録刊行等による情報の提供
- (3) 経済経営分野の先端研究に資する文献その他の資料の整備及び調査
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター主任
- (3) 教授、准教授、講師、助教及び助手
- (4) その他の職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、センターに配置された神戸大学の専任の教授をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の選考は、神戸大学経済経営研究所長の推薦に基づき、学長が行う。

(センター主任)

第 6 条 センター主任は、センターに配置された神戸大学の専任の教授のうちからセンター長が指名する。

2 センター主任は、センター長を補佐する。

(センター委員会)

第 7 条 センターに、その運営に関する重要事項を審議するため、神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター運営委員会（以下「センター委員会」という。）を置く。

2 センター委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(公開利用)

第 8 条 第 3 条第 2 号に掲げる情報の提供は、神戸大学教職員並びに学術研究・調査研究を目的とする者及びこれらに準ずる者に対して行う。

2 公開利用に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター委員会の議を経て、センター委員会が定める。

附 則

1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2 神戸大学経済経営研究所附属政策研究リエゾンセンター規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）は、

廃止する。

附 則（平成 27 年 3 月 31 日）

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 9 月 30 日）

この規則は、平成 28 年 10 月 1 日から施行する。

# 神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター利用規程

平成 22 年 3 月 26 日制定

改定 平成 28 年 9 月 30 日

平成 31 年 4 月 12 日

## 第 1 章 総則

### (通則)

第 1 条 神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター（以下「センター」という。）の利用は、この規程の定めるところによる。

### (利用の内容)

第 2 条 この規程において利用とは、学術研究及び調査研究を目的とする文献、資料、データ等（以下「文献その他の資料」という。）の閲覧、参考調査及び複写・撮影（以下「複写」という。）をいう。

2 センターの文献その他の資料は全て公開することを原則とする。

3 貸出は、原則としてこれを行わない。ただし、センター長が特に必要と認めたときは、この限りでない。

4 センターの文献その他の資料の目録はセンターの閲覧室に備え付けるものとする。

5 利用者の閲覧に供するため、この規程をセンターの閲覧室に備え付けるものとする。

### (利用者の範囲)

第 3 条 センターを利用できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 本学の教職員

(2) 学術研究及び調査研究を目的とする者

(3) その他センター長が特に認めた者

### (利用日時)

第 4 条 センターの利用時間は、午前 10 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、特別の理由があるときは、利用時間を変更することがある。

2 次に掲げる日は、利用を休止する。

(1) 国立大学法人神戸大学職員就業規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 25 条第 1 項各号に規定する休日

(2) 1 月 4 日及び 12 月 28 日

(3) その他センター長が必要と認めた日

### (利用の制限)

第 5 条 センターの利用者は、この規程及び係員の指示に従わなければならない。係員の指示に従わない者及び他人に迷惑を及ぼすおそれのある者に対しては閲覧をさせないことがある。

## 第 2 章 閲覧

### (閲覧の申込)

第 6 条 閲覧希望者は、事前に閲覧の申し込みを行うものとする。

### (閲覧の場所)

第 7 条 閲覧は、指定された場所で行うものとする。

### (閲覧文献その他の資料の返納及び弁償)

第 8 条 閲覧の終わった文献その他の資料は、所定の位置又は担当の職員に返納しなければならない。

2 センターにおいて必要が生じたときは、閲覧中の文献その他の資料の一時返還を求めることがある。

3 閲覧中に文献その他の資料をき損した者は、別に定めるところにより指定の代替物を納入するか、又は相当の代価を弁償しなければならない。

### 第3章 参考調査

#### (参考調査の範囲)

第9条 参考調査の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 依頼事項に関する参考文献その他の資料の紹介，その所蔵箇所及び利用方法の指示
- (2) その他これに準ずる情報の提供

2 特に時間を要し，他の業務に支障を生ずるおそれのある参考調査業務については依頼に応じられないことがある。

#### (参考調査の申込)

第10条 参考調査を依頼しようとする者は，文書，口頭又はその他の方法により申し込むものとする。

#### (参考調査の回答)

第11条 参考調査の回答は，文書又は口頭により行う。

2 前項の回答に要する経費は，申し込む者の負担とすることができる。

### 第4章 文献複写

#### (複写)

第12条 利用者は，センター所蔵文献その他の資料の複写を申し込むことができる。

2 次の各号に掲げる場合は，申し込みに応じられない。

- (1) 著作権の侵害となるおそれのある場合
- (2) 個人のプライバシーの侵害となるおそれのある場合
- (3) 損傷のおそれのある場合
- (4) 特に時間を要し，他の業務に支障を生ずるおそれのある場合

#### (複写の申込及び料金)

第13条 複写の申込方法，複写料金及び納入については，別に定めるところによる。

### 第5章 補則

#### (改正)

第14条 この規程の改正は，センター運営委員会の議を経て，センター長が行う。

#### 附 則

1 この規程は，平成22年4月1日から施行する。

2 神戸大学経済経営研究所附属政策研究リエゾンセンター利用規程（平成16年4月1日制定）は，廃止する。

附 則（平成28年9月30日）

この規程は，平成28年10月1日から施行し，改正後の神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター利用規程の規定は，平成28年8月1日から適用する。

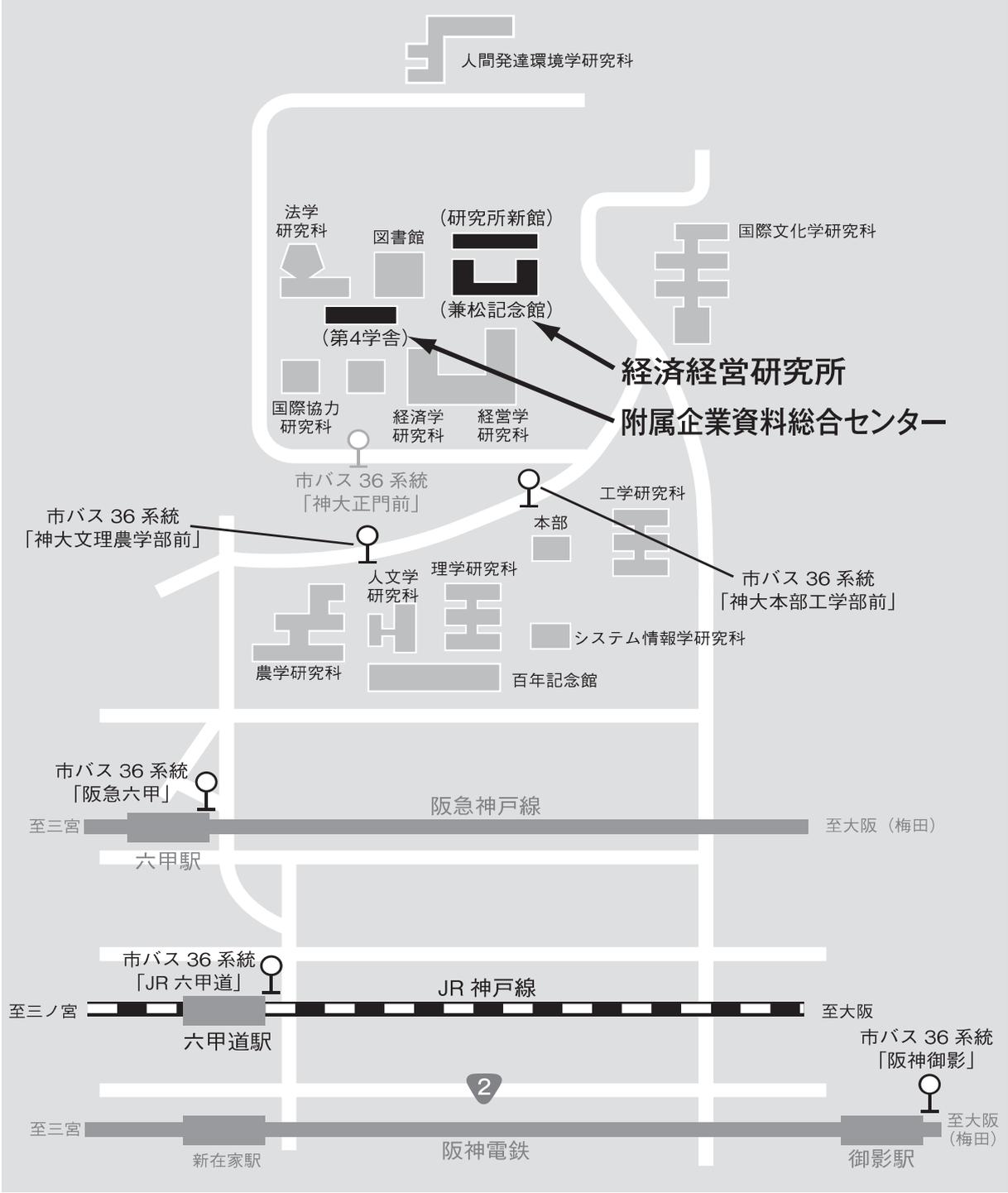
附 則（平成31年4月12日）

この規程は，平成31年4月12日から施行し，平成31年4月1日から適用する。

学舎案内



**交通案内**



- 阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅、阪神電車「御影」駅から市バス36系統「鶴甲団地」行乗車「神大正門前」下車
- 新幹線「新神戸」駅からタクシーで約20分
- 神大（しんだい）正門前から正面の階段を上って徒歩5分ほど。

2020年7月20日 印刷  
2020年7月31日 発行

編集・発行所  
神戸大学経済経営研究所  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1  
電話 (078) 803-7270  
F A X (078) 803-7059



Research Institute for  
Economics and Business Administration

**CELEBRATING 100 YEARS IN 2019**